

成田市関戸谷津之台遺跡

— 一般国道464号北千葉道路事業埋蔵文化財発掘調査報告書2 —

平成31年3月

千葉県教育委員会

なり た し せき ど や つ の だい い せき
成田市関戸谷津之台遺跡

— 一般国道464号北千葉道路事業埋蔵文化財発掘調査報告書2 —



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの諸活動に加え、平成25年度から千葉県が行う開発事業に係る発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第31集として、一般国道464号北千葉道路事業に伴って実施した成田市関戸谷津之台遺跡の発掘調査報告書です。今回の調査では、弥生時代中期～古墳時代中期を中心とした竪穴住居跡や古墳時代中期の古墳などを検出しました。北側の隣接地は昭和55年度に成田新高速鉄道建設に伴う発掘調査が実施されており、その調査成果と相まって、当地域における集落の様相や変遷を知る上での貴重な資料を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する興味を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成31年3月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長 古泉弘志

凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部北千葉道路建設事務所による一般国道464号北千葉道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。
 関戸谷津之台遺跡 成田市和田字谷津之臺425-1ほか（遺跡コード211-088）
- 3 千葉県県土整備部の依頼を受け、千葉県教育庁教育振興部文化財課が平成26年度に発掘調査を実施し、平成28・30年度に整理作業を実施した。なお、平成30年度の整理作業については、公益財団法人千葉県教育振興財団に支援業務委託して実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第1章第1節に記載したとおりである。
- 5 本書の執筆は、第2章第2節及び第3節・第4節の石器を主任上席文化財主事矢本節朗、第2章第3節の縄文土器を文化財主事小澤政彦、その他を主任上席文化財主事金丸誠が担当し、編集は金丸が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県県土整備部道路整備課、同北千葉道路建設事務所、成田市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位は全て座標北である。
- 8 土器観察表及び本文中に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖2007年度版』に基づいている。
- 9 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
 第1図 成田市発行 1/2,500 成田市都市計画図を編集
 第4図 参謀本部陸軍部測量局作成 1/25,000 迅速測図「成田」を編集
 第5図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「成田」を編集
- 10 図版1の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和45年撮影のものを使用した。
- 11 各表中の（ ）は推定数値、< >は現存数値を表す。
- 12 遺構や遺物の図面に使用したスクリーントーンなどの用例は次のとおりである。挿図中の「K」は攪乱の略である。また、土器拓影図の左側に赤丸を付した遺物は、外面が赤彩されていることを示している。



山 砂



焼 土

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査に至る経緯と経過	1
2 調査の方法と概要	4
第2節 遺跡の位置と環境	4
1 遺跡の位置と地形	4
2 周辺の遺跡	4
第2章 調査の成果	15
第1節 遺跡の概要	15
第2節 旧石器時代の遺構と遺物	18
1 第1ブロック	18
2 単独出土石器	18
第3節 縄文時代の遺物	20
第4節 弥生時代以降の遺構と遺物	21
1 竪穴住居跡	21
2 土坑	61
3 古墳	62
4 溝	62
5 竪穴状遺構	66
6 グリッド出土の弥生土器	67
7 その他の石器	84
第3章 まとめ	89
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 周辺地形と調査区	2	第10図 単独出土分布図・出土石器	19
第2図 上層トレンチ配置及び本調査範囲	3	第11図 縄文土器・石器	20
第3図 下層確認グリッド配置及び拡張範囲	3	第12図 SI-001	21
第4図 遺跡の位置(迅速側図)	5	第13図 SI-002	22
第5図 周辺の遺跡	6	第14図 SI-003(1)	23
第6図 調査区内上層遺構分布	16	第15図 SI-003(2)	25
第7図 関戸谷津之台遺跡上層遺構分布	17	第16図 SI-003(3)	27
第8図 第1ブロック器種別・母岩別分布図	18	第17図 SI-003(4)	28
第9図 第1ブロック出土石器	19	第18図 SI-003(5)	29

第19図	SI-003 (6)	30	第37図	SI-018 (1)	52
第20図	SI-004・005 (1)	31	第38図	SI-018 (2)	53
第21図	SI-004・005 (2)	33	第39図	SI-018 (3)	54
第22図	SI-004・005 (3)	34	第40図	SI-019 (1)	55
第23図	SI-006	35	第41図	SI-019 (2)	57
第24図	SI-007A・B	35	第42図	SI-020	58
第25図	SI-008・009 (1)	37	第43図	SI-021	60
第26図	SI-008・009 (2)	38	第44図	SI-022	60
第27図	SI-008・009 (3)	39	第45図	SK-001・002	61
第28図	SI-010	40	第46図	SM-001・SD-001 (1)	63
第29図	SI-011	42	第47図	SM-001・SD-001 (2)	64
第30図	SI-012・013 (1)	43	第48図	SD-002・003	65
第31図	SI-012・013 (2)	44	第49図	SX-001	66
第32図	SI-012・013 (3)	45	第50図	グリッド出土弥生土器	67
第33図	SI-014	46	第51図	その他の石器分布	84
第34図	SI-015	47	第52図	その他の石器 (1)	85
第35図	SI-016・017 (1)	49	第53図	その他の石器 (2)	87
第36図	SI-016・017 (2)	50	第54図	その他の石器 (3)	88

表目次

第1表	周辺の遺跡概要一覧表	12	第6表	縄文石器属性表	20
第2表	竪穴住居跡一覧表	15	第7表	土器観察表	68
第3表	土坑・竪穴状遺構一覧表	15	第8表	遺構出土石器属性表	83
第4表	古墳・溝一覧表	15	第9表	その他の石器属性表	88
第5表	石器属性表	19			

図版目次

図版1	航空写真	図版9	SI-008・010
図版2	調査前	図版10	SI-011・012
図版3	第1ブロック・単独出土1B-80グリッド	図版11	SI-012～014
図版4	SI-001・002	図版12	SI-015～017
図版5	SI-003～005	図版13	SI-018～022
図版6	SI-004・005	図版14	SK-001・002・SM-001・SD-001
図版7	SI-006・007	図版15	SD-003・SX-001
図版8	SI-008～010・SD-002		

図版16 第1ブロック・単独出土・縄文時代・
SI-001～003出土遺物

図版17 SI-003出土遺物

図版18 SI-003出土遺物

図版19 SI-003出土遺物

図版20 SI-004出土遺物

図版21 SI-005・006・008出土遺物

図版22 SI-010～012出土遺物

図版23 SI-012・013・015出土遺物

図版24 SI-016～018出土遺物

図版25 SI-018・019出土遺物

図版26 SI-019～022出土遺物

図版27 SK-001・002・SM-001・SD-001・003・
グリッド出土遺物

図版28 その他の石器

第1章 はじめに

第1節 調査の概要（第1～3図、図版2）

1 調査に至る経緯と経過

一般国道464号北千葉道路は、東京外かく環状道路から千葉ニュータウンを経て成田国際空港を結ぶ全長約43kmの幹線道路で、このうち印西市から成田市までの区間（延長約13.5km）については、成田新高速鉄道の新線建設区間と並行しており、一体的に整備を進めていくことが計画された。本区間の整備により首都圏北部や県西地域と成田国際空港間のアクセスの強化が図れるとともに、沿線地域の活性化、物流の効率化、救急医療・防災機能の強化などが期待されている^(註1)。

本区間の整備事業の実施に先立って、平成16年9月に事業地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県県土整備部道路計画課長から千葉県教育委員会に提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成16年11月に事業地内には埋蔵文化財の包蔵地6か所が所在する旨の回答を行った。この回答に基づき、埋蔵文化財の取扱いについて千葉県県土整備部、千葉県教育委員会、成田市教育委員会の関係諸機関による協議を行った結果、事業の性格上、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。このうち、千葉県が施工する国道408号（成田市押畑）から国道295号（成田市大山）までの区間に所在する関戸谷津之台遺跡ほか2遺跡については、県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

今回報告する関戸谷津之台遺跡は平成26年度に発掘調査を実施し、平成28・30年度に整理作業を実施した。各年度の調査組織及び担当者・期間・内容は次のとおりである。

○平成26年度

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 永沼 律朗 発掘調査班長 蜂屋 孝之

担当者 主任上席文化財主事 土屋 潤一郎

実施期間 平成26年11月4日～平成27年2月26日

内容 調査対象面積1,659.9㎡ 確認調査 上層990㎡ 下層73㎡ 本調査 上層960㎡ 下層0㎡

○平成28年度

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 永沼 律朗 発掘調査班長 田井 知二

担当者 主任上席文化財主事 田島 新

内容 水洗・注記

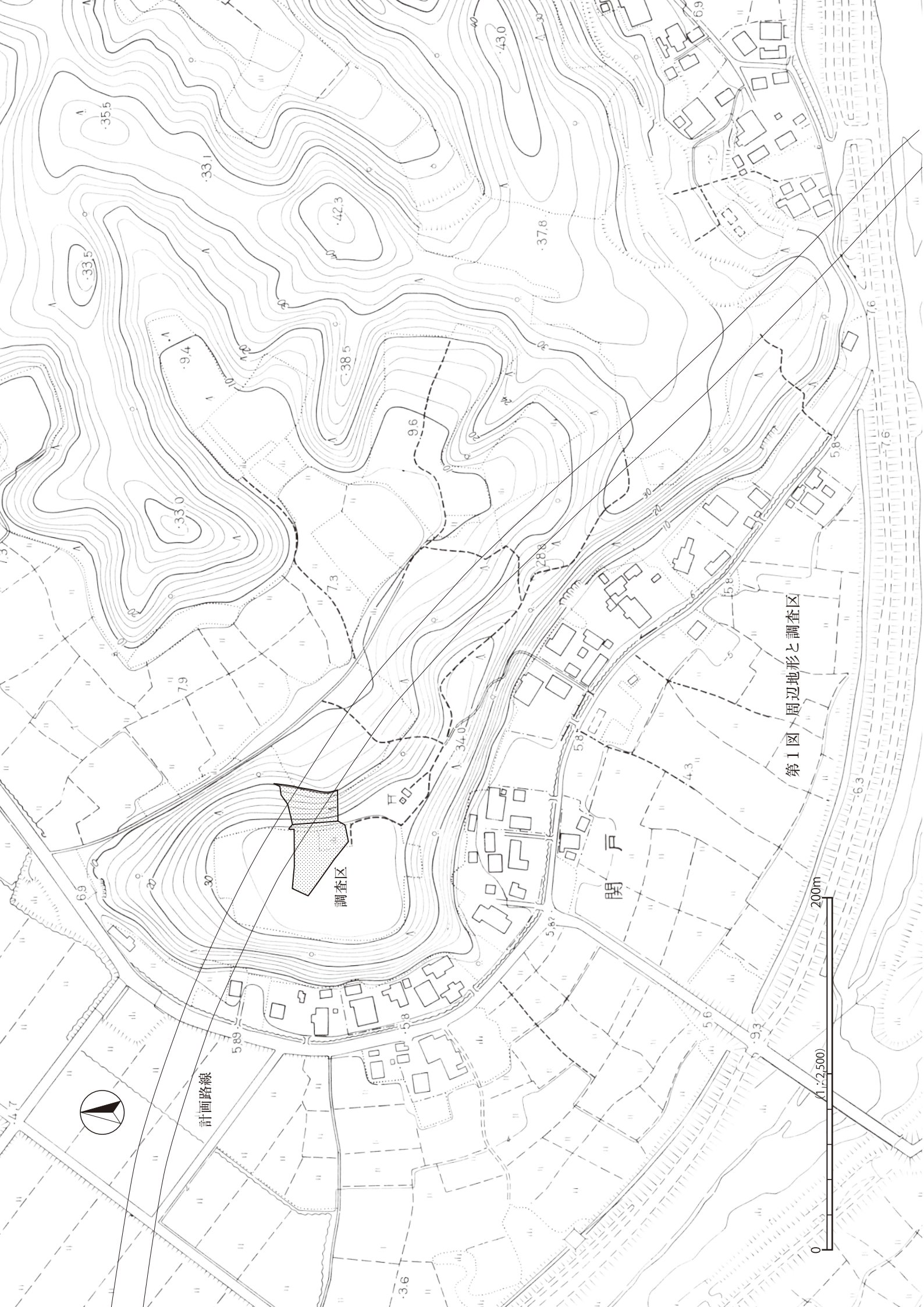
○平成30年度

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 古泉 弘志 発掘調査班長 山田 貴久

担当者 主任上席文化財主事 金丸 誠 矢本 節朗 文化財主事 小澤 政彦

内容 記録整理～報告書刊行



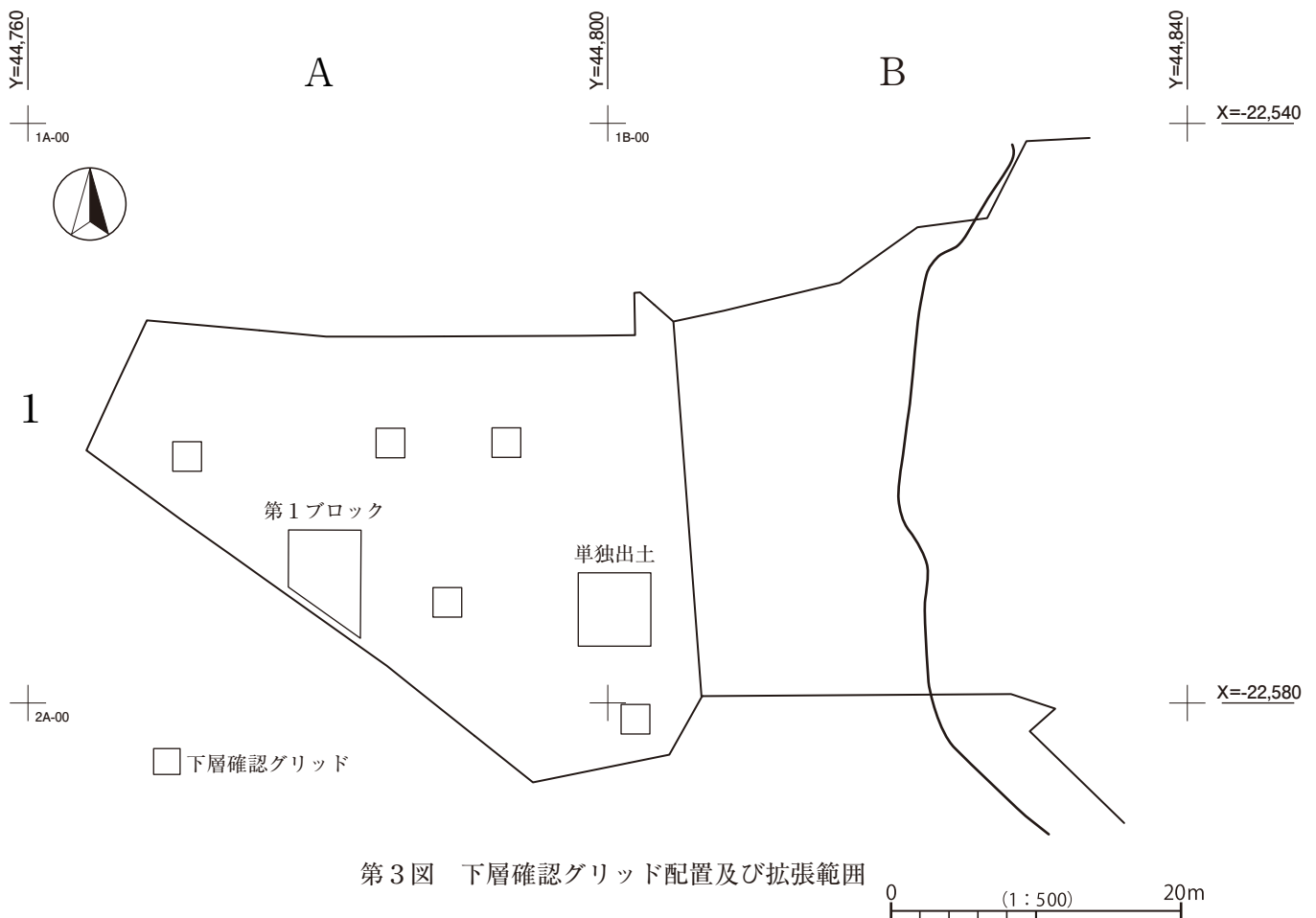
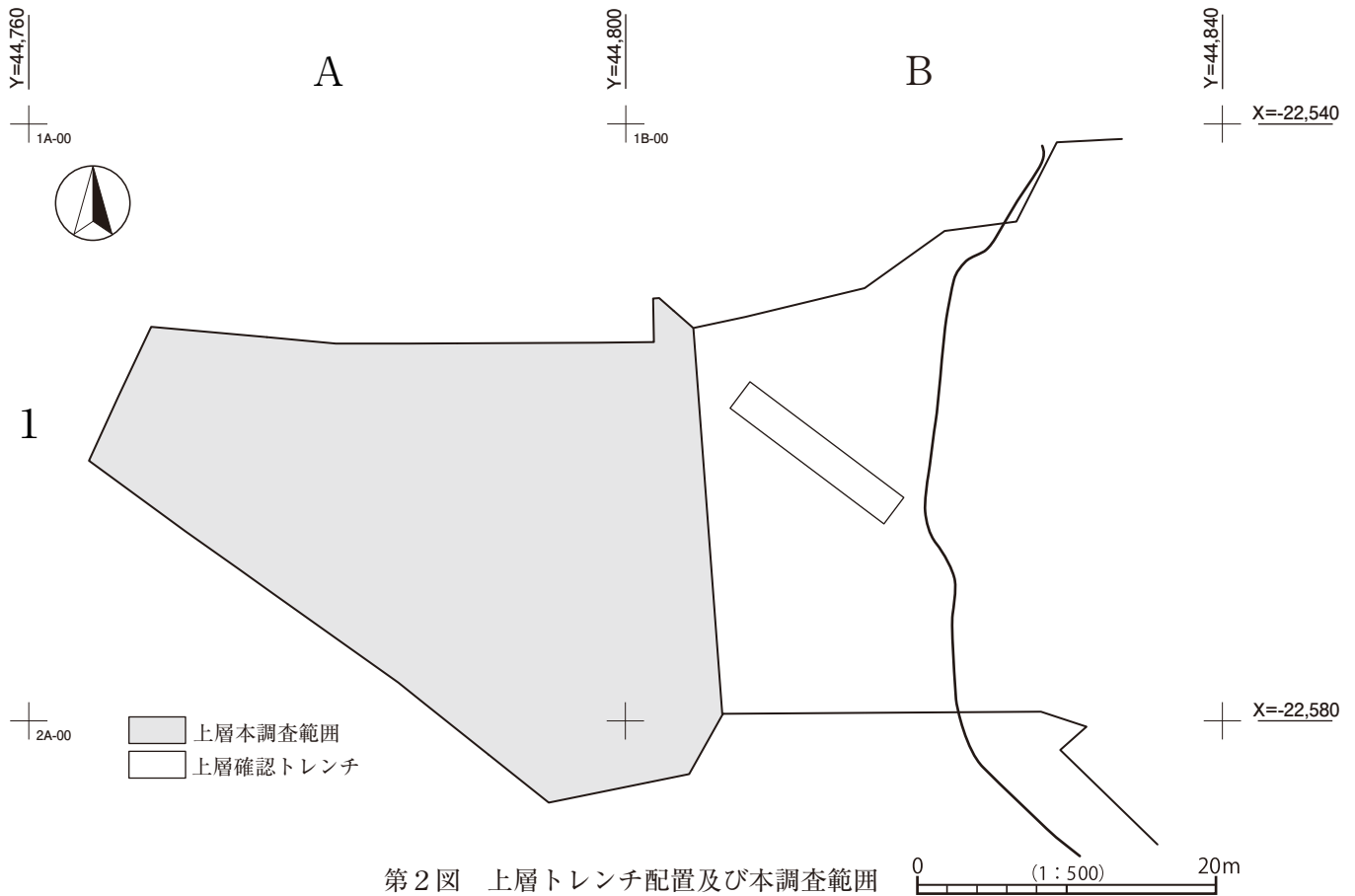
第1図 周辺地形と調査区

調査区

関戸

計画路線





2 調査の方法と概要

発掘調査に当たっては、今回の発掘調査対象地全体を網羅するように日本測地系（第Ⅸ座標系）の公共座標に基づくグリッド設定を行った。グリッドの基準はX=-22,540、Y=44,760を起点とし、40 m×40 mの方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は北から南へ1・2、西から東へA・Bとした。大グリッドは更に4 m×4 mの小グリッドに100分割し、北西隅を00、南東隅を99とした。大グリッドと小グリッドを組み合わせて、1A-01や2B-00などと呼称した。

上層の確認調査は、台地平坦部960㎡の隣接地を昭和55年度に関戸遺跡として発掘調査している（以下「前回調査」という。）ことから、重機で全面表土除去して遺構確認を行った。斜面部には2 m幅のトレンチ1本を設定し、約30㎡の確認調査を実施した。確認調査の結果、予想どおり台地平坦部は複数の遺構が検出されたため、全域を本調査範囲とし、遺構精査、記録作成、写真撮影、遺物取上げなどの作業を行った。斜面部は遺構・遺物が検出できなかったことから、確認調査で終了した。下層の確認調査は、台地平坦部に2 m×2 mの確認グリッドを設定し、1A-75と1B-80グリッドの2か所で石器が1点ずつ出土したことから、グリッドの周囲を拡張した。1A-75グリッド地点で更に1点の石器が出土したが、2か所ともそれ以上石器の分布の広がり認められず、記録作成などを行い、確認調査で終了した。記録作成のうち全体図と遺構平面図の実測図面は平板測量で行った。写真撮影はフィルムカメラ（120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル）及びデジタルカメラ（RAW+JPEG）により実施した。上層調査に当たっては、遺構種類ごとに記号を付け、竪穴住居跡はSI、土坑はSK、古墳はSM、溝はSD、その他はSXとし、種類記号ごとに3桁の通し番号と合わせてSI-001のように遺構番号として表記した。遺物は遺構ごとに、旧石器時代の遺物や帰属遺構が不明確なものについては小グリッド単位で通し番号を付けて取り上げた。

整理作業は出土遺物の水洗・注記作業を行った後、遺物の種別・器種分類を行ってから接合・復元作業を実施し、実測・拓本作業を行った。出土遺物の写真撮影はデジタルカメラで行った。発掘調査で作成した図面・写真などの記録整理を行った後、挿図・写真図版原図を作成し、それらをもとにデジタル編集によるトレースや写真補正などを行い、挿図・写真図版を作成した。その後、原稿執筆・編集・校正作業を経て、この度報告書刊行となった。また、報告書編集中に報告書に基づいた収納整理作業も併せて実施した。

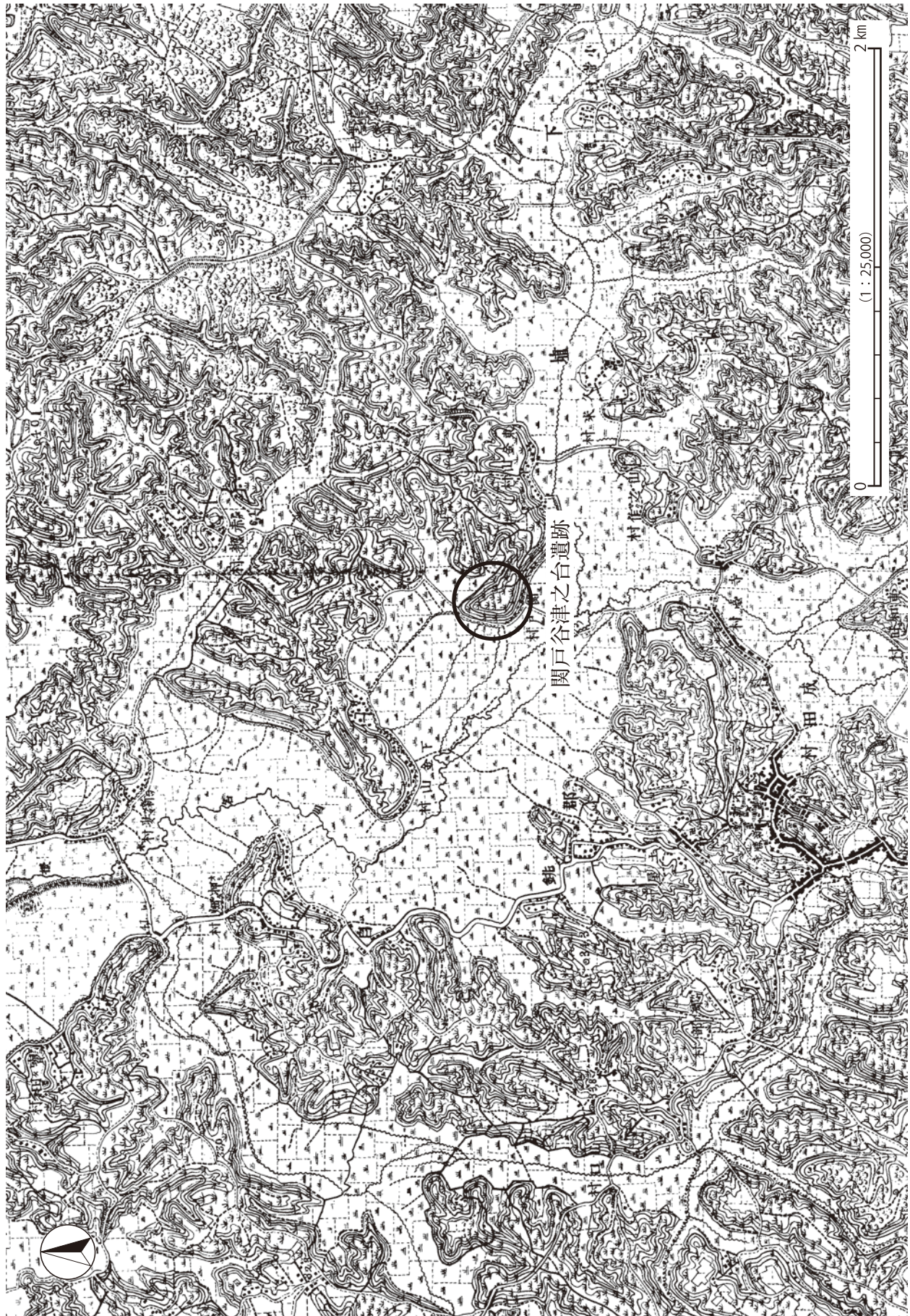
第2節 遺跡の位置と環境（第1・4・5図、図版1）

1 遺跡の位置と地形

成田市は千葉県の北部中央に位置し、北は利根川を挟んで茨城県、東は香取市、南東は芝山町、南は富里市、南西は酒々井町、西は印旛沼を挟んで印西市、北西は栄町に接する面積約214km²、人口約13万人の中核市である。周辺の地形は下総台地と沖積地からなり、台地は根木名川や大須賀川、印旛沼から延びる樹枝状の小支谷により複雑に開析されている。本遺跡は根木名川とその支流である取香川の合流地点の北側で、樹枝状に延びる痩せ尾根先端の南北にやや長い台地上にある。標高は約32mで、台地下の水田面との標高差は26m前後である。

2 周辺の遺跡

本遺跡<1>の周辺では、成田ニュータウン造成事業をはじめとして、東関東自動車道路、成田国際空港予定地及び関連事業に伴う大規模な発掘調査が行われ、その調査成果は既に数多くの報告書として刊行



第4図 遺跡の位置(迅速測図)



第5図 周辺の遺跡

されている。ここでは時代ごとに主な遺跡について記述することにし、周辺の遺跡の概要については第1表の周辺の遺跡概要一覧表を参照していただきたい。

旧石器時代 本遺跡<1>からやや離れているが、成田国際空港予定地内の遺跡群が特筆される。取香和田戸遺跡(空港No.60遺跡)ではⅦ層～Ⅱc層から4つの文化層(15ブロック)、東峰御幸畑東遺跡(空港No.62遺跡)ではⅨ層～Ⅲ層から6つの文化層(46ブロック)、十余三稲荷峰遺跡(空港No.67遺跡)では信州産黒曜石を主体とする細石刃石器群が検出されているなど22遺跡から多くの石器群が検出されている。これらの遺跡群は、利根川に向かって北に流れる根木名川の支流の取香川と九十九里平野を経て太平洋に向かって南に流れる高谷川との分水嶺となる台地上に位置する。その内容については、報告書も既に全て刊行され、千葉県史においても詳細が報じられているので参考にしていただきたい^(註2)。

本遺跡と同じ根木名川及びその支流の中・下流域では、遺跡は極めて少なく、検出された遺構はいずれも小規模なブロックか単独出土である。本遺跡の東側台地上にある関戸関ノ台遺跡<2>は、現在整理作業中で詳細は不明であるが、Ⅲ層・Ⅵ層・Ⅸ層から剥片15点3ブロックが検出されているが、ブロックとしては小規模である。小橋川流域の松崎山ノ台遺跡<5>ではⅢ層とⅨ層から尖頭器や楔形石器・剥片など19点3ブロック、雷土(Loc.37)遺跡<84>ではⅢ層からナイフ形石器や敲石・削器・剥片など9点5ブロックが検出されている。ただし、小橋川の最奥部に当たる向台遺跡<95>ではⅢ層から彫器や削器・石核・剥片など51点1ブロックが検出され、1ブロックの出土点数が多い。また、印旛沼東岸の松崎外小代内小代遺跡<4>ではⅦ層から石核や敲石・剥片など183点1ブロックと、Ⅶ層～Ⅸ層から石核や剥片8点1ブロックが検出されている。

縄文時代 早期の遺跡は、成田国際空港予定地内遺跡群で竪穴住居跡を中心とした集落が複数検出されている。木の根拓美遺跡(空港No.6遺跡)では竪穴住居跡8軒、東峰御幸畑西遺跡(空港No.61遺跡)では竪穴住居跡3軒・炉穴14基・陥穴16基、十余三稲荷峰遺跡(空港No.67遺跡)では竪穴住居跡18軒・炉穴109基・陥穴153基などが検出されている。また、木の根拓美遺跡(空港No.6遺跡)は県指定文化財に指定された三角形の土偶が出土したことで注目される^(註2)。

取香川の中流域では関戸関ノ台遺跡<2>で陥穴11基、馬場扇ノ作遺跡<29>で陥穴4基が検出されているだけである。印旛沼東岸地域及び印旛沼に注ぐ江川流域では、松崎外小代内小代遺跡<4>で竪穴住居跡1軒・土坑6基・陥穴19基、橋賀台Ⅱ遺跡<93>と橋賀台Ⅰ遺跡<94>で竪穴住居跡13軒・炉穴3基、上人塚遺跡<97>で竪穴住居跡7軒・炉穴15基など集落跡が検出されている。

前期は土器が出土する遺跡はあるが、遺構が検出された遺跡は極めて少ない。印旛沼東岸地域の松崎外小代内小代遺跡<4>で竪穴住居跡1軒、江川流域の橋賀台Ⅱ遺跡<93>で竪穴住居跡2軒が検出されているだけである。中期は遺跡の数が増加し、流域ごとに複数の集落跡が検出されている。取香川右岸の台地上にある野毛平木戸下向山遺跡<17>では竪穴住居跡41軒・土坑42基、さらに、隣接する野毛平植出遺跡<18>では竪穴住居跡1軒・土坑1基が検出され、また、対岸に位置する長田雉子ヶ原遺跡などからも竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが複数検出されている^(註3)。印旛沼東岸地域の松崎名代遺跡<59>では竪穴住居跡4軒と中期～晩期の土坑126基が検出されている。小橋川流域の郷部南台遺跡<72>では竪穴住居跡6軒と中期～後期の土坑200基、囲護台遺跡群<105>では竪穴住居跡46軒と中期～後期の土坑600基以上が検出されている。

後期・晩期は遺跡の数が減少する。根木名川の最奥部の分水嶺となる台地上の小菅法華塚遺跡<37>で

は後期の竪穴住居跡5軒・柄鏡形住居跡2軒・土坑10基が検出されている。同じ根木名川の中流域の土屋殿台(貝塚)遺跡<69>では後期の竪穴住居跡23軒・土坑125基が検出されている。印旛沼東岸地域の松崎島内遺跡<58>では竪穴住居跡1軒・土坑33基・陥穴2基、八代玉作(Loc.39)遺跡<75>では後期～晩期の竪穴住居跡6軒が検出されている。

弥生時代 本遺跡<1>の周辺地域は、櫛描き文や口縁部～胴部に斜縄文などを施す北関東系の土器群が多く見られる地域である。根木名川と取香川との合流域では、本遺跡の前回調査で中期～後期の竪穴住居跡63軒、隣接する関戸関ノ台遺跡<2>でも竪穴住居跡8軒が検出されている。やや奥まった上流域の東和田城遺跡<33>では竪穴住居跡10軒以上、最奥部の小菅法華塚遺跡<37>では後期の竪穴住居跡3軒が検出されている。根木名川支流の小橋川の流域と印旛沼東岸地域でも中期～後期の集落が多数見られる。小橋川流域の宝田八反目遺跡<47>では弥生時代中期～古墳時代前期の竪穴住居跡が115軒以上、松崎白子遺跡<55>や押畑(子の神)城<64>、押畑広台遺跡<66>などで中期や後期の竪穴住居跡などが検出されている。さらに、松崎白子遺跡の北約3kmの利根川を臨む台地上にある南羽鳥遺跡群では、中期の竪穴住居跡・方形周溝墓・土器棺墓と後期の竪穴住居跡・土器棺墓などで構成される集落跡が検出されている^(註4)。印旛沼東岸地域の外子代(Loc.40)遺跡<73>では後期の竪穴住居跡15軒、八代玉作(Loc.39)遺跡<75>では中期の竪穴住居跡2軒が検出されているが、全体としては散発的である。一方、印旛沼南岸地域の鹿島川流域には、中期後半の環濠集落と方形周溝墓群で構成される佐倉市六崎大崎台遺跡^(註5)や後期の集落である佐倉市江原台遺跡^(註6)など当該時期を代表する遺跡が所在している。

古墳時代 河川流域ごとの遺跡数が増加し、特に、後期から始まる集落遺跡の増加が顕著である。根木名川中・上流域と取香川流域では、本遺跡<1>や東和田城遺跡<33>、小菅法華塚遺跡<37>は弥生時代から後期まで集落が続くが、本遺跡は中期に古墳が作られるようになり、小規模な集落へと変わっていく。野毛平高台遺跡<21>は前期から始まる集落で、後期まで継続していくが、関戸関ノ台遺跡<2>や小菅大山遺跡群I<26>は後期から集落が始まるようである。小橋川流域では、根木名川との合流部付近にある宝田八反目遺跡<47>や松崎白子遺跡<55>、押畑(子の神)城<64>は弥生時代から続く集落であるが、存続期間は前期又は中期までで、後期までは続かない。上流域の石橋台2遺跡<90>は弥生時代から続く集落であるが、後期の竪穴住居跡65軒が検出され、この時期が主体となると思われる。石塚(Loc.20)遺跡<86>と印旛沼東岸地域の外子代(Loc.40)遺跡<73>、八代玉作(Loc.39)遺跡<75>も弥生時代から前期又は中期まで続く集落であるが、前二者は玉作工房跡、後者は石製模造品工房跡を伴うもので、ほかの集落とは性格をやや異にするものと思われる。

後期では小橋川流域の郷部加定地遺跡<71>や囲護台遺跡群<105>が新たな集落として現れ、郷部加定地遺跡では後期～奈良時代の竪穴住居跡336軒・土坑376基、囲護台遺跡群では竪穴住居跡236軒・鍛冶工房跡1軒・大形土坑2基などが検出されているが、さらに、奈良・平安時代も集落として継続している。印旛沼東岸地域の松崎外小代内小代遺跡<4>や松崎山ノ台遺跡<5>、松崎遠原遺跡<60>などは後期から集落が始まる。松崎外小代内小代遺跡では竪穴住居跡45軒、松崎山ノ台遺跡では竪穴住居跡23軒、松崎遠原遺跡では竪穴住居跡12軒などが検出されており、いずれの遺跡も台地の一部の調査であることから、本来は囲護台遺跡群に匹敵する規模の集落であると思われる。

本遺跡周辺の古墳については、小橋川と印旛沼に注ぐ江川の分水嶺に沿って築造されている公津原古墳群<74>がこの地域を代表する古墳群といえる^(註7)。八代台古墳群、天王・船塚古墳群、瓢塚古墳群の3

つの古墳群からなり、総数で前方後円墳6基、円墳88基、方墳34基で構成されている。4世紀前半から7世紀末まで造営されるが、その中でも6世紀から7世紀にかけて築造されたものが多く、周辺地域における後期の集落遺跡の増加と軌を一にするものと思われる。また、天王・船塚古墳群の南東部には公津原埴輪生産遺跡<113>があり、県内で2か所しか見つかっていない埴輪窯跡1基と竪穴状遺構4軒が検出されている。本遺跡の北西側の広い範囲に野毛平古墳群<11>が分布しており、5世紀から7世紀までの前方後円墳や円墳などが調査されている。本遺跡では台地の北側を中心にして古墳9基が検出されており、取香川右岸の台地上ある古墳などとともに野毛平古墳群の一部を構成していたと考えられる。

奈良・平安時代 本遺跡<1>の周辺の根本名川と取香川流域では、本遺跡をはじめとして関戸関ノ台遺跡<2>、久米砦遺跡<3>、野毛平高台遺跡<21>、小菅大山遺跡群I<26>、東和田城遺跡<33>、小菅法華塚遺跡<37>などは古墳時代後期から集落が続くが、野毛平木戸下向山遺跡<17>や野毛平植出遺跡<18>のように、それまで居住地として利用されなかった場所に新たに集落が作られるようになる。小橋川中・上流域では、郷部加定地遺跡<71>や郷部南台遺跡<72>、戸崎IV (Loc.33A・B) 遺跡<80>、雷土 (Loc.37) 遺跡<84>、石橋台2遺跡<90>、中台遺跡<101>、囲護台遺跡群<105>など古墳時代後期から集落が続く遺跡を中心にして、さらに、郷部松ノ下 (Loc.16・17) 遺跡<99>や加良部 (Loc.15) 遺跡<100>、南囲護台遺跡<106>など新たな集落がその周辺地に拡大する。囲護台遺跡群では奈良時代竪穴住居跡226軒、平安時代竪穴住居跡118軒・掘立柱建物跡37棟などが検出され、古墳時代後期から連続と続く中心的な集落と考えられる。南囲護台遺跡は部分的な発掘調査であるが、その成果から集落が台地全域に広がると考えられる。また、加良部 (Loc.15) 遺跡では竪穴住居跡66軒・掘立柱建物跡16棟など多くの遺構が検出され、その中の掘立柱建物跡の一つは四面廂を持ち、村落内寺院の可能性が考えられる。印旛沼東岸地域では、松崎外小代内小代遺跡<4>や松崎烏内遺跡<58>、松崎名代遺跡<59>、松崎遠原遺跡<60>などが古墳時代後期から引き続いて集落が形成されている。松崎外小代内小代遺跡では竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡15棟・竪穴状遺構11軒など、松崎烏内遺跡では数か所の発掘調査が行われ、そのうち昭和58年に行われた調査では竪穴住居跡26軒・掘立柱建物跡1棟・土坑51基が検出されており、いずれの遺跡ともに更なる遺構の広がりが想定される。

中・近世 城館跡は根本名川とその支流の取香川流域の台地上に見られ、右岸には北から一の陣屋遺跡<44>・下金山城<19>・本遺跡<1>、左岸には寺台城跡<32>・久米砦遺跡<3>・小菅城<27>が所在し、寺台城跡の南側対岸には東和田城遺跡<33>が所在する。小橋川との合流地点には押畑 (子の神) 城<64>、それより南側のやや奥まった台地上には土屋殿台 (貝塚) 遺跡<69>が所在する^(註8)。部分的な発掘調査のため全容について不明な遺跡が多いが、東和田城遺跡は全域を発掘調査した数少ない遺跡である。城跡は南北約450m、東西約250mの範囲で、郭3か所とそれらに伴う掘立柱建物跡や地下式土坑・土坑・柵列など多数の遺構が検出されている。出土遺物などから16世紀後半の時期を中心に使われた戦国後期の「番城」で、成田市では最大規模の城跡と位置付けられている。台地整形区画など屋敷跡と思われる遺跡は、関戸関ノ台遺跡<2>や松崎外小代内小代遺跡<4>、松崎烏内遺跡<58>、松崎名代遺跡<59>、郷部加定地遺跡<71>があげられる。郷部加定地遺跡を除く4遺跡では、いずれも地下式土坑や土坑・柵列・溝などを伴う台地整形区画が検出されている。また、墓域としては、赤荻屋下遺跡<9>や赤荻馬場遺跡<20>、小菅離山遺跡<36>、吉倉遺跡群II<39>、松ノ木台遺跡<111>などで塚の存在が確認されているほかに、野毛平高台遺跡<21>では火葬墓・土坑墓10基が検出されている。

- 注1 千葉県県土整備部北千葉道路建設事務所発行「北千葉道路パンフレット」を参考にした。
- 注2 1981 『木の根 - 成田市木の根No.5、No.6 遺跡発掘調査報告書 -』財団法人千葉県文化財センター
 1994 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ』千葉県文化財センター調査報告第244集
 2000 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ』千葉県文化財センター調査報告第385集
 2004 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ』千葉県文化財センター調査報告第483集
 2004 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅩ』千葉県文化財センター調査報告第485集
 2000 『千葉県の歴史 資料編 考古1 (旧石器・縄文時代)』千葉県
- 注3 1989 『ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ)』財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第31集
- 注4 1997 『南羽鳥遺跡群Ⅱ』財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第133集
 2000 『南羽鳥遺跡群Ⅳ』財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第156集
- 注5 1985 『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅰ』佐倉市大崎台B地区遺跡調査会
 1986 『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅱ』佐倉市大崎台B地区遺跡調査会
 1987 『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅲ』佐倉市大崎台B地区遺跡調査会
- 注6 1979 『江原台』江原台第1遺跡発掘調査団
- 注7 1998 『千葉県重要古墳群測量調査報告書 - 成田市公津原古墳群 -』千葉県教育委員会
 2003 『千葉県の歴史 資料編 考古2 (弥生・古墳時代)』千葉県
- 注8 1995 『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅰ - 旧下総国地域 -』千葉県教育委員会
 1998 『千葉県の歴史 資料編 中世1 考古資料』千葉県

参考文献

- 文1 1956 『成田史談』創刊号 成田史談会
- 文2 1959 『成田史談』第5号 成田史談会
- 文3 1960 『成田市の古墳群』成田史談会
- 文4 1969 『成田市東和田遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』栗本佳弘
- 文5 1971 『成田市の文化財』第2輯 成田市教育委員会
- 文6 1973 『成田市中囀護台遺跡発掘調査報告』成田市遺跡調査報告第1集 成田市教育委員会
- 文7 1974 『成田市の文化財』第5輯 成田市教育委員会
- 文8 1974 『下総国の玉作遺跡』寺村光晴 雄山閣
- 文9 1975 『公津原』千葉県企業庁
- 文10 1975 『遺跡日吉倉』日吉倉遺跡調査団
- 文11 1977 『成田市の文化財』第7・8輯 成田市教育委員会
- 文12 1978 『成田市の文化財』第9輯 成田市教育委員会
- 文13 1979 『成田市の文化財』第10輯 成田市教育委員会
- 文14 1979 『千葉県文化財センター研究紀要4』財団法人千葉県文化財センター
- 文15 1980 『成田市の文化財』第11集 成田市教育委員会
- 文16 1980 『成田新線建設事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』財団法人千葉県文化財センター
- 文17 1981 『公津原Ⅱ』財団法人千葉県文化財センター
- 文18 1983 『成田新線建設事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ(関戸遺跡)』財団法人千葉県文化財センター
- 文19 1983 『成田市中世城郭址調査報告書』成田市中世城郭址調査団 成田市史編さん室
- 文20 1984 『奈和』第22号 藤下昌信ほか 奈和同人会
- 文21 1984 『成田市郷部北遺跡群調査概要(加定地・殿台遺跡)』成田市郷部北遺跡調査会
- 文22 1985 『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ - 成田地区 -』財団法人千葉県文化財センター
- 文23 1985 『成田市松崎白子・大袋台畑・塔之下遺跡発掘調査報告書』成田市松崎・大袋遺跡調査会
- 文24 1985 『主要地方道成田安食線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』財団法人千葉県文化財センター
- 文25 1986 『成田市史 中世・近世編』成田市
- 文26 1987 『成田新住宅市街地内埋蔵文化財調査報告書 山口雷土遺跡』財団法人千葉県文化財センター
- 文27 1988 『千葉県成田市押畑子の神城跡発掘調査報告書』財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第24集
- 文28 1990 『囀護台遺跡発掘調査報告書』財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第34集
- 文29 1990 『成田都市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』成田市囀護台遺跡発掘調査団

- 文30 1990 『平成元年度成田市内遺跡群発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文31 1990 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ』 千葉県文化財センター調査報告第177集
- 文32 1990 『ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第32集
- 文33 1991 『財団法人印旛郡市文化財センター年報7-平成2年度-』 財団法人印旛郡市文化財センター
- 文34 1991 『平成2年度 成田市内遺跡群発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文35 1992 『成田市下金山城跡発掘調査報告書』 成田市下金山城調査会
- 文36 1992 『財団法人印旛郡市文化財センター年報8-平成3年度-』 財団法人印旛郡市文化財センター
- 文37 1993 『成田市の文化財 第24集-埋蔵文化財発掘調査報告書-』 成田市教育委員会
- 文38 1993 『主要地方道成田安食線地方道道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』 千葉県文化財センター調査報告第229集
- 文39 1994 『平成5年度 成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文40 1994 『千葉県文化財センター 研究紀要15』 財団法人千葉県文化財センター
- 文41 1995 『埋蔵文化財調査報告書2』 成田市教育委員会
- 文42 1995 『小菅法華塚Ⅰ・Ⅱ遺跡』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第92集
- 文43 1996 『南厩護台遺跡(第1地点)』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第106集
- 文44 1996 『平成7年度 成田市内遺跡群発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文45 1996 『成田市松崎遠原遺跡』 千葉県文化財センター調査報告第282集
- 文46 1997 『成田市郷部北遺跡発掘調査報告書 第1分冊 第2分冊』 成田市郷部北遺跡調査会
- 文47 1997 『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)-東葛飾・印旛地区(改訂版)-』 千葉県教育委員会
- 文48 1997 『財団法人印旛郡市文化財センター年報12-平成7年度-』 財団法人印旛郡市文化財センター
- 文49 1998 『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』 千葉県
- 文50 1998 『北厩護台遺跡』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第137集
- 文51 1998 『馬場扇作遺跡』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第139集
- 文52 1998 『南厩護台遺跡(第2地点)』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第142集
- 文53 2001 『大生城跡・関戸砦跡』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第182集
- 文54 2001 『平成12年度成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文55 2002 『下金山城跡』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第197集
- 文56 2004 『南厩護台遺跡(第4地点)』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第218集
- 文57 2005 『松ノ木台遺跡発掘調査報告書』 富里市文化財報告書第3集
- 文58 2006 『南厩護台遺跡(第3地点)』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第235集
- 文59 2007 『主要地方道成田安食線地方道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』 千葉県教育振興財団調査報告第569集
- 文60 2008 『平成19年度成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文61 2008 『成田市東和田城跡』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第267集
- 文62 2009 『成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書1』 千葉県教育振興財団調査報告第618集
- 文63 2009 『平成20年度成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文64 2011 『成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書5』 千葉県教育振興財団調査報告第659集
- 文65 2011 『平成22年度成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文66 2012 『南厩護台遺跡(第7地点)』 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第309集
- 文67 2013 『平成24年度成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文68 2013 『郷部南台遺跡』 公益財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第322集
- 文69 2013 『松崎名代遺跡』 公益財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第327集
- 文70 2016 『寺台城跡(第1・2・3・4・5次)』 公益財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第348集
- 文71 2016 『平成27年度成田市内遺跡発掘調査報告書』 成田市教育委員会
- 文72 2016 『成田ニュータウンの遺跡展 印旛沼に栄えた文化 公津原再発見』 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 文73 2016 『平成28年度千葉県の博物館・文化財行政』 千葉県教育庁教育振興部文化財課
- 文74 2017 『平成29年度千葉県の博物館・文化財行政』 千葉県教育庁教育振興部文化財課
- 文75 2018 『平成30年度千葉県の博物館・文化財行政』 千葉県教育庁教育振興部文化財課

第1表 周辺の遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	文献
1	関戸谷津之台遺跡	②なし	②早期～晩期土器片少量	②中期後半～後期堅穴63軒	②前期堅穴5軒、中期堅穴2軒、後期堅穴2軒、後期古墳8基 ③中期末～後期初土坑1基	②平安堅穴4軒 ③平安土坑1基	①塚、腰曲輪、空堀、堀底道 ②土坑2基、板碑片 ③腰曲輪4か所	①文25 ②文18 ③文53
2	関戸岡ノ台遺跡	①②Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅴ層3ブロック15点(銅片) ③Ⅲ層1点(銅片)	①早期堅穴8基 ②早期堅穴3基	①堅穴6軒 ②堅穴2軒	①後期堅穴4軒 ②後期堅穴9軒、古墳1基、土坑1基	①平安土坑4基 ②平安土坑1基	①台地整形区画1か所、地下式坑4基、掘立4棟、土坑38基、溝3条、土坑16基、溝3条 ②中世土坑墓1基	①文73 ②文74
3	久米岩遺跡	①なし	①なし	①なし	②後期堅穴9軒	②奈良堅穴1軒	①腰曲輪、土器、空堀、橋台、土橋 ②中世土坑墓1基	①文25 ②文75
4	松崎山ノ台遺跡	①Ⅲ層1ブロック83点(石核・鏡石・銅片)、Ⅳ～Ⅴ層1ブロック8点(石核・銅片) ②Ⅲ層1ブロック7点(銅器・鏡石・銅片)	①早期堅穴1軒・土坑6基・掘穴19基、前期堅穴1軒 ②掘穴2基 ③堅穴1軒	①後期堅穴45軒	①後期堅穴65軒	①掘立15棟、堅穴11基、井戸3基、土坑9基 ②堅穴3軒	①地下式坑16基、土坑墓1基、土坑56基、溝10条、掘立7列、ヒコ溝7か所、台地整形区画1か所、焼土遺構1基 ③溝1条	①文64 ②文65 ③文67 ④文71
5	松崎山ノ台遺跡	①車輪出土(Ⅳ～Ⅴ層・Ⅵ層)2か所、Ⅲ層2ブロック12点(尖頭器・櫛形石器・搔器・銅片)、Ⅳ層1ブロック7点(銅器・鏡石・銅片)	①なし	①後期堅穴2軒	①後期～終末期堅穴23軒、方墳1基	①なし	①なし	①文62
6	西和泉香取台遺跡		後期(加曾利B・安行I)土器	土師器		土師器		①文47
7	赤坂原遺跡		後期(加曾利B・安行I)土器	土師器		平安土師器		①文47
8	赤坂西遺跡		後期(加曾利B・安行I)土器	土師器		平安土師器		①文47
9	赤坂下遺跡						近世塚	①文47
10	赤坂清水台遺跡		後期(加曾利B・安行I)土器					①文47
11	野毛平古墳群				①後期古墳・円墳1基(7世紀) ②後期古墳01号跡・円墳1基(5世紀) ③前方後古墳(6世紀後～末) ④円墳3基(後期)	④溝3条	④なし	①文2・文14 ②文16 ③文22 ④文22
12	赤坂合ノ田遺跡		前期(黒河)土器			平安土師器		①文47
13	野毛平泉台Ⅱ遺跡		中期(加曾利EⅣ)土器			土師器		①文47
14	野毛平泉台Ⅰ遺跡		中期(加曾利EⅣ)土器			土師器		①文47
15	野毛平上之内遺跡		中期～後期(加曾利EⅠ～EⅡ)土器			土師器		①文47
16	野毛平坂力遺跡					土師器		①文47
17	野毛平本戸下向山遺跡	①なし ②なし ③なし ④Ⅲ～Ⅳ層1点(ナイフ形石器)、Ⅴ～Ⅵ層2点(銅片)	①なし ②中期加曾利EⅢ～EⅣ期堅穴28軒・土坑38基 ③中期河玉古墳堅穴1軒・土坑1基 ④なし ⑤なし ⑥なし ⑦中期堅穴12軒・土坑13基、縄文～平安代水群数百基 ⑧なし	①なし ②なし ③なし ④なし ⑤なし ⑥なし ⑦なし ⑧なし	①平安堅穴8軒・土坑1基、溝1条 ②平安堅穴17軒・掘立9棟、土坑7基 ③平安堅穴18軒・掘立7棟・土坑2基 ④土坑2基 ⑤奈良堅穴2軒・方形周溝1基 ⑥堅穴25軒・土坑89基、平安掘立1棟、鍛冶工房1基 ⑦堅穴89軒、掘立6棟、土坑22基、溝1条、平安土師器遺構1か所 ⑧平安堅穴8軒・土坑8基・掘立1棟・親割田遺構1か所	①土坑1基 ②土坑1基、土器残薬場1か所 ③土坑1基、土器残薬場1か所 ④土坑1基、土器残薬場1か所 ⑤土坑1基、土器残薬場1か所 ⑥土坑1基、土器残薬場1か所 ⑦土坑1基、土器残薬場1か所 ⑧土坑1基、土器残薬場1か所	①文31 ②文32 ③文32 ④文39 ⑤文22 ⑥文33 ⑦文33 ⑧文36	
18	野毛平福出遺跡		①なし ②中期堅穴1軒・土坑1基	①なし ②なし	①後期古墳1基、周溝状遺構1基 ②なし	①平安堅穴16軒・掘立17棟・土坑4基 ②堅穴13軒・土坑26基、土器残薬場1か所	①なし ②なし	①文32 ②文33
19	下金山城		①なし ②なし	①なし ②なし	①なし ②なし	①平安土坑1基 ②なし	①土器1条、薬研堀1条、堀底道1条 ②塚、腰曲輪10か所	①文35 ②文55
20	赤坂馬場遺跡						近世塚	①文47
21	野毛平高台遺跡		①なし	①なし	①前期～中期堅穴12軒、後期17軒、後期以降土坑30基、時期不明堅穴15軒	①平安堅穴5軒	①火葬墓・土坑墓10基	①文16
22	野毛平堤間遺跡		①なし	①なし	①前期堅穴1軒 土師器	①なし	①道路跡1条	①文16
23	東方底地遺跡		早期～前期(茅山～諸磯)土器	土師器				①文47
24	取香川底地A遺跡		①前期(岡山)土器			①平安土坑2基(水辺に係る祭祀遺構)		①文7 文13 文41
25	久米(貝塚)遺跡		前期～後期土器					①文1 文15
26	小菅大田遺跡群Ⅰ		①なし	①なし	①後期堅穴25軒・土坑5基、時期不明堅穴33軒	①掘立5棟、堅穴15軒(奈良10、平安5)、平安土坑1基	①溝2条、近世塚1基・土坑1基、時期不明土坑20基	①文22
27	小菅城						①期、掘2条(中世)	①文22
28	大田御所台遺跡					平安土師器		①文47
29	馬場堀ノ作遺跡		①早期堅穴4基	①なし	①堅穴19軒、掘立4棟、土坑5基	①堅穴19軒、掘立4棟、土坑5基	①台地整形区画1か所	①文44 文51
30	山ノ作笹山遺跡					平安土師器		①文47
31	馬場大馬場佐間遺跡		後期(加曾利BⅠ～Ⅱ)土器					①文47
32	寺台城跡					①土坑1基	①平場4か所、土器2基、掘1条、ヒコ溝1条、掘立掘削穴3基、土坑1基、台地整形区画2か所、斜面造成1か所、溝1条	①文19 ①文70

33	東利田城遺跡	②土坑3基 ⑤竈穴1基	②竈穴4棟 ③竈穴36軒 (弥生中期～古墳後期)	②竈穴26軒・土坑6基 ⑤中期竈穴2軒	①奈良土師器 ②竈穴3軒・時期不明1軒・土坑11基・溝1条	②掘立2棟・土坑30基・時期不明8基・地下式坑9基・溝8条・土坑1条 ③掘立4棟・地下式坑1基・土坑86基・欄列2条・通廊2条・溝8条 ④石地彫形1か所・溝1条・土坑1基 ⑤石地彫形1か所・土坑11基・小ピット11基・溝4条	①文19 ①文31 ②文33 ③文36 ④文61 ⑤文48
34	吉倉下口遺跡	早期 (井草・夏島) 土器			土師器		①文47
35	吉倉六木山遺跡				平安土師器	近世塚	①文47
36	小菅離山遺跡				平安土師器		①文42
37	小菅法華塚遺跡	①竈穴7軒 (早期1・中期1・後期5、後期榎鏡形住居2軒・土坑10基)	①後期竈穴3軒	①竈穴15軒 (前期3・後期1・奈良12)	①平安竈穴2軒・掘立3棟・時期不明竈穴11軒・土坑66基		①文42
38	駒井野天神後遺跡				平安土師器	近世塚	①文47
39	吉倉遺跡群Ⅱ	後期 堀之内・加曾利B・2) 土器			土師器	近世塚	①文47
40	吉倉遺跡群	中・後期 (加曾利E・B) 土器			土師器		①文47
41	久米野古墳群	土器			土師器・須恵器		①文47
42	東利田遺跡群Ⅱ	前期 (黒浜・諸磯b) 土器			土師器		①文4
43	東利田遺跡群				土師器	跡跡・郭	①文19
44	一の畑屋遺跡	早期 (茅山) 土器			土師器	①土坑墓	①文15
45	新妻久保遺跡						①文15
46	新妻 (貝塚) 遺跡						①文30 ②文31
47	宝田八反目遺跡		①中期～古墳中期竈穴60軒以上 ②中期～古墳中期竈穴55軒以上	①古墳1基 ②円墳3基	土師器・須恵器		①文47
48	宝田下栗山低地遺跡				土師器		①文47
49	宝田八反目 (貝塚) 遺跡	後期 (加曾利B・安行1) 土器			土師器		①文15
50	宝田間ノ台Ⅱ遺跡				土師器		①文47
51	宝田間ノ台Ⅰ遺跡				土師器		①文47
52	宝田櫓穴						①文47
53	宝田山越 (貝塚) 遺跡	中期 (阿玉台・加曾利E・D) 土器			土師器		①文15
54	宝田遺跡群Ⅰ	①早期坑穴1基	①中期末竈穴2軒	①前期竈穴2軒	土師器		①文23
55	松崎白子遺跡				平安土師器		①文47
56	松崎吉ノ坪遺跡						
57	松崎崎遺跡				土師器		①文47
58	松崎島内遺跡	①なし ②なし ③なし	①なし ②なし ③なし	①後期 (7世紀) 竈穴4軒 ③なし	①竈穴26軒・掘立1棟・土坑5基 ②平安土坑1基・確認時期不明竈穴25軒・土坑5基・溝2条・掘立数基・土師器・須恵器 ③竈穴2軒 ④竈穴1軒・ピカ多数	①台地彫形1か所・竈穴2基・溝8条 ②地下式坑3条 ③近世陶器・土器 ④地下式坑3基・土坑4基・溝3条 ⑤中世粘土貼土坑2基・土坑2基	①文24 ②文37 ③文38 ④文67
59	松崎名代遺跡	①中期土坑2基 ②中期 (阿玉台・加曾利E) 竈穴4軒・中期～後期土坑85基・中期～晩期土坑41基	①中期後半竈穴1軒・方形周溝器1基・後期竈穴1軒	②後期竈穴2軒・土坑2基	②竈穴4軒・土坑3基	①中世土坑5基・竈土貼土坑1基・ピット20基以上 ②台地彫形2か所・地下式坑2基・土坑2基 (銅鏡関連1)・溝8条	①文63 ②文69
60	松崎遠原遺跡	①なし ②なし	①なし ②なし	①なし ②なし	①奈良竈穴3軒・平安竈穴1軒 ②奈良竈穴3軒・溝1条	①なし	①文38 ②文45
61	下福田君作遺跡	①W-V層1点 (ナイフ形石器)			①祭祀跡1か所	①近世塚1基	①文38
62	大竹遺跡群Ⅲ				土師器		①文47
63	小藤山低地遺跡	後期 (加曾利B・安行1) 土器					①文47
64	押畑 (子の神) 城	①なし	①中期後半竈穴1軒・方形周溝器1基・後期竈穴1軒	①前期竈穴3軒・土坑1基	①なし	①中世土坑1基	①文19 ①文27
65	宝田・押畑古墳群				前方後円墳1基・円墳9基		①文47
66	押畑古台遺跡	①なし	①後期竈穴2軒	①後期 (6世紀) 竈穴3軒	①竈穴3軒	①土坑1基・土坑列1条・土坑溝7基・ピット群1基・溝7条	①文59
67	山口古墳群				円墳4基		①文47
68	山口天祖宮宮田遺跡				土師器		①文47
69	土屋敷台 (貝塚) 遺跡	①後～晩期竈穴23軒・土坑125基・遺物包含層1か所		①中～後期竈穴25軒		①中世曲輪・掘立2棟・溝8条	①文5 文20 文21 文46 文49
70	郷部立野遺跡				①後期竈穴2軒・土坑1基		①文21 文46 文49
71	郷部加定地遺跡	①竈穴16軒・布穴9基・土坑多数 (組文～平文514基)		①後期～奈良竈穴336軒・土坑376基	①平安土坑20基	①中世掘立7棟・土坑26基・井戸1基・欄列4基・溝24条	①文11 文12 文21 文46 文49
72	郷部南台遺跡	①中期竈穴6軒・中～後期土坑約200基 ②中期土坑8基 ③竈穴5軒・土坑10基		①後期竈穴約50軒	②竈穴13軒・掘立1棟		①文21 文46 文49 ②文68 ③文71
73	外子代 (Loc.40) 遺跡	②なし	②後期竈穴15軒	②円墳3基 ②前期竈穴22軒・玉作工房8軒	②竈穴37軒・掘立6棟		①文9 文17 文49 文72

74	公津原古墳群								①彌生古墳群33基(中墳18・方墳15) ②天王・船塚古墳群20基(竪立貝1・円墳11・方墳8) ③八代古墳群6基(円墳3・方墳3)											②近世塚1基、土坑2基				①~③文9		
75	八代玉作(Loc.39)遺跡	①なし							①後期~晩期(堀之内~堀I) 竪穴6軒																①文17 文72	
76	八代玉作遺跡								①中期末竪穴2軒																①文8	
77	八代内遺跡																								①文7	
78	後原(Loc.34)遺跡																								①文7	
79	八代時田遺跡																								①文7	
80	戸崎Ⅳ(Loc.3A・B)遺跡	①なし							①なし																①文7	
81	戸崎Ⅰ・Ⅲ遺跡																								①文7	
82	引地(Loc.28)遺跡	①なし							①なし																①文7	
83	多代台遺跡								早期(茅山)土器																①文7	
84	雷石(Loc.37)遺跡	①血層5アロック9点(ナイフ形石器・剃器・磁石・銅片)							①竪穴2軒、竪穴12基、土坑15基、竪穴4基																①文26	
85	新山遺跡								土器																①文7	
86	石塚(Loc.20)遺跡	②なし							②中期末~竪穴5軒																①文9 ②文17 文49 文72	
87	米野一本松遺跡																								①文7	
88	米野屋敷遺跡								早期(茅山)土器																①文7	
89	米野中台遺跡								①なし																①文7	
90	石橋台2遺跡								①早期(茅山下層) 竪穴1基																①文9 ②文17	
91	石橋台1遺跡								①中期(加曾利E)土器																①文9	
92	藤貫台遺跡								①前期土器																①文9	
93	藤貫台II遺跡								①竪穴14軒(早期田戸下層12・前期諸磯1・浮島1、早期竪穴1基)																①文9	
94	藤貫台I遺跡								①早期(茅山下層) 竪穴1軒・竪穴2基																①文9	
95	向台遺跡	①遺物集中地点(Ⅲ層)1カ所51点(彫器1・削器6・剃片22・石核2等)							①なし																①文9 文17	
96	西中学校遺跡																								①文7	
97	上人塚遺跡								①早期(茅山式) 竪穴7軒・竪穴15基																①文9	
98	金塚遺跡																								①文9	
99	郷部松ノ下(Loc.16-17)遺跡	②なし							②なし																①文9 ②文17 文49	
100	加良部(Loc.15)遺跡	①なし							①なし																①文17 文49 文72	
101	中台遺跡	①なし							①なし																①文17	
102	新山II(Loc.7)遺跡	①なし							①中期(加曾利EⅢ) 竪穴1軒																①文9	
103	新山I(Loc.1)遺跡	①なし							①竪穴1基																①文9	
104	加良部台(Loc.2)遺跡								①竪穴1基																①文7	
105	開蔵台遺跡群								①中期(加曾利EⅣ) 竪穴3軒・土坑5基 ②中期(加曾利EⅢ) 竪穴41軒、中期末竪穴6軒、早期附穴1基、中期後~後期初期竪穴7基・土坑644基 ③中期(加曾利EⅣ) 竪穴2軒・土坑6基 ④竪穴1基																	①文6 ②文29 ③文28 ④文50 ⑤文60 ⑥文63
106	南開蔵台遺跡	④なし ⑤なし							①土坑4基 ③なし ④土坑1基 ⑤中期土坑2基 ⑥なし ⑦なし ⑧なし																①文48 ②文52 ③文54 ④文56 ⑤文58 ⑥文60 ⑦文65 ⑧文66 ⑨文67	
107	台方下下平遺跡																								①文7	
108	台方下平遺跡																								①文7	
109	不動ヶ岡大田遺跡								前期(黒坂)土器																①文7	
110	不動ヶ岡横田遺跡								前期(黒坂)土器																①文7	
111	松ノ木台遺跡								①後期(7世紀後)方墳1基 ②後期竪穴5軒・土坑4基・溝3条																①文10 ②文57	
112	日吉倉、五斗倉遺跡																								①文7	
113	公津原遺跡群								①中期(5世紀後半)埴輪窯跡1基・竪穴遺構4軒																①文9 文40	

第2章 調査の成果

第1節 遺跡の概要(第6・7図、第2～4表)

今回の発掘調査で検出した遺構は弥生時代～古墳時代を中心としたもので、前回調査の成果を補完する内容である。旧石器時代は2か所で石器を確認し、1か所は2点、もう1か所は単独出土である。縄文時代は遺構が全く検出されず、弥生時代以降の遺構から出土した遺物の中から、明らかに縄文時代と判断した遺物を掲載したが、土器・石器ともにわずかな数量である。弥生時代は中期末葉～後期の竪穴住居跡13軒・土坑2基、古墳時代は前期～中期の竪穴住居跡7軒・溝1条と中期の円墳1基、平安時代は竪穴住居跡1軒・溝1条、中・近世と思われる竪穴状遺構1基・溝1条が検出された。このほかに出土遺物がなく明確な時期が不明な竪穴住居跡が2軒あるが、いずれも炉を持つことから弥生時代中期末葉～古墳時代中期と思われる。

第2表 竪穴住居跡一覧表

() 推定値 : < > 現存値 単位 : 主軸・幅 m、床面積㎡

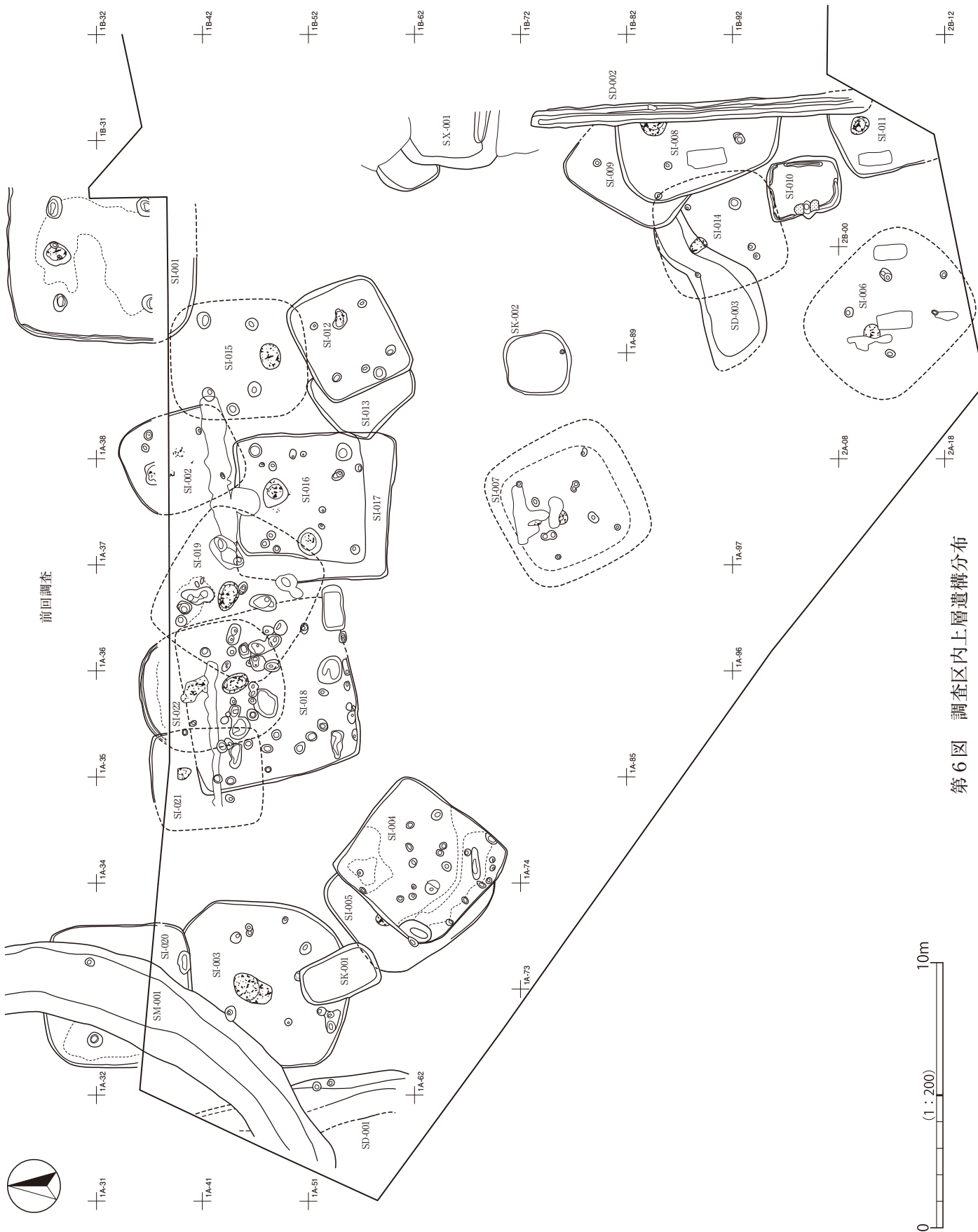
遺構番号	位置	主軸方向	主軸	幅	床面積	炉・カマド	貯蔵穴	壁溝	時期	備考
SI-001	1A-39	N - 2° - E	(6.8)	<5.6>	-	北	-	西側	弥生後期	前回調査の002号跡
SI-002	1A-37・38・47・48	N - 22° - W	(4.7)	(3.7)	-	北・北東	-	なし	古墳前期	前回調査の048号跡
SI-003	1A-42・43・52・53	N - 5° - E	<6.0>	6.1	-	中央	なし	なし	弥生後期	SI-020・SK-001と重複
SI-004	1A-53・54・63・64	N - 141° - W	5.24	5.0	23.04	南西	なし	なし	古墳前期	SI-005と重複
SI-005	1A-53・54・63・64	N - 38° - W	(5.6)	(4.6)	-	北西	なし	なし	弥生後期	SI-004と重複
SI-006	2A-09	N - 43° - W	(6.1)	(5.1)	-	北西	なし	なし	弥生後期	
SI-007A	1A-77	N - 23° - W	(4.2)	(4.2)	-	北西	なし	なし	弥生中期～古墳中期	A→B拡張
SI-007B	1A-77	N - 27° - W	(5.5)	(5.5)	-	北西	なし	なし	弥生中期～古墳中期	A→B拡張
SI-008	1B-80・81・90・91	N - 20° - W	<6.3>	<3.1>	-	北	-	なし	古墳前期	
SI-009	1B-70・71・80・81	N - 29° - E	4.6	<2.0>	-	-	-	なし	古墳前期	
SI-010	1B-90	N - 97° - W	2.1	2.8	4.8	西	なし	ほぼ全周	平安時代	9世紀第2四半世紀頃
SI-011	2B-00・01	N - 16° - W	<2.5>	<2.8>	-	北西	-	なし	弥生後期	
SI-012	1A-58・59	N - 63° - E	4.2	3.7	13.25	北東	南西	なし	古墳前期	
SI-013	1A-58	N - 45° - W	(3.7)	3.1	-	-	-	なし	弥生後期	
SI-014	1A-89・99、1B-80・90	N - 13° - W	(4.5)	(4.5)	-	北	なし	なし	弥生後期	
SI-015	1A-48・49	N - 3° - W	(4.5)	(4.4)	-	南	西	なし	弥生中期末	
SI-016	1A-47・48・57・58	N - 1° - E	4.8	4.7	21.32	北	南東角	なし	弥生後期	
SI-017	1A-46～48・56～58	N - 86° - W	5.6	5.9	30.34	西	北東角	なし	古墳中期	
SI-018	1A-45・46・55・56	N - 12° - W	6.3	(6.5)	-	北東	南	なし	古墳前期	
SI-019	1A-36・46・47	N - 59° - W	(5.7)	(5.4)	-	中央	なし	なし	弥生後期	
SI-020	1A-33	N - 2° - W	(5.6)	(5.4)	-	-	-	なし	弥生後期	前回調査の012号跡
SI-021	1A-34・35・44・45	N - 5° - W	(4.2)	(3.8)	-	北	なし	なし	弥生後期	前回調査の050号跡
SI-022	1A-35・36・45・46	N - 14° - W	(5.4)	(4.6)	-	中央	不明	なし	弥生後期	前回調査の049号跡

第3表 土坑・竪穴状遺構一覧表

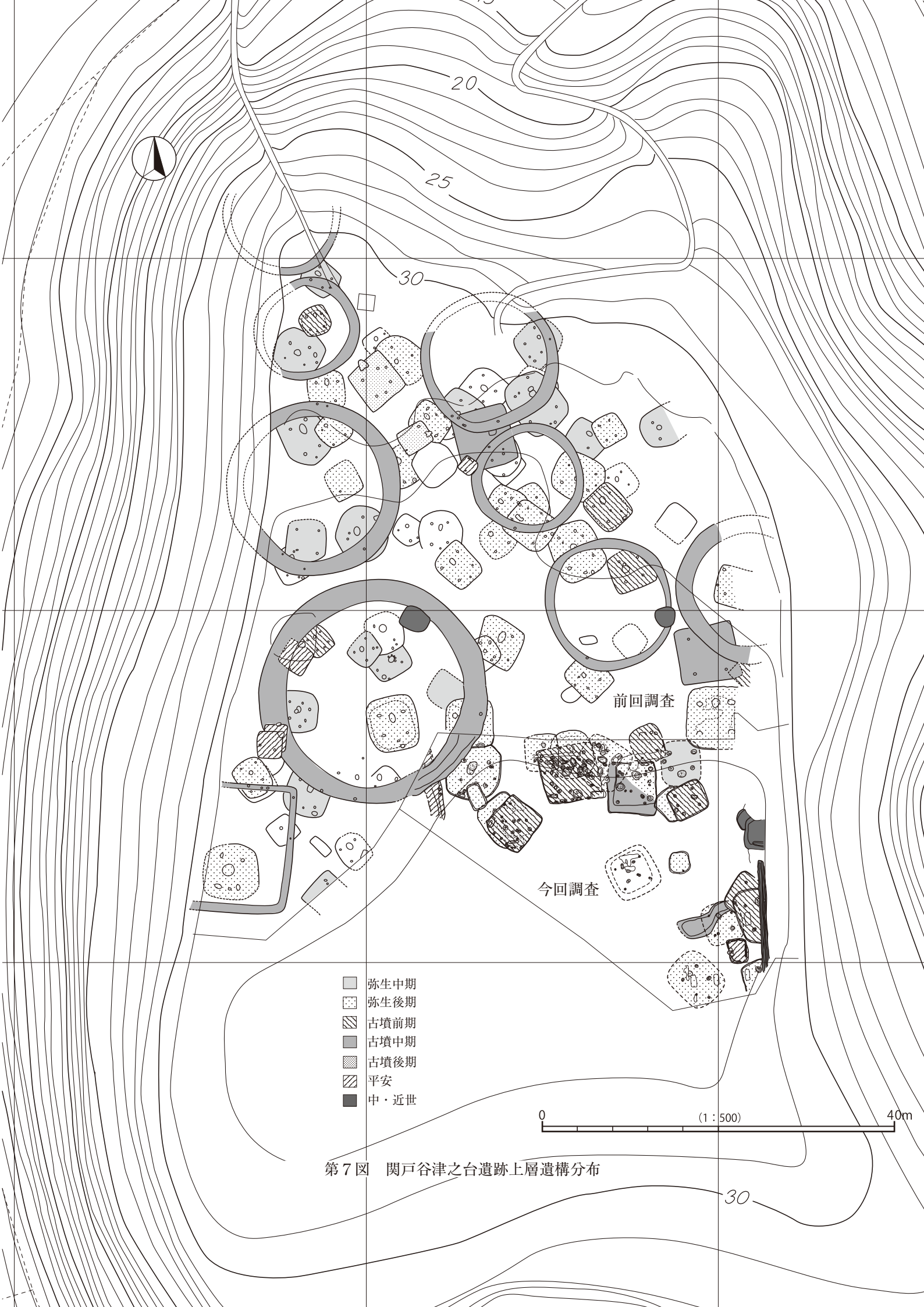
遺構番号	種別	位置	長(主)軸方向	計測値 : m < > 現存値			時期	備考
				長軸	短軸	深さ		
SK-001	土坑	1A-52・53	N - 25° - W	3.03	1.82	0.32	弥生後期	SI-003・005より新
SK-002	土坑	1A-78・79	N - 4° - W	2.52	2.34	0.11	弥生後期	
SX-001	竪穴状遺構	1B-50・51・60・61	N - 3.5° - E	<3.6>	<2.04>	0.45	中・近世	北西側に土坑状の掘り込み

第4表 古墳・溝一覧表

遺構番号	位置	走行方向	計測値 : m < > 現存値			時期	備考
			総延長	幅	深さ		
SM-001	1A-31・32・41・42・51	-	<9.7>	2.1 ~ 2.7	0.4 ~ 0.5	古墳中期	前回調査の202号跡
SD-001	1A-41・51・52	N - 12° - W	<8.6>	1.64 ~	0.26 ~ 0.38	平安時代	「十」刻書高台付杯 9世紀第2四半世紀頃
SD-002	1B-71・81・91、2B-01	N - 3° - W	<12.7>	0.72 ~ 0.8	0.56 ~ 0.68	中・近世	幅0.4m～0.5mの溝の掘り直し
SD-003	1A-89・99、1B-80	N - 56° - E	<6.0>	1.4 ~ 2.4	0.14 ~ 0.23	古墳中期	



第6図 調査区内上層遺構分布



第7図 関戸谷津之台遺跡上層遺構分布

30

第2節 旧石器時代の遺構と遺物 (第8～10図、第5表、図版3・16)

1 第1ブロック (第8・9図、図版3・16)

調査区の南端、独立丘状台地最頂部付近の1A-75グリッドに位置する。ローム層の堆積はほぼ水平に堆積している。遺物総数は2点であるがブロックと把握し報告する。土層断面ではⅨ層の中位に投影され、Ⅸ層が分層されていないため判然としないが、出土層位はⅨc層上部に求められる。

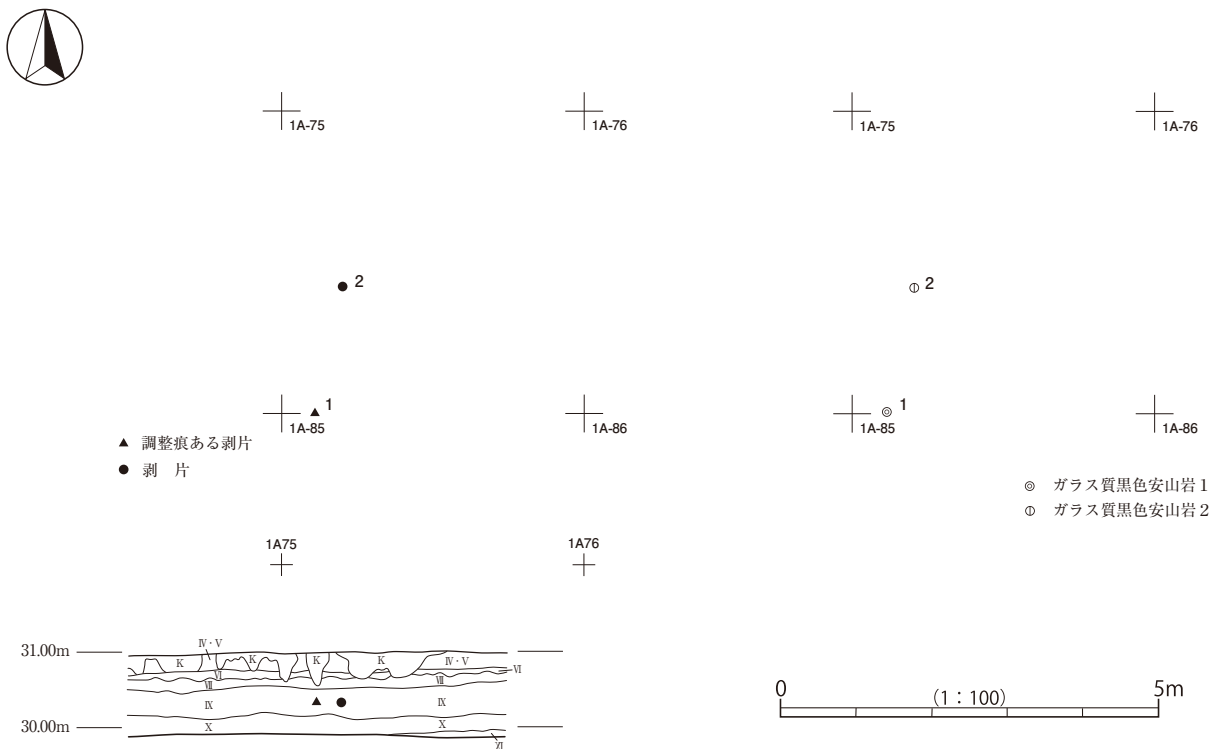
1は調整痕ある剥片である。石材はガラス質黒色安山岩である。背面左側縁部を折取状に欠損する幅広剥片に腹面左側縁から下端部にかけて平坦な調整が施され、その部位に微細な剥離痕が観察される。

2は剥片である。石材は1と同じガラス質黒色安山岩であるが、やや器面が細かく母岩は異なる。調整打面を打面とした横幅の広い剥片である。背面構成を見ると打面側からの剥離面が先行するが、底面にはそれと対向する下端方向からの幅広な剥離痕が認められる。

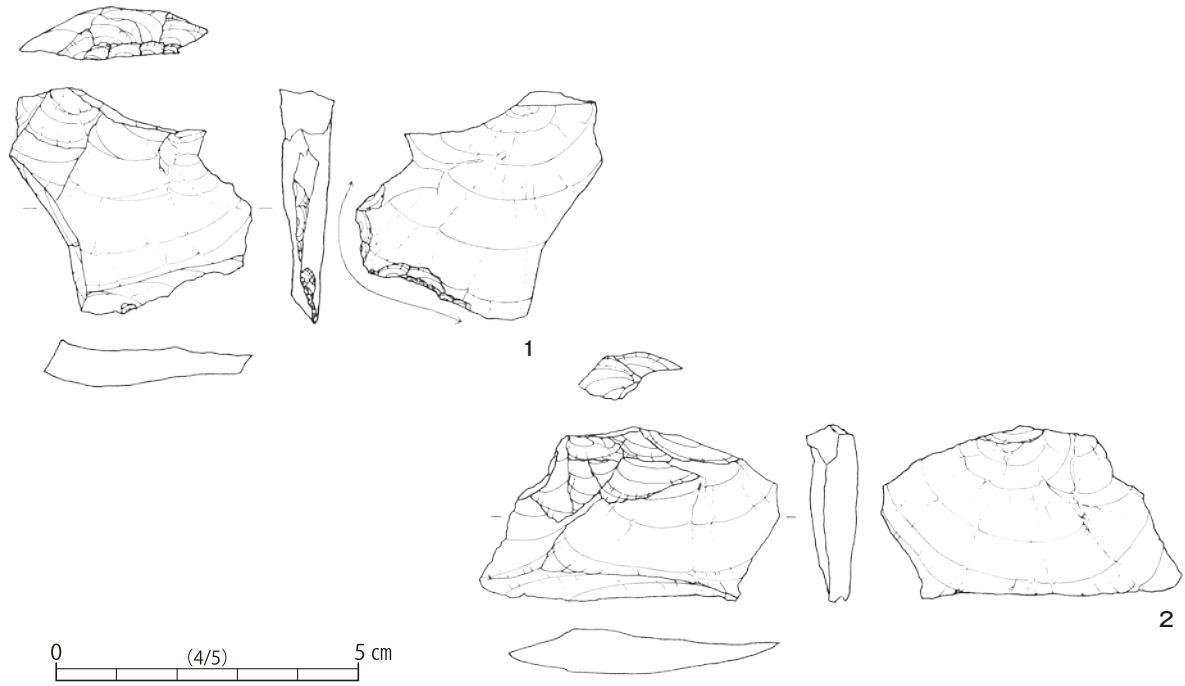
2 単独出土石器 (第10図、図版3・16)

調査区の東端、台地肩部～傾斜部の1B-80グリッドに位置する。ローム層の堆積は東方向に傾斜して、Ⅲ層(ソフトローム層)がⅥ層～Ⅸc層を取り込むように堆積している。土層断面ではⅢ層とⅦ層の境界に投影されるが、調査時の所見ではⅦ層からの出土層位である。

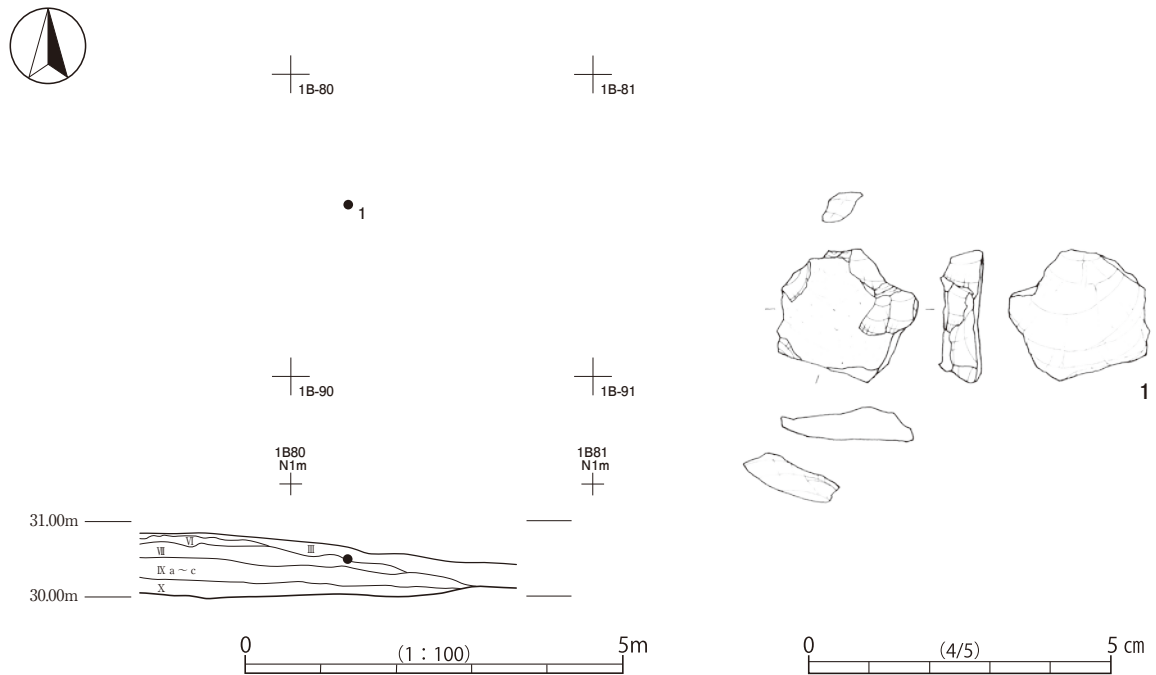
1は剥片である。石材は灰白色半透明の石英である。背面に広く原礫面を残置して、下端部及び右側縁が平坦な切断面となっている。原礫面・打面は被熱し赤化している。



第8図 第1ブロック器種別・母岩別分布図



第9図 第1ブロック出土石器



第10図 単独出土分布図・出土石器

第5表 石器属性表

挿図番号	器種	石材	ブロック	グリッド	遺物番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第9図-1	調整痕ある剥片	ガラス質黒色安山岩1	第1ブロック	1A-75	3	37.8	40.3	9.2	10.8	
第9図-2	剥片	ガラス質黒色安山岩2		1A-75	2	28.6	48.5	8.9	10.4	
第10図-1	剥片	石英	単独	1B-80	2	22.1	23.5	6.8	3.62	

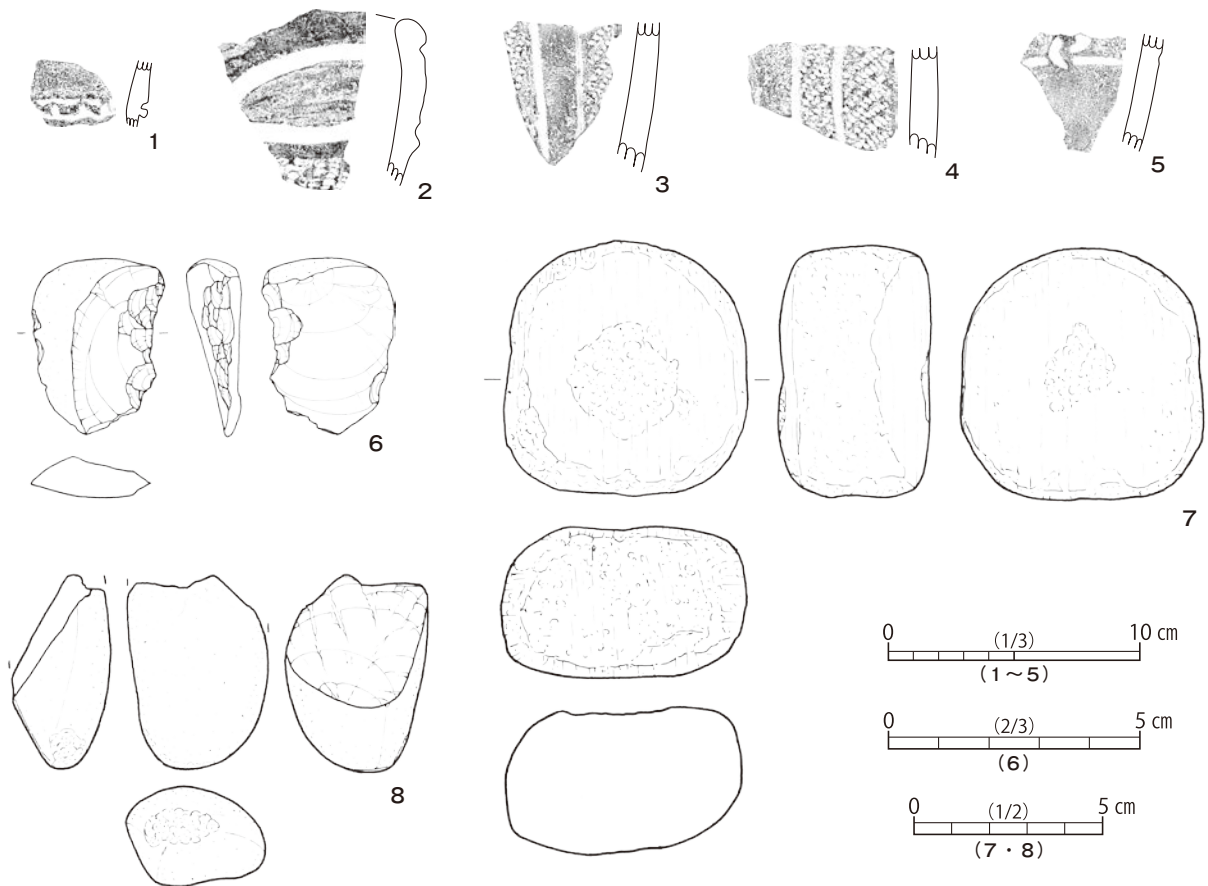
第3節 縄文時代の遺物 (第11図、第6・7表、図版16)

1は中期中葉末から後葉にかけての土器である。口縁部付近の破片と考えられ、無文部の下に交互刺突による文様が認められる。2～4は加曽利E3式である。2は口縁部破片で、口縁に突起状の張り出しを持つものであるが、突起部分を欠損する。口縁部には隆線と太い沈線で区画が施されているが、区画内は無文である。胴部にはRLの単節縄文と沈線が認められる。3・4は胴部破片で、RLの単節縄文を地文とし、沈線による懸垂文が認められる。沈線間の一部は地文が磨り消される。5は加曽利B2式である。横位の沈線で区画され、LRの単節縄文が施される。対弧文が認められる。

6は調整痕のある剥片である。楕円礫から剥離された厚く先端が尖る縦長剥片の背面右側縁と裏面左側縁に連続した細長の平坦剥離が交互に施され、背面左側縁と裏面右側縁にも疎らに平坦剥離が認められる。下端部の尖った部位を石鏃の先端部に企図した石鏃未成品の可能性もある。7は磨石である。表裏面の磨耗が顕著で、上下・左右側面にも磨耗が見られる。正面には大きく浅い凹み、裏面にはごく小さな凹みが認められる。8は敲石である。棒状楕円礫の先端部から左側面下端部にかけて細かな敲打痕が集中する。裏面下方向からの加撃により器体を大きく欠損する。

第6表 縄文石器属性表

挿図番号	遺物番号	器種	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第11図-6	SI-004-1	調整痕のある剥片	ホルンフェルス	34.7	26.3	10.8	9.53	石鏃未成品?
第11図-7	SM-001-15	磨石	安山岩	65.5	63.5	39.0	238.29	磨面+凹面
第11図-8	SI-022-7	敲石	ガラス質黒色安山岩	50.2	36.8	25.5	52.08	



第11図 縄文土器・石器

第4節 弥生時代以降の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

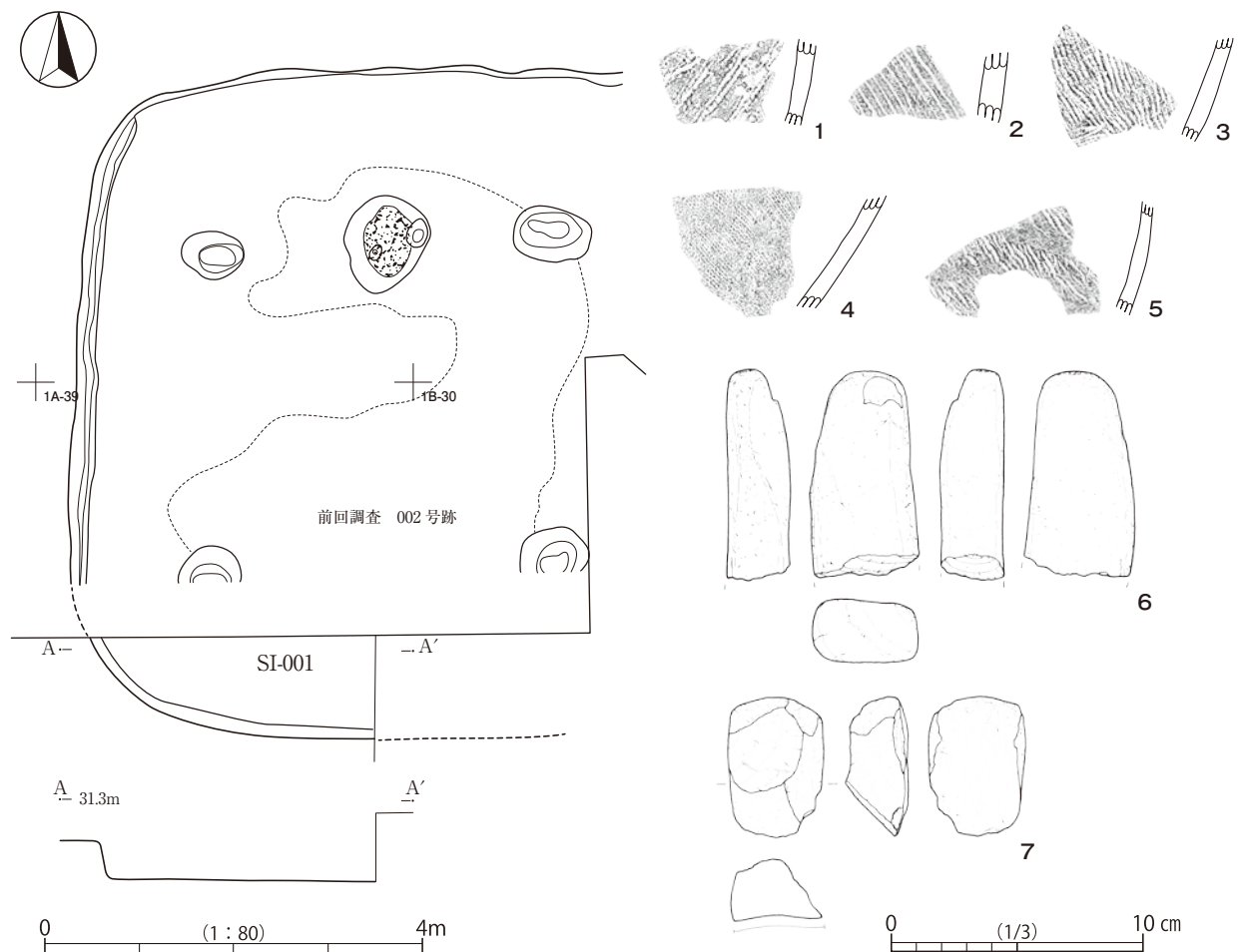
SI-001 (第12図、第7・8表、図版4・16)

1A-39グリッドの位置にある。前回調査の002号跡と同一である。南西角と南壁の一部を検出したが、東側は雨水流出防止のための土手を設けたため検出できなかった。確認面からの深さは30cm前後である。壁溝・炉・支柱穴等は全て002号跡で検出されており、それらの記録と合わせると、平面形は隅丸方形で、主軸方向はN - 2° - E、規模は推定主軸長6.8m、現存の横幅5.6mである。

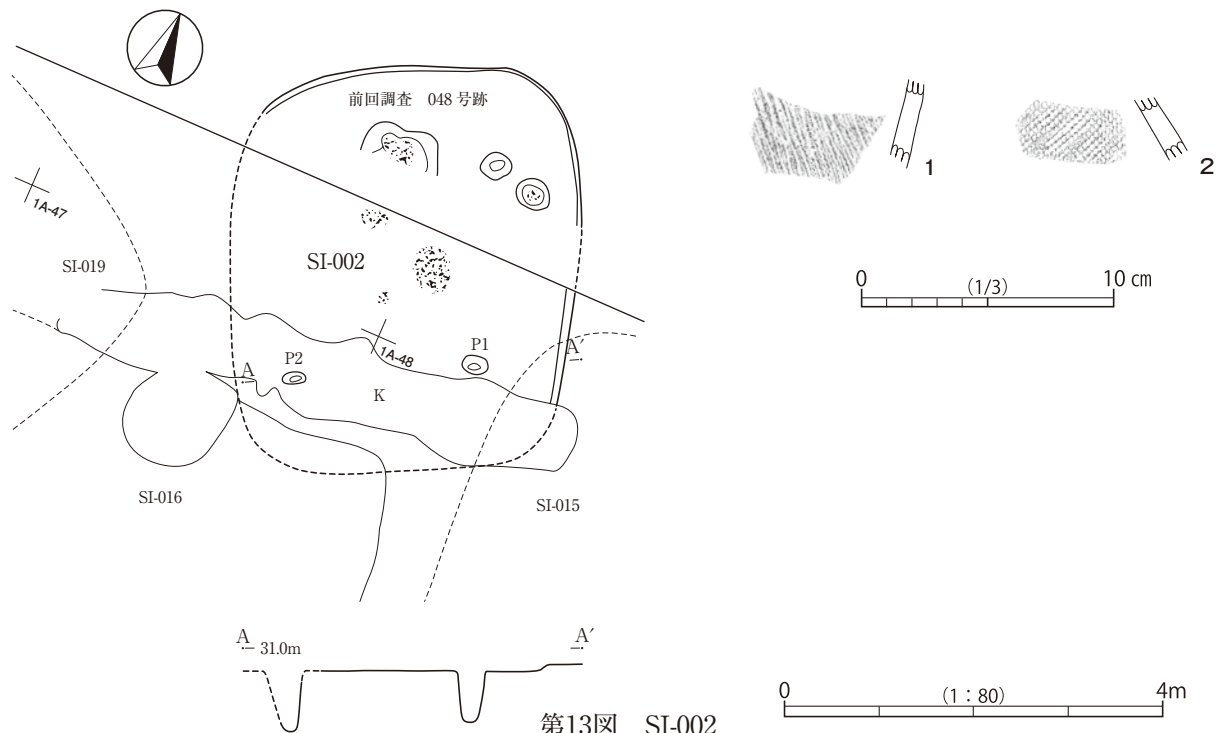
出土遺物の数量は石器も含めて総数11点と極めて少なく、土器は全て破片で一括資料である。図示できたものは弥生土器5点と石器2点である。

1～5は全て甕の胴部破片である。1～3は撚糸文が施され、1は2条絡め撚糸文である。4は単節斜縄文、5は無節斜縄文が施される。

6は砂岩製の敲石である。両側縁及び上端に潰れが顕著であり、欠損している下端部にも疎らな敲打痕が見られる。7は砂岩製の砥石である。裏面及び右側面が研ぎ面となっているが、裏面の研ぎ面は緩やかに内湾しており磨製石斧等の刃部研ぎの用途が想定される。



第12図 SI-001



第13図 SI-002

SI-002 (第13図、第7表、図版4・16)

1A-37・38・47・48グリッドの位置にある。前回調査の048号跡と同一で、東壁の一部と支柱穴を検出した。西側と南側の壁は掘り込みが浅く、検出できなかった。SI-015・016と重複するが、新旧関係は不明である。検出面からの深さは6cm～12cmである。支柱穴はP1・P2の2本で、P1は長径30cm、短径20cm、深さ55cmである。P2は上部を攪乱により破壊されており、長径26cm、短径12cm、現状の深さ37cmである。床面には焼土が見られるが、炉であるか否かは不明である。048号跡では北側から東側にかけて壁の一部と炉2基、支柱穴1本が検出されており、それらの記録と合わせると、平面形は隅丸長方形で、主軸方向はN-22°-W、規模はいずれも推定で主軸長4.7m、幅3.7mである。

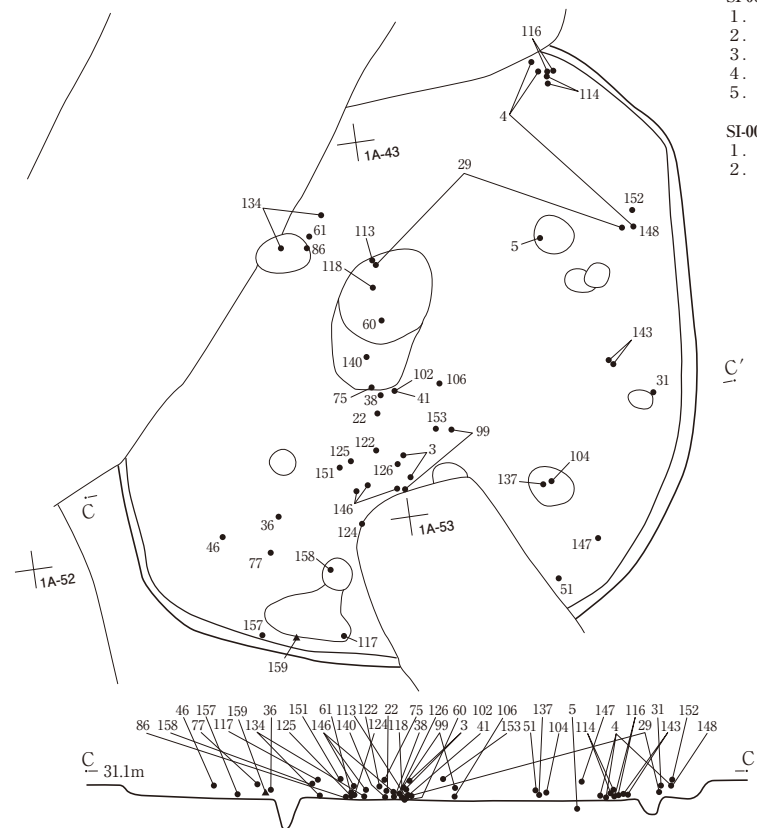
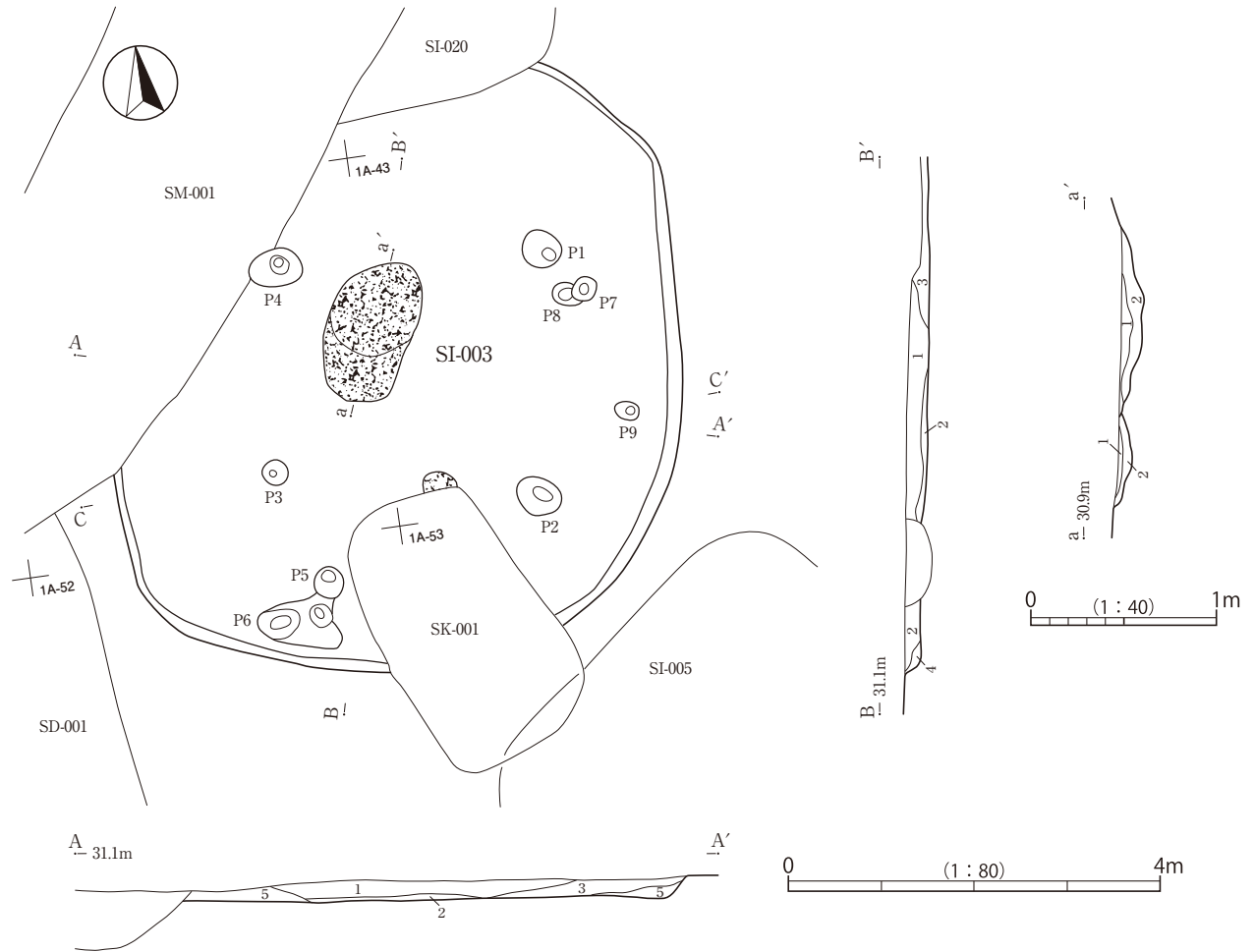
出土遺物の数量は総数42点で、全て小破片で一括資料である。図示できたものは弥生土器2点である。

1・2は甕の胴部破片である。1は撚糸文、2は単節斜縄文が施される。

SI-003 (第14～19図、第7・8表、図版5・16～19)

1A-42・43・52・53グリッドの位置にある。SI-020、SM-001、SK-001と重複し、いずれも本遺構の方が古い。平面形は隅丸長方形で、主軸方向はN-5°-Eである。規模は現存主軸長6.0m、幅6.1mである。確認面からの深さは、11cm～22cmである。壁溝はない。炉は南から北に作り直しが行われており、旧炉はほぼ中央、新炉は北壁側の支柱穴の間にある。支柱穴はP1～P4の4本で、P1は長径45cm、短径40cm、深さ60cmである。P2は長径50cm、短径40cm、深さ56cmである。P3は径28cm、深さ32cmである。P4はSM-001に一部壊されているが長径65cm、短径40cm、深さ38cmである。P5・P6は深さが25cm～35cmと深く、炉の対壁寄りにあることなどから、貯蔵穴あるいは出入口ピットの可能性が考えられる。そのほかのピットはいずれも深さが15cm前後と浅く、性格は不明である。

出土遺物の数量は総数2,150点で、今回調査した遺構の中で最も多く出土している。出土状況は炉の南側にやや集中するほかは、全体に散漫な状況である。図示できたものは土器156点、土製品2点、石器4



SI-003

1. 暗褐色土：ロームブロック（径5mm）少量
2. 暗褐色土：ローム粒少量、ロームブロック（径10~20mm）少量
3. 暗褐色土：ロームブロック（径2~3mm）やや多量、焼土粒・炭化粒若干
4. 褐色土：ローム粒多量
5. 暗褐色土：ローム粒少量、ロームブロック（径3~5mm）やや多量

SI-003が

1. 黒褐色土：しまりやや弱い、焼土ブロック・粒中量、炭化物少量
2. 赤褐色土：しまりあり、焼土主体

第14図 SI-003 (1)

点である。

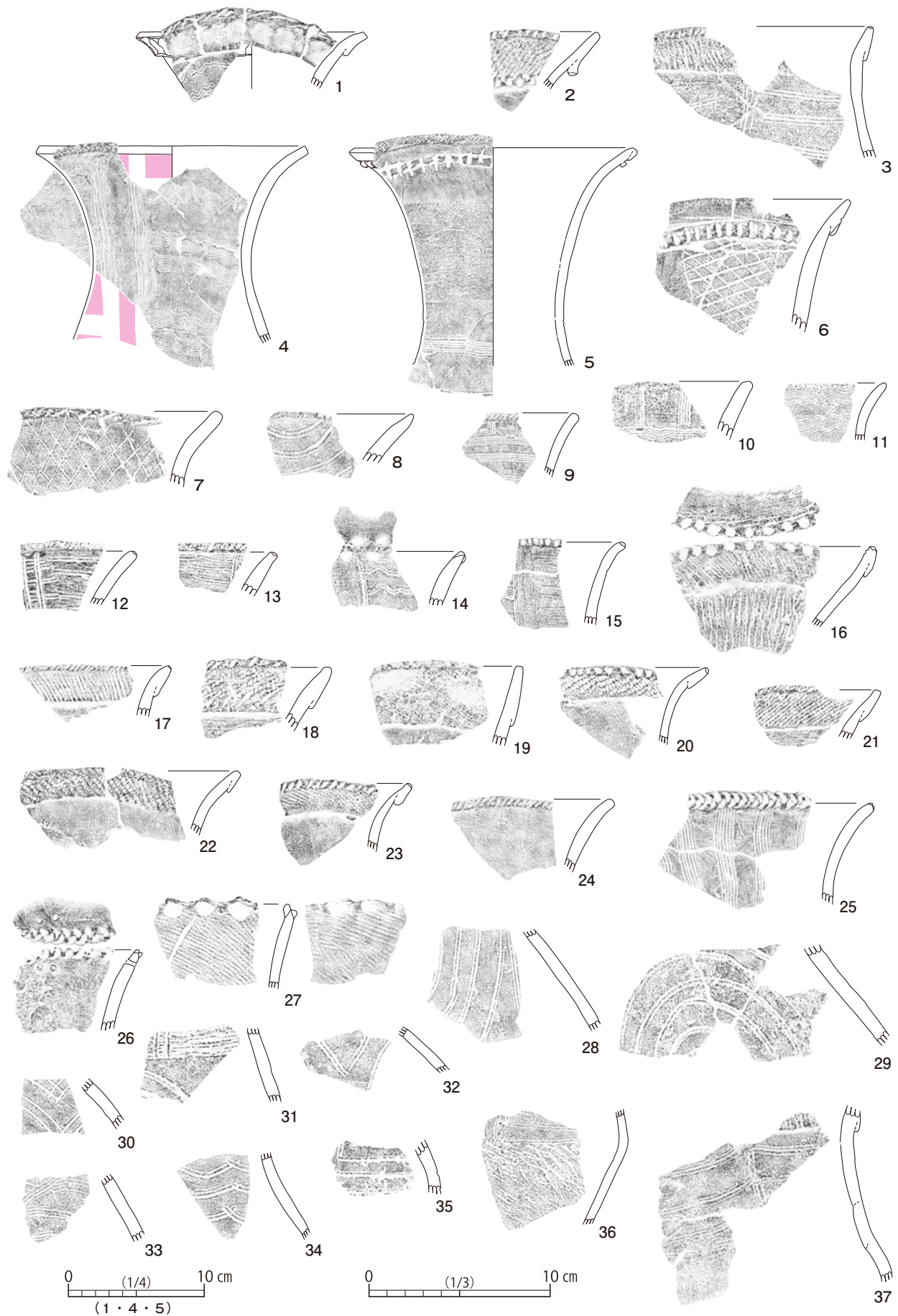
1～154は弥生土器である。1～27は口縁部である。1～5は壺で、1～3・5は複合口縁である。1は口縁部外面に指頭による押圧痕が見られ、口唇部は撚糸文が施される。頸部は3本櫛描き波状文が施される。2は口縁部外面に単節斜縄文、口唇部に縄文原体による刻み目が施される。口縁部下端は棒状工具による刻み目が施される。3は口縁部外面に撚糸文、口唇部に撚糸文原体による刻み目が施される。頸部は3本櫛描き縦区画文によるスリットと3本櫛描き横走文が施される。4は単口縁である。口唇部に単節縄文、口縁部から頸部にかけて8本櫛描き縦区画文によるスリットと波状文が施される。波状文は2段が一つの単位として施され、単位の間には無文部が設けられる。外面の無文部は赤彩されている。5の口縁部外面は無文で、口唇部に単節縄文が施される。口縁部下端はヘラ状工具により帯状に切り離し、さらに、縦の刻み目が施される。頸部は径が最も細い部分から下に、間隔をあけて6本櫛描き横走文が施される。

6～27は甕の口縁部である。6～15はヘラ描きあるいは櫛描きが施されるものである。6は複合口縁で、口縁部下端にヘラ描き沈線と縄文原体による刻み目が施される。頸部はヘラ描き縦区画内に斜格子文が施される。7～13・15は単口縁である。7は口唇部に撚糸文、口縁部以下にヘラ描き斜格子文が施される。8は口唇部にヘラ状工具による刻み目が施される。口縁部は2本櫛描き連弧文が施され、4段目の弧と弧の接続部分には縦の接続線が見られる。9は口唇部に撚糸文、口縁部に4本櫛描き縦区画文とその下に横走文が施される。10は口縁部に5本櫛描き縦区画文とその下に波状文が施される。11は口縁部に7本櫛描き波状文が施される。12・13は施文具が異なるが、いずれも口唇部に単節縄文、口縁部に2本櫛描き縦区画文と横走文が施される。14は指頭交互押圧による波状口縁である。口縁部直下から頸部は2本櫛描き縦区画文によるスリットと波状文が施される。15は口唇部に縄文原体による刻み目、口縁部直下から頸部に5本櫛描き縦区画文によるスリットと横走文が施される。

16～24は縄文が施されるもので、16～23は複合口縁である。16は口唇部に撚糸文原体による刻み目、口縁部と頸部に撚糸文が施される。17は口唇部と口縁部に撚糸文が施される。18・19・22は口唇部と口縁部に単節斜縄文が施される。20は口唇部に縄文原体による押圧、口縁部に単節斜縄文が施される。21は口唇部に縄文、口縁部に無節斜縄文が施される。23は口唇部に縄文原体による刻み目、口縁部に無節斜縄文が施される。24は単口縁で口唇部にだけ撚糸文が施される。

25～27は波状口縁である。25は櫛歯状工具による交互押圧で、口縁部直下から胴部にかけて6本櫛描き縦走文が施される。26はヘラ状工具による交互押圧で、口縁部に焼成前に開けられた小さな穴がある。27は指頭による交互押圧で、内外面ともにハケ調整が施される。

28～140は胴部である。28～70は櫛描き文が施されるものである。28～37は壺と思われる。28・29・31は2本櫛描き渦巻き文が施される。31は渦巻き文の上に2本櫛描き縦区画文と7本櫛描き横走文が施される。30・32は2本櫛描き渦巻き文あるいは渦巻き文上部の連弧文と思われる。33はやや粗い4本櫛描き連弧文が施される。34は2本櫛描き連弧文が施される。35・36は2本櫛描き重四角文が施され、36は胴部下半に撚糸文が施される。37は口縁部下端が一部残り、文様構成は3に類似する。口縁部は撚糸文、頸部は3本櫛描き縦区画文と弧の大きな連弧文3段と横走文が施される。胴部は器面が荒れて不明確であるが撚糸文が施されていると思われる。38・40は3本櫛描き縦区画文と横走文が施される。39は3本櫛描き縦区画文と4本櫛描き横走文が施される。41～50は櫛描き波状文を持つものである。42は5本櫛描き波状文が施される。41・43～46は櫛描き縦走文にヘラ描き斜線を加えた縦区画文を持つものである。41・45は4本



第15図 SI-003 (2)

櫛描き縦区画文と3本櫛描き波状文、胴部に撚糸文が施される。45は縦区画文が斜め方向にも施されている。43は7本櫛描き縦区画文によるスリットと6本櫛描き波状文が施され、縦区画と波状文で櫛描きの本数が異なるが、あるいは同じ本数の可能性もある。44は4本櫛描き縦区画文によるスリットと波状文が施される。46は2本櫛描き縦区画文によるスリットと3本櫛描き波状文が施される。47～51は縦区画文によるスリットが施されるものである。47は11本櫛描きの波状縦区画文と波状文が施される。48は8本櫛描き縦区画文と波状文、49は5本櫛描き縦区画文と横走文、50は5本櫛描き縦区画文と波状文、51は7本櫛描き縦区画文と波状文が施される。

52～55は櫛描き縦区画文と縄文が施されるものである。52は6本櫛描き縦区画文と撚糸文が施される。53は7本櫛描き縦区画文と撚糸文が施される。54は4本櫛描き縦区画文の下端部を波状文で区画し、それより下に撚糸文を施す。55は4本櫛描き縦区画文と単節斜縄文が施される。

56・57は櫛描き横走文と縄文が施されるものである。56は櫛描き横走文と単節斜縄文の間に無文部が見られる。57は2本櫛描き横走文と単節斜縄文が施される。

58は地文の撚糸文の上にヘラ描き沈線文が施される。59はヘラ描き沈線文で区画し、それより下に撚糸文が施される。

60～70は櫛描き文だけが施されるものである。60は6本櫛描き縦走文が施される。61～69は櫛描き横走羽状文が施されるものである。63が3本～4本、68が2本、69が4本で、そのほかは3本櫛描きである。70は底部に近い胴部で、5本櫛描き縦走文が施される。

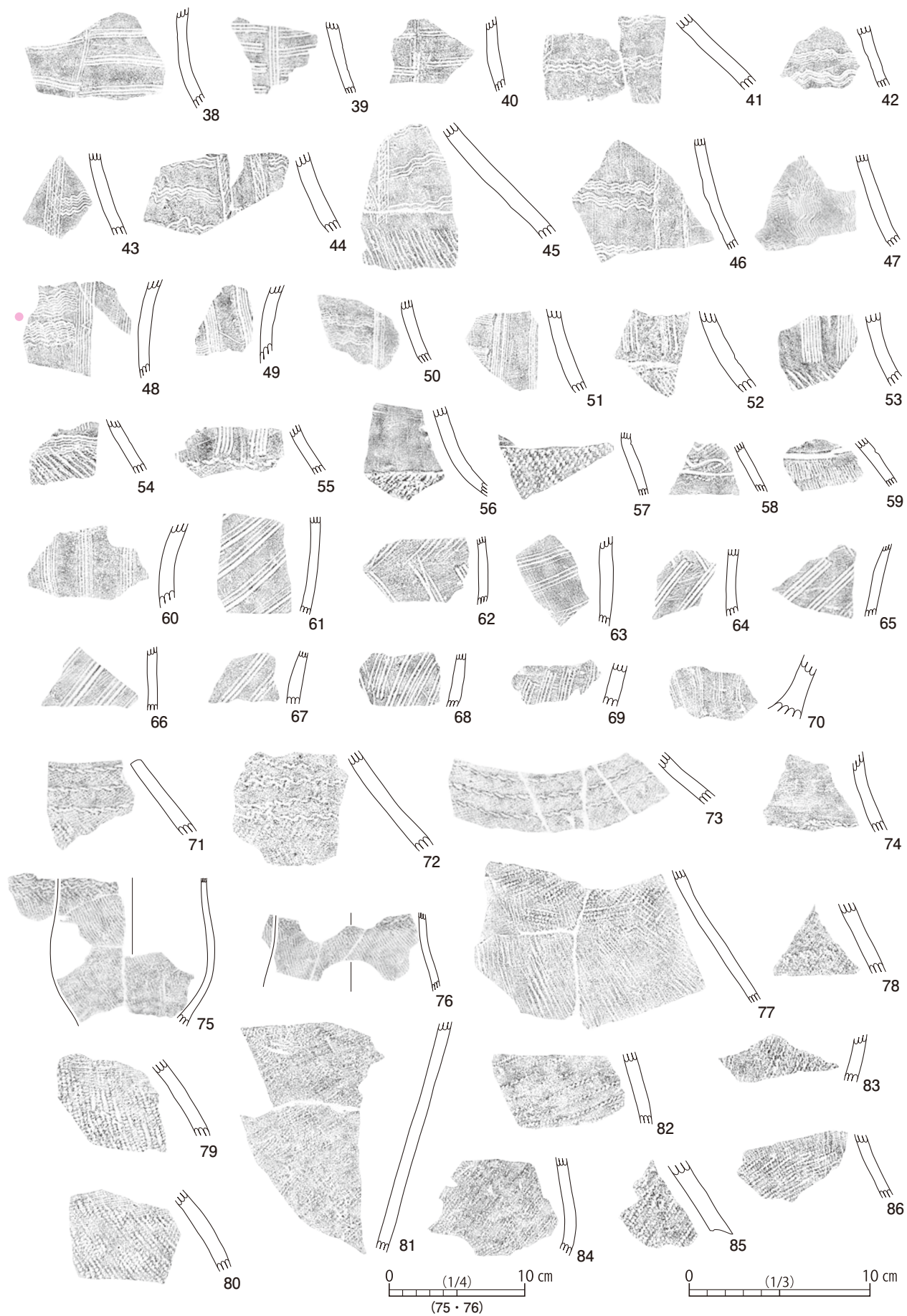
71～76は結節文と縄文が施されるものである。71は単節羽状縄文を地文としてZ字状結節文が施される。上端部の破断面は磨滅していることから、無頸壺の口縁部として再利用された可能性が考えられる。72はZ字状結節文と単節斜縄文が施される。73は単節斜縄文を地文としてZ字状結節文が施される。74はZ字状結節文だけが見られる。75・76は単節斜縄文を地文としてS字状結節文が施され、さらに、それより下に撚糸文が施される。75・76は接合しないが同一個体と考えられる。

77～140は撚糸文又は縄文が施されるものである。78～81は撚糸文と単節斜縄文が施される。77・82～129は撚糸文が施される。77・86は2種類の原体が使用され、羽状に施されている。84・87・89・90・92と103・104・128、113・114・116、106・118・122・126はそれぞれ同一個体と思われる。105の下部、117の上部破断面は輪積痕である。129は2条絡め撚糸文が施される。130・131は附加条縄文が施される。132は羽状と鋸歯状に単節縄文が施される。133～140は単節斜縄文が施される。

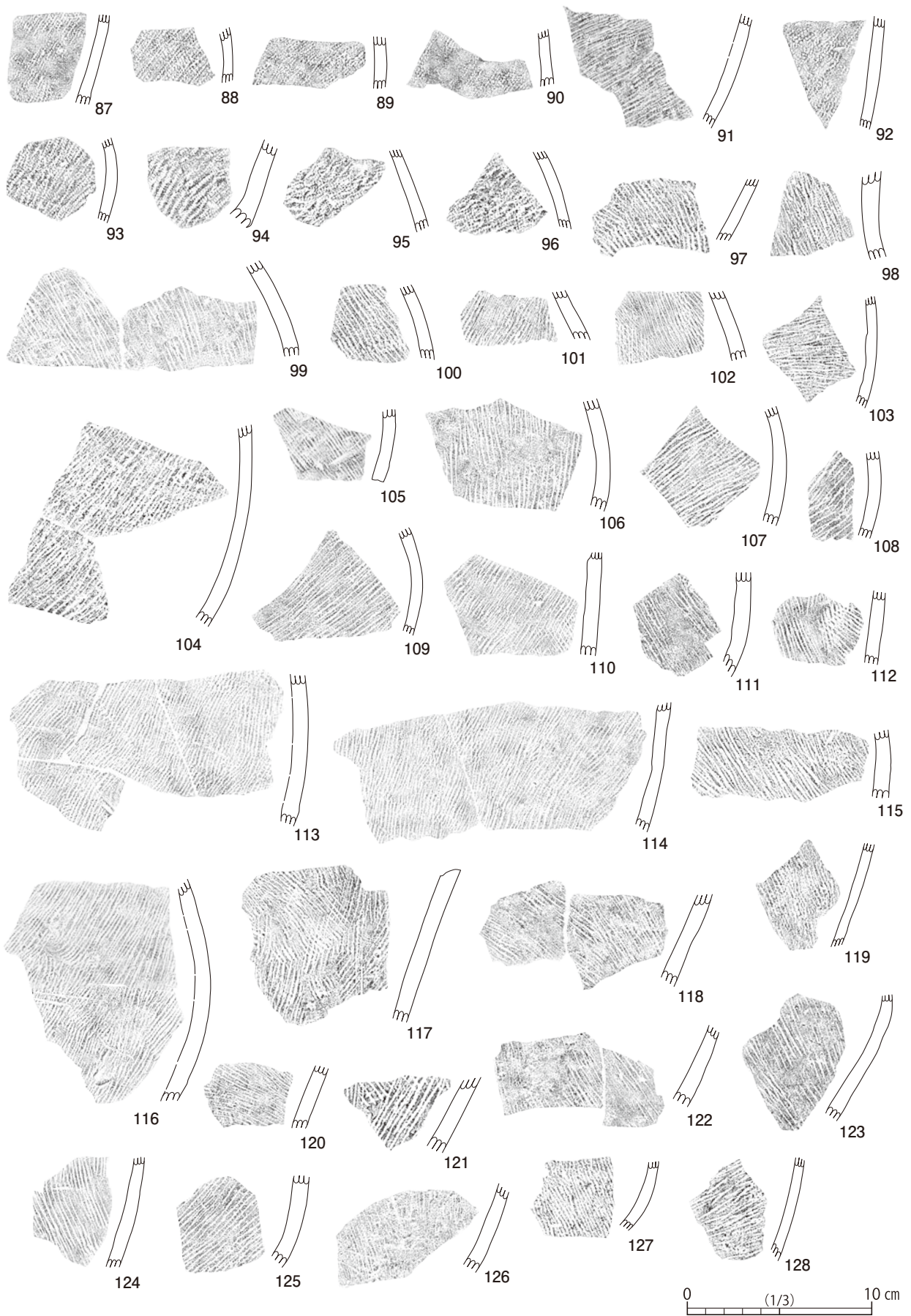
141～154は底部である。141・143～148は撚糸文、142・149・150は単節縄文が施される。151～154は無文である。141・142・148は網代痕、143・144・146・147・150～152は木葉痕が見られる。143は2枚の葉が使われている。145は性格不明の圧痕が見られる。

155・156は土師器である。155は器台脚部破片で、外面に筋状ヘラ磨き痕が見られる。156はミニチュア土器で、成形・調整ともに指頭で行われ、底部は不安定である。底部外面に縄の圧痕が見られるが、意図的に付けたものではないと思われる。

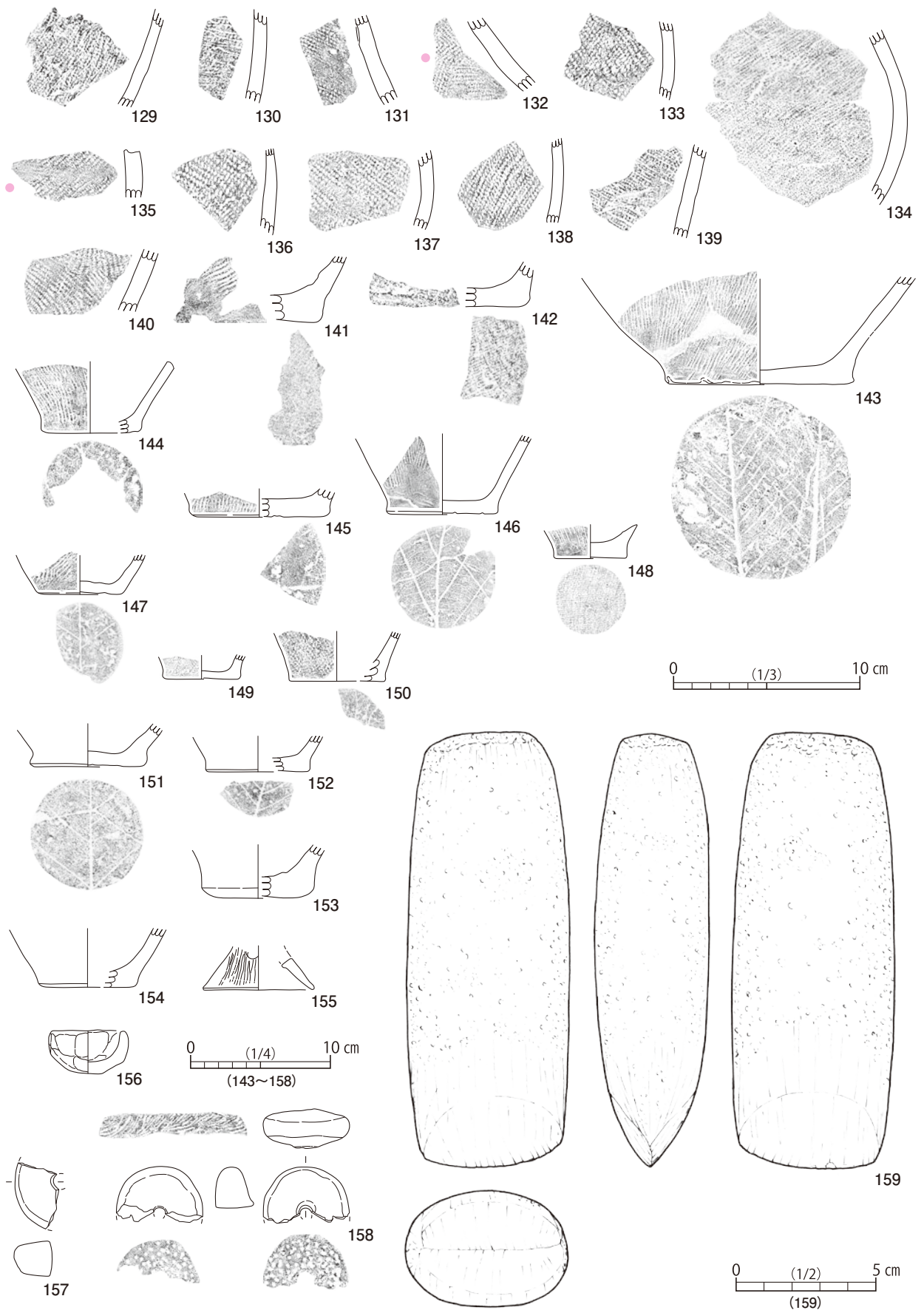
157・158は土製紡錘車である。157は全体の25%が遺存しており、推定径4.6cm、厚さ1.9cmである。胎土は白色砂粒を少量含み、焼成は良好で焼き締った感じを受ける。色調は内外面ともに橙色(5YR6/6)である。158は全体の50%が遺存しており、径4.5cm、孔径0.5cm、厚さ2.0cmである。表裏面ともに径1.5mm～2.0mmの刺突具による刺突が施される。また、側面には撚糸文Lが施される。胎土は白色砂粒を少量含み、焼



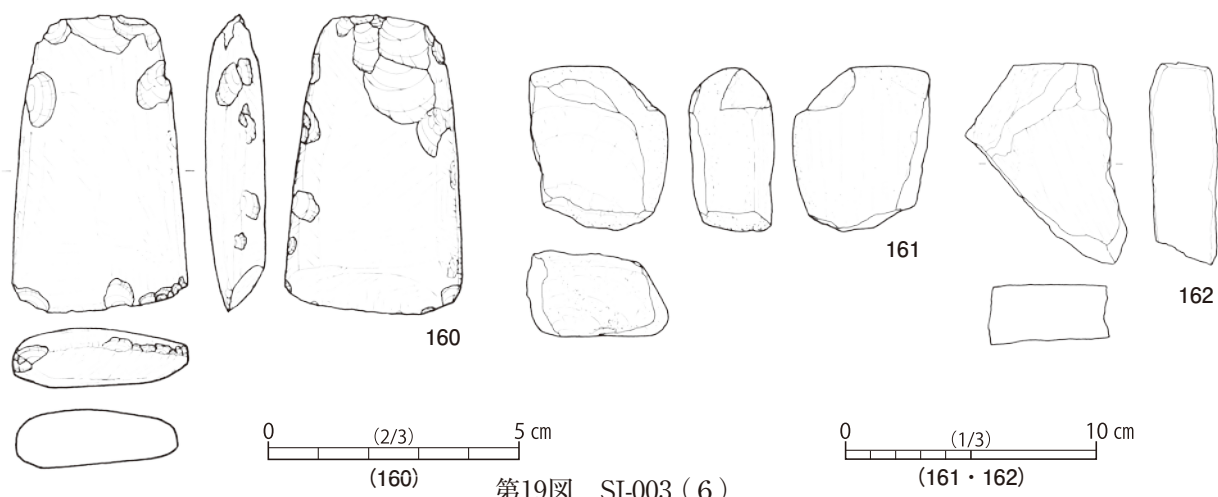
第16图 SI-003 (3)



第17图 SI-003 (4)



第18図 SI-003 (5)



成は良好である。色調は内外面ともに明赤褐色 (5YR5/6) である。

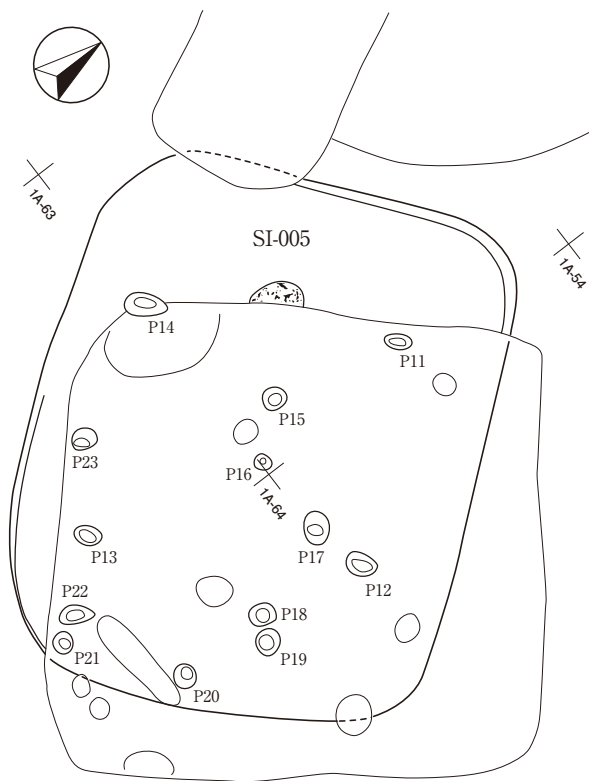
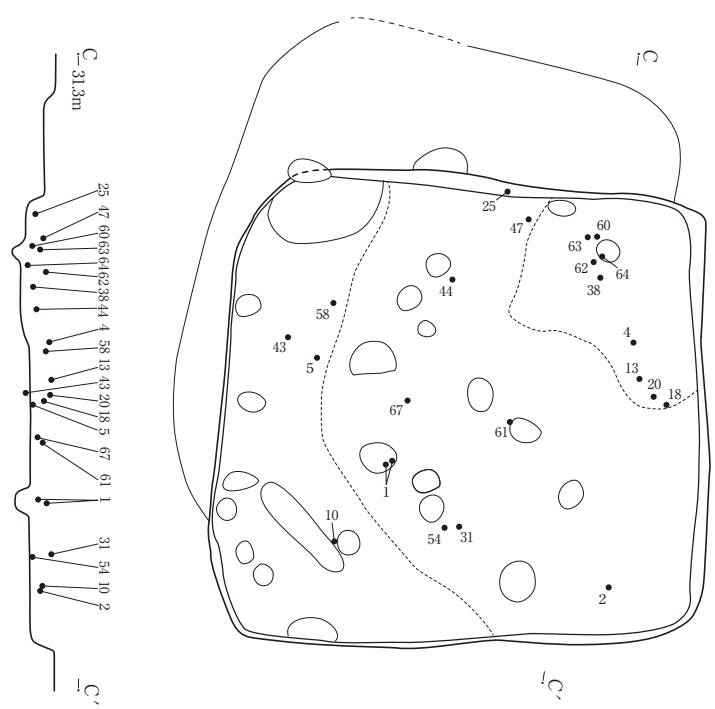
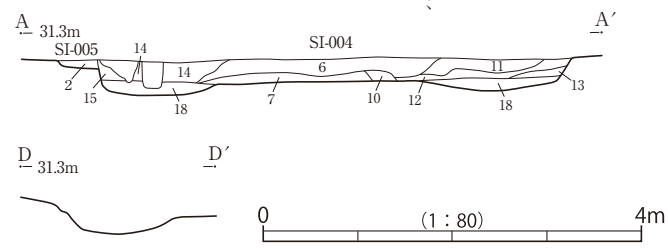
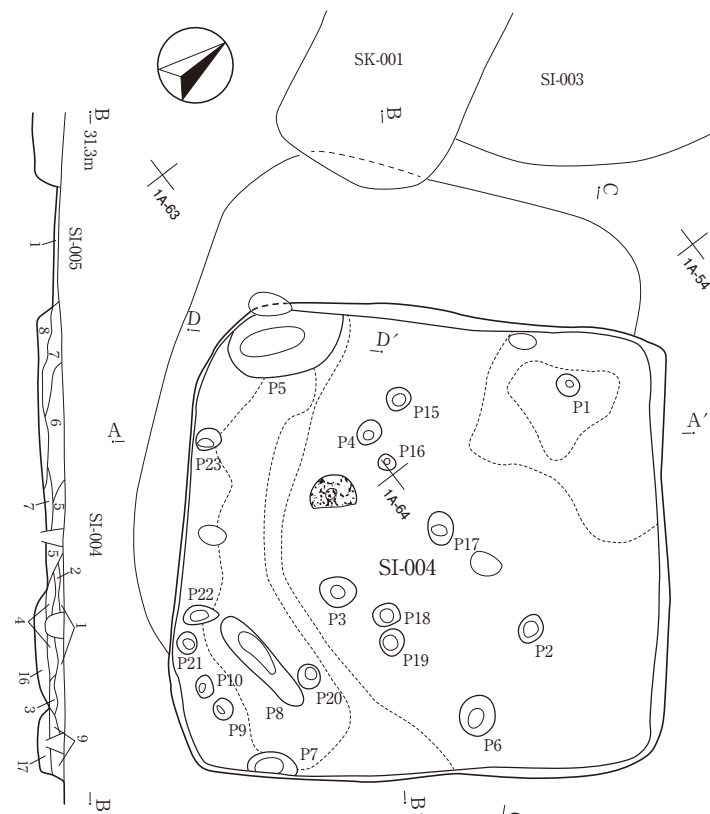
159～162は石器である。159は大形蛤刃型の磨製石斧である。全面敲打により整形後、研磨により仕上げている。器体上部にやや窪んだ敲打痕が研磨されずに残存しており、装着の掛かりをよくするためとも考えられる。刃部は研磨で覆われ光沢を帯びるが線状痕は看取されない。刃部の片側のみが短くなっていることから「横斧」としての使用が考えられる。160は中形の磨製石斧である。片刃磨製石斧で平面形状は撥型に近くなるが、刃部は片側が短くなり曲線を描く。刃部の末端には使用による刃部に対して垂直方向の線状痕が看取される。基部側両側縁及び基部上端には平坦な剥離が残り、嵌装による着柄が考えられる。161は磨石である。湾曲した裏面が広く擦られており、下端には剥離面に疎らに潰れたような敲打痕が認められる。162は砂岩製の砥石である。板状に節理が発達する表面に磨耗が顕著であり平坦な面となっている。上面が自然面で裏面が節理面、両側面は折れ面となっている。

SI-004 (第20～22図、第7表、図版5・6・20)

1A-53・54・63・64グリッドの位置にある。SI-005と重複し、本遺構の方が新しい。平面形はやや台形に近い方形で、主軸方向はN -141° - Wである。規模は主軸長が5.24 m、幅5.0 mで、南西辺5.0 m、北東辺4.4 mである。床面積は23.04㎡である。確認面からの深さは25cm前後である。床面は掘り方の段階で、全体に凹凸が見られ、特に南西辺と北東隅周辺は掘り方の段階で深く掘り下げられている。壁溝はない。炉は南西壁側の支柱穴の間にあり、南東側の半分は攪乱を受けている。支柱穴はP1～P4の4本で、P1は径22cm、深さ12cmである。P2は長径32cm、短径22cm、深さ12cmである。P3は長径40cm、短径30cm、深さ13cmである。P4は長径28cm、短径20cm、深さ14cmである。貯蔵穴 (P5) は西隅にある。調査時にはSK-003としていたものであるが、壁に沿った形で掘られていることなどから本遺構の貯蔵穴とした。長径1.2 m、短径0.65 m、深さ0.22 mである。P7～P10・P15～P23は本遺構に伴う可能性があるが、性格は不明である。

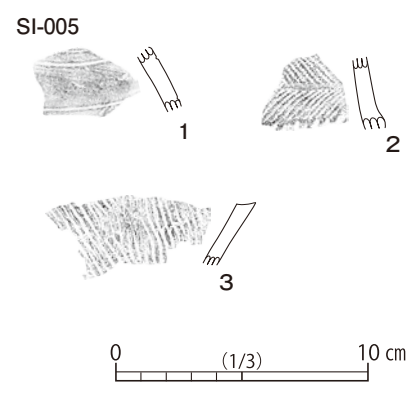
出土遺物の数量は1,189点で、出土状況は、標高は床面よりやや高く、平面的にも散漫である。31・47は貯蔵穴 (P5) から出土した。図示できたものは土器67点である。

1～3は土師器である。1は罎である。胴部は球形で、口縁部は強く屈曲して直線的に立ち上がる。最大径は胴部中位で推定13.0cmである。胴部内面の下半部は平滑に仕上げている。2は小型丸底壺で完形品



- SI-004**
1. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）少量、焼土粒ごく少量
 2. 暗赤褐色土：焼土粒多量、暗褐色土やや多量
 3. 暗赤褐色土：焼土粒多量、黒褐色土ごく少量
 4. 暗褐色土：ロームブロック（径3～5mm）やや多量
 5. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）やや多量、ロームブロック（径5mm）少量
 6. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）少量、炭化物若干
 7. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）多量、ロームブロック（径5mm）やや多量
 8. 褐色土：ローム粒多量、ロームブロック（径5mm）やや多量
 9. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm・径5mm）少量
 10. 暗赤褐色土：焼土粒多量、暗褐色土やや多量
 11. 褐色土：ロームブロック（径2～3mm）多量、ロームブロック（径5mm）、焼土粒少量
 12. 褐色土：ローム粒やや多量、ロームブロック（径3～5mm）やや多量、焼土粒少量
 13. 褐色土：ローム粒多量、ロームブロック（径5mm）やや多量
 14. 暗褐色土：ロームブロック（径5mm）少量、焼土粒やや多量
 15. 暗褐色土：ロームブロック（径3～5mm）少量
 16. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm・径3～10mm）やや多量
 17. 褐色土：ローム粒多量
 18. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）やや多量、ロームブロック（径10～20mm）多量

- SI-005**
1. 褐色土：ローム粒やや多量
 2. 褐色土：ローム粒多量、ロームブロック（径5mm）やや多量



第20図 SI-004・005（1）

である。底部は小さく若干上げ底になり、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。底部を含めて全てヘラ磨き調整を施し、特に、頸部は意識的に強くヘラ磨きが行われている。3は甕の頸部破片である。推定頸部径は10cmである。頸部は「く」の字状に強く屈曲する。

4～69は弥生土器である。4～15は口縁部である。4・5は壺で、いずれも複合口縁である。4は口唇部に単節縄文、口縁部に単節羽状縄文が施される。頸部は無文帯になり、胴部に単節斜縄文が施される。5は口唇部・口縁部ともに無文で、口縁部下端部に棒状工具による刻み目が施される。

6～15は甕で、6・7・9・15は複合口縁である。6は口縁部内面に無節斜縄文が施される。7は口唇部に単節縄文、口縁部に単節斜縄文が施される。9は口唇部が欠失しているが、口縁部に単節斜縄文が施される。15は無文で、口唇部に面取りが施される。8・10～12は単口縁である。8は口唇部に単節縄文、口縁部に単節斜縄文が施され、口縁部内面はヘラ状工具による面取りが行われている。10・12は口唇部だけに単節縄文が施される。11は口唇部に単節縄文が施され、口縁部から頸部にかけて突帯を貼り付け、突帯の上部に刺突文が施される。13・14は波状口縁で、13は指頭交互押圧、14は内面からの指頭押圧である。

16～60は胴部である。16～22は櫛描き文を持つものである。16は4本櫛描き渦巻き文が施される。17は2本櫛描き重四角文が施される。18は4本櫛描き横走文が施される。19はやや雑な2本櫛描き波状文が施される。20は断面三角形の突帯を貼り付け、その上に2本櫛描き連弧文、その下に2本櫛描き横走文が施される。21は3本櫛描き縦区画文によるスリットと波状文が施される。22は8本櫛描き縦区画文とその下端にS字状結節文、さらに、その下に単節斜縄文が施される。

23はヘラ描き山形区画内にS字状結節文が施される。24は頸部と胴部の境にハケ状工具による刻み目が施される。

25～60は撚糸文又は縄文が施されるものである。25～28は単節斜縄文を地文としてS字状結節文が施される。さらに、27はその下に撚糸文が施される。29～35は撚糸文が施される。29・30は2条絡め撚糸文が施され、29は異なる原体を使用している。36～59は単節斜縄文が施される。36～38・56～59は節がほかに比べて大粒である。39～43は単節羽状縄文である。60は無節斜縄文が施される。

61～69は底部である。61～63は撚糸文、64～66・68は単節斜縄文、67は無節斜縄文が施される。69は無文である。61～63・66～69は木葉痕が見られる。

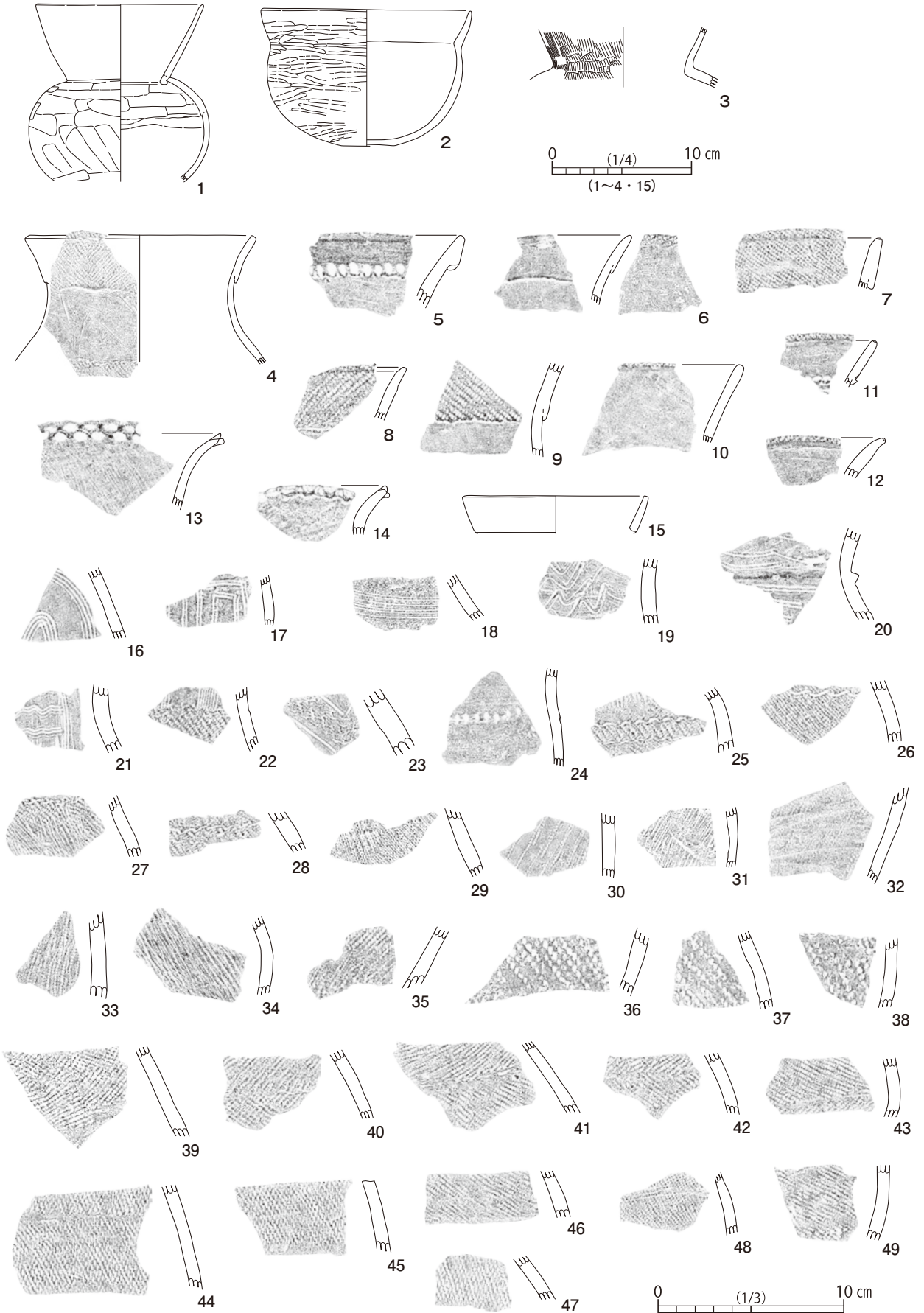
SI-005 (第20図、第7表、図版5・6・21)

1A-53・54・63・64グリッドの位置にある。東側でSI-004と、北西側でSK-001と重複し、いずれも本遺構の方が古い。平面形は隅丸長方形になると思われ、主軸方向はN-38°-Wである。規模はいずれも推定で主軸長5.6m、幅4.6mである。掘り込みが浅く、北西側の壁は検出できなかった。確認面からの深さは5cm～9cmで、大部分がSI-004に深く掘り込まれ、壊されている。壁溝はない。炉は北西壁側の支柱穴の間にある。支柱穴はP11～P14の4本で、P11は長径30cm、短径16cm、深さ34cmである。P12は長径34cm、短径24cm、深さ40cmである。P13は長径30cm、短径18cm、深さ35cmである。P14は長径40cm、短径26cm、深さ62cmである。P11～P13はSI-004の床面上での規模であることから、P14が本来の規模と思われる。P15～P23は本遺構に伴う可能性があるが、性格は不明である。

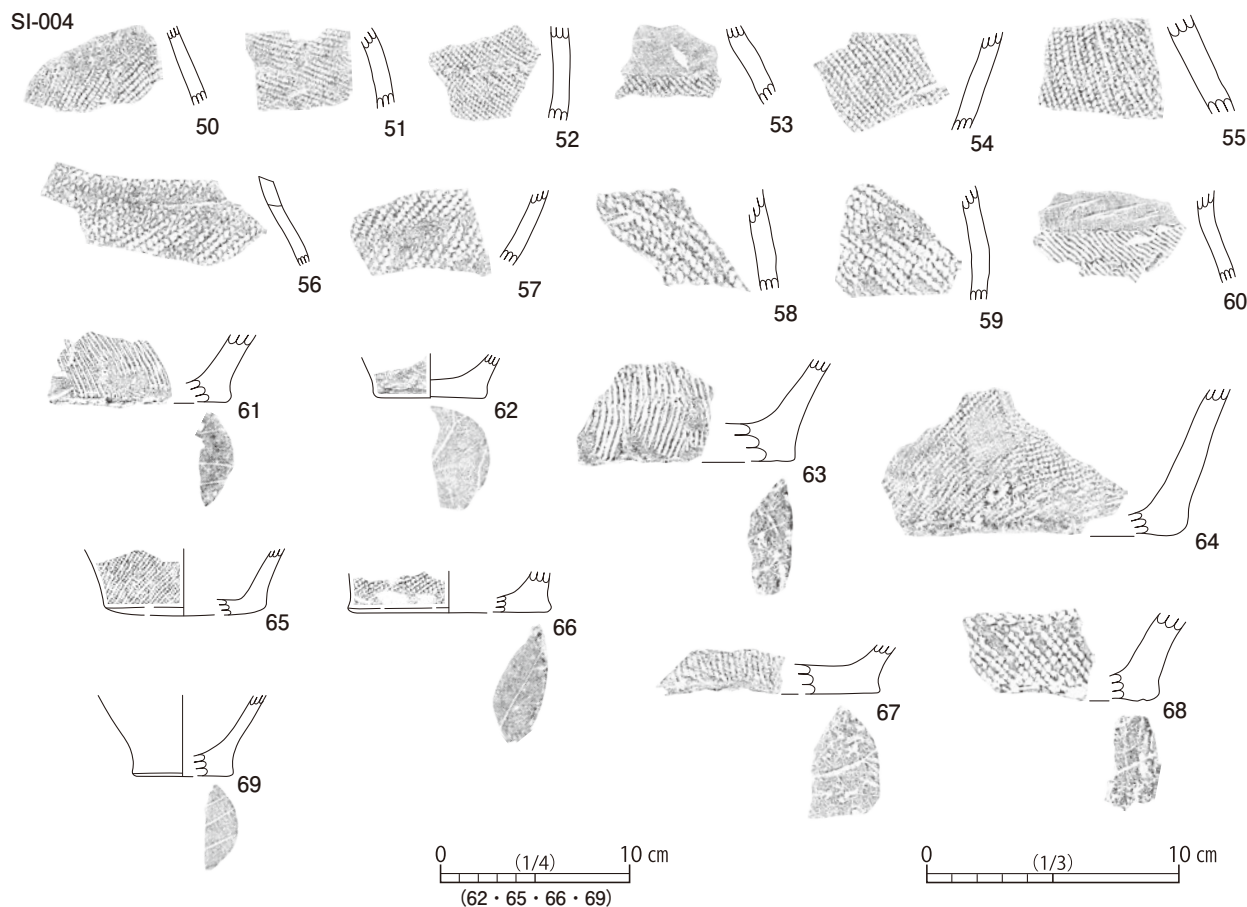
出土遺物の数量は総数38点で、全て小破片の一括資料である。図示できたものは弥生土器3点である。

全て胴部の破片である。1は2本櫛描き渦巻き文と撚糸文が施される。2は単節羽状縄文が施され、そ

SI-004



第21图 SI-004・005 (2)



第22図 SI-004・005 (3)

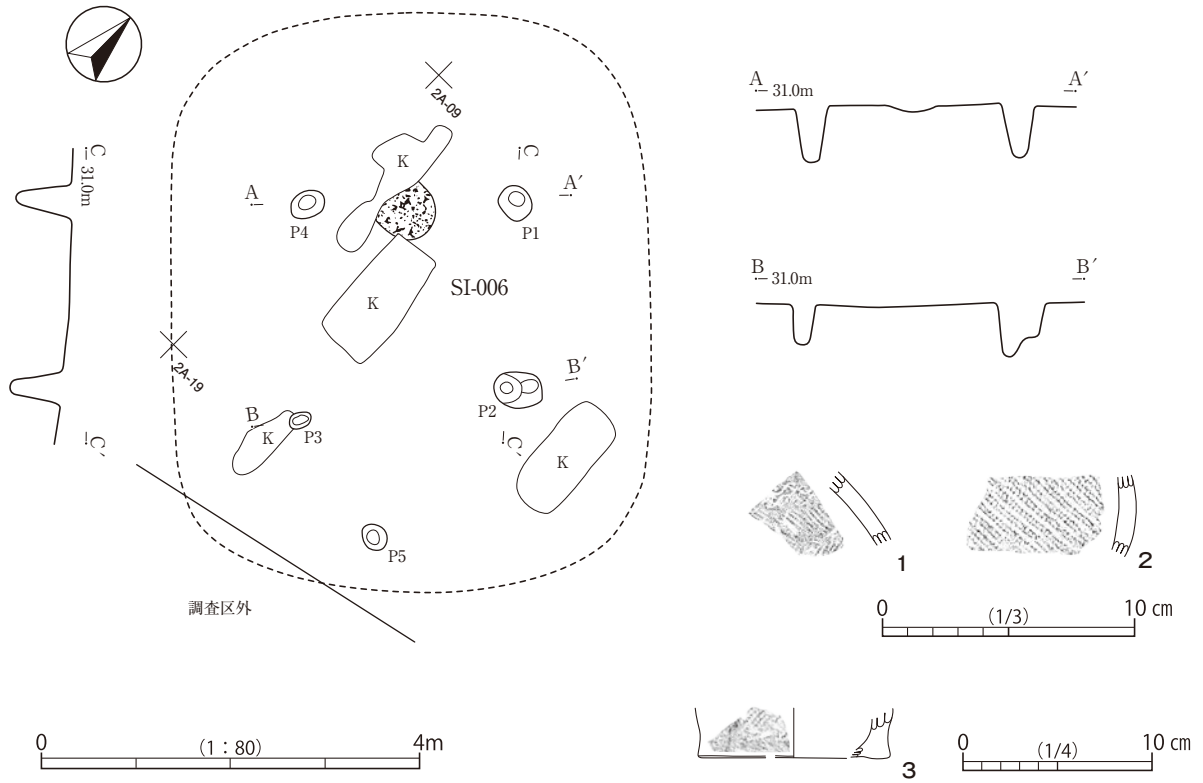
の下に突帯を貼り付け、さらに、その上から縄文原体による押圧が施される。3は捻糸文が施される。上部破断面は輪積痕である。

SI-006 (第23図、第7表、図版7・21)

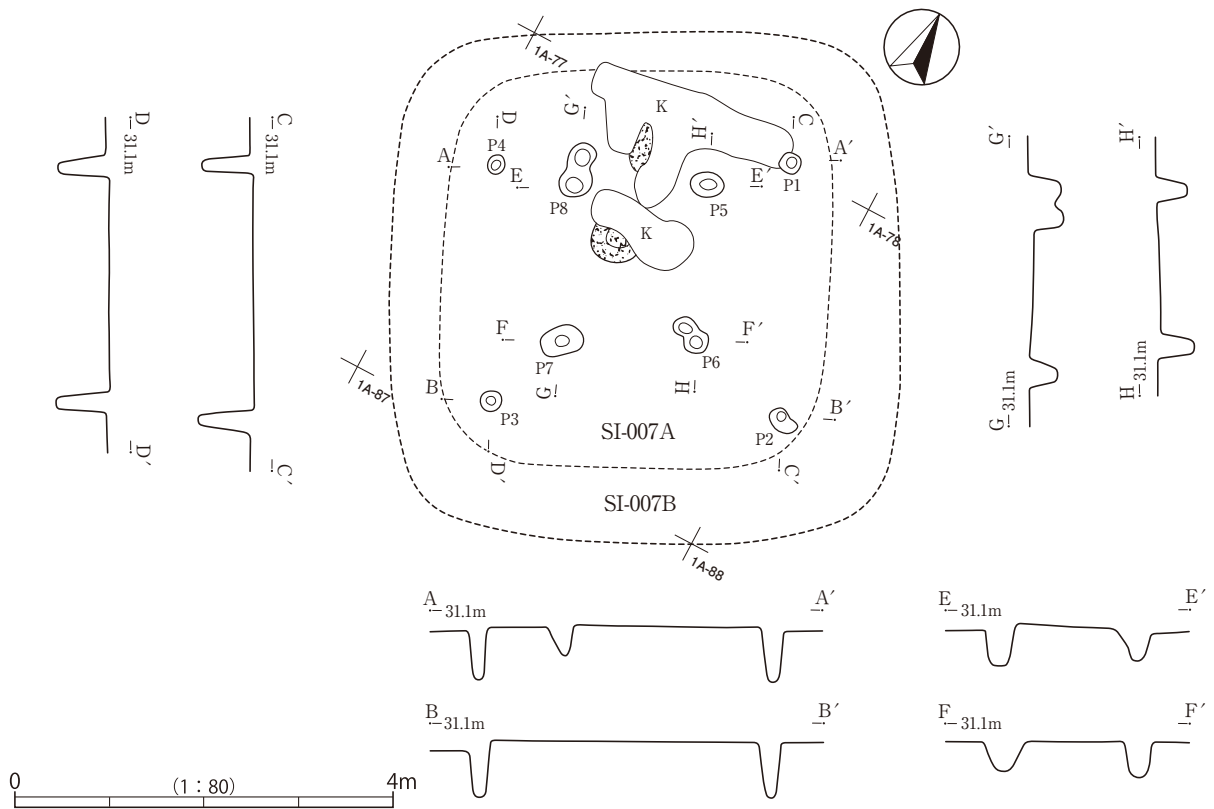
2A-09グリッドの位置にある。掘り込みが浅く、壁や壁溝は検出できなかった。炉と主柱穴4本などを検出し、それらの位置などから主軸方向や形状を復元した。炉とP3、さらに、床面の一部が攪乱を受けている。平面形は隅丸長方形になると思われる、主軸方向はN-43°-Wである。規模はいずれも推定で主軸長6.1m、幅5.1mである。炉は北西壁側の主柱穴の間にある。主柱穴はP1～P4の4本で、P1は径36cm、深さ57cmである。P2は長径50cm、短径34cm、深さ56cmである。P3は長径24cm、短径16cm、深さ43cmである。P4は長径36cm、短径26cm、深さ60cmである。P5は長径38cm、短径24cm、深さ60cmで、出入口ピットと思われる。

出土遺物の数量は総数57点で、全て破片の一括資料である。図示できたものは弥生土器3点である。

1・2は胴部破片で、1はS字状結節文と単節羽状縄文が施される。2は単節斜縄文が施される。3は底部で、胴部に単節斜縄文が施され、底部はヘラナデである。



第23図 SI-006



第24図 SI-007A · B

SI-007A・B (第24図、図版7)

1A-77グリッドの位置にある。掘り込みが浅く、壁や壁溝は検出できなかった。炉2基と支柱穴8本を検出し、支柱穴の位置関係から対角線上に拡張が行われたと判断した。古いものを007A、新しいものを007Bとし、炉や支柱穴の位置などから主軸方向や形状を復元した。

007Aは、平面形は隅丸方形になると思われ、主軸方向はN -23° - Wである。規模はいずれも推定で主軸長4.2m、幅4.2mである。炉は北西壁に寄ったほぼ中央にあり、北側は攪乱を受けている。支柱穴はP5～P8の4本で、P5は長径36cm、短径24cm、深さ35cmである。P6は径26cm、深さ37cmで、西側に抜き取り痕が見られる。P7は長径44cm、短径28cm、深さ30cmである。P8は径32cm、深さ37cmで、北西側に抜き取り痕が見られる。

007Bの平面形も隅丸方形になると思われ、主軸方向はN -27° - Wである。規模は推定で主軸長5.5m、幅5.5mである。炉は北西壁側の支柱穴の間にあり、大きく攪乱を受け、形状は不明である。支柱穴はP1～P4の4本で、P1は径22cm、深さ55cmである。P2は長径30cm、短径20cm、深さ59cmである。P3は径22cm、深さ57cmである。P4は径18cm、深さ54cmである。

遺物は出土していない。

SI-008 (第25～27図、第7・8表、図版8・9・21)

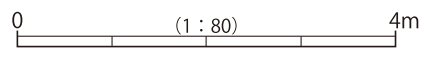
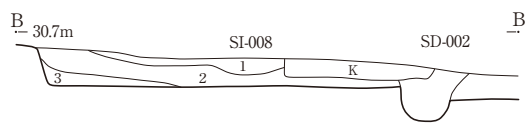
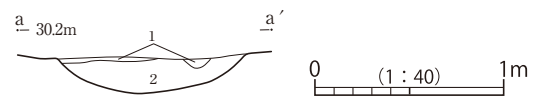
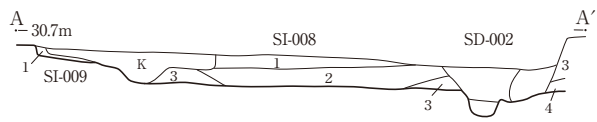
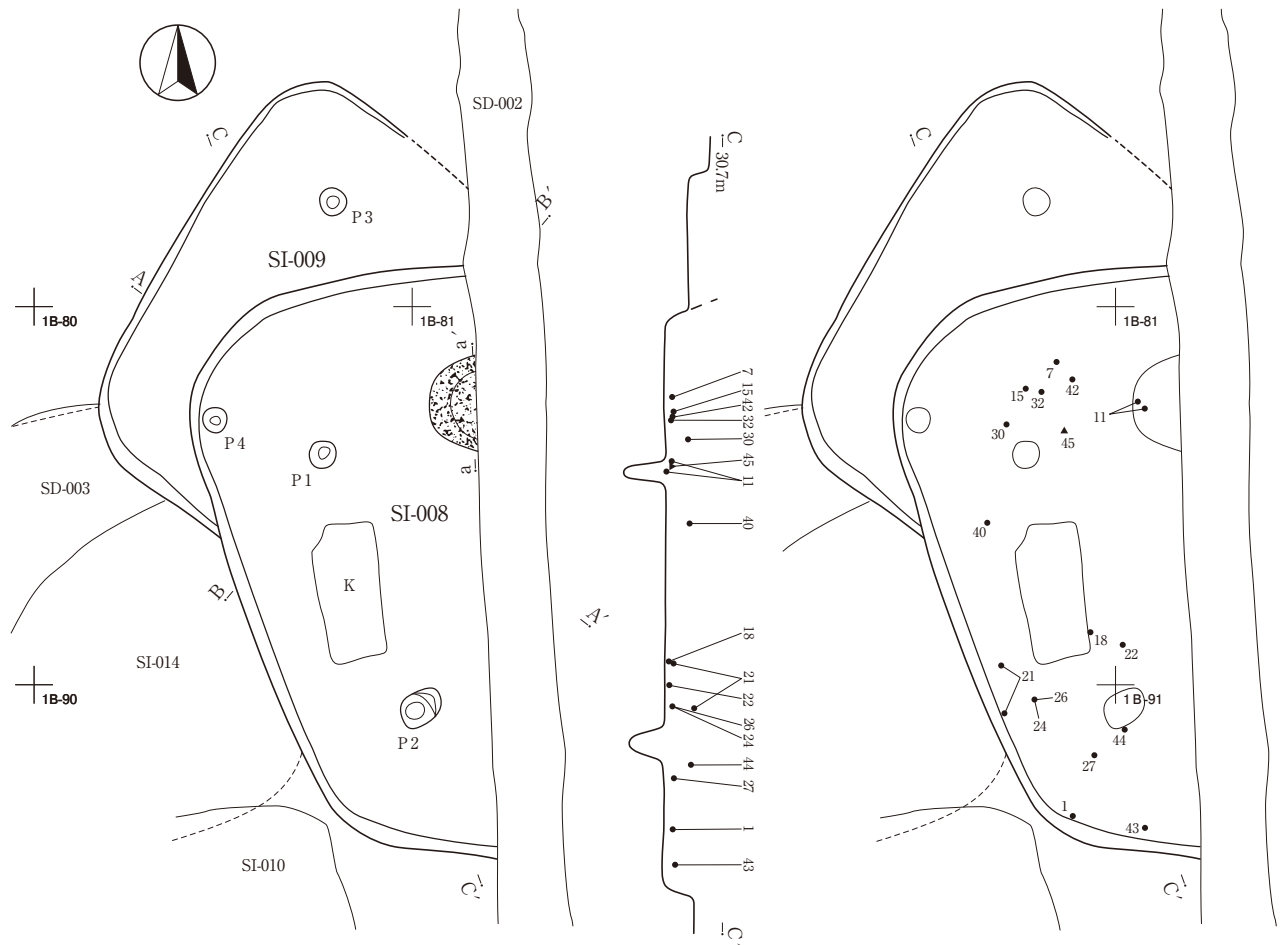
1B-80・81・90・91グリッドの位置にある。東側は本遺構より新しいSD-002を境として急激に傾斜する谷で、全体の半分程度の検出にとどまる。北側でSI-009、西側でSI-014と重複するが、いずれも新旧関係は不明である。床面の一部に攪乱を受けている。平面形は隅丸長方形になると思われ、主軸方向はN -20° - Wである。規模はいずれも現存で主軸長6.3m、幅3.1mである。確認面からの深さは35cm～45cmである。壁溝はない。炉は北壁側の支柱穴の間にあるが、SD-001によって東側半分が壊されている。支柱穴はP1・P2の2本で、P1は径26cm、深さ49cmである。P2は長径44cm、短径34cm、深さ32cmである。

出土遺物の数量は総数538点で、そのほとんどが土器で一括資料が多いが、1・43・45などは床面に近い高さから出土している。図示できたものは弥生土器43点、土師器1点、石器2点である。

1～7は口縁部である。2は土師器甕で擬似S字状口縁甕と思われる。頸部は「く」の字状に強く屈曲するが、口縁部の屈曲は弱い。1・3は複合口縁の壺である。1は無文で、口縁部下端に棒状工具による刻み目を施す。棒状工具の当たり痕が頸部に見られる。頸部内面から外面は赤彩される。3は口縁部にS字状結節文が5段施される。内外面ともに赤彩される。4～7は単口縁の甕である。4は口唇部に棒状工具による刻み目、口縁部にヘラ描き縦区画内に斜格子文が施される。5は口唇部にヘラ状工具による刻み目、口縁部に5本櫛描き波状文が施される。6は口唇部に単節縄文、口縁部に2本櫛描き連弧文が施される。7は波状口縁で棒状工具による交互押捺である。

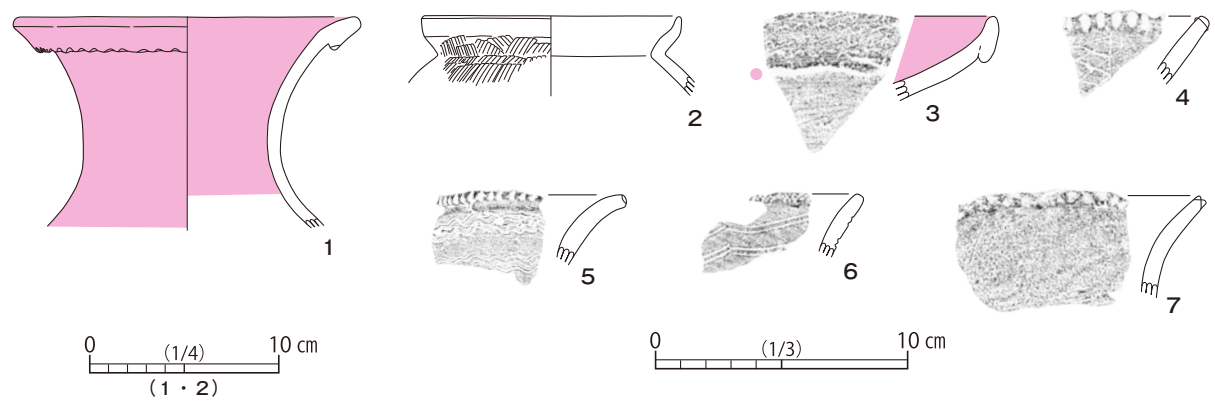
8～37は胴部破片である。8～10はヘラ描き又は櫛描きが施されるものである。8は頸部から胴部の破片で、4に類似した文様を持ち、ヘラ描き縦区画内に斜格子文が施される。9は3本櫛描き渦巻き文が施される。10は7本櫛描き縦区画文とその下に単節羽状縄文が施される。

11～37は撚糸文又は縄文が施されるものである。11は3段のS字状結節文による区画内に単節羽状縄文が施される。12・13は頸部から胴部の破片で、12は頸部が無文で、胴部に2段のS字状結節文とその下に単節斜縄文が施される。13は頸部下端に3段のS字状結節文とその下に単節斜縄文が施される。14はハケ



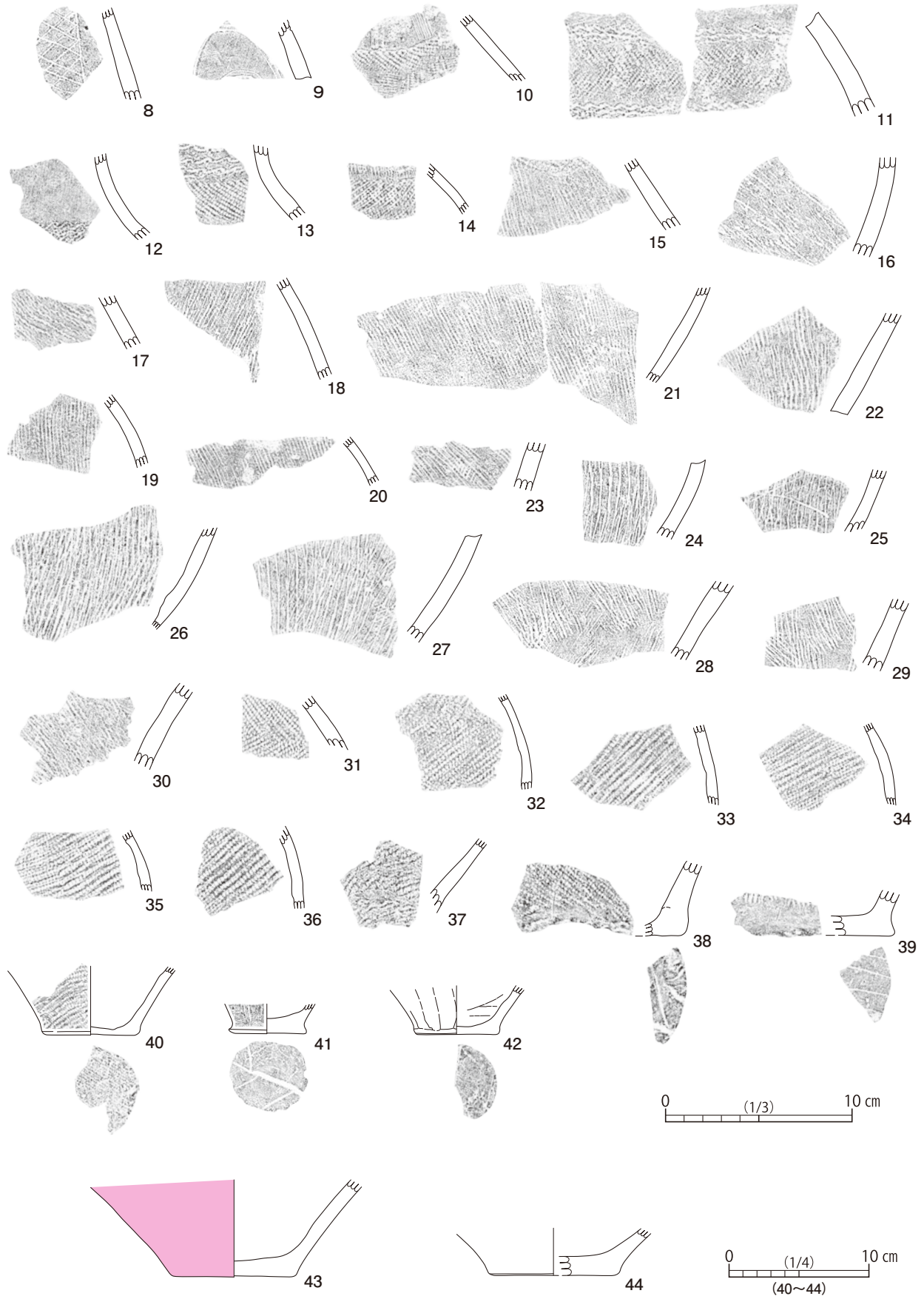
- SI-008 切**
1. 黒色土：しまり弱い、焼土粒少量
 2. 赤褐色土：しまりややあり、焼土ブロック主体
- SI-008**
1. 黒褐色土：ロームブロック（径3～5mm）やや多量
 2. 暗褐色土：ローム粒・ロームブロック（径2～3mm）少量
 3. 暗褐色土：ローム粒・ロームブロック（径3～5mm）やや多量
 4. 暗黄褐色土：ローム粒・ロームブロック主体（壁の崩落土）
- SI-009**
1. 褐色土：ローム粒多量・ロームブロック（径5mm）やや多量

SI-008

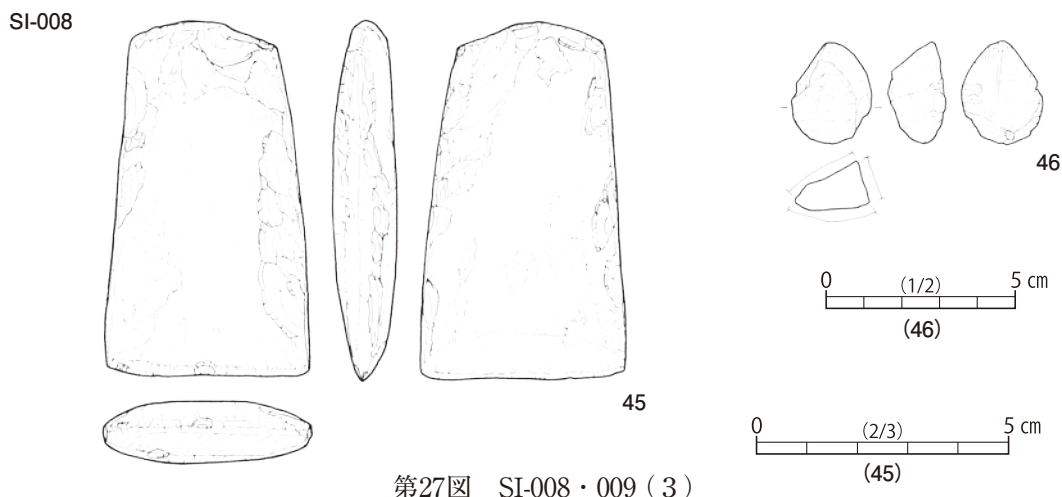


第25図 SI-008・009 (1)

SI-008



第26図 SI-008・009 (2)



第27図 SI-008・009 (3)

調整の後に附加条縄文が施される。15は単節斜縄文とその下に撚糸文が施される。16～30は撚糸文が施される。19～21と41(底部)は同一個体と思われる。31は単節羽状縄文、32～36は単節斜縄文が施される。33・36は外面にススの付着が見られ、40(底部)とともに同一個体と思われる。また、34と35も同一個体と思われる。37は無節斜縄文が施される。

38～44は底部である。38～42は甕である。38・40は単節斜縄文、39・41は撚糸文が施され、42は無文である。38・39・41・42は木葉痕、40は網代痕が見られる。43・44は壺である。43は外面が赤彩されるが、全体に被熱し、内外面及び破断面にもススの付着が見られる。

45は中形で撥型の片刃磨製石斧である。両側縁・基部からの平坦な剥離の後、入念な研磨が施され直線的な側面を形成する。刃部は直刃で端部に使用による光沢と線状痕が観察される。46は軽石製の砥石である。表面・右側面・裏面に平坦な研ぎ面が顕著で不定形な多面体となっている。

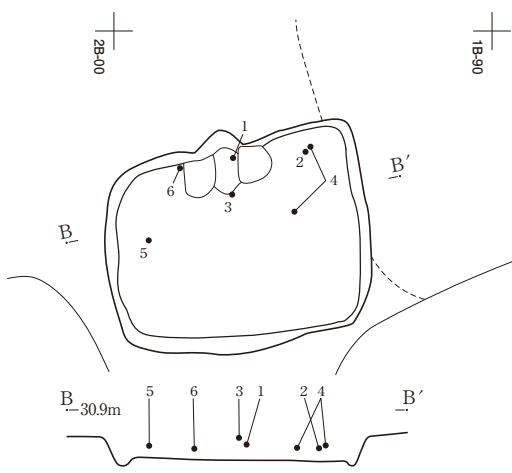
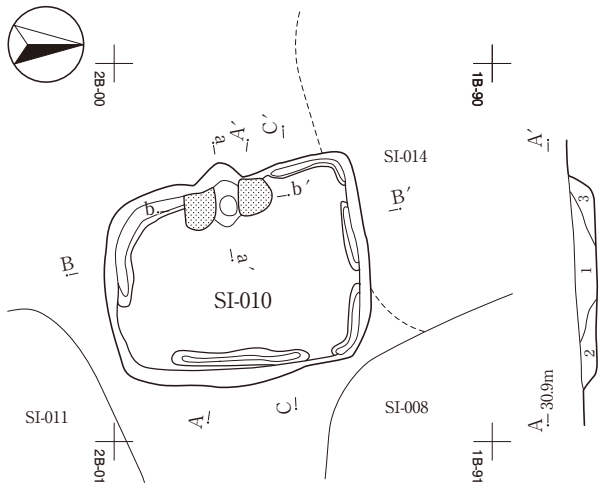
SI-009 (第25図、図版8)

1B-70・71・80・81グリッドの位置にある。北東側の壁は、SD-002を境として急激に傾斜する谷となるため検出できなかった。東側から南側にかけてSD-002とSI-008、南西側でSD-003と重複している。SD-002・003は本遺構より新しく、SI-008との新旧関係は土層観察では明確でないが、出土遺物と平面形などから本遺構の方が新しいと思われる。平面形は方形になると思われる。主柱穴の方向を主軸方向とすると、主軸方向はN-29°-Eである。規模は主軸長4.6m、現存幅2.0mである。確認面からの深さは8cm～21cmである。壁溝はない。炉は検出できなかった。主柱穴はP3・P4の2本で、P3は径28cm、深さ21cmである。P4はSI-008の床面上での計測値で径26cm、深さ13cmである。

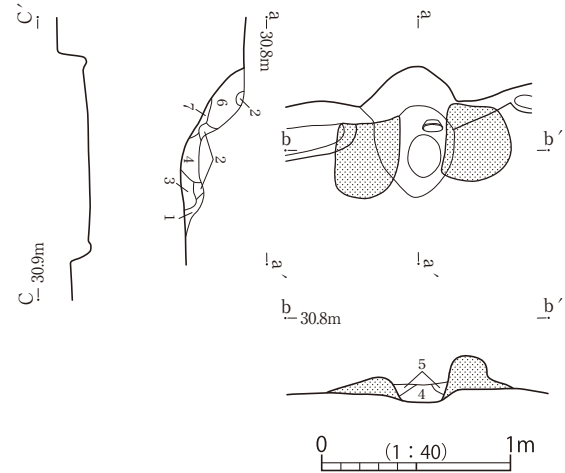
出土遺物は図示できなかったが、SI-012の5に類似する土師器甕胴部破片1点だけが出土した。

SI-010 (第28図、第7表、図版9・22)

1B-90グリッドの位置にある。SI-008・011・014に隣接しているが、いずれとも重複はしていない。ただし、SI-014は炉と柱穴だけしか検出されなかったことから、本来は重複していた可能性がある。平面形はやや不整形な長方形である。カマドは西壁のほぼ中央に作られている。主軸方向はN-97°-Wである。規模は主軸長2.1m、幅2.8mである。確認面からの深さは13cm～28cmである。床面積は4.8㎡である。壁溝は何か所



SI-010 カマド

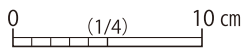
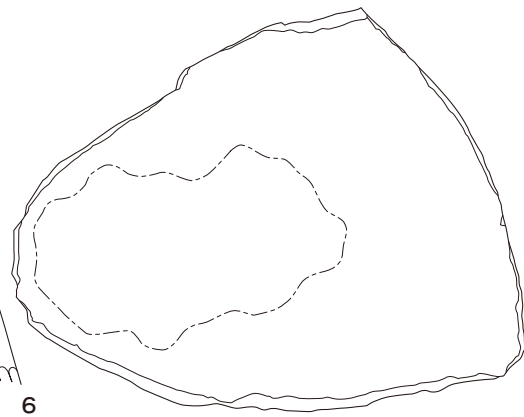
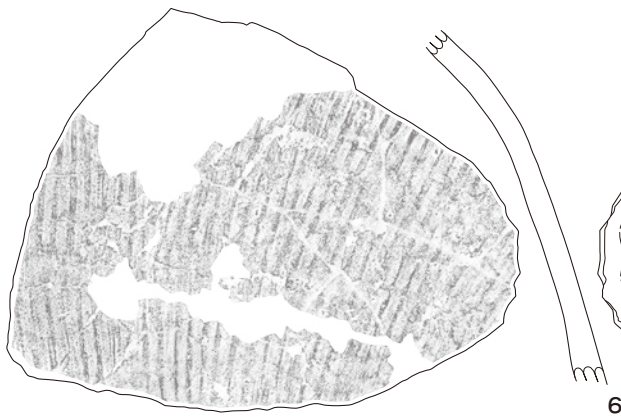
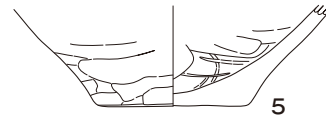
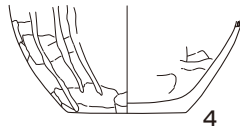
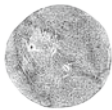
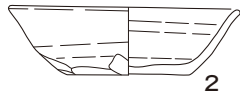
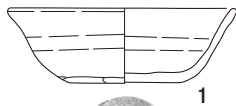
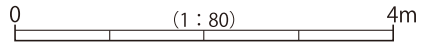


SI-010 カマド

1. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）やや多量、焼土粒少量
2. 暗灰褐色土：山砂ブロック（構築材崩落土）
3. 暗褐色土：暗灰色砂粒・焼土粒やや多量、炭化粒少量
4. 暗赤色土：焼土粒多量
5. 暗灰褐色土：砂粒主体、焼土ブロックやや多量（構築材崩落土）
6. 暗褐色土：焼土ブロック・砂粒ブロックやや多量
7. 褐色土：ローム粒多量

SI-010

1. 暗褐色土：ローム粒多量、ロームブロック（径5mm）やや多量
2. 褐色土：ローム粒・ロームブロック（径5～10mm）多量
3. カマド



第28図 SI-010

か途切れているが、ほぼ全周している。カマドの下には巡っていない。支柱穴は検出できなかった。カマド袖の構築材は山砂で、両袖ともに壁から40cmほど遺存している。煙道部は壁を20cmほど掘り込み、奥壁は火床面から34°の角度で立ち上がる。

出土遺物の数量は総数40点と多くないが、復元できたものが多い。出土状況はカマドの周辺に多く見られ、1はカマドの中から出土している。図示できたものは土師器5点と土製品1点である。

1・2は平底のロクロ土師器杯である。1は体部がわずかに内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り離しの後、周縁部と体部下端部に手持ちヘラ削り調整を施す。内面全体にススが付着しており、灯明具として使用されていたと思われる。2は体部が直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。底部の全面と体部下端部に手持ちヘラ削り調整を施す。内面の一部にススが付着している。

3～5は土師器甕である。3は口縁部から胴部で、口縁部端部をつまみ上げるものである。4は小形甕で、外面に筋状ヘラ磨きが施される。5は底部で、内面の一部に筋状ヘラ磨きが施される。6は転用硯である。須恵質土師器甕の胴部破片を使用したもので、外面は平行タタキ、内面はナデが施される。内面の1点鎖線で示した範囲が磨耗している。水分を含んで大変脆くなり、拓本採取時に破損した。

SI-011 (第29図、第7表、図版10・22)

2B-00・01グリッドの位置にある。東側と南側は調査地区外となり、北東側はSD-002と重複しているため、北側から西側の壁と炉だけが検出できた。SD-002は本遺構より新しい。平面形は方形になると思われる。主軸方向はN -16° - Wである。規模はいずれも現存値で主軸長2.5m、幅2.8mである。確認面からの深さは8cm～16cmである。炉は北壁に寄った位置にある。壁溝はなく、支柱穴などは検出できなかった。床面の一部は攪乱を受けている。

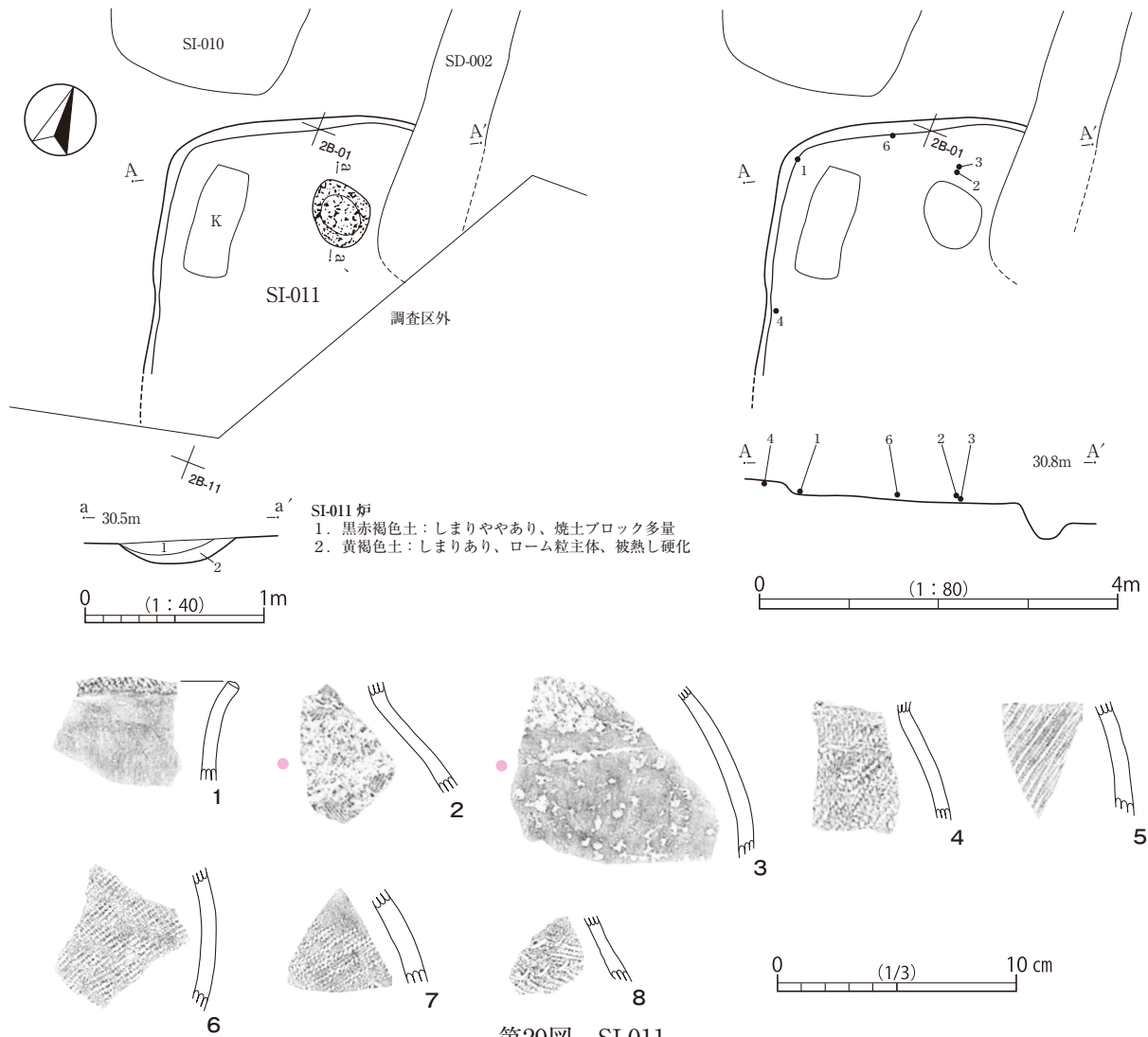
出土遺物の数量は総数94点で、ほとんどが小破片である。図示できたものは弥生土器8点である。

1は口縁部で、口唇部に単節縄文が施される。2～8は胴部である。2・3はS字状結節文による区画を持つものである。同一個体で2が頸部から胴部上位、3が胴部上位から中位に該当するものと思われる。2はS字状結節文の下に単節羽状縄文が横方向に施される。頸部は無文で赤彩される。3は単節斜縄文の下にS字状結節文が施される。胴部中位以下は無文で赤彩される。4～7は単節斜縄文、8は附加条縄文が施される。

SI-012 (第30～32図、第7・8表、図版10・11・22・23)

1A-58・59グリッドの位置にある。西側でSI-013と重複し、本遺構の方が新しい。北側ではSI-015と重複していた可能性がある。平面形はやや角の丸い長方形で、主軸方向はN -63° - Eである。規模は主軸長4.2m、幅3.7mである。床面積は13.25㎡である。確認面からの深さは14cm～36cmである。壁溝はない。炉は北東壁側の支柱穴の間にある。支柱穴はP1～P4の4本で、P1は長径34cm、短径28cm、深さ53cmである。P2は長径38cm、短径32cm、深さ40cmである。P3は長径38cm、短径30cm、深さ39cmである。P4は長径28cm、短径22cm、深さ49cmである。南西壁側の支柱穴の間に出入口ピット (P5) があり、長径32cm、短径26cm、深さ21cmである。貯蔵穴 (P6) は南西壁際であり、長径50cm、短径46cm、深さ16cmである。

出土遺物の数量は総数1,114点で、SI-004に次いで多く出土している。出土状況は炉の周辺に比較的ま

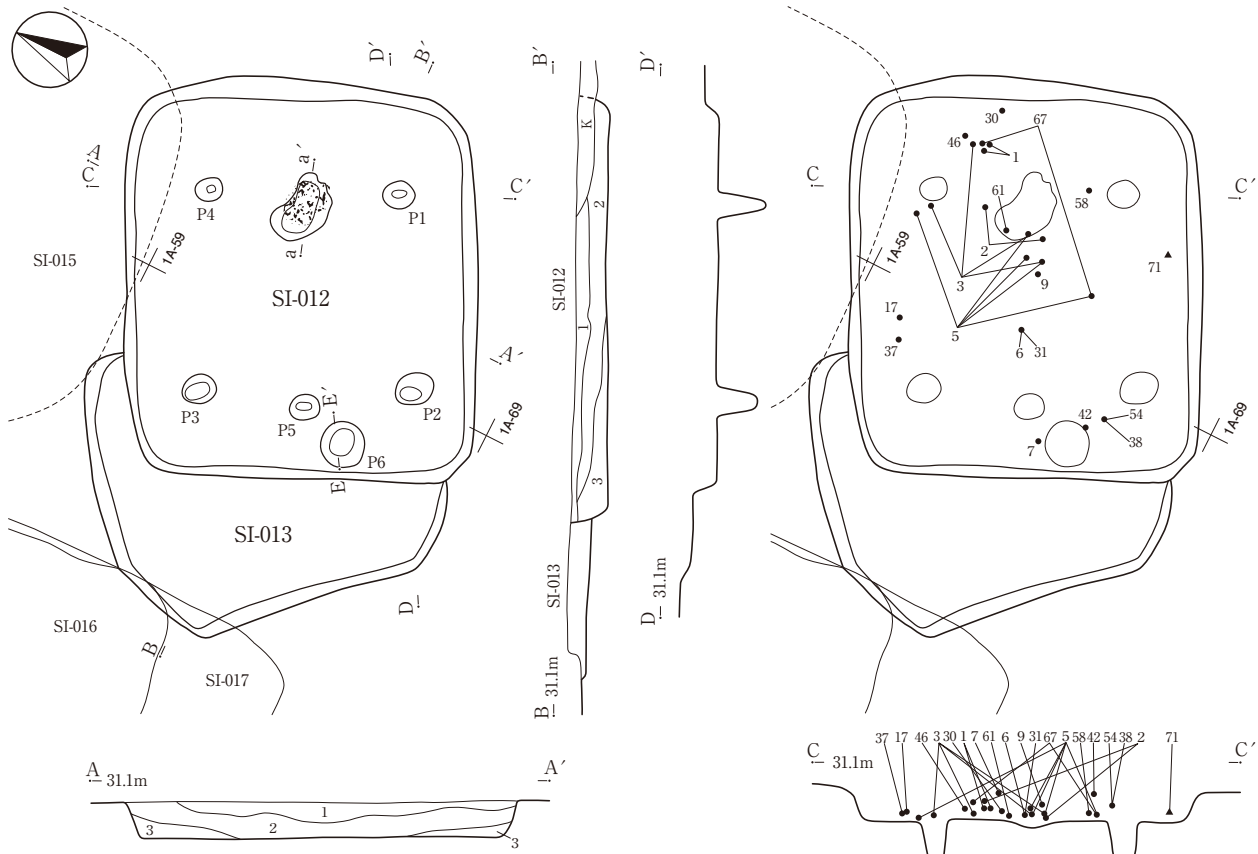


第29図 SI-011

とまっているが、出土した高さにはばらつきが見られる。図示できたものは土器70点、石器1点である。

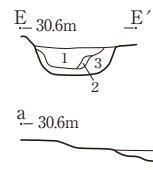
1～9は土師器である。1～3は壺である。1は小形壺である。胴部はあまり張らず、頸部も太く、底部は大きく安定感がある。2・3は壺で、いずれも外面はヘラ磨き調整が施される。4～8は甕である。4は小形甕で、口縁部は「く」の字状に強く屈曲する。5は胴部外面中位にススの付着が見られる。胴部下端に筋状のヘラ磨きが施される。6～8は底部である。9は台付甕の台部で、接合部と裾部は接合していないが、同一個体と考えて復元して図示したものである。

10～70は弥生土器である。10～19は口縁部で、10～12は複合口縁である。10は無文である。11は口唇部に単節縄文、口縁部に単節羽状縄文が施される。外面は赤彩される。12は口唇部に撚糸文、口縁部に単節羽状縄文が施される。口縁部には撚糸原体の押圧による刻み目を施した棒状浮文を貼り付けている。内外面ともに赤彩される。13～19は単口縁である。13は口唇部に単節縄文、口縁部に3本櫛描き連弧文が施される。14は口唇部にヘラ状工具による刻み目、口縁部に5本櫛描き波状文が施される。15・16は同一個体と思われ、口唇部に単節縄文、口縁部に附加条縄文と下端部に棒状工具による刻み目が施される。15は貼瘤を持つ。17は口唇部を欠失しているが、単節斜縄文と下端部に棒状工具による刻み目が施される。18は口唇部に棒状工具による刻み目が施される。19は口唇部と口縁部に撚糸文が施される。



SI-012
 1. 黒褐色：ローム粒少量
 2. 暗褐色土：ロームブロック（径3～5mm）やや多量、炭化物少量
 3. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm・径5～10mm）多量、炭化物少量

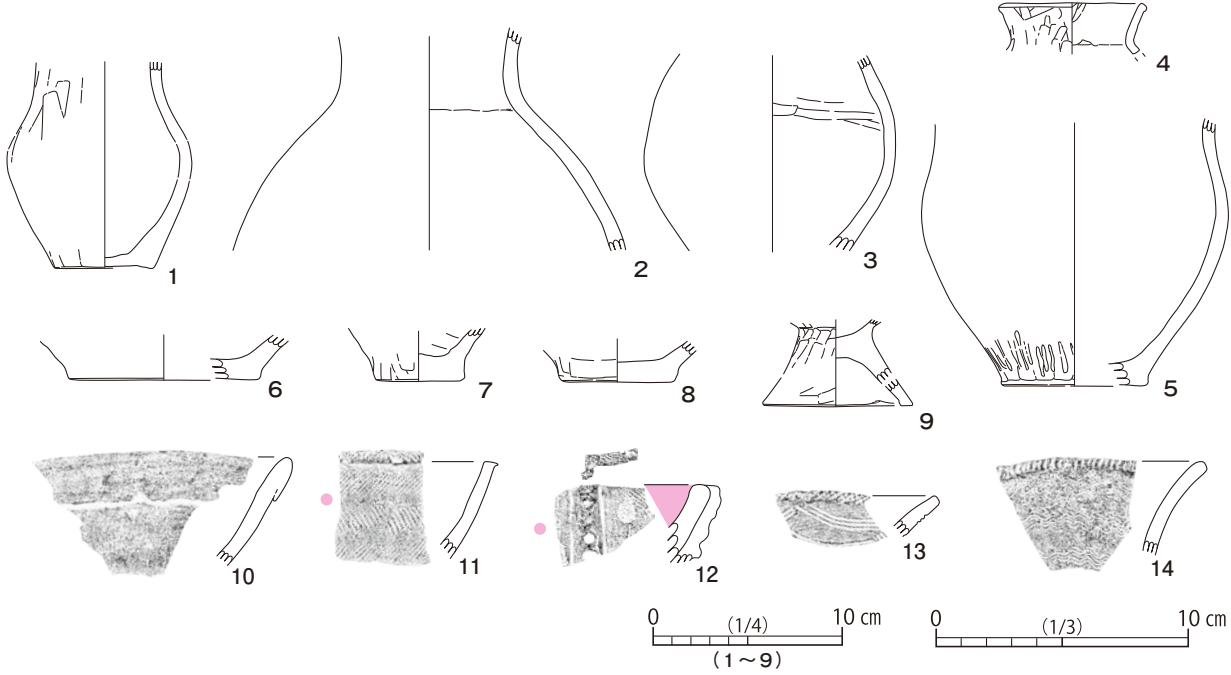
0 4m (1:80)



SI-012 貯蔵穴
 1. 暗褐色土：ローム粒・炭化物少量
 2. 黄褐色土：ロームブロック
 3. 暗黄褐色土：ローム粒多量

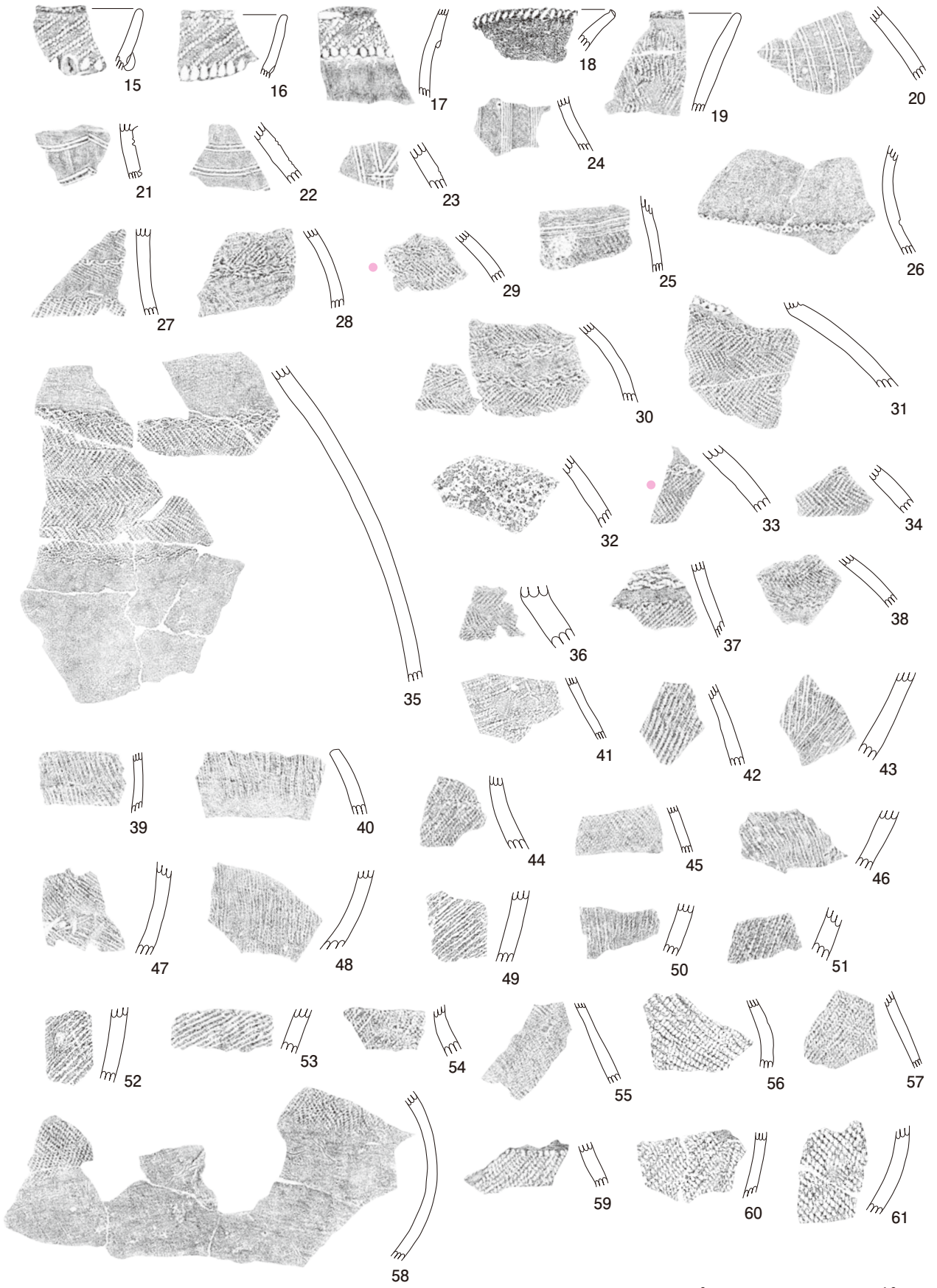
SI-012 炉
 1. 黒褐色土：焼土ブロック多量、やや灰色を帯びる

SI-012



第30図 SI-012・013 (1)

SI-012



第31图 SI-012 · 013 (2)

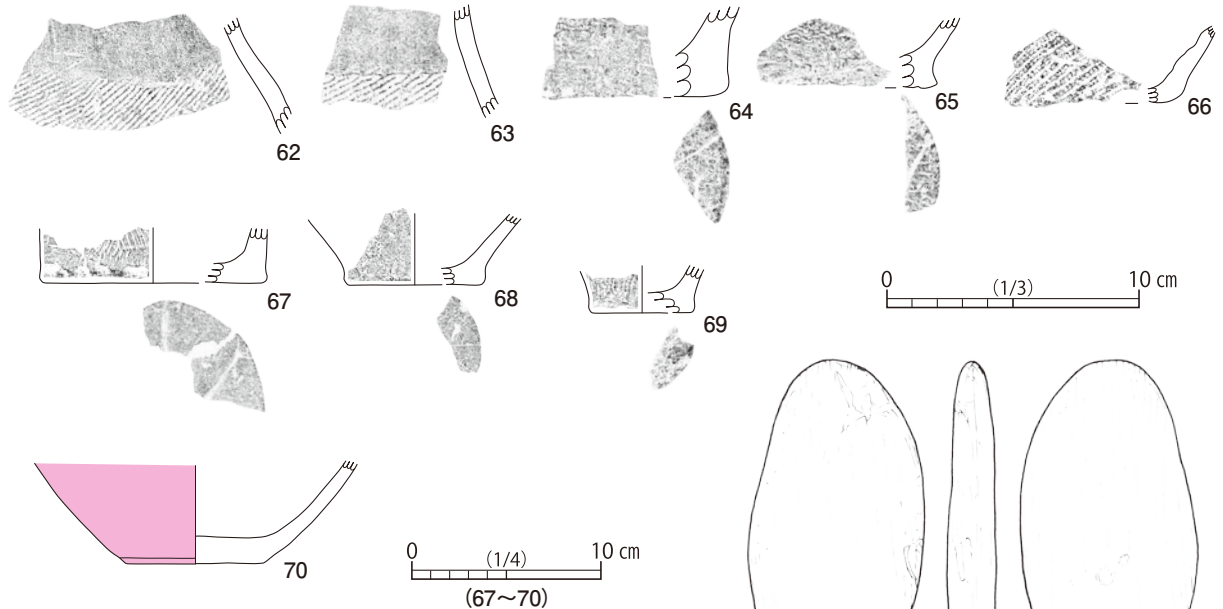
20～63は胴部である。20～25は櫛描き文を持つものである。20・22・23は2本櫛描き渦巻き文が施され、23には横接続線が見られる。21は上部に突帯を張り付け、その下に2本櫛描き連弧文が施される。24は5本櫛描き縦区画文が施される。25は4本櫛描き横走文で区画し、その下に2条絡め撚糸文が施される。上部破断面は輪積痕である。26は頸部と胴部の境目付近に竹管による連続刺突文が施される。

27～63は撚糸文又は縄文が施されるものである。27～38は結節文を持つものである。27はS字状結節文と撚糸文、さらに、S字状結節文とその下に撚糸文が斜格子状に施される。28～30はS字状結節文又はZ字状結節文による区画内に附加条縄文が施される。30は下段の附加条縄文は羽状に施される。31は竹管による連続刺突文、S字結節文と単節羽状縄文が施される。32はヘラ描き山形区画内にS字状結節文が施される。33～38は2段～3段の結節文による区画と縄文が施される。33～36はS字状結節文と単節羽状縄文、37はZ字状結節文と無節斜縄文、38はZ字状結節文と単節羽状縄文が施される。39・40は2条絡め撚糸文が施される。40の上部破断面は輪積痕である。41～53は撚糸文が施される。54～57・59～61は単節斜縄文、58は単節羽状縄文、62・63は無節斜縄文が施される。29・33は外面が赤彩される。

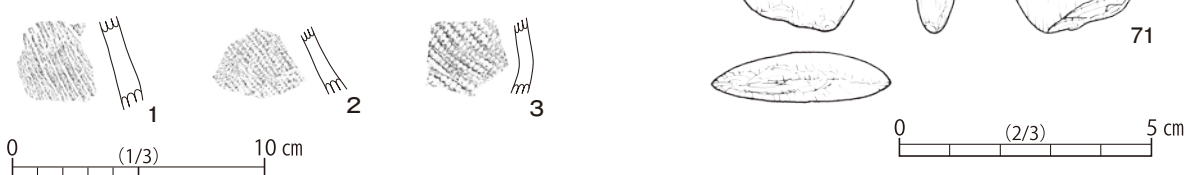
64～70は底部である。64はS字状結節文、65はZ字状結節文が施される。66は単節斜縄文、67～69は撚糸文が施される。70は無文で、外面は赤彩される。64・65・67・68は木葉痕が見られる。

71は磨製石斧とした。全面が研磨されているが、器体端部は表裏面からの平坦剥離後の研磨も丸味があり鋭角な刃部がなされていない。周縁部の研磨整形も原石の形状が残ることから未成品とも考えられる。

SI-012



SI-013



第32図 SI-012・013(3)

SI-013 (第30・32図、第7表、図版11・23)

1A-58グリッドの位置にある。東側でSI-012と重複し、本遺構の方が古い。西側ではSI-016・017と重複していた可能性があるが、両竪穴住居跡ともに重複する部分では掘り込みが検出できず、新旧関係は不明である。平面形は台形あるいは不整形な長方形になると思われる。主軸方向はN-45°-Wである。規模は推定主軸長3.7m、幅3.1mである。確認面からの深さは6cm~17cmである。壁溝はない。炉・支柱穴は検出できなかった。

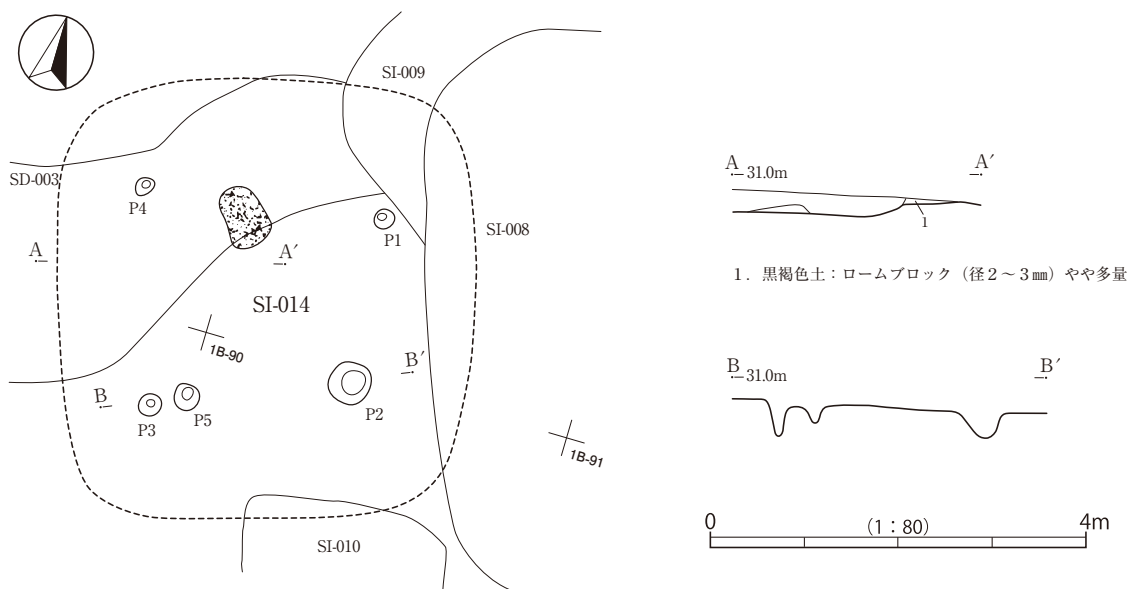
出土遺物の数量は総数9点で、全て破片の一括資料である。図示できたものは弥生土器3点である。

1~3はいずれも胴部で、1は撚糸文、2・3は単節斜縄文が施される。

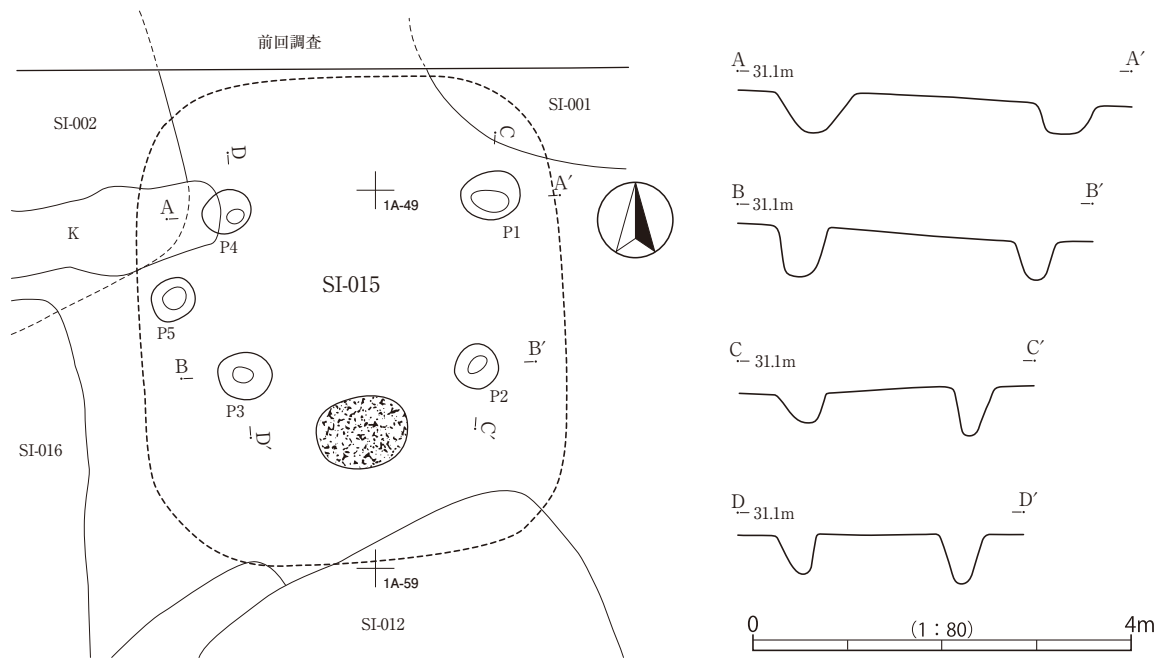
SI-014 (第33図、図版11)

1A-89・99、1B-80・90グリッドの位置にある。掘り込みが浅く、壁や壁溝は検出できなかった。炉と支柱穴4本などを検出し、それらから主軸方向や形状を復元した。北側はSD-003により大きく破壊されている。また、SI-008~010と重複していた可能性もある。平面形は隅丸方形になるものと思われる。主軸方向はN-13°-Wである。規模はいずれも推定で主軸長4.5m、幅4.5mである。炉は北側壁の支柱穴の間にあり、SD-003に大部分を壊されているが、溝の立ち上がり部分に火床部の一部が遺存している。支柱穴はP1~P4の4本で、P1は径20cm、深さ30cmである。P2は径43cm、深さ26cmである。P3は長径26cm、短径22cm、深さ38cmである。P4はSD-003の底面付近での数値で径18cm、深さ31cmである。P3の東側にP5がある。径26cm、深さ18cmであるが、性格は不明である。

出土遺物の数量は総数33点で、全て弥生土器の破片一括資料である。図示できたものはないが、赤彩される壺胴部破片や単節縄文、撚糸文が施される胴部破片などが見られる。



第33図 SI-014



第34図 SI-015

SI-015 (第34図、第7表、図版12・23)

1A-48・49グリッドの位置にある。掘り込みが浅く、壁や壁溝は検出できなかった。炉と支柱穴4本などを検出し、それらの位置などから主軸方向や形状を復元した。P4は攪乱により一部が壊されている。SI-001・002・012とは重複していた可能性もある。平面形は隅丸長方形になるものと思われる。主軸方向はN - 3° - Wである。規模はいずれも推定で主軸長4.5m、幅4.4mである。炉は南壁側の支柱穴の間からやや壁に寄った位置にある。支柱穴はP1～P4の4本で、P1は長径60cm、短径54cm、深さ31cmである。P2は径45cm、深さ52cmである。P3は長径56cm、短径50cm、深さ55cmである。P4は長径50cm、短径44cm、深さ43cmである。貯蔵穴(P5)は西側にあり、長径50cm、短径44cm、深さ22cmである。

出土遺物の数量は総数27点である。図示した1の壺はP5の中に収まるように正立した形で出土している。そのほかにもP5一括資料として土器が出土しているが、1の一部と思われるものが大部分で、小破片で図示できるものはない。

1は弥生土器で、最大径を胴部上半に持つ長胴の細口長頸壺である。肩部分は4本櫛描き横走文で区画し、その上は4本櫛描き山形文を4重に施している。区画の下は単節斜縄文が底部付近まで施されている。底部は木葉痕が見られる。

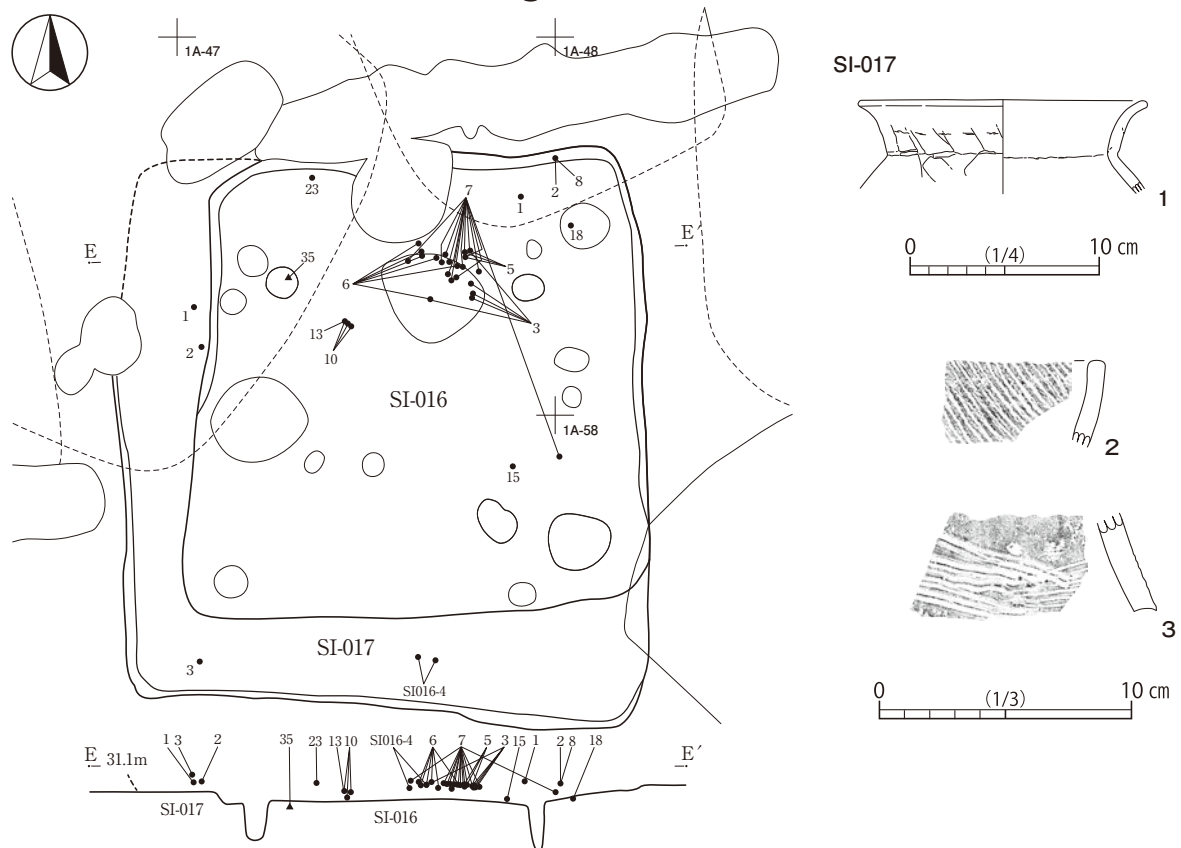
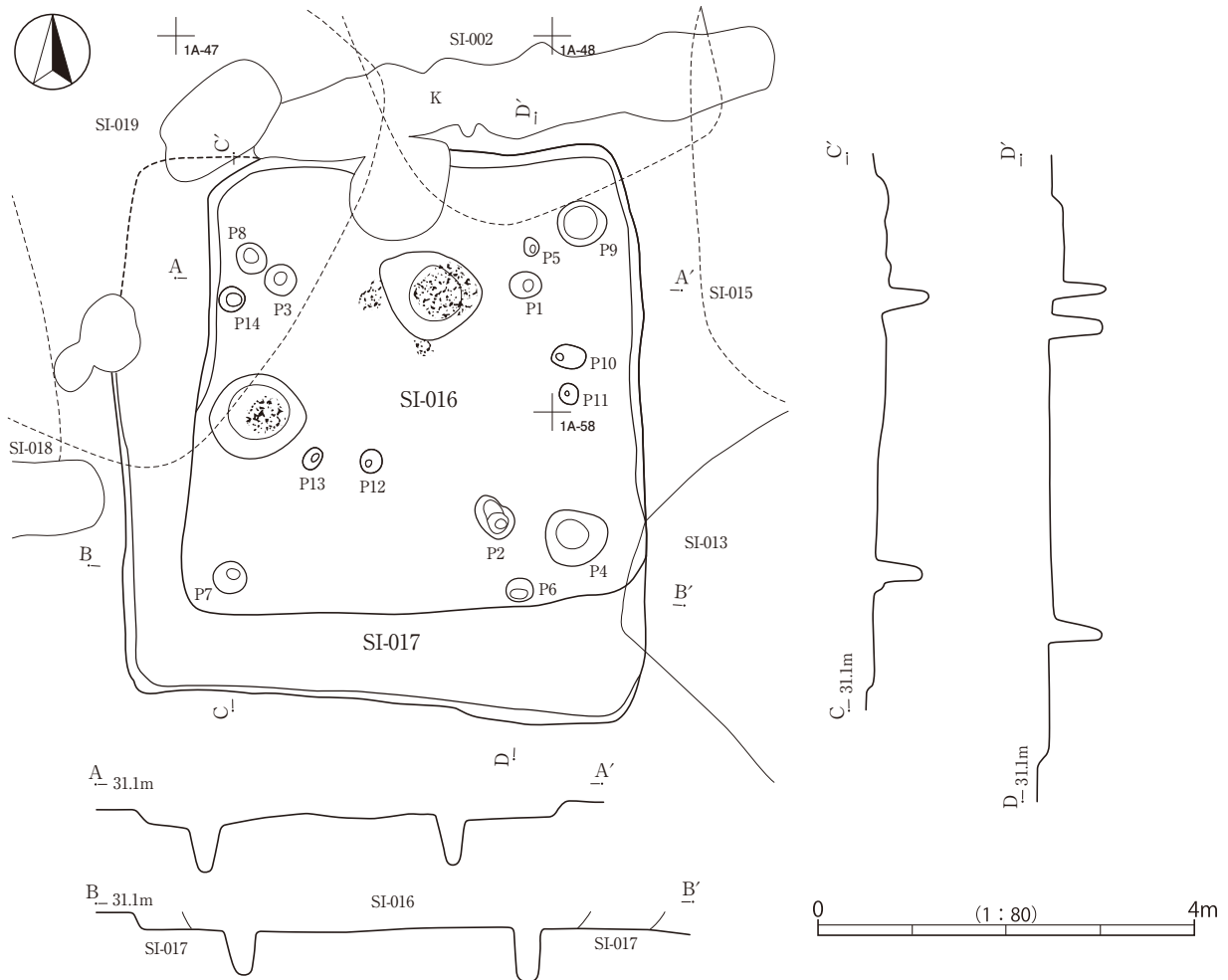
SI-016・017 (第35・36図、第7・8表、図版12・24)

1A-46～48・56～58グリッドの位置にある。北・東側の壁を基準として西・南側に拡張したような形状で検出された。調査時点では新旧関係が明確ではなかったことから、大部分の遺物がSI-016に伴うものとして取り上げられた。遺物の出土状況からSI-017がSI-016より新しい。北壁周辺は部分的に攪乱を受けている。また、SI-002・013・019とも重複していた可能性がある。両遺構ともに炉と支柱穴、貯蔵穴が検出された。そのほかのP10～P14については、性格やどちらの竪穴住居跡に伴うのかは不明である。

SI-016は、平面形はやや不整形な方形で、主軸方向はN - 1° - Eである。規模は主軸長4.8m、幅4.7mである。床面積は21.32㎡である。確認面からの深さは10cm前後である。壁溝はない。炉は北壁側の支柱穴の間にある。支柱穴はP1～P3の3本で、P1は長径32cm、短径28cm、深さ46cmである。P2は長径50cm、短径36cm、深さ42cmである。P3は長径36cm、短径30cm、深さ43cmである。貯蔵穴(P4)は南東隅にある。角の丸い三角形で長径70cm、短径64cm、深さ20cmである。

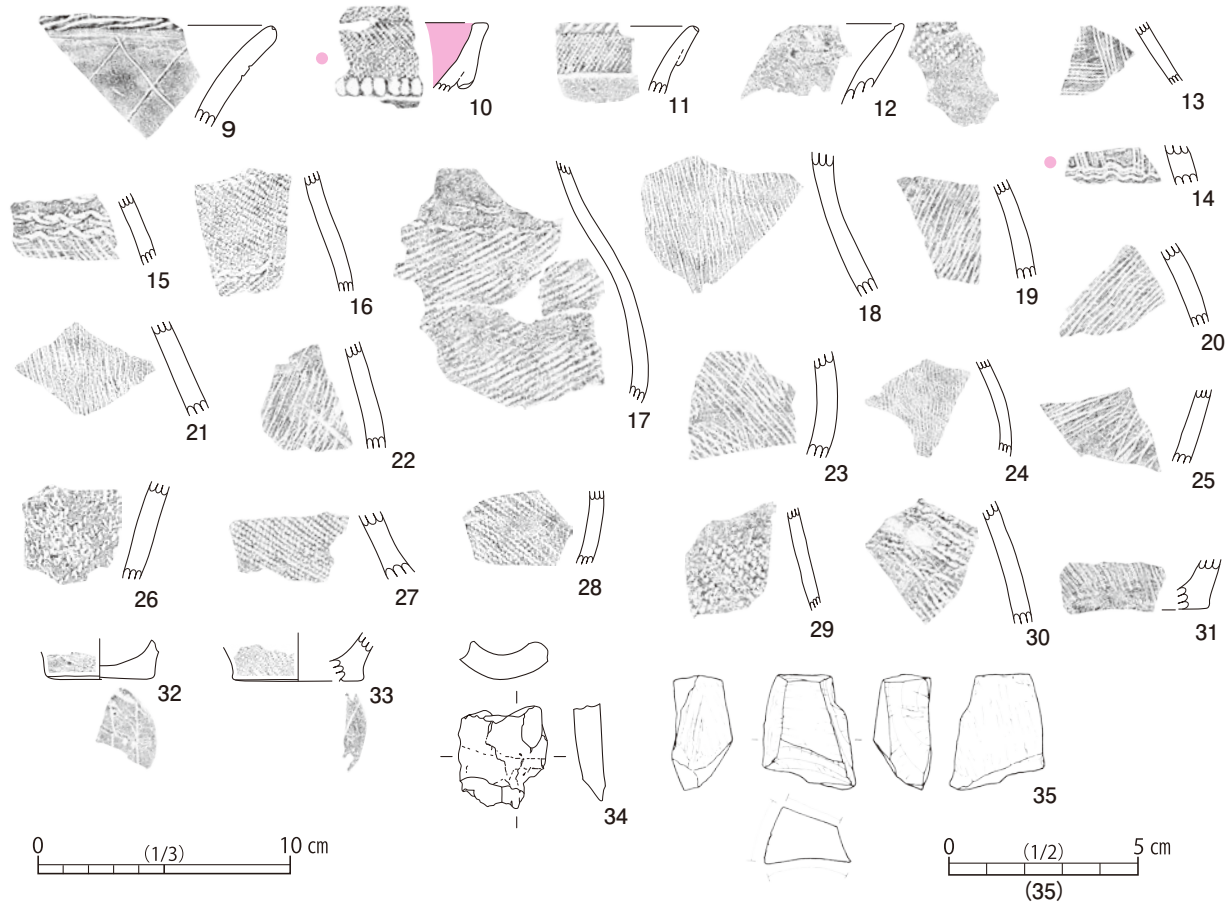
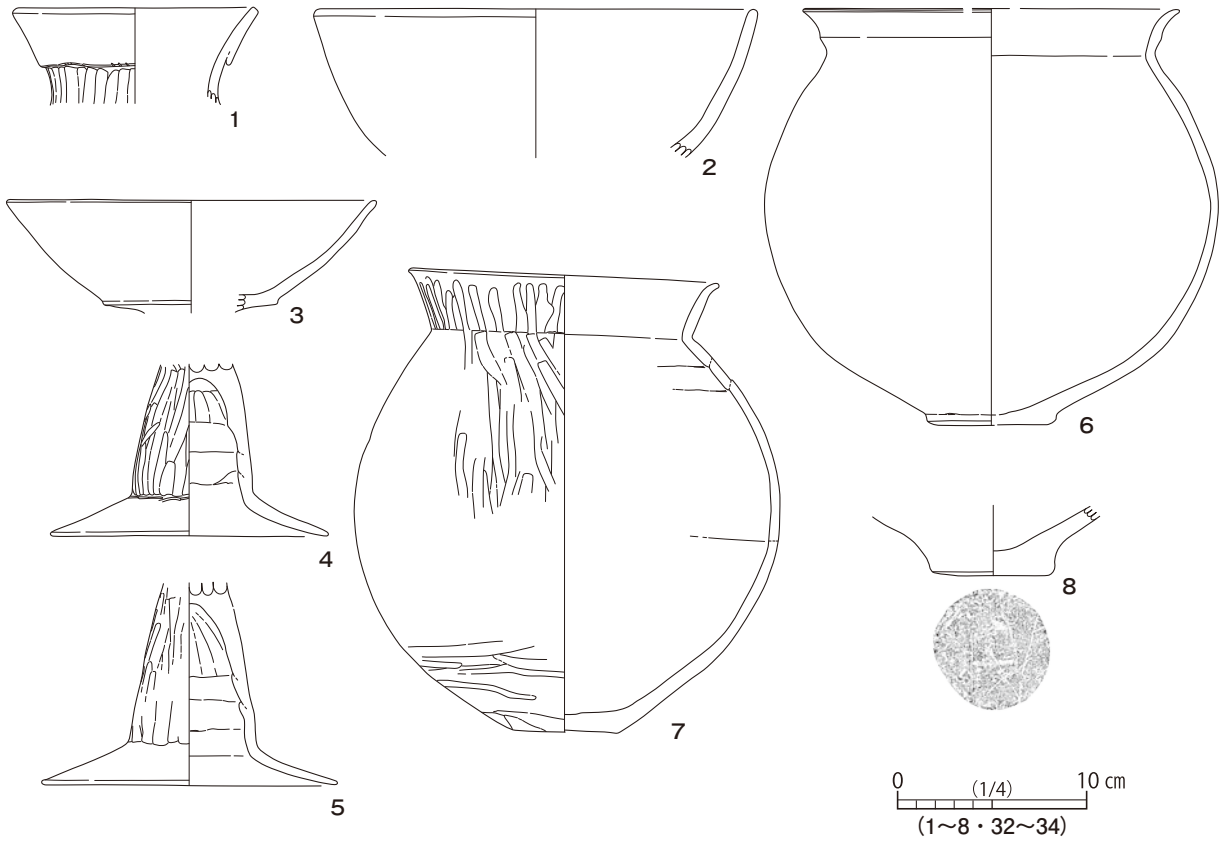
SI-017は、平面形は長方形で、主軸方向はN - 86° - Wである。規模は主軸長5.6m、幅5.9mである。床面積は30.34㎡である。確認面からの深さは10cm～18cmである。壁溝はない。炉は西壁側の支柱穴の間にある。支柱穴はP5～P8の4本で、P5は長径20cm、短径16cm、深さ50cmである。P6は長径28cm、短径24cm、深さ56cmである。P7は径36cm、深さ47cmである。P8は長径34cm、短径30cm、深さ37cmである。貯蔵穴(P9)は北東隅にある。円形で径50cm、深さ13cmである。

出土遺物の数量は総数500点で、そのうち14点はSI-017、そのほかはSI-016の出土遺物として取り上げられたことから、取り上げた遺構番号に従って説明することとした。しかし、SI-016の遺物出土状況を見ると、出土標高がSI-016の床面に近い位置にあるものと明らかにそれより高い位置にあるもの(SI-016-1～8など)とに二分することができる。後者の標高はSI-017の床面の延長線上付近にあり、また、多くのものが土師器である。このことから、後者の遺物はSI-017に伴うものであり、SI-017の方がSI-016より新しいと判断される。SI-016の出土遺物で図示できたものは土器33点、土製品1点、石器1点、SI-017の出土遺物



第35図 SI-016・017 (1)

SI-016



第36图 SI-016 · 017 (2)

で図示できたものは土器3点である。

SI-016 1～8は土師器である。1は複合口縁の壺で、頸部に筋状のヘラ磨き痕が見られる。2は鉢で、最大径は口縁部にあり、体部は内湾して立ち上がる。3～5は高杯である。3は杯部で口径が大きく、口縁部は直線的に立ち上がる。杯部外面下端に稜が作り出される。4・5は脚部で、いずれもラッパ状に外反する屈折脚で、裾部は強く屈曲して広がる。脚柱部内面は輪積痕を残し、天井部はナデ調整が施される。脚柱部外面は筋状のヘラ磨き痕が見られる。6～8は甕である。6・7は球形の胴部で、口縁部は頸部で「く」の字状に強く屈曲し、外反気味に立ち上がる。6は口縁部外面に弱い稜を作り出す。胴部外面中位から下位にかけてススが付着している。7は胴部内面に輪積痕、外面には筋状のヘラ磨き痕が見られる。胴部外面下半にはススが付着している。8は底部で、木葉痕が見られる。

9～33は弥生土器である。9～12は口縁部である。9は口唇部に撚糸文、口縁部に4本櫛描き横走文、頸部にヘラ描き斜格子文を施す。10・11は複合口縁で、10は口唇部に単節縄文、口縁部に単節羽状縄文と下端部に刻み目が施される。刻み目には布目圧痕が見られることから、棒状工具に布を巻き付けて押圧したものであると思われる。内面と頸部外面は赤彩される。11は口唇部に縄文原体による刻み目、口縁部に単節斜縄文が施される。12は単口縁で、口唇部から口縁部内面に撚糸文が施される。

13～30は胴部である。13は櫛描き重四角文が施される。これは6本櫛描きのように見えるが、3本櫛でそれぞれ平行に2回描いている。14は9本櫛描き縦区画文と波状文が施され、外面は赤彩される。15～17は結節文が施されるものである。15は2段～3段のZ字状結節文と撚糸文が施される。16はS字状結節文と単節斜縄文が施され、単節斜縄文は節の異なる2種類が見られる。17はS字状結節文と無節斜縄文が施される。18～25は撚糸文、26は附加条縄文、27～29は単節斜縄文、30は無節斜縄文が施される。

31～33は底部である。31は2条絡め撚糸文、32は撚糸文、33は単節斜縄文が施される。32・33は木葉痕が見られる。

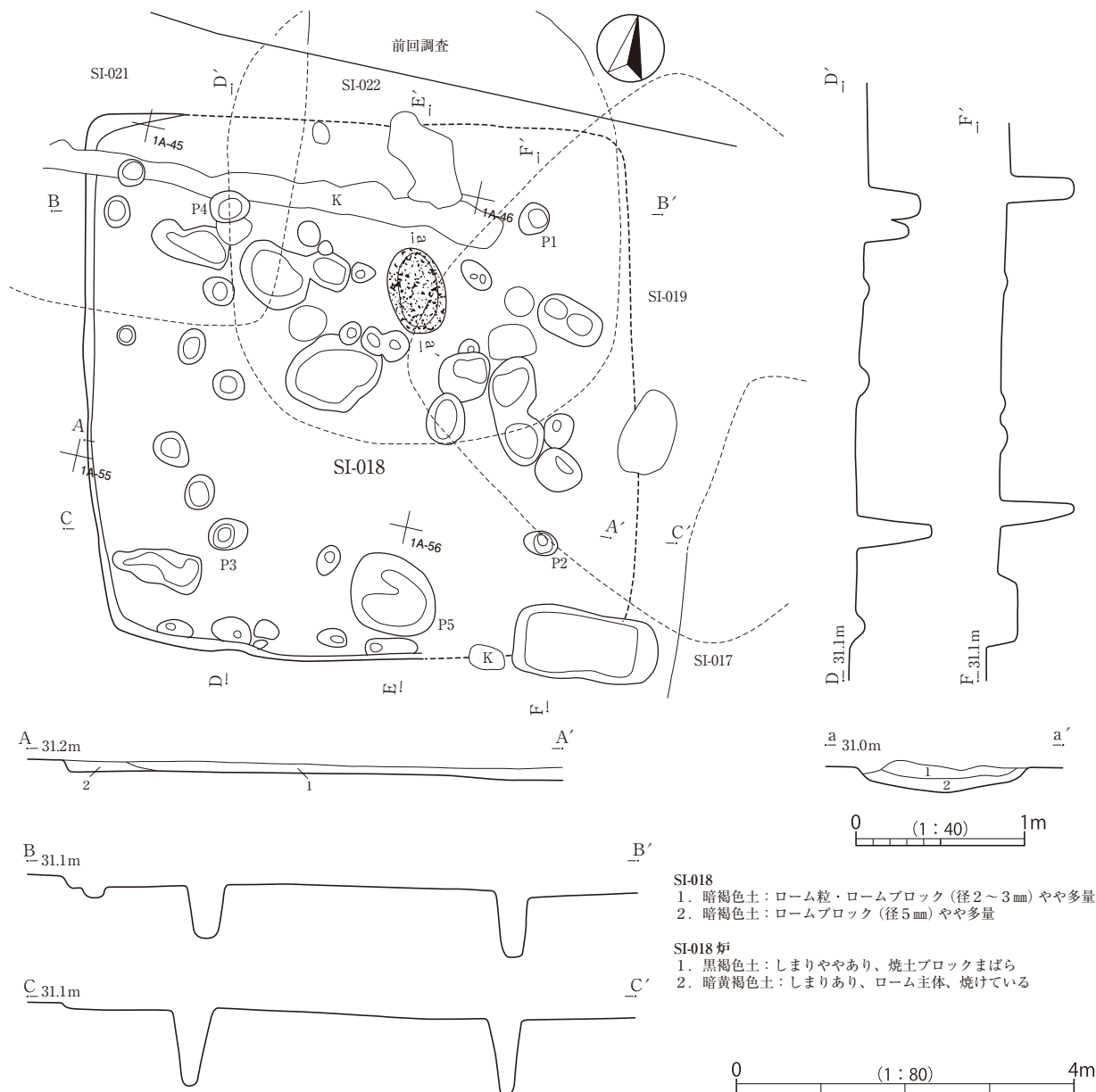
34は羽口である。小破片であるが、高杯脚柱部の転用ではなく、羽口として作られたものである。図の下が炉内に挿入された部分で、鉄滓の付着が見られる。色調は外面がにぶい黄橙色(10YR6/3)で、内面が橙色(5YR6/6)である。

35は砥石である。上面・右側面・下面は折れ面で、正面・左側面は平坦な研ぎ面、裏面の研ぎ面は内湾している。左側面・裏面は上下方向に疎らな間隔で直線的な線状痕が認められる。

SI-017 1は土師器甕である。口縁部は頸部で「く」の字状に強く屈曲し、外反気味に立ち上がる。SI-016の7の甕に類似するものであると思われる。2・3は弥生土器である。2は単口縁で、鉢になると思われる。撚糸文が施される。3は胴部で、やや粗い3本櫛描き横走文が重なるように施される。

SI-018 (第37～39図、第7表、図版13・24・25)

1A-45・46・55・56グリッドの位置にある。掘り込みが浅く、北・東壁は検出できなかったが、北西角が検出できたので、全体の規模を復元することができた。SI-019・021・022と支柱穴などが重複している。北側の床面と支柱穴(P4)の一部は畝状の攪乱を受けている。平面形は方形になるものと思われる。主軸方向はN-12°-Wである。規模は主軸長6.3m、推定幅6.5mである。確認面からの深さは7cm～13cmである。壁溝はない。炉は北側壁の支柱穴の間からやや中央に寄った位置にある。支柱穴はP1～P4の4本で、P1は長径40cm、短径34cm、深さ82cmである。P2は長径40cm、短径28cm、深さ114cmである。P3は長径50cm、

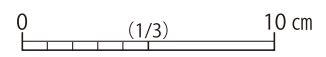
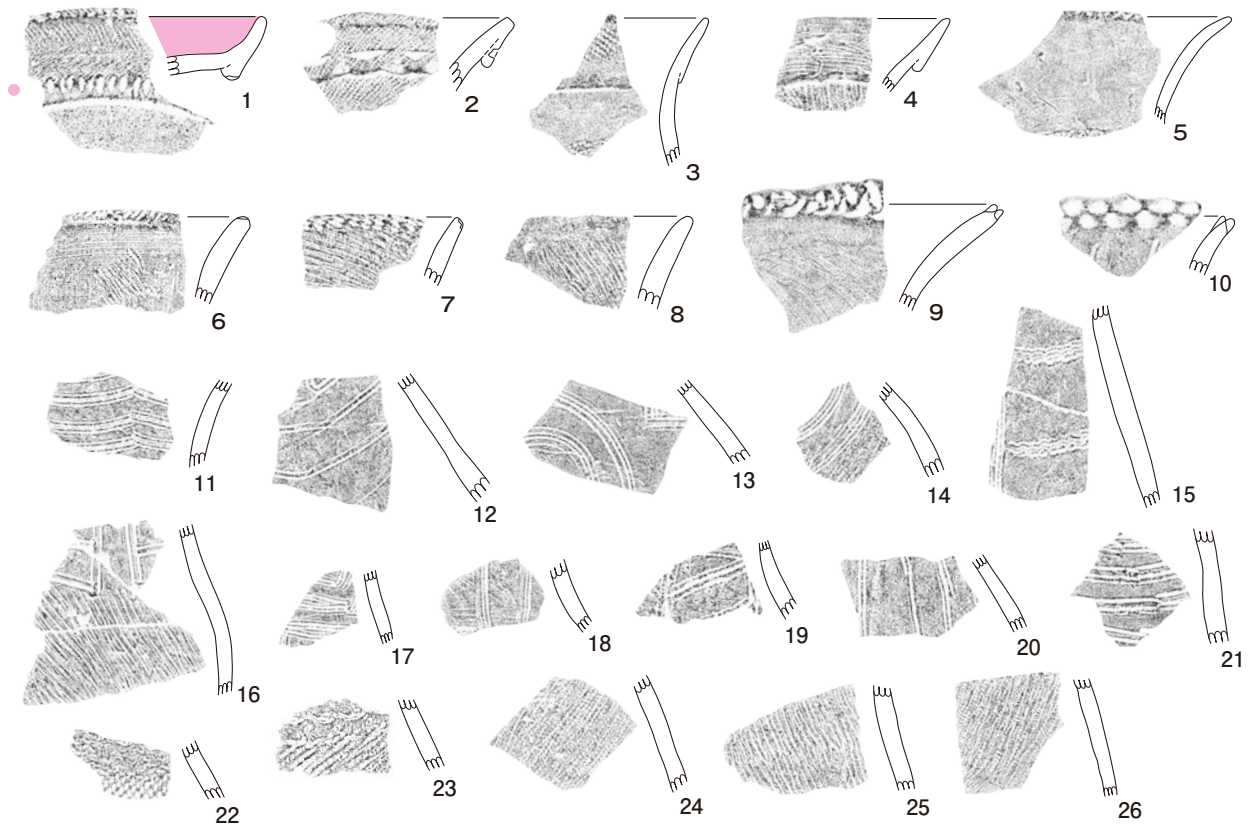
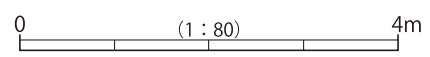
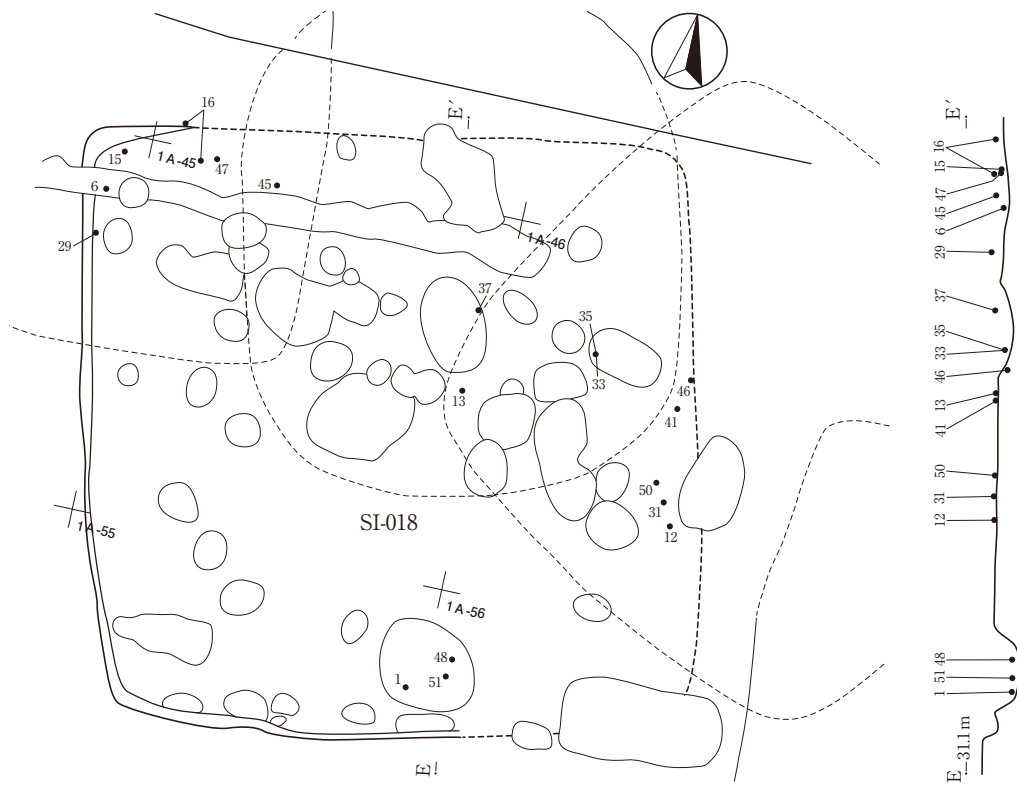


第37図 SI-018 (1)

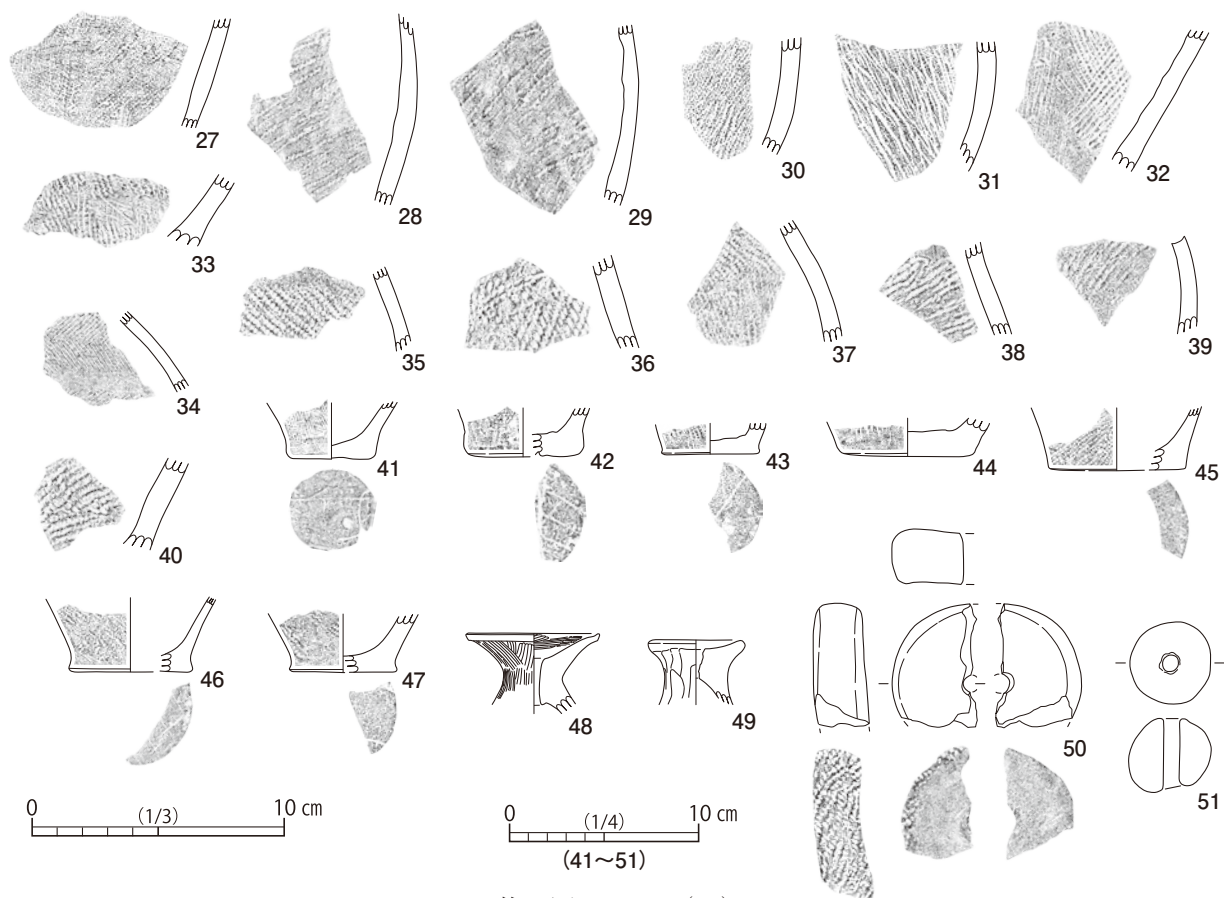
短径38cm、深さ87cmである。P4は長径50cm、短径35cm、深さ61cmである。貯蔵穴（P5）は南側にあり、長径100cm、短径90cm、深さ27cmである。そのほかに多くのピットや土坑が検出されているが、性格や本遺構に伴うものか否かは不明である。

出土遺物の数量は総数865点で、床面から出土したものも多く、1・48・51は貯蔵穴から出土している。図示したものは土器49点、土製品2点である。

1～47は弥生土器である。1～10は口縁部で、1～4は複合口縁である。1は口唇部に単節縄文、口縁部に単節羽状縄文が施される。口縁部下端は縄文原体による刻み目が施される。また、拓影図の左端には棒状浮文の剥がれた痕が見られる。口縁部外面を除いて全て赤彩される。2は口唇部に単節縄文が施される。口縁部は下部をヘラ状工具で幅3mm～4mm削り取って突帯状にした後、一定の間隔で下から押し上げるにより連弧状の裝飾帯を作り出している。そして、その後に口縁部全体に単節斜縄文が施される。3は口唇部と口縁部上半分に単節斜縄文が施される。頸部は無文部を設けてS字状結節文が施される。4



第38图 SI-018 (2)



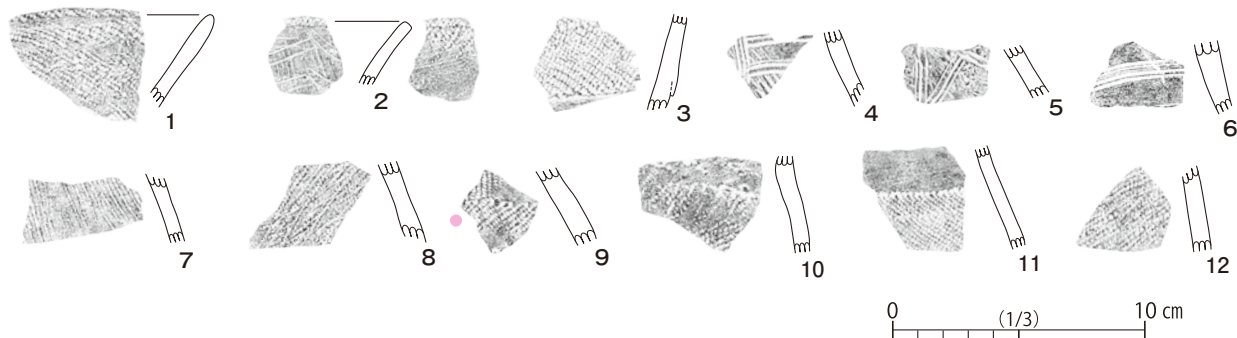
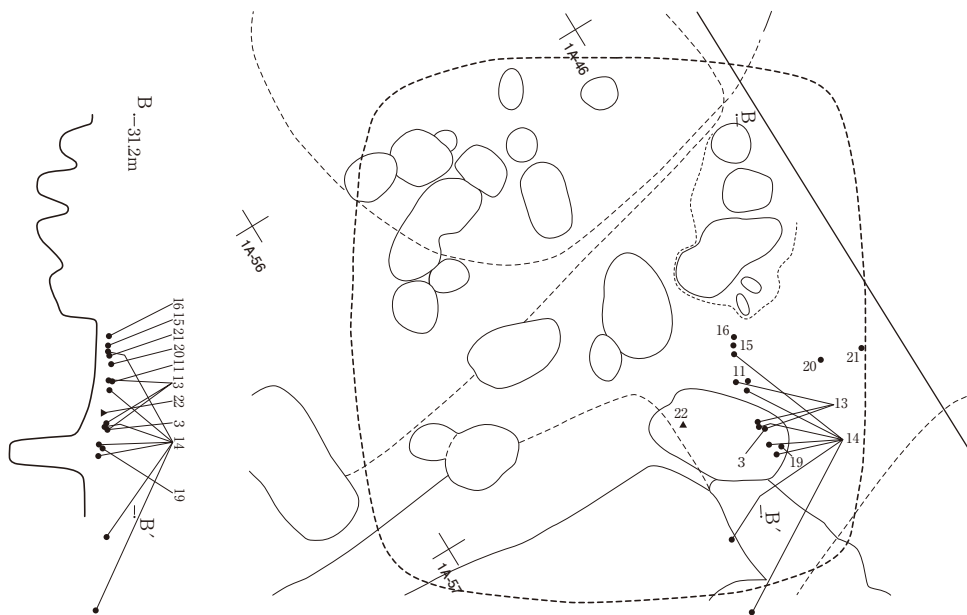
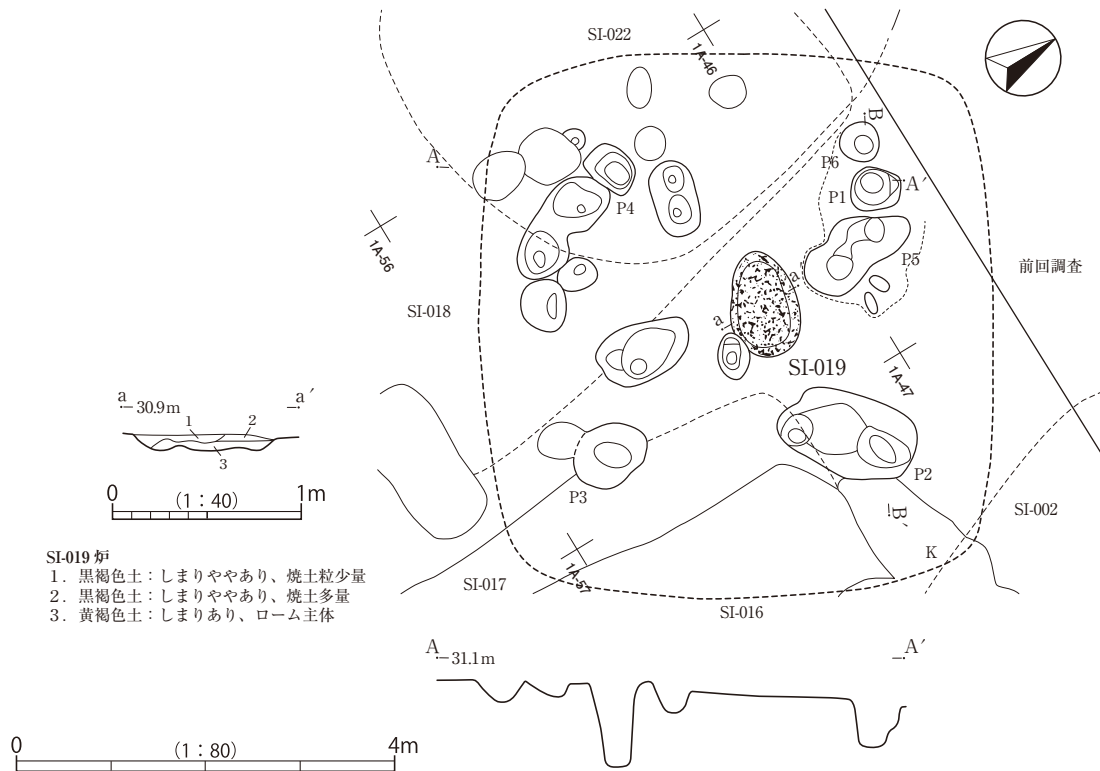
第39図 SI-018 (3)

は外面にハケ調整が施され、無文である。5～8は単口縁である。5は口唇部に単節縄文が施される。口縁部は無文で、胴部に単節斜縄文が施される。6は口唇部と口縁部外面の一部に撚糸文が施される。7は口唇部に撚糸原体押圧による刻み目、口縁部に撚糸文が施される。8は口縁部直下を除く外面に撚糸文が施される。9・10は波状口縁で、9はヘラ状工具交互押圧、10は指頭交互押圧である。10は口縁部直下から2本櫛描き羽状文が施される。

11～40は胴部である。11～21は櫛描き文を持つものである。11は4本櫛描き連弧文が施される。12・20は2本櫛描き渦巻き文が施される。13は4本櫛描き渦巻き文と、その上部に連弧文と横の接続線が施される。14は4本櫛描き渦巻き文と撚糸文が施される。15は4本櫛描き縦走文にヘラ描き斜格子文を加えた縦区画文と波状文が施される。16は2本櫛描き縦区画文によるスリットと横走文、さらに、その下に撚糸文が施される。17は2本櫛描き重四角文が施される。18は3本櫛描き縦区画文が施され、下端に結節文が見られることから、その下に縄文が施されたと思われる。19は3本櫛描き縦区画文と山形文が施される。21は3本櫛描き横走文が施される。

22～40は撚糸文又は縄文が施されるものである。22は4段以上のS字状結節文と単節斜縄文が施される。23は1段のS字状結節文と無節斜縄文が施される。24～33は撚糸文が施される。34は単節羽状縄文、35は単節斜縄文が施される。37は上部に単節斜縄文、下部に撚糸文が施される。35・36・38～40は無節斜縄文が施される。

41～47は底部である。41～44は撚糸文、45～47は単節斜縄文が施される。41～43・46・47は木葉痕、



第40図 SI-019 (1)

45は網代痕が見られる。

48・49は土師器器台である。48は内外面にハケ調整を施し、口縁部はわずかにつまみ上がる。49は器壁が厚く、器受部が小さい。

50は土製紡錘車で、全体の約30%が遺存し、推定径6.0cm、推定孔径0.6cm、厚さ2.2cmである。表裏面はヘラ磨き調整が施され、側面全体に単節縄文RLが施される。色調はにぶい黄橙色(10YR7/4)である。51は土玉で、完存している。径3.2cm、孔径0.6cm、厚さ2.9cmである。色調は灰黄褐色(7.5YR5/2)である。

SI-019 (第40・41図、第7・8表、図版13・25・26)

1A-36・46・47グリッドの位置にある。掘り込みが浅く、壁や壁溝は検出できなかった。炉と支柱穴4本を検出し、それらの位置などから主軸方向や形状を復元した。SI-016・018・022とピットなどが重複している。北側の角は調査区境に延びているが、前回調査では検出されていない。平面形は隅丸方形になると思われ、主軸方向はN-59°-Wである。規模はいずれも推定で主軸長5.7m、幅5.4mである。炉は支柱穴に囲まれた内側のほぼ中央にある。支柱穴はP1～P4の4本で、P1は長径56cm、短径46cm、深さ50cmである。P2は長径60cm、短径36cm、深さ76cmで、南西方向に抜き取り痕が見られる。P3は長径82cm、短径62cmで、深さは記録がないため不明である。P4は長径56cm、短径38cm、深さ83cmである。P1に隣接してP5とP6がある。P5は長径124cm、短径56cm、深さ66cmで、2つのピットが重複しているようにも見える。P5の一括資料として1・18の土器が出土している。P6は径40cm、深さ34cmで、図示できなかったが土器が出土している。そのほかにも多くのピットが検出されているが、性格や本遺構に伴うものか否かは不明である。

出土遺物の数量は総数168点で、図示できたものは弥生土器20点と石器1点である。

1～3は口縁部で、1・2は単口縁、3は複合口縁である。1は口唇部と口縁部に単節斜縄文が施される。2は口唇部から口縁部内面に単節斜縄文、口縁部外面に2本櫛描き連弧文が施される。3は単節斜縄文が施される。

4～20は胴部である。4は3本櫛描き縦区画文によるスリットと横走文、地文に撚糸文が施される。5は3本櫛描き縦区画文によるスリットと山形文が施される。6は5本櫛描き横走文が施される。

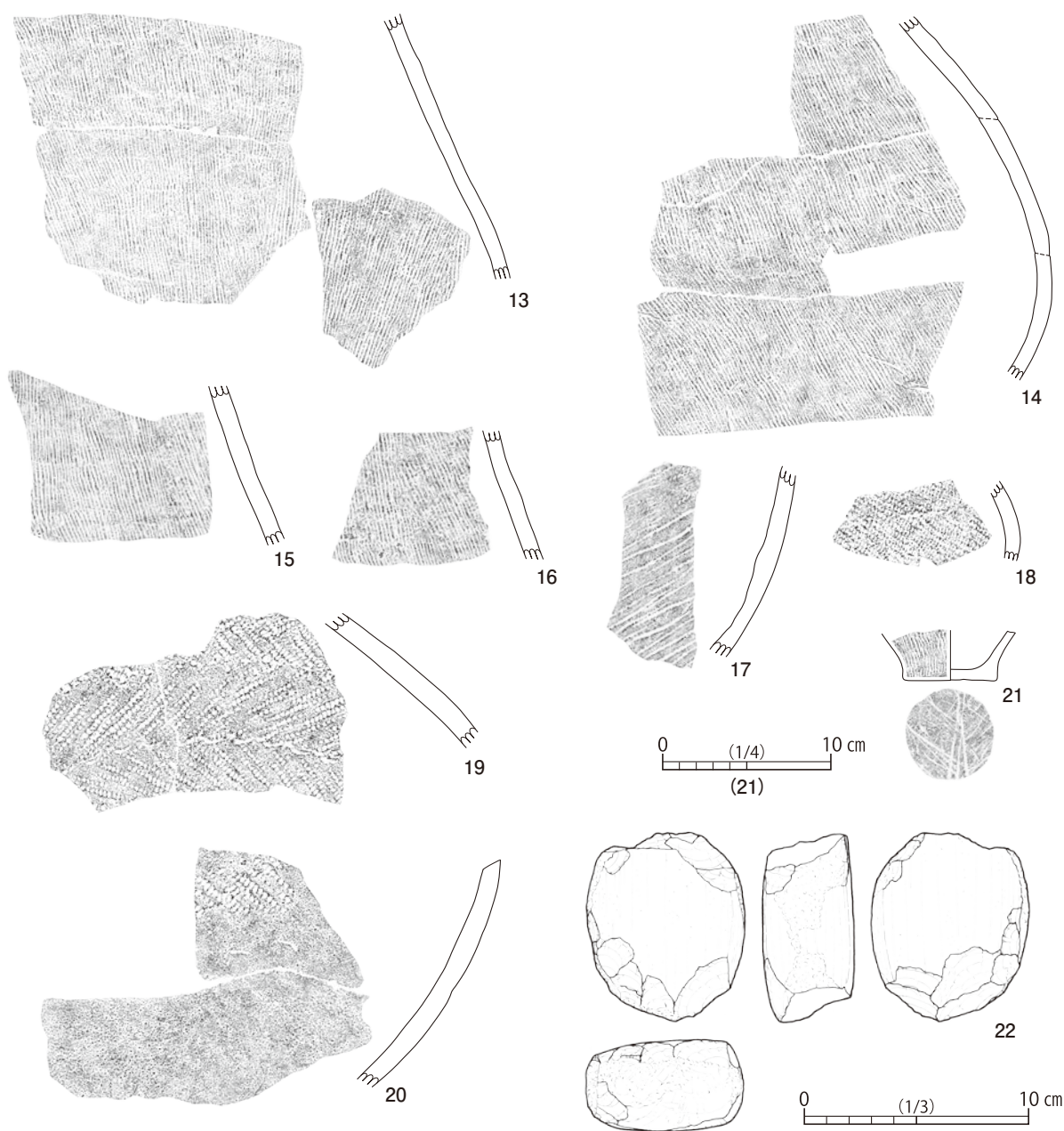
7～20は撚糸文又は縄文が施されるものである。7・8・13～17は撚糸文が施される。9は単節縄文が山形に施される。無文部は赤彩される。10・19は単節羽状縄文、11・12・18は単節斜縄文が施される。20は単節斜縄文とS字状結節文が施される。13～16と19・20はそれぞれ同一個体と思われる。

21は底部で、撚糸文が施され、木葉痕が見られる。

22は磨石である。表面・右側面・裏面に平坦な磨耗が顕著で、表裏面と右側面の境界が明確に稜を形成する。擦りの後に上下端部が広く剥離され、下端部には剥離面の稜線に潰れ状の敲打痕が見られる。縄文時代所産の磨石を転用した可能性がある。

SI-020 (第42図、第7・8表、図版13・14・26)

1A-33グリッドの位置にある。前回調査の012号跡と同一で、南東角と南壁の一部を検出した。西側の大部分はSM-001に壊されている。南側はSI-003と重複し、土層観察により本遺構の方が新しい。確認面からの深さは27cmである。012号跡も大部分を202号跡(SM-001)に壊されており、支柱穴2本と東・西・北

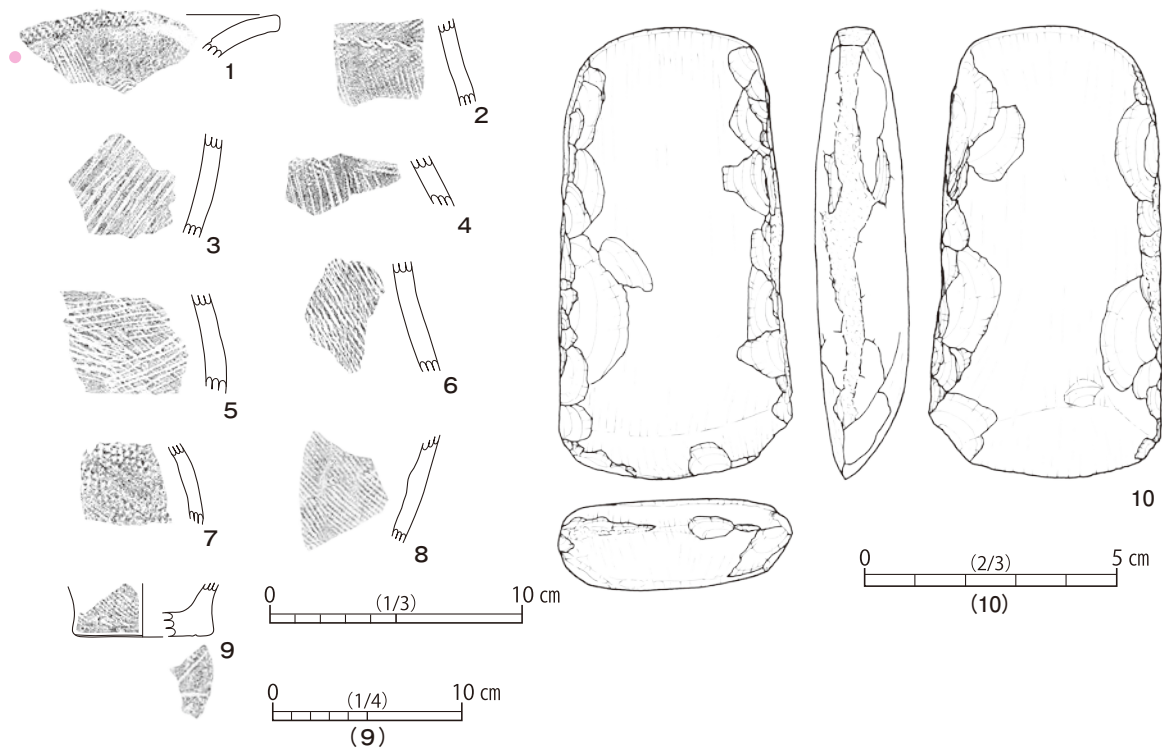
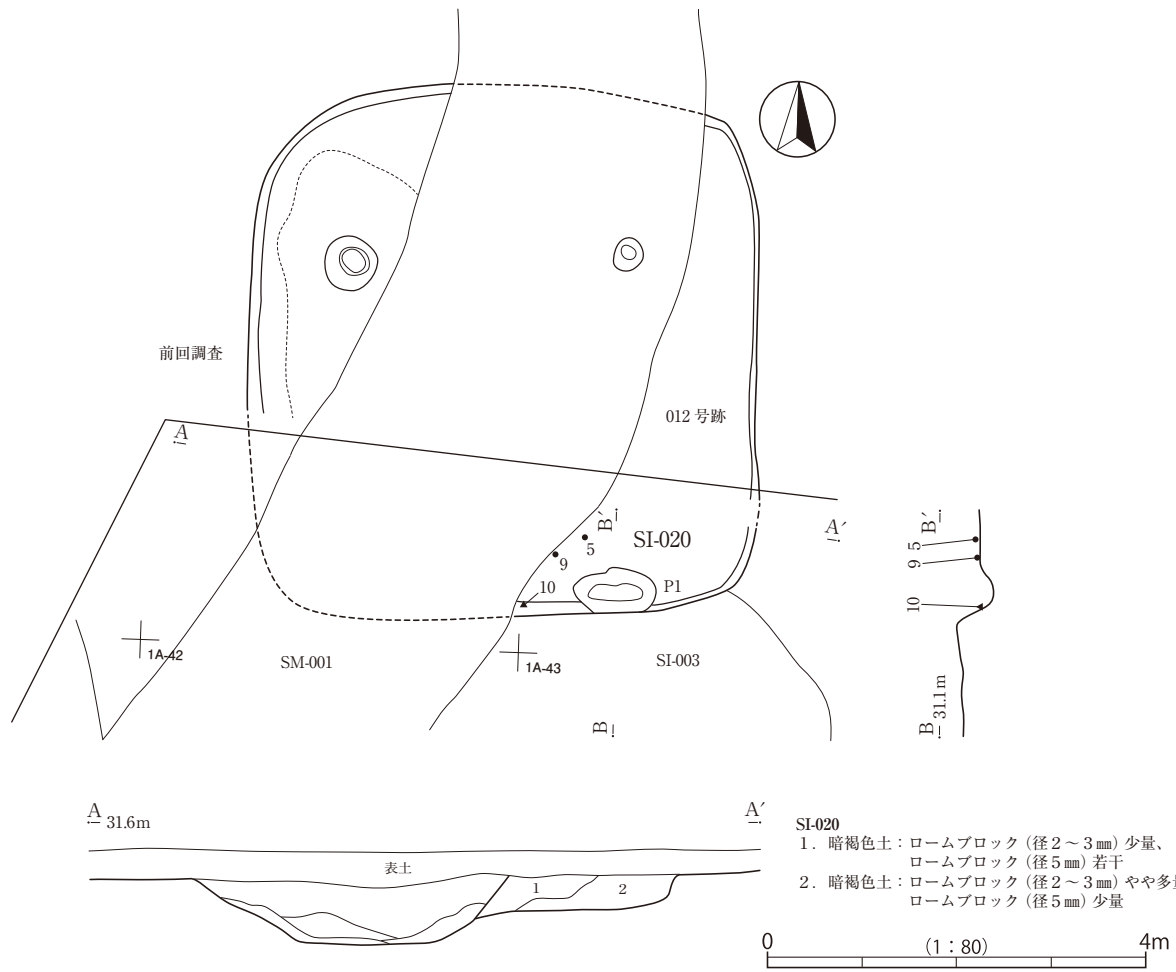


第41図 SI-019 (2)

壁の一部を検出できただけである。それらの記録と合わせると、平面形は隅丸方形で、主軸方向はN - 2° - W、規模はいずれも推定で主軸長5.6m、横幅5.4mである。南壁際にあるP1は長軸86cm、短軸48cm、深さ12cmで、貯蔵穴としては規模が小さく、性格は不明である。

出土遺物の数量は総数55点で、土器は全て破片で一括資料が大部分である。図示できたものは弥生土器9点と石器1点である。

1は単口縁で、口唇部に単節縄文、口縁部に8本櫛描き縦区画文と波状文が施される。外面は全面赤彩される。2～8は胴部で、撚糸文又は縄文が施されるものである。2は単節斜縄文とその下に撚糸文、さらに、単節縄文の上にS字状結節文が施される。3は3条絡め撚糸文が施される。4は単節斜縄文とその



第42図 SI-020

下に2条絡め撚糸文が施される。5・6は撚糸文が施され、5は斜格子状になっている。7・8は単節斜縄文が施される。9は底部で、単節斜縄文が施され、木葉痕が見られる。

10は中形の磨製石斧である。側縁を平坦な剥離と敲打により直線的に仕上げている。刃部は両面より研磨しており両刃となるが、裏面からの刃部研磨が広く断面凸状となり片刃に近くなる。刃部先端には使用による端部に顕著な潰れと細かな線状痕が看取される。

SI-021 (第43図、第7表、図版13・26)

1A-34・35・44・45グリッドの位置にある。SI-018・022の主柱穴と重複している。また、ほぼ中央部は畝状の攪乱を受けている。前回調査の050号跡と同一であるが、掘り込みが浅く壁は検出できず、炉と主柱穴2本を検出しただけである。それらの記録と合わせると、平面形は隅丸長方形で、主軸方向はN-5°-W、規模はいずれも推定で主軸長4.2m、横幅3.8mである。炉は北側壁寄りにあり、一部が調査区域境に延びている。主柱穴はP1・P2の2本で、P1は長径40cm、短径28cm、深さ57cmである。P2は長径34cm、短径26cm、深さ58cmである。

出土遺物の数量は総数14点と少なく、全て土器の破片である。図示できたものは弥生土器5点である。

1は壺の下半部である。外面は無文で赤彩されるが、二次的な被熱のために遺存状態は良くない。2は壺の底部である。3～5は胴部で、3は2本櫛描き波状文が施される。4・5は撚糸文が施される。

SI-022 (第44図、第7表、図版13・26)

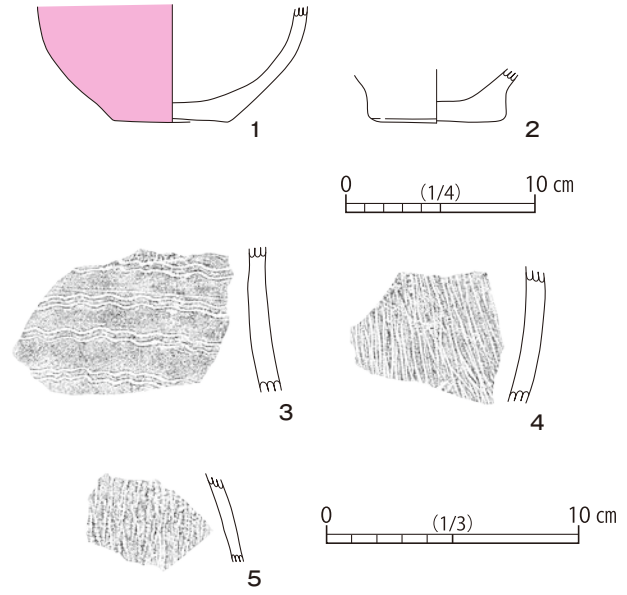
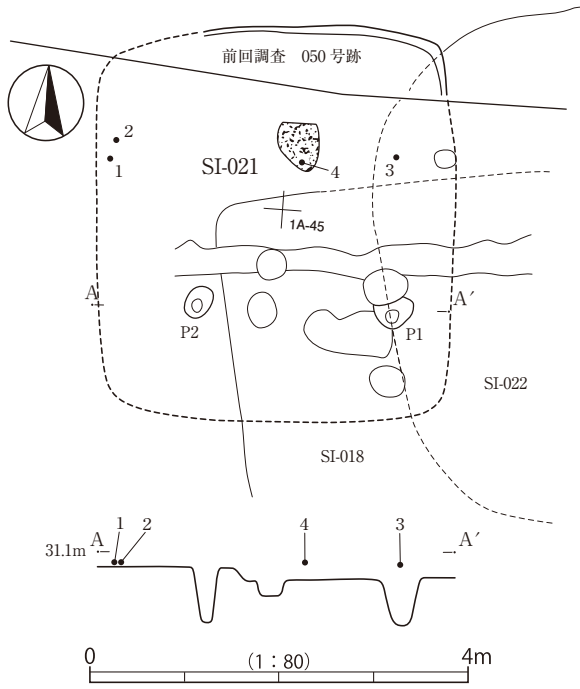
1A-35・36・45・46グリッドの位置にある。SI-018・019・021の主柱穴と重複している。また、ほぼ中央部は畝状の攪乱を受けている。前回調査の049号跡と同一であるが、掘り込みが浅く壁は検出できず、炉と主柱穴3本を検出しただけである。それらの記録と合わせると、平面形は長楕円形で、主軸方向はN-14°-W、規模はいずれも推定で主軸長5.4m、横幅4.6mである。炉は北側壁寄りにあり、南側は畝状の攪乱を受けている。主柱穴はP1～P3の3本で、P1は径34cm、深さ50cmである。P2は長径46cm、短径38cm、深さ57cmである。P3は長径24cm、短径20cm、深さ44cmである。そのほかにも多くのピットが検出されているが、性格や本遺構に伴うものか否かは不明である。

出土遺物の数量は総数275点で、大部分が土器の小破片で一括資料である。図示できたものは土器17点である。

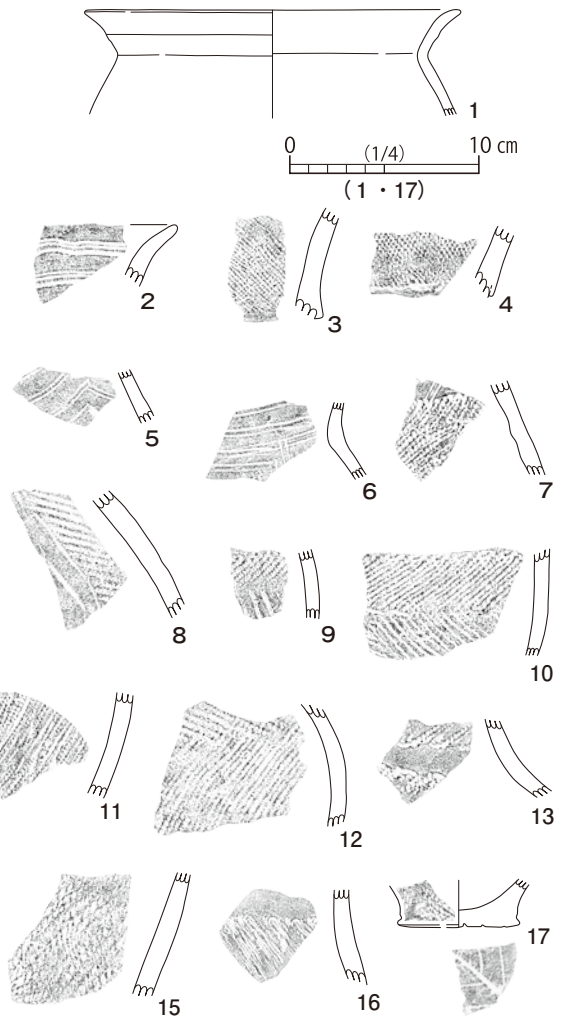
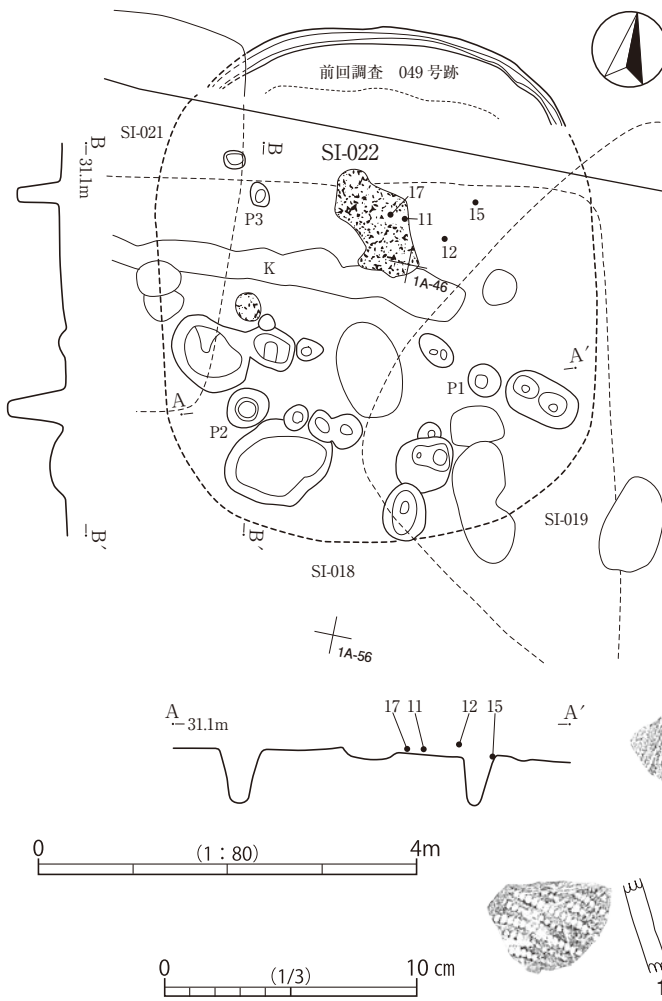
1は土師器甕である。口縁部は頸部で「く」の字状に屈曲して緩やかに外反する。口縁部外面に弱い稜を作り出す。

2～17は弥生土器である。2～4は口縁部である。2は単口縁で、3本櫛描き波状文を施す。3・4は複合口縁で、いずれも口唇部を欠失し、単節斜縄文が施される。5～16は胴部である。5～7は櫛描き文を持つものである。5は2本櫛描き連弧文が施される。6は上部に2本櫛描き横走文とその下に重四角文が施される。7は2本櫛描き山形文とその下に単節斜縄文が施される。8はヘラ描きの山形区画内に単節斜縄文が施される。

9～16は撚糸文又は縄文が施されるものである。9は単節斜縄文とその下に2条絡め撚糸文が施される。10は無節斜縄文とその下に撚糸文が施される。11は撚糸文が施される。12は単節羽状縄文が施される。13は無文部を挟んで単節斜縄文が施される。14・15は単節斜縄文、16は無節斜縄文が施される。



第43図 SI-021



第44図 SI-022

17は底部で、単節斜縄文が施され、木葉痕が見られる。

2 土坑

SK-001 (第45図、第7表、図版14・27)

1A-52・53グリッドの位置にある。SI-003・005と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。平面形はやや角が丸い長方形で、長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸3.03m、短軸1.82mで、確認面からの深さは0.32mである。

出土遺物の数量は総数12点で、図示したものは弥生土器2点である。

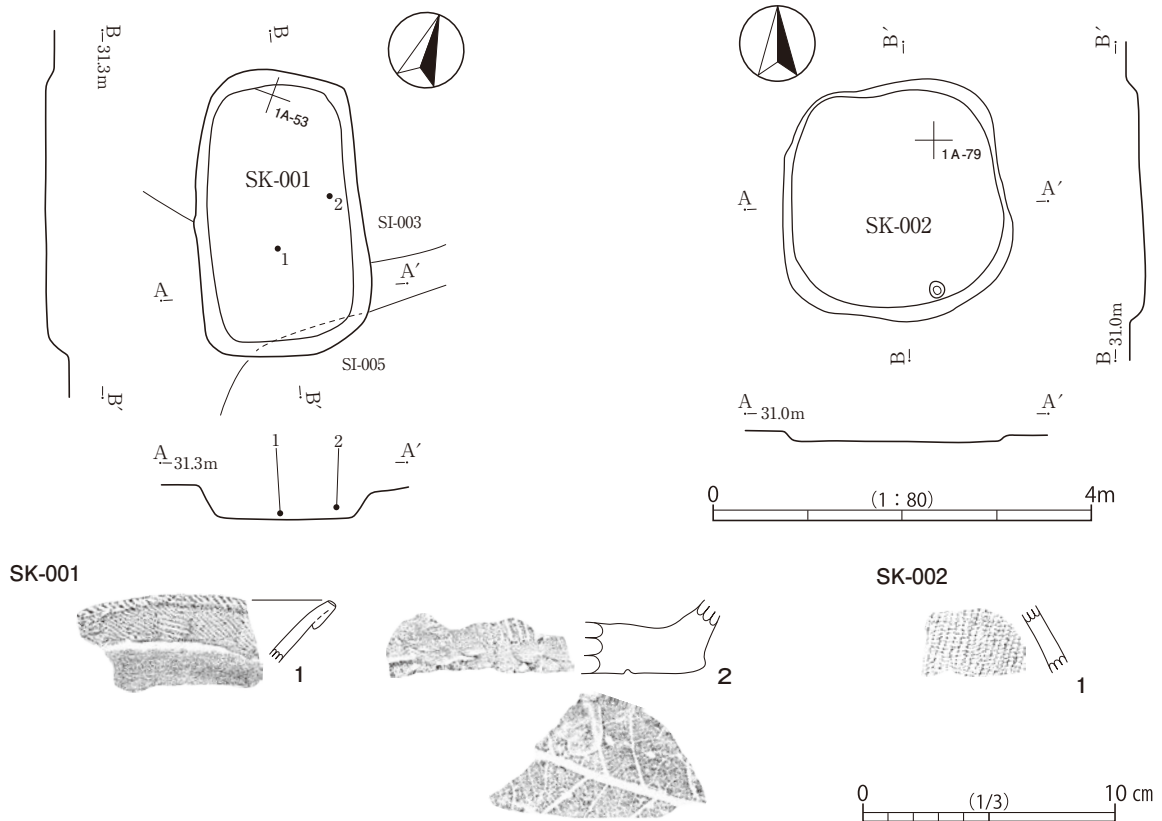
1は口縁部で複合口縁である。口唇部に撚糸文、口縁部に単節斜縄文と一部に撚糸文が施される。2は底部で、撚糸文が施され、木葉痕が見られる。

SK-002 (第45図、第7表、図版14・27)

1A-78・79グリッドの位置にある。SI-007の東側にあり、重複する遺構はない。平面形は方形に近い長方形で、長軸方向はN-4°-Wである。規模は長軸2.52m、短軸2.34mで、確認面からの深さは0.11mである。南端にあるピットは径16cm、深さ32cmであるが、性格は不明である。埋土の状況は、調査時の所見では暗褐色土の単一土層で、やや黒味を帯び径10mmのロームブロックをやや多量に含んでいる。

出土遺物の数量は総数18点で、全て小破片の一括資料である。図示できたものは弥生土器1点である。

1は胴部で、単節斜縄文が施される。



第45図 SK-001・002

3 古墳

SM-001 (第46・47図、第7表、図版14・27)

1A-31・32・41・42・51グリッドの位置にある。前回調査の円墳202号跡と同一で、南東側の周溝の一部を検出した。断面形は逆台形である。南側でSD-001と重複し、本遺構の方が古い。検出した長さは9.7mで、幅は2.1m～2.7m、深さは0.4m～0.5mである。

出土遺物の数量は総数870点であるが、土器は全て小破片で、大部分が弥生土器で、本遺構に伴うものはほとんどない。図示したものは弥生土器39点である。

1～7は口縁部である。1は単口縁で、7本櫛描き波状文が施される。2・3は複合口縁で、2は口唇部と口縁部、3は口唇部に捺糸文が施される。4は口唇部に単節縄文、口縁部に単節横走羽状縄文が施される。5は複合口縁で、口唇部と口縁部に単節斜縄文が施され、頸部は無文である。6は単口縁で、口唇部と口縁部に単節縄文が施される。7は口唇部を欠失している。口縁部に単節斜縄文とその上にZ字状結節文が施される。

8～33は胴部である。8～14は櫛描き文を持つものである。8は2本櫛描き連弧文と渦巻き文が施される。9はやや変則的な2本櫛描き波状文が施される。10は3本櫛描き渦巻き文と捺糸文が施される。11は3本櫛描き重四角文が施される。12は櫛描き縦区画文と横走文が施される。これは9本櫛描きのように見えるが、3本櫛でそれぞれ平行に3回描いている。13は7本～8本櫛描き縦区画文とその下に捺糸文が施される。14は2本櫛描き山形文とその下に単節斜縄文が施される。

15～33は捺糸文又は縄文が施されるものである。15～18は結節文と縄文が施されるものである。15はS字状結節文による横区画とその下に単節斜縄文が施される。16は器面が荒れてやや不鮮明であるが、Z字状結節文4段と単節斜縄文が施される。17はS字状結節文による縦又は山形区画の中に単節斜縄文が施される。19～23は2条、24は3条絡め捺糸文が施される。25～29は捺糸文、30～33は単節斜縄文が施される。

34～39は底部である。34～36・38は単節斜縄文、37は2条絡め捺糸文が施される。39は無文である。34～36・38は木葉痕が見られる。

4 溝

SD-001 (第46図、第7表、図版14・27)

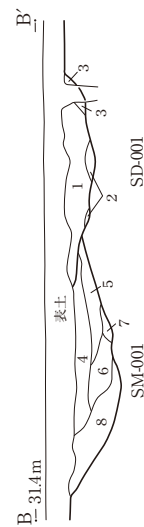
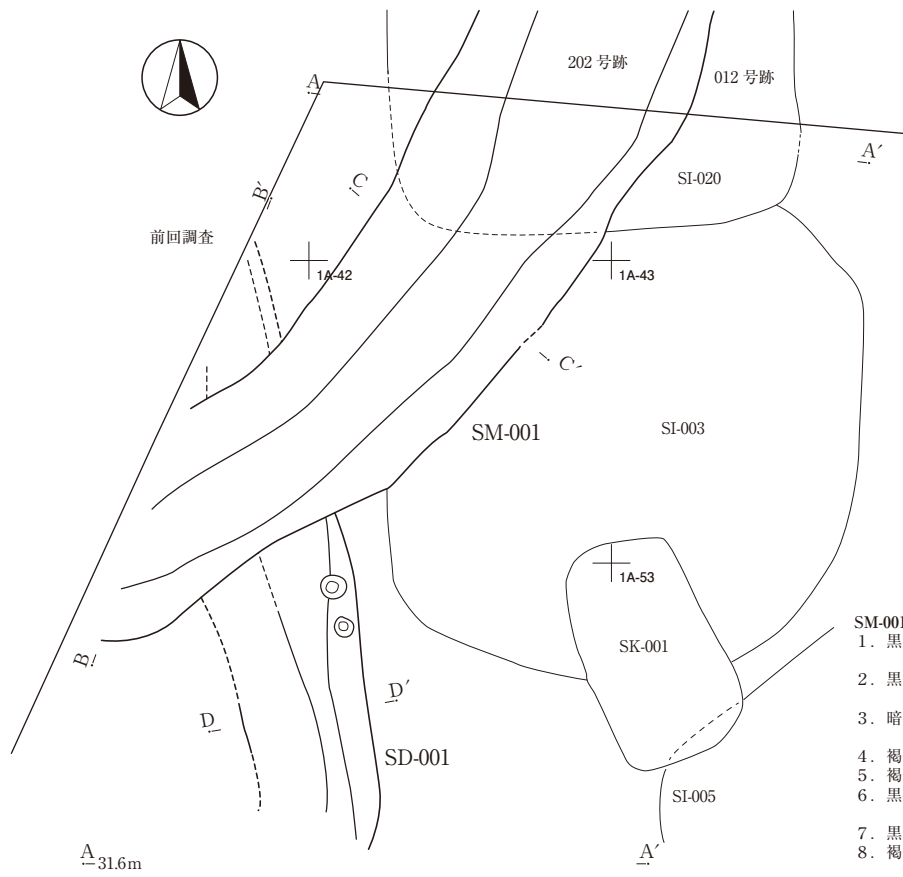
1A-41・51・52グリッドの位置にある。北側は西側の調査区境に設定した土層断面により検出したもので、SM-001の周溝を縦断し、南側は調査区域外に延びるとされる。しかし、北側の前回調査の区域内では検出されていない。走行方向はN -12° - Wである。規模は現存総延長8.6m、幅1.64mで、確認面からの深さは0.26m～0.38mである。

出土遺物の数量は総数29点で、小破片が多く、図示できたのは土師器1点である。

1はロクロ土師器高台付杯である。底部と高台部だけが遺存している。高台部は「ハ」の字状に開く。杯部内面は黒色処理され、「十」の線刻が見られる。

SD-002 (第48図、図版8)

1B-71・81・91、2B-01グリッドの位置にある。本調査区域の東端に当たり、本遺構の東側は急激に傾斜

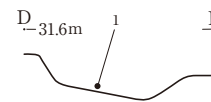
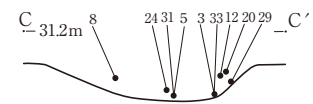
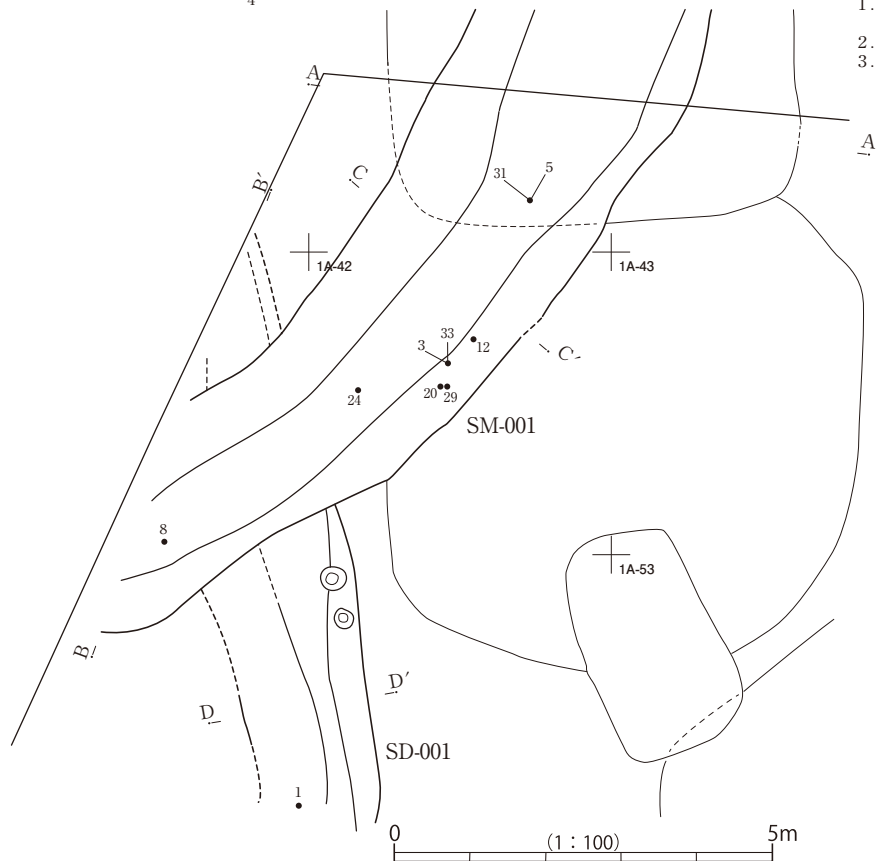


SM-001

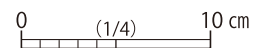
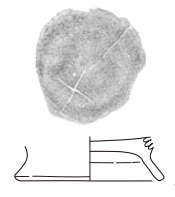
1. 黒褐色土：ロームブロック（径2～3mm・径5mm）少量
2. 黒色土：ロームブロック（径2～3mm・径5mm）やや多量
3. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）やや多量、ロームブロック（径5mm）少量
4. 褐色土：ローム粒・ロームブロック（径5mm）多量
5. 褐色土：ロームブロック（径2～3mm）少量
6. 黒褐色土：ロームブロック（径2～3mm）多量、ロームブロック（径5mm）少量
7. 黒色土：ロームブロック（径2～3mm）やや少量
8. 褐色土：ローム粒・ロームブロック（径2～3mm）多量
9. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm）少量、ロームブロック（径5mm）若干

SD-001

1. 暗褐色土：ロームブロック（径2～3mm・径5mm）多量
2. 黒褐色土：ロームブロック（径2～3mm）やや多量
3. 褐色土：ロームブロック（径2～3mm）多量、ロームブロック（径10～20mm）少量

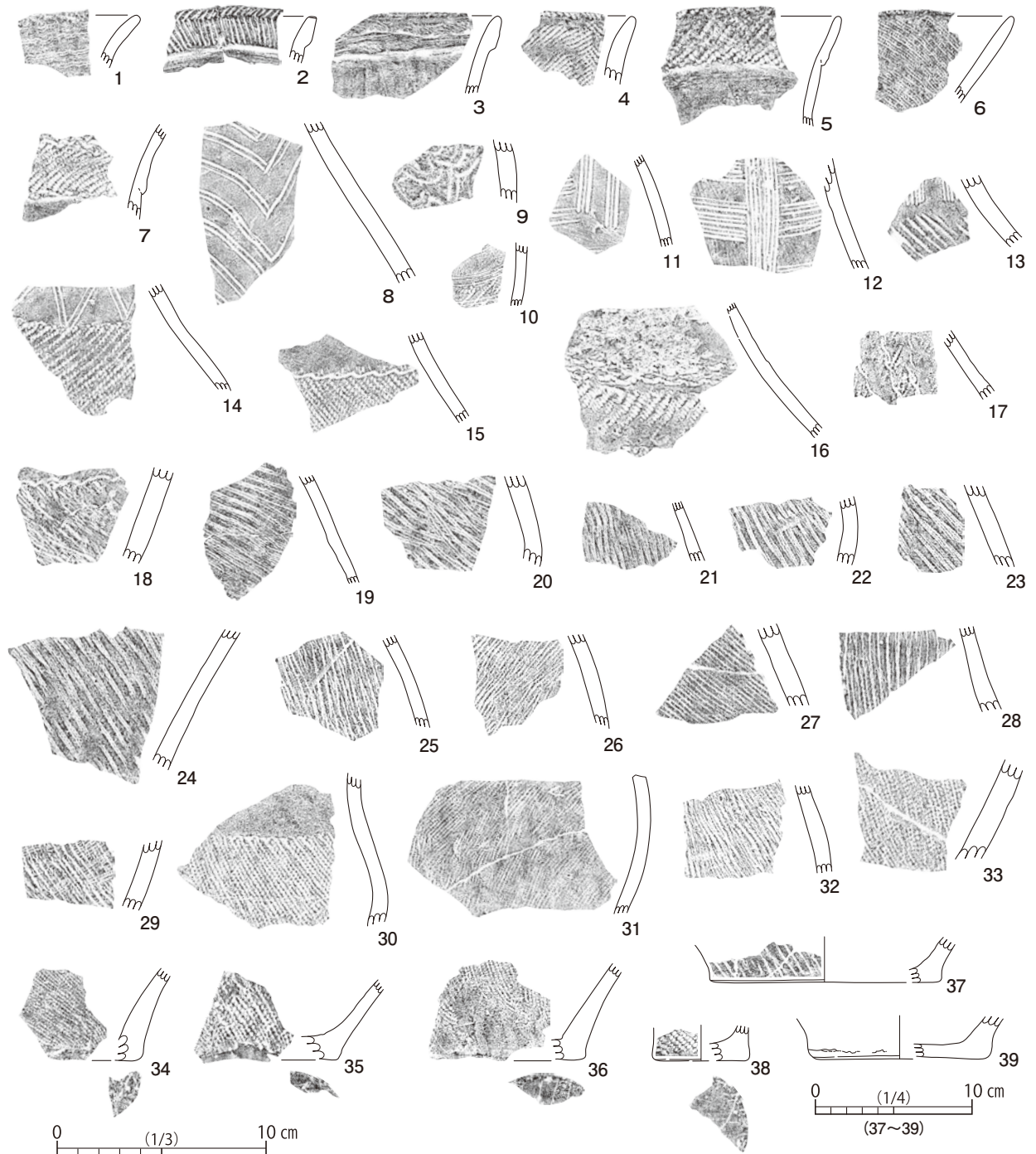


SD-001



第46図 SM-001・SD-001（1）

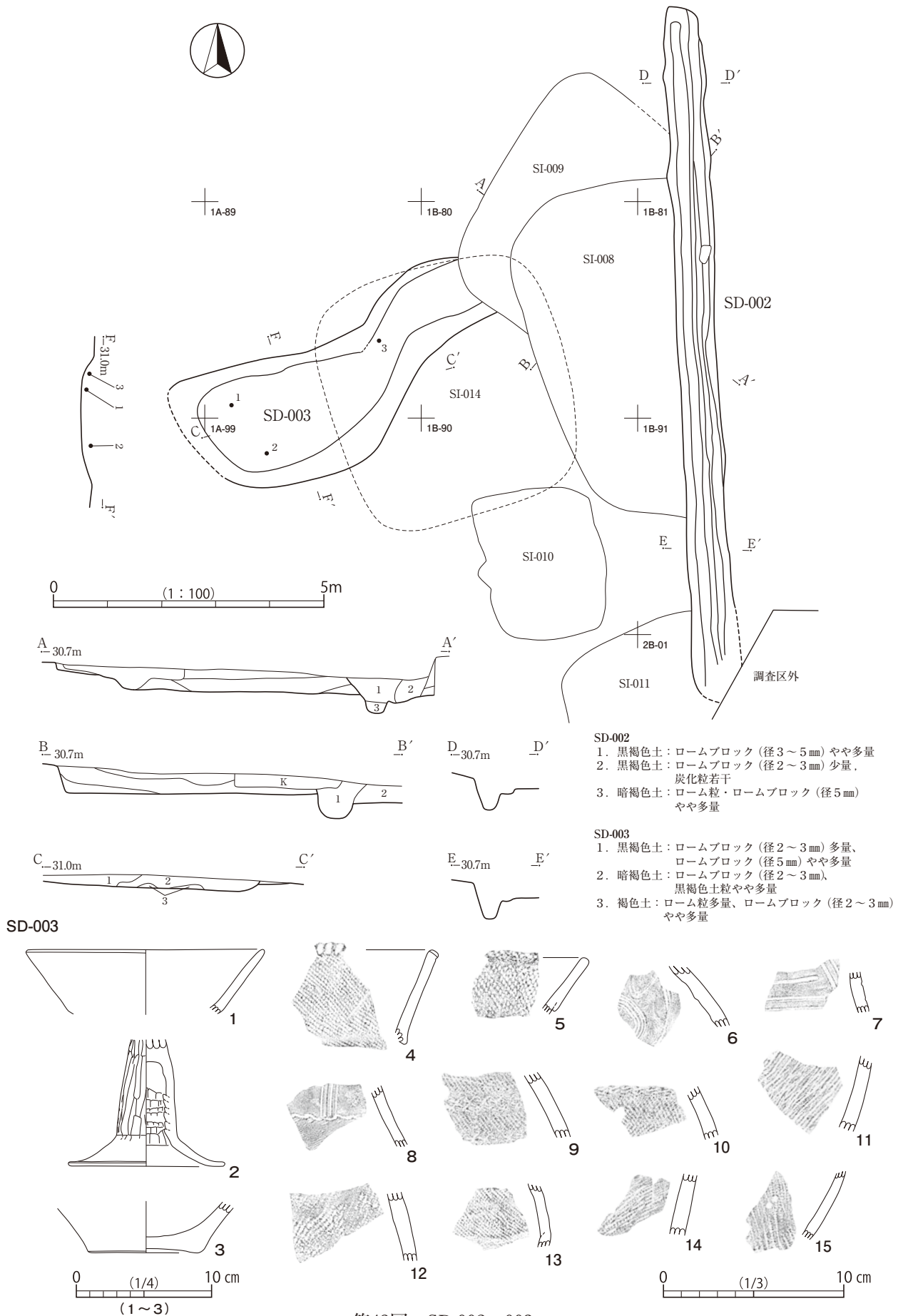
SM-001



第47図 SM-001・SD-001 (2)

する谷である。SI-008・009・011と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。北側は立ち上がって溝端部となり、南側は調査区域外になるが、谷頭に沿ってある程度続いていくものと思われる。走行方向はN-3°-Wである。規模は現存総延長12.7mで、幅は現状で0.72m～0.8mであるが、幅0.4m～0.5mの溝2条が重複したもので、西側の溝の方が新しい。底面はいずれも北側が若干低くなっているが、ほぼ平坦として差し支えない程度である。確認面からの深さは西側が68cm前後、東側が56cm前後である。

出土遺物の数量は8点である。全て弥生土器や土師器の摩滅した小破片で、図示できるものはない。



第48図 SD-002・003

SD-003 (第48図、第7表、図版15・27)

1A-89・99、1B-80グリッドの位置にある。SI-009・014と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。1A-99グリッド基準杭付近から掘り込まれ、緩やかにS字状に蛇行して谷に向かっていくものと思われる。走行方向はN-56°-Eである。規模は現存総延長6.0mで、幅は南西側が2.4m、北東側が1.4mである。底面は南西側から北東側に向かって低くなっているが、確認面からの深さは南西側が20cm前後、北東側が8cm前後である。

出土遺物の数量は163点で、図示したものは土師器3点、弥生土器12点である。

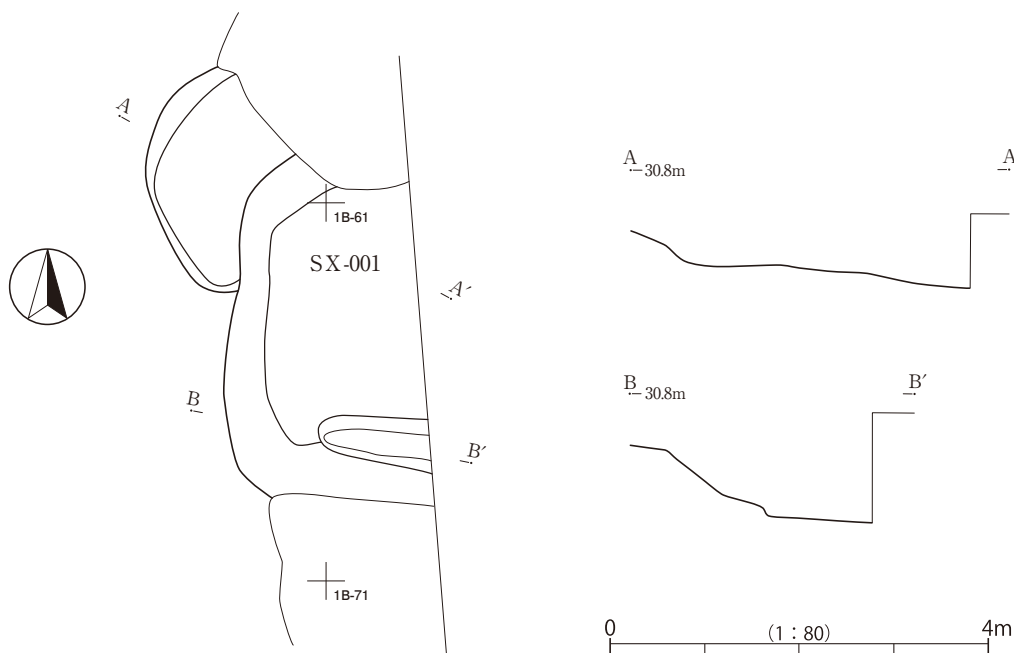
1～3は土師器である。1・2は高杯である。1は杯部で、口径が大きく口縁部は直線的に立ち上がる。2は脚部で、ラップ状に外反する屈折脚で、裾部は強く屈曲して広がる。脚柱部内面は輪積痕を残し、天井部はナデ調整が施される。3は甕の底部である。

4～15は弥生土器である。4・5は口縁部で、複合口縁である。4は口唇部に縄文原体による刻み目、口縁部に単節斜縄文が施される。5は口唇部と口縁部に単節斜縄文が施される。6～15は胴部である。6～8は櫛描き文を持つものである。6は4本櫛描き渦巻き文が施される。7は2本櫛描き縦区画文と横走文が施される。8は8本櫛描き縦区画文とその下にS字状結節文による区画、さらに、その下に単節斜縄文が施される。9は2段のS字状結節文と単節縄文の組み合わせが施される。10は2段のS字状結節文とその下に単節羽状縄文が施される。11・15は撚糸文、12～14は単節斜縄文が施される。

5 竪穴状遺構

SX-001 (第49図、図版15)

1B-50・51・60・61グリッドの位置にある。東側は谷の斜面になっているため、全体の規模は不明である。北側と南側は環境整備に際して重機で掘り過ぎてしまっているが、いずれも現状で壁の立ち上がりが見ら



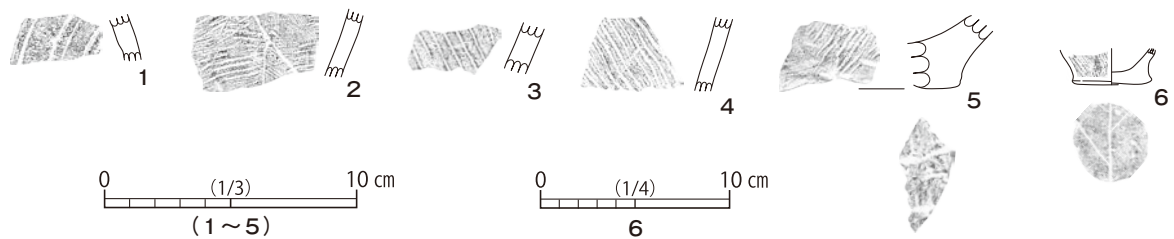
第49図 SX-001

れる。北西側に土坑状の掘り込みが見られるが、新旧関係は不明である。平面形は方形あるいは長方形になると思われる。長軸方向はN -3.5° - E、規模はいずれも現存で長軸3.6m、短軸2.04mで、確認面からの深さは0.45m前後である。南端に現存長1.2m、幅0.5m、深さ0.05m～0.09mの溝状の掘り込みが見られる。北西側の土坑状の掘り込みは、胴を張る方形あるいは長方形になるものと思われる。長軸方向はN -27.5° - W、規模は推定長軸2.2m、現存短軸1.6mで、確認面からの深さは深い所で0.3mである。

出土遺物の数量は総数36点で、図示できるものはない。弥生土器や土師器の小破片が大部分で、近世土器と磁器が各1点出土している。

6 グリッド出土の弥生土器 (第50図、第7表、図版27)

グリッドから出土した弥生土器の主なものを図示した。1～4は胴部である。1は2本櫛描き渦巻き文が施される。2～4は撚糸文が施される。1～3は1A-77グリッド、4は1B-80グリッドから出土した。5・6は底部で、いずれも撚糸文が施され、木葉痕が見られる。5は1A-56グリッド、6は1A-46グリッドから出土した。



第50図 グリッド出土弥生土器

第7表 土器観察表

()推定 < >現存長

遺構	棟号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-001	第12図-1	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・黄色砂粒多量	内面 ぶい橙色 (7.5YR6/4) 外面 ぶい褐色 (7.5YR6/3) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	2条締め燃糸文
SI-001	第12図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 ぶい橙色 (7.5YR7/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文
SI-001	第12図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・石英粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/3) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文
SI-001	第12図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・石英粒微量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 ぶい橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文
SI-001	第12図-5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・石英粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黒褐色 (5YR2/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文
SI-002	第13図-1	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 明褐色 (7.5YR7/2) 外面 ぶい褐色 (7.5YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文
SI-002	第13図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文
SI-003	第15図-1	弥生	壺	口径 (17.0) 底径 - 器高 <4.1>	口縁部～頸部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部燃糸文 複合口縁指頭押圧 3本脚描き波状文
SI-003	第15図-2	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部縄文原体による刻み目 単節縄文LR+棒状工具による刻み目
SI-003	第15図-3	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	石英粒・白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 黒褐色 (7.5YR2/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部燃糸原体刻み目 口縁部燃糸文 3本脚描き縦区画+横走文
SI-003	第15図-4	弥生	壺	口径 (20.0) 底径 - 器高 <14.4>	口縁部～頸部	雲母粒・石英粒多量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 不良	内面 荒れている 外面 赤彩 底外面 -	口唇部単節縄文LR 8本脚描き縦区画+波状文
SI-003	第15図-5	弥生	壺	口径 (20.5) 底径 - 器高 <15.0>	口縁部～頸部	雲母粒・白色砂粒・砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 褐色 (5YR7/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文LR 口縁部下端ヘラ状工具刻み目 6本脚描き横走文
SI-003	第15図-6	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部ヘラ描き沈線+縄文原体刻み目 ヘラ描き縦区画・斜格子文
SI-003	第15図-7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・石英粒多量	内面 黒褐色 (2.5Y3/1) 外面 黄灰色 (2.5Y5/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部燃糸文 ヘラ描き斜格子文
SI-003	第15図-8	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒微量	内面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 不良	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部ヘラ状工具刻み目 2本脚描き連続状文+縦接線
SI-003	第15図-9	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒少量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部燃糸文 4本脚描き縦区画+横走文
SI-003	第15図-10	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒多量	内面 赤褐色 (5YR4/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 不良	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	5本脚描き縦区画+波状文
SI-003	第15図-11	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・石英粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 灰黄褐色 (10YR6/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	7本脚描き波状文
SI-003	第15図-12	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒・白色砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文LR 2本脚描き縦区画+横走文
SI-003	第15図-13	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	赤色砂粒少量	内面 暗褐色 (10YR3/4) 外面 極暗褐色 (7.5YR2/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文LR 2本脚描き縦区画+横走文
SI-003	第15図-14	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒・白色砂粒多量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	指頭交互押圧による波状口縁 2本脚描き縦区画+波状文
SI-003	第15図-15	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒少量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 黒褐色 (7.5YR2/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部縄文原体刻み目 5本脚描き縦区画+横走文
SI-003	第15図-16	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	雲母粒・白色砂粒・砂粒多量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部燃糸原体による刻み目 口縁部燃糸文R 燃糸文R
SI-003	第15図-17	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	雲母粒・砂粒少量	内面 黒褐色 (2.5Y3/2) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部燃糸文 口縁部燃糸文R
SI-003	第15図-18	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR4/1) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 単節縄文LR
SI-003	第15図-19	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	赤色砂粒・白色砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 単節縄文RL
SI-003	第15図-20	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	石英粒・白色砂粒少量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラ磨き 底外面 -	口唇部縄文原体による押圧 単節縄文LR
SI-003	第15図-21	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部縄文 無節縄文L
SI-003	第15図-22	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 ヘラ磨き 底外面 -	口唇部単節縄文 単節縄文RL
SI-003	第15図-23	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	砂粒多量	内面 黒色 (7.5YR2/1) 外面 黒色 (7.5YR2/1) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ヘラナデ 底外面 -	口唇部縄文原体による刻み目 無節縄文R
SI-003	第15図-24	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒少量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	口唇部燃糸文
SI-003	第15図-25	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部櫛歯状工具交互押圧 6本脚描き縦走文
SI-003	第15図-26	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	赤色砂粒・白色砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	ヘラ状工具交互押圧による波状口縁
SI-003	第15図-27	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ハケ 外面 ハケ 底外面 -	指頭交互押圧による波状口縁
SI-003	第15図-28	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒少量	内面 浅黄褐色 (7.5YR8/6) 外面 褐色 (7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	2本脚描き渦巻き文
SI-003	第15図-29	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒少量	内面 黄褐色 (7.5YR7/8) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ざらつく 外面 - 底外面 -	2本脚描き渦巻き文
SI-003	第15図-30	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	肩部	白色砂粒微量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	2本脚描き連弧文

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-003	第15図-31	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 黄褐色 (7.5YR7/8) 外面 褐色 (7.5YR7/6) 底面 不良 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	2本櫛描き縦区画文+7本櫛描き横走文 2本櫛描き渦巻き文
SI-003	第15図-32	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒少量	内面 黄褐色 (7.5YR7/8) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 底面 良好 焼成	内面 ざらつく 外面 - 底面 -	2本櫛描き連弧文
SI-003	第15図-33	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/8) 外面 明赤褐色 (5YR5/8) 底面 良好 焼成	内面 ざらつく 外面 - 底面 -	4本櫛描き連弧文
SI-003	第15図-34	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 明褐色 (7.5YR5/6) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2本櫛描き連弧文
SI-003	第15図-35	弥生	小形壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2本櫛描き重四角文
SI-003	第15図-36	弥生	小形壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 赤褐色 (5YR4/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2本櫛描き重四角文 捺糸文
SI-003	第15図-37	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 黒褐色 (7.5YR2/2) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	口縁部捺糸文 3本櫛描き縦区画文+連弧文+横走文
SI-003	第16図-38	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒・砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 底面 良好 焼成	内面 ざらつく 外面 - 底面 -	3本櫛描き縦区画文+横走文
SI-003	第16図-39	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	石英粒少量	内面 浅黄褐色 (10YR8/4) 外面 赤褐色 (10YR7/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き縦区画文+4本櫛描き横走文
SI-003	第16図-40	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒・砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/8) 外面 黒褐色 (7.5YR2/2) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き縦区画文+横走文
SI-003	第16図-41	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	白色砂粒・砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 赤褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	4本櫛描き・ヘラ描き斜線交差縦区画文+3本櫛描き波状文 捺糸文R
SI-003	第16図-42	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	石英粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/8) 外面 明赤褐色 (5YR5/8) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	5本櫛描き波状文
SI-003	第16図-43	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	白色砂粒少量	内面 褐灰色 (7.5YR4/1) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	7本櫛描き・ヘラ描き斜線交差縦区画文+6本櫛描き波状文
SI-003	第16図-44	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	白色砂粒多量	内面 赤褐色 (7.5YR6/4) 外面 赤褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	4本櫛描き・ヘラ描き斜線交差縦区画文+波状文
SI-003	第16図-45	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	白色砂粒・砂粒多量	内面 赤褐色 (7.5YR6/4) 外面 赤褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	4本櫛描き・ヘラ描き斜線交差縦区画文+3本櫛描き波状文 捺糸文R
SI-003	第16図-46	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	雲母粒・石英粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	2本櫛描き・ヘラ描き斜線交差縦区画文+3本櫛描き波状文
SI-003	第16図-47	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	石英粒・赤色砂粒・黒色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	11本櫛描き波状縦区画文+波状文
SI-003	第16図-48	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	雲母粒・砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 底面 不良 焼成	内面 荒れている 外面 赤彩 底面 -	8本櫛描き縦区画文+波状文
SI-003	第16図-49	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	石英粒・赤色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 赤褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	5本櫛描き縦区画文+横走文
SI-003	第16図-50	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	石英粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/8) 外面 明赤褐色 (5YR5/8) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	5本櫛描き縦区画文+波状文
SI-003	第16図-51	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	石英粒・白色砂粒少量	内面 褐灰色 (5YR5/1) 外面 褐色 (5YR6/6) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	7本櫛描き縦区画文+波状文
SI-003	第16図-52	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 底面 良好 焼成	内面 ざらつく 外面 - 底面 -	6本櫛描き縦区画文 捺糸文
SI-003	第16図-53	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒・赤色砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR8/5) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	7本櫛描き縦区画文 捺糸文L
SI-003	第16図-54	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	4本櫛描き縦区画文+波状文 捺糸文R
SI-003	第16図-55	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	白色砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 赤褐色 (10YR7/5) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	4本櫛描き縦区画文 単節縄文LR
SI-003	第16図-56	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	雲母粒・砂粒少量	内面 赤褐色 (10YR7/3) 外面 赤褐色 (10YR6/3) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	櫛描き横走文 単節縄文LR
SI-003	第16図-57	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2本櫛描き横走文 単節縄文RL
SI-003	第16図-58	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 赤褐色 (10YR7/3) 外面 灰黄褐色 (10YR5/2) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	地文捺糸文L+ヘラ描き沈線文
SI-003	第16図-59	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 赤褐色 (7.5YR5/3) 外面 黒色 (7.5YR2/1) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	ヘラ描き沈線区画文 捺糸文L
SI-003	第16図-60	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	6本櫛描き縦走文
SI-003	第16図-61	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒少量	内面 赤褐色 (10YR6/4) 外面 赤褐色 (10YR7/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き横走羽状文
SI-003	第16図-62	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒多量	内面 赤褐色 (10YR6/4) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き横走羽状文
SI-003	第16図-63	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 赤褐色 (10YR6/4) 底面 良好 焼成	内面 荒れている 外面 - 底面 -	3~4本櫛描き横走羽状文
SI-003	第16図-64	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒少量	内面 赤褐色 (7.5YR7/4) 外面 赤褐色 (10YR7/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き横走羽状文
SI-003	第16図-65	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 赤褐色 (10YR6/4) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き横走羽状文
SI-003	第16図-66	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒少量	内面 赤褐色 (10YR6/4) 外面 灰黄褐色 (10YR5/2) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き横走羽状文
SI-003	第16図-67	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR7/6) 底面 良好 焼成	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き横走羽状文

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-003	第16図-68	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本脚描き横走羽状文
SI-003	第16図-69	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	4本脚描き横走羽状文
SI-003	第16図-70	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部下端	砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	5本脚描き縦走文
SI-003	第16図-71	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 におい・黄褐色 (10YR7/3) 外面 におい・褐色 (7.5YR7/3) 焼成 不良	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	Z字状結節文+単節縄文LR-RL
SI-003	第16図-72	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ざらつく 外面 - 底外面 -	Z字状結節文+単節縄文LR
SI-003	第16図-73	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい・黄褐色 (10YR7/3) 外面 におい・黄褐色 (10YR7/3) 焼成 不良	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	Z字状結節文+単節縄文LR
SI-003	第16図-74	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ハケ 底外面 -	Z字状結節文
SI-003	第16図-75	弥生	小形甕	口径 - 底径 (8.0) 器高 <10.9>	頸部~胴部	石英粒少量	内面 黒褐色 (5YR2/1) 外面 黒褐色 (5YR2/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文+単節縄文RL 捺糸文R
SI-003	第16図-76	弥生	小形甕	口径 - 底径 - 器高 <5.9>	頸部~胴部	石英粒少量	内面 黒褐色 (5YR2/1) 外面 黒褐色 (5YR2/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文+単節縄文RL 捺糸文R
SI-003	第16図-77	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR7/6) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文L (2種類)
SI-003	第16図-78	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L 単節縄文LR
SI-003	第16図-79	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 灰白色 (10YR8/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文L 単節縄文RL
SI-003	第16図-80	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 灰白色 (10YR8/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文L 単節縄文RL
SI-003	第16図-81	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 暗褐色 (7.5YR3/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L 単節縄文LR
SI-003	第16図-82	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第16図-83	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒少量	内面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第16図-84	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒・砂粒少量	内面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第16図-85	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第16図-86	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 におい・黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-87	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-88	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい・黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-89	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-90	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 黄灰褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-91	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒少量	内面 におい・褐色 (10YR7/4) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-92	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒微量	内面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-93	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-94	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-95	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 におい・赤褐色 (5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-96	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい・黄褐色 (10YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-97	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (5YR3/1) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文R
SI-003	第17図-98	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 におい・褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文R
SI-003	第17図-99	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒多量	内面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文R
SI-003	第17図-100	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 におい・褐色 (7.5YR6/3) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-101	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 灰褐色 (10YR4/1) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-102	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい・褐色 (7.5YR5/3) 外面 におい・褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-103	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文L
SI-003	第17図-104	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文L

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-003	第17図-105	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒・砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 におい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-106	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-003	第17図-107	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒・砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-003	第17図-108	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 におい黄褐色 (10YR5/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ざらつく 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-109	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-110	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 におい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-111	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-003	第17図-112	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 暗赤褐色 (5YR3/2) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-113	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-114	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-115	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒少量・砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-116	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-117	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 赤褐色 (5YR4/6) 外面 におい赤褐色 (5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-118	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-003	第17図-119	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR5/3) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-003	第17図-120	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 明赤褐色 (7.5YR4/3) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-121	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR4/3) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-122	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-003	第17図-123	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-124	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 褐色 (7.5YR4/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-125	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-126	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-003	第17図-127	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR5/3) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第17図-128	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-003	第18図-129	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR5/3) 外面 灰黄褐色 (10YR5/2) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	2条絡め捺糸文 L
SI-003	第18図-130	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	附加条縄文 LR
SI-003	第18図-131	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部～胴部	赤色砂粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	附加条縄文 RL
SI-003	第18図-132	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒微量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 におい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 外面赤影 底外面 -	単節羽状縄文 LR 単節縄文による鋸歯状文
SI-003	第18図-133	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 灰褐色 (7.5YR5/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-003	第18図-134	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-003	第18図-135	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 赤影 底外面 -	単節縄文 LR
SI-003	第18図-136	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-003	第18図-137	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒少量	内面 浅灰色 (2.5Y7/3) 外面 におい黄褐色 (10YR7/3) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-003	第18図-138	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-003	第18図-139	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 灰褐色 (5YR5/2) 外面 におい赤褐色 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-003	第18図-140	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒・砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR5/3) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-003	第18図-141	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒多量	内面 明黄褐色 (10YR7/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 網代痕 底外面 -	捺糸文 L

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-003	第18図-142	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	雲母粒・大粒砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR7/6) 外面 におい 橙色 (7.5YR7/4) 底外面 網代痕	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 網代痕	単節縄文 LR
SI-003	第18図-143	弥生	甕	口径 - 底径 134 器高 <7.7>	底部	砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 におい 黄褐色 (10YR5/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 L
SI-003	第18図-144	弥生	甕	口径 - 底径 (7.1) 器高 <5.1>	底部	白色砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR5/2) 外面 におい 褐色 (7.5YR5/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 R
SI-003	第18図-145	弥生	甕	口径 - 底径 (9.6) 器高 <2.0>	底部	砂粒多量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 圧痕	捺糸文 R
SI-003	第18図-146	弥生	甕	口径 - 底径 7.8 器高 <5.6>	底部	雲母粒・砂粒少量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 におい 橙色 (5YR6/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 L
SI-003	第18図-147	弥生	甕	口径 - 底径 (6.2) 器高 <2.8>	底部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい 黄褐色 (10YR7/3) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 L
SI-003	第18図-148	弥生	甕	口径 - 底径 5.1 器高 <2.4>	底部	砂粒少量	内面 におい 黄褐色 (10YR7/4) 外面 におい 黄褐色 (10YR7/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 網代痕	捺糸文 R
SI-003	第18図-149	弥生	甕	口径 - 底径 (5.4) 器高 <1.8>	底部	砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR5/2) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 ヘラナデ	単節縄文 LR
SI-003	第18図-150	弥生	甕	口径 - 底径 (6.8) 器高 <3.6>	底部	砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR4/4) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	単節縄文 RL
SI-003	第18図-151	弥生	甕	口径 - 底径 8.3 器高 <3.1>	底部	石英粒・白色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR5/4) 底外面 良好	内面 ナデ 外面 ヘラナデ 底外面 木葉痕	
SI-003	第18図-152	弥生	甕	口径 - 底径 (7.5) 器高 <2.5>	底部	白色砂粒少量	内面 灰褐色 (5YR5/2) 外面 におい 赤褐色 (5YR5/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	
SI-003	第18図-153	弥生	甕	口径 - 底径 (8.0) 器高 <3.8>	底部	雲母粒少量	内面 褐灰色 (5YR4/1) 外面 におい 赤褐色 (5YR5/4) 底外面 良好	内面 荒れている 外面 荒れている 底外面 荒れている	
SI-003	第18図-154	弥生	甕	口径 - 底径 (7.0) 器高 <4.2>	底部	石英粒少量	内面 褐灰色 (7.5YR5/1) 外面 灰褐色 (7.5YR6/2) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 ヘラナデ	
SI-003	第18図-155	土師器	器台	口径 - 底径 (8.0) 器高 <3.1>	台部	赤色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	
SI-003	第18図-156	土師器	ミニチュア土器	口径 (4.0) 底径 - 器高 2.3	全体 25%	白色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 底外面 良好	内面 指頭 外面 指頭 底外面 指頭	底部外面縄圧痕
SI-004	第21図-1	土師器	埴	口径 121 底径 - 器高 <12.6>	口縁部~胴部 70%	赤色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR7/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR7/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ ナデ 外面 ヘラナデ ナデ 底外面 -	
SI-004	第21図-2	土師器	小型丸底壺	口径 15.1 底径 3.8 器高 9.8	100%	白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 ヘラナデ	
SI-004	第21図-3	土師器	甕	口径 - 底径 - 器高 <4.4>	頸部 20%	白色砂粒少量	内面 におい 赤褐色 (5YR5/3) 外面 におい 赤褐色 (5YR5/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 ハケ	
SI-004	第21図-4	弥生	甕	口径 (15.8) 底径 - 器高 <9.1>	口縁部~胴部 25%	砂粒少量	内面 明褐色 (5YR5/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部単節縄文 RL 口縁部単節羽状縄文 RL-LR 単節縄文 RL
SI-004	第21図-5	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部~頸部	白色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部下端棒状工具による刻み目
SI-004	第21図-6	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい 黄褐色 (10YR5/3) 外面 におい 黄褐色 (10YR4/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部内面無節縄文
SI-004	第21図-7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・石英粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 褐色 (10YR4/6) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部単節縄文 RL 単節縄文 RL
SI-004	第21図-8	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR5/4) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部単節縄文 単節縄文 LR
SI-004	第21図-9	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部~頸部	砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 におい 黄褐色 (10YR7/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部単節縄文 RL
SI-004	第21図-10	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 におい 黄褐色 (10YR6/3) 外面 におい 黄褐色 (10YR6/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部単節縄文
SI-004	第21図-11	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 褐色 (10YR4/4) 外面 黒褐色 (5YR3/1) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部単節縄文 突帯+刺突文
SI-004	第21図-12	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・砂粒少量	内面 褐灰色 (10YR4/1) 外面 褐灰色 (10YR4/1) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部単節縄文
SI-004	第21図-13	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR5/4) 外面 褐灰色 (7.5YR4/1) 底外面 良好	内面 ハケ ヘラナデ 外面 ハケ 底外面 -	指頭交互押圧による波状口縁
SI-004	第21図-14	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒微量	内面 灰褐色 (7.5YR5/2) 外面 灰褐色 (7.5YR5/2) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	指頭内側押圧による波状口縁
SI-004	第21図-15	弥生	甕	口径 - 底径 (5.4) 器高 <4.3>	口縁部 20%	石英粒・砂粒少量	内面 におい 赤褐色 (5YR5/3) 外面 におい 赤褐色 (5YR5/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部面取り
SI-004	第21図-16	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒少量	内面 におい 黄褐色 (10YR7/4) 外面 におい 黄褐色 (10YR6/4) 底外面 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	4本櫛描き渦巻き文
SI-004	第21図-17	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR7/6) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本櫛描き重四角文
SI-004	第21図-18	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 におい 黄褐色 (10YR6/4) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	4本櫛描き横走文
SI-004	第21図-19	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/3) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本櫛描き波状文
SI-004	第21図-20	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	黒色砂粒・砂粒少量	内面 赤褐色 (5YR4/6) 外面 暗褐色 (7.5YR3/3) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本櫛描き連弧文 突帯 2本櫛描き横走文
SI-004	第21図-21	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 底外面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	3本櫛描き縦区画文+波状文
SI-004	第21図-22	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 におい 黄褐色 (10YR6/4) 底外面 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	8本櫛描き縦区画文 S字状結節文+単節縄文 RL

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-004	第21図-23	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂礫多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 外面 ぶい橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	ヘラ描き山形区画・S字状結節文
SI-004	第21図-24	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色砂粒・砂粒少量	内面 暗黄褐色 (10YR6/6) 外面 橙色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	ハケ状工具による刻み目
SI-004	第21図-25	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	地文単節羽状縄文 L-R・L + S 字状結節文
SI-004	第21図-26	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 暗褐色 (7.5YR3/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	地文単節縄文 RL + S 字状結節文
SI-004	第21図-27	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	地文単節縄文 RL + S 字状結節文 + 捺糸文 L
SI-004	第21図-28	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	地文単節縄文 RL + S 字状結節文
SI-004	第21図-29	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2条絡め捺糸文 L-R
SI-004	第21図-30	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒微量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2条絡め捺糸文 L
SI-004	第21図-31	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 外面 褐灰色 (10YR5/1) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-004	第21図-32	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-004	第21図-33	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-004	第21図-34	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-004	第21図-35	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 褐色 (10YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-004	第21図-36	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐灰色 (10YR4/1) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-37	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR7/6) 外面 橙色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-38	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-39	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐灰色 (7.5YR4/1) 外面 ぶい橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 RL-LR
SI-004	第21図-40	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐灰色 (10YR4/1) 外面 褐灰色 (7.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 L-R・RL
SI-004	第21図-41	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 暗赤褐色 (5YR3/2) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 L-R・RL
SI-004	第21図-42	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 L-R・RL
SI-004	第21図-43	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 RL-LR
SI-004	第21図-44	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-45	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-46	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 褐灰色 (7.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-47	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒・白色砂粒多量	内面 褐灰色 (GYR4/1) 外面 褐灰色 (GYR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-48	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・砂礫微量	内面 橙色 (7.5YR7/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第21図-49	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第22図-50	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 明黄褐色 (10YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-004	第22図-51	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第22図-52	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第22図-53	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 褐灰色 (7.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第22図-54	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第22図-55	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒微量	内面 明黄褐色 (10YR7/6) 外面 明褐色 (7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第22図-56	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 外面 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	単節縄文 LR
SI-004	第22図-57	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-004	第22図-58	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-004	第22図-59	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-004	第22図-60	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 橙色 (7.5YR7/6) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	無節縄文 R
SI-004	第22図-61	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 R
SI-004	第22図-62	弥生	甕	口径 - 底径 (5.8) 器高 <2.35>	底部 50%	石英粒・白色砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR6/2) 外面 におい橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 R
SI-004	第22図-63	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒微量	内面 におい黄褐色 (10YR7/4) 外面 におい黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 R
SI-004	第22図-64	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	雲母粒・白色砂粒・砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR7/6) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 摩滅している	単節縄文 LR
SI-004	第22図-65	弥生	甕	口径 - 底径 (8.6) 器高 <3.5>	底部	石英粒多量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 橙色 (7.5YR6/8) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 摩滅している	単節縄文 LR
SI-004	第22図-66	弥生	甕	口径 - 底径 (10.2) 器高 <2.2>	底部	砂粒少量	内面 におい橙色 (7.5YR7/4) 外面 におい橙色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 木葉痕	単節縄文 LR
SI-004	第22図-67	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	白色砂粒多量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 赤褐色 (5YR4/8) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	無節縄文 L
SI-004	第22図-68	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR7/6) 外面 におい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 木葉痕	単節縄文 RL
SI-004	第22図-69	弥生	甕	口径 - 底径 (5.4) 器高 <4.3>	底部 40%	砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 におい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 木葉痕	
SI-005	第20図-1	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 におい橙色 (7.5YR7/4) 外面 橙色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	2本櫛描き渦巻き文 捺糸文 L
SI-005	第20図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒微量	内面 におい橙色 (7.5YR6/4) 外面 におい橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 RL-LR 突帯+縄文原体による押圧
SI-005	第20図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 におい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-006	第23図-1	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文 単節羽状縄文 RL-LR
SI-006	第23図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR7/4) 外面 におい黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-006	第23図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒少量	内面 褐灰色 (10YR4/1) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 ヘラナデ	単節縄文 LR
SI-008	第25図-1	弥生	壺	口径 18.4 底径 - 器高 <11.2>	口縁部~頸部 100%	砂粒少量	内面 橙色 (2.5YR6/6) 外面 におい赤褐色 (2.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 赤彩 外面 ヘラナデ 赤彩 底外面 -	口縁部下端棒状工具による刻み目
SI-008	第25図-2	土師器	甕	口径 (1.38) 底径 - 器高 <4.2>	口縁部 10%	砂粒多量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ ハケ 底外面 -	擬似S字状口縁寛
SI-008	第25図-3	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部~頸部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 赤彩 外面 ヘラ磨き 赤彩 底外面 -	口縁部S字状結節文
SI-008	第25図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 におい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部棒状工具による刻み目 ヘラ描き縦区画・斜格子文
SI-008	第25図-5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒微量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部ヘラ状工具による刻み目 5本櫛描き波状文
SI-008	第25図-6	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒少量	内面 褐灰色 (7.5YR4/1) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 2本櫛描き連弧文
SI-008	第25図-7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色砂粒多量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 橙色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	棒状工具交互押擦による波状口縁
SI-008	第26図-8	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	ヘラ描き縦区画・斜格子文
SI-008	第26図-9	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 におい褐色 (5YR7/4) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	3本櫛描き渦巻き文
SI-008	第26図-10	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	白色砂粒多量	内面 におい赤褐色 (5YR5/3) 外面 におい褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	7本櫛描き縦区画文 単節羽状縄文 LR-RL
SI-008	第26図-11	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 荒れている 底外面 -	S状結節文 単節羽状縄文 RL-LR S字状結節文
SI-008	第26図-12	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 におい褐色 (5YR6/4) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 - 底外面 -	S字状結節文 単節縄文 LR
SI-008	第26図-13	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文 単節縄文 LR
SI-008	第26図-14	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR5/3) 外面 におい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ハケ 底外面 -	附加条縄文 LR
SI-008	第26図-15	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL 捺糸文 R
SI-008	第26図-16	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-008	第26図-17	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-008	第26図-18	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 褐灰色 (10YR4/1) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-19	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-20	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-21	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-008	第26図-22	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂礫多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 褐色 (5YR6/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-23	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-24	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂礫少量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 黒色 (7.5YR3/1) 底面 良好	内面 ヘラ磨き 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-25	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/3) 外面 黒色 (7.5YR2/1) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-26	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-27	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-28	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・白色砂粒多量	内面 ぶい赤褐色 (5YR5/4) 外面 灰褐色 (5YR4/2) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-29	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-30	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 灰褐色 (5YR5/2) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-31	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・白色砂粒多量	内面 ぶい褐色 (5YR6/4) 外面 ぶい赤褐色 (5YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節羽状縄文 RL-KR
SI-008	第26図-32	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・黄色砂粒・白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-008	第26図-33	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 ぶい褐色 (7.5YR7/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-008	第26図-34	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・黒色砂粒・白色砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/8) 外面 褐色 (5YR6/6) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-008	第26図-35	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-008	第26図-36	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-008	第26図-37	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 褐色 (7.5YR4/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	無節縄文 L
SI-008	第26図-38	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	黄色砂粒・白色砂粒・砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 外面 褐色 (2.5YR6/8) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 木葉痕 底面 -	単節縄文 RL
SI-008	第26図-39	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	黄色砂粒・白色砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 外面 ぶい褐色 (5YR6/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 木葉痕 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-40	弥生	甕	口径 - 底径 (6.4) 器高 <4.6>	底部 40%	白色砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 網代痕	単節縄文 LR
SI-008	第26図-41	弥生	甕	口径 - 底径 5.5 器高 <7.1>	底部 100%	石英粒・白色砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 灰黄褐色 (10YR5/2) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 木葉痕 底面 -	捺糸文 L
SI-008	第26図-42	弥生	壺	口径 - 底径 (6.0) 器高 <3.5>	底部 40%	白色砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底面 木葉痕	
SI-008	第26図-43	弥生	壺	口径 - 底径 9.0 器高 <6.9>	底部 100%	赤色砂粒・白色砂粒少量	内面 ぶい赤褐色 (5YR5/4) 外面 ぶい赤褐色 (5YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 赤彩 底面 ヘラナデ	
SI-008	第26図-44	弥生	壺	口径 - 底径 (9.2) 器高 <3.4>	底部 40%	白色砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 ヘラ磨き 外面 ヘラ磨き 底面 ヘラ磨き	
SI-010	第28図-1	土師器	杯	口径 12.1 底径 5.9 器高 4.0	100%	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 底面 良好	内面 ナデ 外面 下端手持ちヘラ 底面 回転糸切り手持ちヘラ	内面全体にスス付着 灯明具として使用
SI-010	第28図-2	土師器	杯	口径 12.2 底径 6.4 器高 3.5	95%	微細砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 底面 良好	内面 ナデ 外面 下端手持ちヘラ 底面 手持ちヘラ削り	内面の一部にスス付着
SI-010	第28図-3	土師器	甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 <4.1>	口縁部 10%	石英粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 底面 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ 底面 ヘラ削り	
SI-010	第28図-4	土師器	甕	口径 - 底径 6.2 器高 <5.7>	胴部~底部 70%	微細砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 灰黄褐色 (10YR5/2) 底面 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ヘラ削りヘラ磨き 底面 ヘラ削り	
SI-010	第28図-5	土師器	甕	口径 - 底径 (8.0) 器高 <5.3>	底部 40%	雲母粒・石英粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラ削り 底面 ヘラ削り	
SI-011	第29図-1	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 黒色 (10YR2/1) 底面 良好	内面 ヘラ磨き 外面 ヘラ磨き 底面 -	口唇部単節縄文 RL
SI-011	第29図-2	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	白色砂粒・黄色砂粒・灰色砂粒少量	内面 灰黄色 (2.5Y7/2) 外面 灰黄褐色 (10YR6/2) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 赤彩 底面 -	S字状結節文 単節羽状縄文横方向 RL-LR
SI-011	第29図-3	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・黄色砂粒・灰色砂粒少量	内面 灰黄色 (2.5Y7/2) 外面 灰黄褐色 (10YR6/2) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラ磨き 赤彩 底面 -	単節縄文 RL + S字状結節文
SI-011	第29図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/4) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-011	第29図-5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 褐色 (5YR6/8) 外面 明赤褐色 (5YR5/8) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-011	第29図-6	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒・白色砂粒・砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 外面 赤褐色 (5YR4/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-011	第29図-7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・赤色砂粒微量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SI-011	第29図-8	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・赤色砂粒微量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	附加条縄文 RL
SI-012	第30図-1	土師器	壺	口径 - 底径 5.3 器高 <10.9>	頸部~底部 100%	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 底面 良好	内面 ナデ 外面 ヘラナデ 底面 ヘラナデ	

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-012	第30図-2	土師器	壺	口径 - 底径 - 器高 <112>	頸部~胴部 20%	砂粒多量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラ磨き 底外面 -	
SI-012	第30図-3	土師器	壺	口径 - 底径 - 器高 <103>	胴部 60%	雲母粒・砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR7/4) 外面 におい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラ磨き 底外面 -	
SI-012	第30図-4	土師器	小形甕	口径 (7.3) 底径 - 器高 <27>	口縁部 30%	砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 褐色 (2.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	
SI-012	第30図-5	土師器	甕	口径 - 底径 (7.6) 器高 <141>	胴部~底部 30%	石英粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	
SI-012	第30図-6	土師器	甕	口径 - 底径 (10.0) 器高 <23>	底部 100%	砂粒多量	内面 におい褐色 (5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	
SI-012	第30図-7	土師器	甕	口径 - 底径 4.6 器高 <28>	底部 50%	砂粒少量	内面 におい褐色 (10YR7/3) 外面 におい褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	
SI-012	第30図-8	土師器	甕	口径 - 底径 4.6 器高 <28>	底部 50%	砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR5/3) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	
SI-012	第30図-9	土師器	台付甕	口径 - 底径 6.0 器高 <22>	底部 100%	赤色砂粒・砂粒少量	内面 黄灰色 (2.5YR4/1) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	
SI-012	第30図-10	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR7/4) 外面 におい褐色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 ヘラ磨き 底外面 -	
SI-012	第30図-11	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 におい赤褐色 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 赤彩 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 単節羽状縄文 LR-RL
SI-012	第30図-12	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 におい褐色 (5YR6/3) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 赤彩 外面 赤彩 底外面 -	口唇部単節文 R 単節文 R-L + 棒状浮文 + 単系原体押圧 C による刻み目
SI-012	第30図-13	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 3本揃置き連弧文
SI-012	第30図-14	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・石英粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 黒色 (7.5YR2/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部ヘラ状工具による刻み目 5本揃置き波状文
SI-012	第31図-15	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	赤色砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR5/3) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 附加条縄文 LR 貼瘤 + 棒状工具による刻み目
SI-012	第31図-16	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	茶色砂粒・白色砂粒微量	内面 におい黄褐色 (10YR6/3) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 附加条縄文 LR 棒状工具による刻み目
SI-012	第31図-17	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部~頸部	茶色砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR + 棒状工具による刻み目
SI-012	第31図-18	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 褐色 (10YR4/1) 外面 褐色 (5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	口唇部棒状工具による刻み目
SI-012	第31図-19	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・石英粒微量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単系文 R 単系文 R
SI-012	第31図-20	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・石英粒微量	内面 におい黄褐色 (10YR7/3) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本揃置き渦巻き文
SI-012	第31図-21	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	砂粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	尖帯 2本揃置き連弧文
SI-012	第31図-22	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・石英粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本揃置き渦巻き文
SI-012	第31図-23	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本揃置き渦巻き文 + 横接線
SI-012	第31図-24	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	雲母粒・白色砂粒微量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 褐色 (7.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	5本揃置き縦区画文
SI-012	第31図-25	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR6/2) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	4本揃置き横走文 2条締め単系文 R
SI-012	第31図-26	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	石英粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	竹管による連続刺突文
SI-012	第31図-27	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR7/4) 外面 におい褐色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 - 底外面 -	S字状結節文 + 単系文 R S字状結節文 + 斜格子状単系文 R-L
SI-012	第31図-28	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 灰褐色 (5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	附加条縄文 LR + S字状結節文
SI-012	第31図-29	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒多量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 赤彩 底外面 -	S字状結節文 附加条縄文 RL
SI-012	第31図-30	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/4) 外面 灰褐色 (5YR4/2) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 -	附加条縄文 RL + S字状結節文 Z字状結節文 + 附加条縄文 LR-RL
SI-012	第31図-31	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	砂粒少量	内面 褐色 (5YR7/6) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	竹管による連続刺突文 S字状結節文 単節羽状縄文 LR-RL
SI-012	第31図-32	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	ヘラ描き山形区画文 + S字状結節文
SI-012	第31図-33	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 におい赤褐色 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 赤彩 底外面 -	S字状結節文 単節羽状縄文 LR-RL
SI-012	第31図-34	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 におい褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文 単節羽状縄文 LR-LR
SI-012	第31図-35	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 におい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文 単節羽状縄文 RL-LR S字状結節文
SI-012	第31図-36	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR5/2) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 RL-LR S字状結節文
SI-012	第31図-37	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい黄褐色 (10YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	Z字状結節文 無節縄文 L
SI-012	第31図-38	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒少量	内面 褐色 (2.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 RL-RL Z字状結節文

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-012	第31図-39	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2条締め燃糸文 R
SI-012	第31図-40	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR7/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2条締め燃糸文 L
SI-012	第31図-41	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒微量	内面 におい 黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい 黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-42	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-43	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-44	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい 褐色 (5YR6/3) 外面 におい 褐色 (5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-45	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい 黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 R
SI-012	第31図-46	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 赤褐色 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 R
SI-012	第31図-47	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 灰褐色 (5YR4/2) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	燃糸文 R
SI-012	第31図-48	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR5/3) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-49	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-50	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・石英粒少量	内面 におい 赤褐色 (5YR5/4) 外面 灰褐色 (5YR5/2) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	燃糸文 R
SI-012	第31図-51	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい 褐色 (7.5YR7/4) 外面 灰褐色 (7.5YR5/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-52	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい 褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-53	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂礫多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐灰色 (5YR4/1) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-012	第31図-54	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色砂粒多量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/3) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-012	第31図-55	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 灰黄褐色 (10YR6/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-012	第31図-56	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 におい 黄褐色 (10YR7/3) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-012	第31図-57	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-012	第31図-58	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 におい 黄褐色 (10YR7/4) 外面 浅黄褐色 (7.5YR8/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 RL-LR
SI-012	第31図-59	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒・白色砂粒多量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-012	第31図-60	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒・白色砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/8) 外面 黒褐色 (5YR2/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-012	第31図-61	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 におい 黄褐色 (10YR5/3) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-012	第32図-62	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒多量	内面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい 褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L
SI-012	第32図-63	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L
SI-012	第32図-64	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 におい 褐色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 木葉痕	S字状結節文
SI-012	第32図-65	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒少量	内面 におい 赤褐色 (5YR5/4) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 木葉痕	Z字状結節文
SI-012	第32図-66	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	白色砂粒多量	内面 褐灰色 (7.5YR4/1) 外面 におい 褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 摩滅している	単節縄文 LR
SI-012	第32図-67	弥生	甕	口径 - 底径 (12.0) 器高 <2.9>	底部	砂礫多量	内面 におい 褐色 (5YR6/4) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 木葉痕	燃糸文 L
SI-012	第32図-68	弥生	甕	口径 - 底径 (7.0) 器高 <3.7>	底部	砂粒少量	内面 褐灰色 (10YR6/1) 外面 におい 黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	燃糸文 R
SI-012	第32図-69	弥生	壺	口径 - 底径 (5.4) 器高 <2.5>	底部	砂粒多量	内面 灰褐色 (5YR6/2) 外面 褐灰色 (5YR4/1) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 荒れている	燃糸文 R
SI-012	第32図-70	弥生	壺	口径 - 底径 (7.2) 器高 <5.4>	底部 75%	砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 におい 褐色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	
SI-013	第32図-1	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-013	第32図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色微細砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-013	第32図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 明黄褐色 (10YR7/6) 外面 明褐色 (7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-015	第34図-1	弥生	壺	口径 - 底径 12.8 器高 <35.5>	胴部~底部	赤色砂粒・砂粒多量	内面 におい 黄褐色 (10YR6/4) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 木葉痕	4本揃書き山形文+横走文 単節縄文 LR
SI-016	第36図-1	土師器	壺	口径 (12.5) 底径 - 器高 <5.1>	口縁部 20%	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-016	第36図-2	土師器	鉢	口径 (11.7) 底径 - 器高 <7.8>	口縁部 20%	白色砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 明褐色 (7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	
SI-016	第36図-3	土師器	高杯	口径 19.4 底径 - 器高 <6.0>	杯部 50%	雲母粒・砂粒少量	内面 におい橙色 (5YR6/4) 外面 褐色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 ヘラ磨き 底外面 -	
SI-016	第36図-4	土師器	高杯	口径 - 底径 (14.6) 器高 <9.0>	脚部 60%	赤色砂粒・白色砂粒・砂粒少量	内面 におい橙色 (7.5YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ヘラ磨き 底外面 -	
SI-016	第36図-5	土師器	高杯	口径 - 底径 15.4 器高 <10.6>	脚部 70%	白色砂粒・砂粒少量	内面 におい橙色 (7.5YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ヘラ磨き 底外面 -	
SI-016	第36図-6	土師器	甕	口径 (19.6) 底径 (6.2) 器高 21.9	30%	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ ナデ 外面 ナデ ヘラナデ ヘラ磨き 底外面 ヘラナデ	
SI-016	第36図-7	土師器	甕	口径 16.2 底径 5.6 器高 24.2	90%	赤色砂粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ ナデ 外面 ヘラ磨き 底外面 ヘラナデ	
SI-016	第36図-8	土師器	甕	口径 - 底径 6.4 器高 <3.1>	底部 100%	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 木葉痕	
SI-016	第36図-9	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部燃糸文 4本櫛描き横走文 ヘラ描き斜格子文
SI-016	第36図-10	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	赤色砂粒・砂粒多量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 赤彩 外面 頸部赤彩 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 口縁部単節羽状縄文 LR + 榑杖工具押圧による刻み目
SI-016	第36図-11	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	雲母粒・砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 におい黄褐色 (10YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	口唇部単節縄文原体による刻み目 口縁部単節縄文 LR
SI-016	第36図-12	弥生	鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 灰黄褐色 (10YR5/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	口唇部～口縁部内面燃糸文 L
SI-016	第36図-13	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	3本櫛描き重四角文
SI-016	第36図-14	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい赤褐色 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 赤彩 底外面 -	9本櫛描き縦区画文 + 波状文
SI-016	第36図-15	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR4/4) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	Z字状結節文 燃糸文 R
SI-016	第36図-16	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文 + 単節縄文 RL S字状結節文 + 単節縄文 LR
SI-016	第36図-17	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR5/4) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文 + 無節縄文 L
SI-016	第36図-18	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 赤褐色 (5YR4/8) 外面 黒褐色 (5YR2/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 R
SI-016	第36図-19	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-016	第36図-20	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒多量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 黒褐色 (10YR3/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-016	第36図-21	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 黒褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-016	第36図-22	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 におい黄褐色 (10YR7/4) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-016	第36図-23	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/3) 外面 黒褐色 (10YR2/2) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	燃糸文 R
SI-016	第36図-24	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 におい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-016	第36図-25	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-016	第36図-26	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色砂粒・砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	附加条縄文 LR
SI-016	第36図-27	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-016	第36図-28	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒微量	内面 におい黄褐色 (10YR4/3) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-016	第36図-29	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 におい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-016	第36図-30	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR7/4) 外面 褐灰色 (7.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L
SI-016	第36図-31	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	白色砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR5/4) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 ヘラナデ	2条締め燃糸文 R
SI-016	第36図-32	弥生	甕	口径 - 底径 (5.6) 器高 <2.1>	底部 30%	石英粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 明赤褐色 (5YR4/2) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 木葉痕	燃糸文 R
SI-016	第36図-33	弥生	甕	口径 - 底径 (6.3) 器高 <1.6>	底部 25%	砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 におい赤褐色 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	単節縄文 RL
SI-017	第35図-1	土師器	甕	口径 (15.3) 底径 - 器高 <4.9>	口縁部～胴部 25%	砂粒多量	内面 におい赤褐色 (5YR4/4) 外面 におい赤褐色 (5YR4/4) 焼成 良好	内面 ナデ ヘラナデ 外面 ナデ ヘラナデ 底外面 -	
SI-017	第35図-2	弥生	鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色砂粒微量	内面 におい黄褐色 (10YR7/3) 外面 におい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	燃糸文 L
SI-017	第35図-3	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐色 (5YR6/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	3本櫛描き横走文
SI-018	第38図-1	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR7/4) 外面 におい褐色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 赤彩 外面 赤彩 (頸部) 底外面 -	口唇部単節縄文 RL 口縁部単節羽状縄文 RL + 縄文原体による刻み目
SI-018	第38図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	石英粒・砂粒多量	内面 におい褐色 (7.5YR7/4) 外面 におい褐色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 口縁部下端部閉り・押圧による連続状飾輪 + 単節縄文 LR

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入 番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎 土	色調・焼成	技 法	備 考
SI-018	第38図 -3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～胴部	白色砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 RL 口縁部単節縄文 RL S字状結節文
SI-018	第38図 -4	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～頸部	白色砂粒微量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 橙色 (5YR6/6) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 ハケ 底外面 -	
SI-018	第38図 -5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部～胴部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR5/3) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 単節縄文
SI-018	第38図 -6	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	赤色砂粒・砂粒多量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	口唇部捻糸文 捻糸文 L
SI-018	第38図 -7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部捻糸原体押圧による刻み目 捻糸文 R
SI-018	第38図 -8	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 褐灰色 (7.5YR4/1) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捻糸文 R
SI-018	第38図 -9	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色砂粒微量	内面 黒褐色 (5YR2/1) 外面 におい赤褐色 (5YR4/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 ハケ 底外面 -	ヘラ状工具交互押圧による波状口縁
SI-018	第38図 -10	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒・砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	指頭交互押圧による波状口縁 2本脚揃き羽状文
SI-018	第38図 -11	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 橙色 (7.5YR6/8) 外面 橙色 (5YR6/8) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	4本脚揃き連弧文
SI-018	第38図 -12	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・石英粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 橙色 (7.5YR6/6) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本脚揃き渦巻き文
SI-018	第38図 -13	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR7/6) 外面 黄褐色 (10YR5/8) 底外面 焼成良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	4本脚揃き渦巻き文+横接線
SI-018	第38図 -14	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR7/6) 外面 黄褐色 (10YR8/8) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	4本脚揃き渦巻き文 捻糸文 L
SI-018	第38図 -15	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	白色砂粒微量	内面 橙色 (5YR7/8) 外面 橙色 (5YR6/8) 底外面 焼成良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	4本脚揃き縦区画文+ヘラ状工具による斜格 子文+波状文
SI-018	第38図 -16	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 黒褐色 (7.5YR2/2) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本脚揃き縦区画文+横走文 捻糸文 L
SI-018	第38図 -17	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 橙色 (7.5YR6/8) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本脚揃き重四角文
SI-018	第38図 -18	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒微量	内面 黄褐色 (10YR7/8) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	3本脚揃き縦区画文 結節文
SI-018	第38図 -19	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 黄褐色 (10YR5/6) 外面 黄褐色 (10YR7/8) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	3本脚揃き縦区画文+山形文
SI-018	第38図 -20	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒微量	内面 黄褐色 (10YR8/8) 外面 明黄褐色 (10YR7/6) 底外面 焼成良好	内面 荒れている 外面 明黄褐色 (10YR7/6) 底外面 -	2本脚揃き渦巻き文
SI-018	第38図 -21	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	白色砂粒少量	内面 黄褐色 (7.5YR7/8) 外面 明黄褐色 (10YR6/6) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	3本脚揃き横走文
SI-018	第38図 -22	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR6/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文 単節縄文 LR
SI-018	第38図 -23	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 におい褐色 (7.5YR6/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	S字状結節文+無節縄文 L
SI-018	第38図 -24	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第38図 -25	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第38図 -26	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒微量	内面 におい黄褐色 (10YR5/3) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 底外面 焼成良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第39図 -27	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 褐色 (7.5YR4/6) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第39図 -28	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR7/4) 外面 におい黄褐色 (10YR6/4) 底外面 焼成良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第39図 -29	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR7/4) 外面 におい黄褐色 (10YR5/3) 底外面 焼成良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第39図 -30	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・黒色砂粒・砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 黄褐色 (2.5YR5/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第39図 -31	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/3) 外面 黒褐色 (7.5YR3/1) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捻糸文 R
SI-018	第39図 -32	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黄褐色 (2.5YR4/1) 外面 明黄褐色 (10YR6/6) 底外面 焼成良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第39図 -33	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 褐色 (7.5YR4/6) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捻糸文 L
SI-018	第39図 -34	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒微量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 LR-RL
SI-018	第39図 -35	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい黄褐色 (7.5YR5/4) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-018	第39図 -36	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい黄褐色 (10YR7/3) 外面 におい黄褐色 (10YR5/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L
SI-018	第39図 -37	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 におい褐色 (7.5YR6/4) 外面 におい褐色 (7.5YR5/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL 捻糸文 R
SI-018	第39図 -38	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 におい褐色 (7.5YR6/3) 外面 におい褐色 (7.5YR6/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L
SI-018	第39図 -39	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒微量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 におい褐色 (7.5YR5/3) 底外面 焼成良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-018	第39図-40	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (5YR3/1) 外面 におい・橙色 (5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L
SI-018	第39図-41	弥生	甕	口径 - 底径 4.2 器高 <3.0>	底部 100%	砂粒少量	内面 暗灰黄色 (2.5YR5/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR7/3) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 木葉痕	捺糸文 R
SI-018	第39図-42	弥生	甕	口径 - 底径 (6.0) 器高 <2.6>	底部 30%	雲母粒・砂粒多量	内面 におい・橙色 (7.5YR6/4) 外面 橙色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 木葉痕	捺糸文 L
SI-018	第39図-43	弥生	甕	口径 - 底径 (5.2) 器高 <1.6>	底部 50%	砂粒多量	内面 暗灰黄色 (2.5YR5/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 木葉痕	捺糸文 L
SI-018	第39図-44	弥生	甕	口径 - 底径 7.0 器高 <2.1>	底部 100%	雲母粒・赤色砂粒・砂粒多量	内面 におい・橙色 (7.5YR7/4) 外面 におい・橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 ヘラナデ	捺糸文
SI-018	第39図-45	弥生	甕	口径 - 底径 (7.2) 器高 <3.3>	底部 20%	白色砂粒少量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 灰褐色 (7.5YR5/2) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 網代痕	単節縄文 LR
SI-018	第39図-46	弥生	甕	口径 - 底径 (6.6) 器高 <3.9>	底部 25%	白色砂粒少量	内面 黒色 (2.5YR2/1) 外面 黒色 (2.5YR2/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 木葉痕	単節縄文 RL
SI-018	第39図-47	弥生	甕	口径 - 底径 (5.8) 器高 <3.1>	底部 25%	白色砂粒少量	内面 褐灰色 (10YR4/1) 外面 におい・橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 木葉痕	単節縄文 LR
SI-018	第39図-48	土師器	器台	口径 (7.1) 底径 - 器高 <4.1>	器受部～脚柱部 45%	白色砂粒少量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 橙色 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ハケ 外面 ハケ 底外面 -	
SI-018	第39図-49	土師器	器台	口径 (5.2) 底径 - 器高 <3.4>	器受部～脚柱部 20%	微細砂粒少量	内面 におい・赤褐色 (5YR5/4) 外面 におい・赤褐色 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	
SI-019	第40図-1	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい・黄褐色 (10YR5/4) 外面 暗褐色 (10YR3/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	口唇部単節縄文 RL 単節縄文 RL
SI-019	第40図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい・黄褐色 (10YR6/3) 外面 褐色 (10YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	口唇部～口縁部内面単節縄文 LR 2本櫛描き連弧文
SI-019	第40図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	石英粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	口縁部単節縄文 RL
SI-019	第40図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部～胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 におい・黄褐色 (10YR5/3) 外面 褐灰色 (10YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	3本櫛描き縦区画文+横走文 捺糸文 L
SI-019	第40図-5	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	赤色粒・白色粒・砂粒少量	内面 におい・赤褐色 (5YR4/3) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	3本櫛描き縦区画文+山形文
SI-019	第40図-6	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 明赤褐色 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ナデ 底外面 -	5本櫛描き横走文
SI-019	第40図-7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 におい・橙色 (7.5YR7/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 L
SI-019	第40図-8	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色粒・砂粒多量	内面 におい・橙色 (7.5YR7/4) 外面 灰褐色 (7.5YR6/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 L
SI-019	第40図-9	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 橙色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 赤彩 底外面 -	単節縄文 LR による山形文
SI-019	第40図-10	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 におい・黄褐色 (10YR7/4) 外面 褐色 (10YR4/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ナデ 底外面 -	単節羽状縄文 LR
SI-019	第40図-11	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部～胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	単節縄文 RL
SI-019	第40図-12	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黄灰色 (2.5YR4/1) 外面 明褐色 (7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ナデ 底外面 -	単節縄文 LR
SI-019	第41図-13	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色粒・白色粒多量	内面 黒褐色 (7.5YR3/1) 外面 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 R
SI-019	第41図-14	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒多量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 R
SI-019	第41図-15	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色粒多量	内面 におい・橙色 (7.5YR6/4) 外面 におい・橙色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 R
SI-019	第41図-16	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色粒・白色粒多量	内面 灰褐色 (7.5YR5/2) 外面 灰褐色 (7.5YR5/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 R
SI-019	第41図-17	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色粒少量	内面 橙色 (5YR6/6) 外面 におい・褐色 (7.5YR6/3) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 L
SI-019	第41図-18	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	単節縄文 RL
SI-019	第41図-19	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	単節羽状縄文 RL-LR
SI-019	第41図-20	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 におい・黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	単節縄文 RL + S 字状結節文
SI-019	第41図-21	弥生	甕	口径 - 底径 5.4 器高 <2.9>	底部 100%	雲母粒・白色粒少量	内面 灰褐色 (10YR5/1) 外面 におい・橙色 (7.5YR7/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 木葉痕	捺糸文 R
SI-020	第42図-1	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 におい・橙色 (7.5YR7/4) 外面 におい・黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ナデ 底外面 赤彩	口唇部単節縄文 RL 8本櫛描き縦区画文+波状文
SI-020	第42図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	単節縄文 RL + S 字状結節文 捺糸文 L
SI-020	第42図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ナデ 底外面 -	3条締め捺糸文 L
SI-020	第42図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 におい・黄褐色 (10YR6/4) 外面 におい・黄褐色 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 ナデ 底外面 -	単節縄文 LR 2条締め捺糸文 L
SI-020	第42図-5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 におい・黄褐色 (10YR6/4) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 R
SI-020	第42図-6	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黄灰色 (2.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ 底外面 -	捺糸文 R

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SI-020	第42図-7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒微量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-020	第42図-8	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色砂粒・砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 黄灰色 (2.5YR4/1) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-020	第42図-9	弥生	甕	口径 - 底径 (7.3) 器高 <2.8>	底部	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 木葉痕	単節縄文 RL
SI-021	第43図-1	弥生	壺	口径 - 底径 6.0 器高 <6.1>	胴部~底部 100%	白色砂粒多量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 明黄褐色 (10YR7/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 赤彩 底外面 ヘラナデ	
SI-021	第43図-2	弥生	壺	口径 - 底径 (3.5) 器高 <2.8>	底部 30%	微細砂粒少量	内面 褐色 (5YR6/8) 外面 褐色 (7.5YR4/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	
SI-021	第43図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	石英粒・白色砂粒多量	内面 黄褐色 (10YR8/8) 外面 褐色 (7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	2本櫛描き波状文
SI-021	第43図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・白色砂粒多量	内面 赤褐色 (5YR4/6) 外面 褐色 (7.5YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 R
SI-021	第43図-5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・白色砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-022	第44図-1	土師器	甕	口径 (19.8) 底径 - 器高 <5.5>	口縁部~胴部 20%	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ ナデ 外面 ヘラナデ ナデ 底外面 -	
SI-022	第44図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4/1) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	3本櫛描き横走文
SI-022	第44図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-022	第44図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒微量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/2) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-022	第44図-5	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	雲母粒・砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 ぶい褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ざらつく 外面 - 底外面 -	2本櫛描き連弧文
SI-022	第44図-6	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部~胴部	砂粒微量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 褐色 (7.5YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本櫛描き横走文+重四角文
SI-022	第44図-7	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/3) 外面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 焼成 良好	内面 荒れている 外面 - 底外面 -	2本櫛描き山形文 単節縄文 LR
SI-022	第44図-8	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 外面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ざらつく 外面 - 底外面 -	ヘラ描き山形文+単節羽状縄文 LR-RL
SI-022	第44図-9	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR 2条絡め捺糸文 R
SI-022	第44図-10	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 L 捺糸文 R
SI-022	第44図-11	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	捺糸文 L
SI-022	第44図-12	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 外面 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節羽状縄文 RL-LR
SI-022	第44図-13	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 褐色 (7.5YR7/6) 外面 ぶい褐色 (7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-022	第44図-14	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒・砂粒少量	内面 黄灰色 (2.5YR4/1) 外面 黄灰色 (2.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SI-022	第44図-15	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 LR
SI-022	第44図-16	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 褐色 (10YR4/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	無節縄文 R
SI-022	第44図-17	弥生	甕	口径 - 底径 (6.4) 器高 <2.5>	底部 25%	砂粒少量	内面 オリーブ黒色 (5YR3/1) 外面 ぶい褐色 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	単節縄文 RL
SK-001	第45図-1	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・白色砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部捺糸文 R 単節縄文 LR+捺糸文 R
SK-001	第45図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	白色砂粒・砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/4) 外面 灰黄褐色 (10YR5/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 木葉痕	捺糸文 L
SK-002	第45図-1	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	単節縄文 RL
SM-001	第47図-1	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 - 底外面 -	7本櫛描き波状文
SM-001	第47図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色砂粒多量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/3) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	口唇部捺糸文 R 口縁部捺糸文 R
SM-001	第47図-3	弥生	鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	雲母粒・白色砂粒多量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 褐色 (7.5YR4/1) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口縁部捺糸文 L
SM-001	第47図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒微量	内面 ぶい黄褐色 (10YR6/4) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 単節横走羽状縄文 RL-LR
SM-001	第47図-5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部~頸部	砂粒多量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 LR 口縁部単節縄文 LR
SM-001	第47図-6	弥生	高杯	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 明黄褐色 (10YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	口唇部単節縄文 RL 単節縄文 RL
SM-001	第47図-7	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 ぶい褐色 (7.5YR5/4) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	Z字状結節文 単節縄文 RL
SM-001	第47図-8	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒少量	内面 ぶい黄褐色 (10YR7/3) 外面 ぶい黄褐色 (10YR7/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底外面 -	2本櫛描き連弧文+渦巻き文
SM-001	第47図-9	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 明黄褐色 (10YR6/6) 外面 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 焼成 良好	内面 ざらつく 外面 - 底外面 -	2本櫛描き波状文

() 推定 < > 現存長

遺構	挿入 番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SM-001	第47図 -10	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 黄褐色 (10YR4/3) 外面 黄褐色 (2.5YR5/3) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	3本櫛描き渦巻き文 捺糸文 L
SM-001	第47図 -11	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・赤色砂粒少量	内面 黄褐色 (10YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3本櫛描き重四角文
SM-001	第47図 -12	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 橙色 (7.5YR6/6) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	3本櫛描き縦区画文+横走文
SM-001	第47図 -13	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/2) 外面 黒褐色 (10YR3/2) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	7~8本櫛描き縦区画文 捺糸文 L
SM-001	第47図 -14	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 黄褐色 (10YR7/4) 外面 黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	2本櫛描き山形文 単節縄文 LR
SM-001	第47図 -15	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	S字状結節文による縦又は山形区画+単節縄 文 RL
SM-001	第47図 -16	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 黄褐色 (10YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	Z字状結節文 単節縄文 LR
SM-001	第47図 -17	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 褐色 (7.5YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	S字状結節文 (縦方向) 単節縄文 RL (縦方向)
SM-001	第47図 -18	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 暗灰黄色 (2.5YR5/2) 外面 黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	S字状結節文 無節縄文
SM-001	第47図 -19	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・白色砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黄褐色 (10YR7/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	2条絡め捺糸文 L-L
SM-001	第47図 -20	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 黄褐色 (5YR6/4) 外面 赤褐色 (5YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2条絡め捺糸文 R-L
SM-001	第47図 -21	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 灰黄褐色 (10YR6/2) 外面 黄褐色 (10YR6/3) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	2条絡め捺糸文 R-L
SM-001	第47図 -22	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 黄褐色 (10YR7/4) 外面 黄褐色 (10YR7/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2条絡め捺糸文 L-L
SM-001	第47図 -23	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 黒褐色 (5YR3/1) 外面 赤褐色 (5YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2条絡め捺糸文 L-L
SM-001	第47図 -24	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒・白色砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	3条絡め捺糸文 R-L-L
SM-001	第47図 -25	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	雲母粒微量	内面 黄褐色 (10YR7/4) 外面 黄褐色 (10YR7/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SM-001	第47図 -26	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂量・砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 黄褐色 (10YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SM-001	第47図 -27	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	微細砂粒微量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 灰黄褐色 (10YR4/2) 底面 良好	内面 ざらつく 外面 - 底面 -	捺糸文 R
SM-001	第47図 -28	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 褐色 (5YR4/1) 底面 良好	内面 ハケ 外面 - 底面 -	捺糸文 R
SM-001	第47図 -29	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂量多量	内面 灰黄褐色 (10YR6/2) 外面 黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 R
SM-001	第47図 -30	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黄褐色 (7.5YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR4/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 RL
SM-001	第47図 -31	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 黒褐色 (10YR3/1) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SM-001	第47図 -32	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐色 (7.5YR5/4) 外面 黄褐色 (10YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SM-001	第47図 -33	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒多量	内面 黄褐色 (10YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 RL
SM-001	第47図 -34	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 ナデ 外面 - 底面 木葉痕	単節縄文 RL
SM-001	第47図 -35	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	雲母粒・赤色砂粒・砂粒少量	内面 黄褐色 (10YR7/3) 外面 黄褐色 (10YR6/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 木葉痕	単節縄文 RL
SM-001	第47図 -36	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	砂粒少量	内面 黒褐色 (10YR3/1) 外面 褐色 (10YR4/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 木葉痕	単節縄文 RL
SM-001	第47図 -37	弥生	甕	口径 - 底径 (14.8) 器高 <2.9>	底部 20%	白色砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 ヘラナデ	2条絡め捺糸文 L-L
SM-001	第47図 -38	弥生	甕	口径 - 底径 (6.0) 器高 <2.2>	底部 25%	砂粒少量	内面 灰黄色 (2.5YR4/1) 外面 褐色 (7.5YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 木葉痕	単節縄文 RL
SM-001	第47図 -39	弥生	甕	口径 - 底径 11.2 器高 <2.7>	底部 40%	白色砂粒少量	内面 灰褐色 (7.5YR4/2) 外面 褐色 (7.5YR6/6) 底面 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底面 ヘラナデ	
SD-001	第46図 -1	土師器	高台付杯	口径 - 底径 7.3 器高 <2.3>	底部~高台部 100%	砂粒微量	内面 灰色 (N4/1) 外面 褐色 (7.5YR6/3) 底面 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底面 ナデ	杯部内面黒色処理+「十」線刻
SD-003	第48図 -1	土師器	高杯	口径 (17.2) 底径 - 器高 <4.7>	杯部 20%	砂粒少量	内面 黄褐色 (10YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底面 -	
SD-003	第48図 -2	土師器	高杯	口径 (11.4) 底径 - 器高 <9.3>	脚部 50%	赤色砂粒・砂粒少量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 黄褐色 (10YR6/3) 底面 良好	内面 絞り痕 ナデ 外面 ヘラナデ ナデ 底面 -	
SD-003	第48図 -3	土師器	甕	口径 - 底径 8.5 器高 <3.8>	底部 100%	白色砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR4/2) 外面 黄褐色 (10YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底面 ヘラナデ	
SD-003	第48図 -4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 黄褐色 (10YR5/6) 外面 黄褐色 (10YR5/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	口唇部単節縄文原体による刻み目 口縁部単節縄文 RL
SD-003	第48図 -5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 黄褐色 (10YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	口唇部単節縄文 RL 口縁部単節縄文 RL
SD-003	第48図 -6	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 褐色 (7.5YR5/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	4本櫛描き渦巻き文

() 推定 < > 現存長

遺構	挿図番号	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
SD-003	第48図-7	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	赤色砂粒・砂粒微量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黄褐色 (10YR5/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	2本櫛描き縦区画文+横走文
SD-003	第48図-8	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	頸部	砂粒微量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黄褐色 (7.5YR6/6) 底面 良好	内面 ざらつく 外面 - 底面 -	8本櫛描き縦区画文 S字状結節文+単節縄文 LR
SD-003	第48図-9	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 黄褐色 (2.5YR4/1) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 RL + S字状結節文
SD-003	第48図-10	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 橙色 (7.5YR6/6) 外面 明褐色 (7.5YR5/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	S字状結節文+単節羽状縄文 RL-LR
SD-003	第48図-11	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒・砂粒多量	内面 黄褐色 (7.5YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
SD-003	第48図-12	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 黄褐色 (7.5YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SD-003	第48図-13	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 黄褐色 (10YR6/4) 外面 黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	単節縄文 RL
SD-003	第48図-14	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5/6) 外面 明褐色 (7.5YR5/6) 底面 良好	内面 ざらつく 外面 - 底面 -	単節縄文 LR
SD-003	第48図-15	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒微量	内面 黄褐色 (10YR7/4) 外面 黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L
	第11図-1	縄文中期	鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒多量	内面 黄褐色 (7.5YR6/4) 外面 黄褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好	内面 ナデ 外面 - 底面 -	SI-018-1
	第11図-2	縄文中期	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	石英粒少量	内面 黄褐色 (7.5YR6/4) 外面 黄褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好	内面 ナデ 外面 - 底面 -	SI-012-1
	第11図-3	縄文中期	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒	内面 黄褐色 (7.5YR6/3) 外面 黄褐色 (7.5YR6/6) 底面 良好	内面 ナデ 外面 - 底面 -	SM-001-1
	第11図-4	縄文中期	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	赤色砂粒・黄色砂粒・白色砂粒少量	内面 黄褐色 (7.5YR5/3) 外面 黄褐色 (7.5YR5/3) 底面 良好	内面 ナデ 外面 - 底面 -	SI-003-45
	第11図-5	縄文後期	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 黄褐色 (7.5YR5/3) 外面 黄褐色 (7.5YR6/4) 底面 良好	内面 ナデ 外面 - 底面 -	SI-010-1
グリッド出土	第50図-1	弥生	壺	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒・砂粒少量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 黄褐色 (10YR6/4) 底面 良好	内面 荒れている 外面 - 底面 -	2本櫛描き渦巻き文 1A-77
グリッド出土	第50図-2	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒微量	内面 黄褐色 (5YR4/1) 外面 赤褐色 (5YR5/4) 底面 良好	内面 ヘラ磨き 外面 - 底面 -	捺糸文 L 1A-77
グリッド出土	第50図-3	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒・白色砂粒多量	内面 黄褐色 (7.5YR7/3) 外面 黄褐色 (10YR6/3) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 L 1A-77
グリッド出土	第50図-4	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黄色砂粒・白色砂粒多量	内面 明赤褐色 (5YR5/6) 外面 黒褐色 (5YR3/1) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 - 底面 -	捺糸文 R 1B-80
グリッド出土	第50図-5	弥生	甕	口径 - 底径 - 器高 -	底部	黄色砂粒・白色砂粒少量	内面 赤褐色 (5YR5/4) 外面 明赤褐色 (2.5YR5/6) 底面 良好	内面 ヘラナデ 外面 木葉痕 底面 -	捺糸文 L 1A-56
グリッド出土	第50図-6	弥生	甕	口径 - 底径 42 器高 <195>	底部	白色砂粒多量	内面 灰黄褐色 (10YR5/2) 外面 黄褐色 (7.5YR7/4) 底面 良好	内面 ナデ 外面 木葉痕 底面 -	捺糸文 R 1A-46

第8表 遺構出土石器属性表

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
SI-001	第12図-6	SI-001-1	敲石	砂岩	81.6	43.0	25.2	125.50	
SI-001	第12図-7	SI-001-1	砥石	砂岩	55.3	37.8	24.9	53.70	
SI-003	第18図-159	SI-003-21	磨製石斧	閃緑岩	153.8	58.7	40.8	631.90	
SI-003	第19図-160	SI-003-63	磨製石斧	安山岩	58.9	34.8	11.8	35.84	片刃
SI-003	第19図-161	SI-003-1	磨石	砂岩	65.2	55.2	34.0	141.43	磨面+敲打痕
SI-003	第19図-162	SI-003-1	砥石	砂岩	78.7	63.8	26.5	134.85	
SI-008	第27図-45	SI-008-8	磨製石斧	蛇紋岩	69.5	40.3	12.5	61.78	片刃
SI-008	第27図-46	SI-008-1	砥石	軽石	26.7	21.2	15.2	1.20	
SI-012	第32図-71	SI-012-31	磨製石斧	蛇紋岩	64.5	34.5	9.6	33.26	未成品?
SI-016	第36図-35	SI-016-73	砥石	凝灰岩	30.1	24.5	15.4	9.60	
SI-019	第41図-22	SI-016-79	磨石	安山岩	82.8	69.9	40.3	372.02	磨面+敲打痕
SI-020	第42図-10	SI-020-5	磨製石斧	安山岩	88.4	45.7	19.0	116.18	片刃

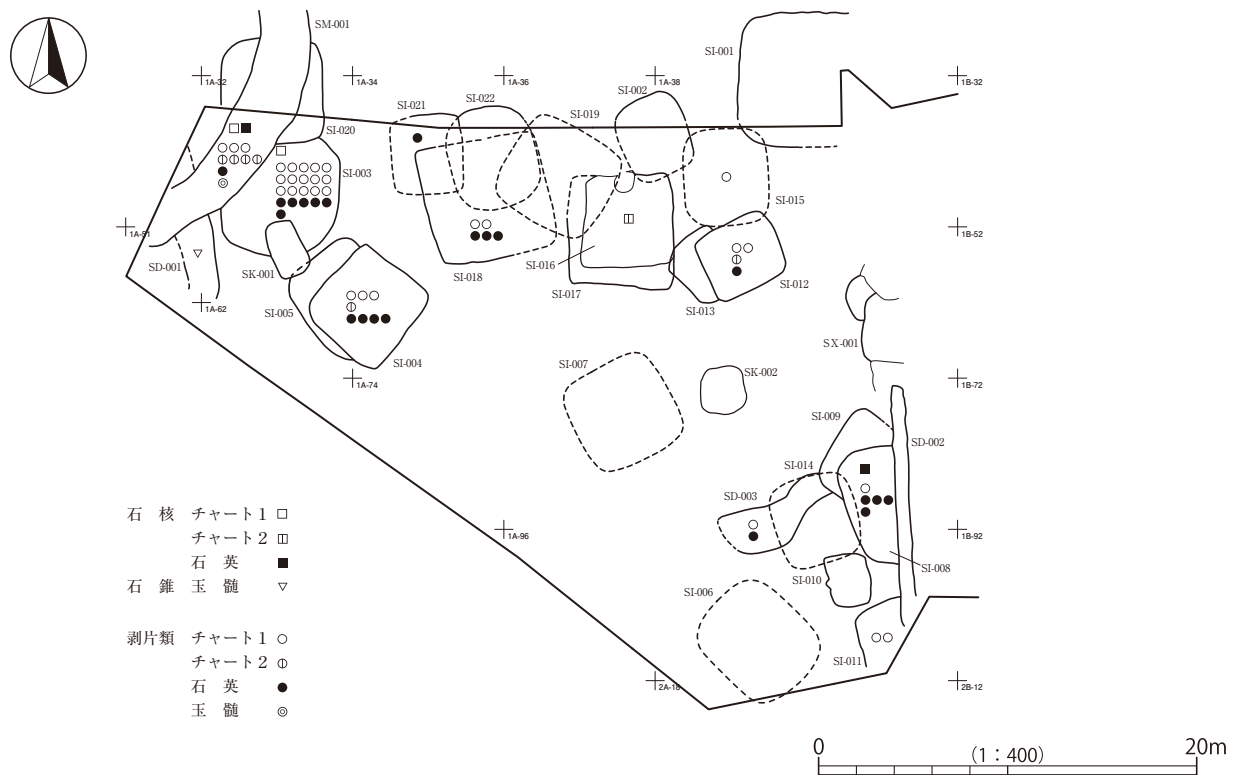
7 その他の石器 (第51～54図、第9表、図版28)

本遺跡からは、チャート、石英等の石材による石核と剥片類がまとめて検出された。これらの石核・剥片類は全て遺構出土石器として検出されているが、その大部分が遺構一括遺物として取り上げられている。また、弥生時代後期竪穴住居跡、古墳時代前期・中期竪穴住居跡、古墳時代中期古墳周溝等の各時期の遺構から同種石材の石核・剥片類が検出されていることから、弥生時代後期竪穴住居跡の埋没期から古墳中期竪穴住居跡、古墳周溝の埋没期までの間に遺構外で石器類の剥片剥離製作が行われ遺構内に流入したものと把握し、ここで扱うこととする。

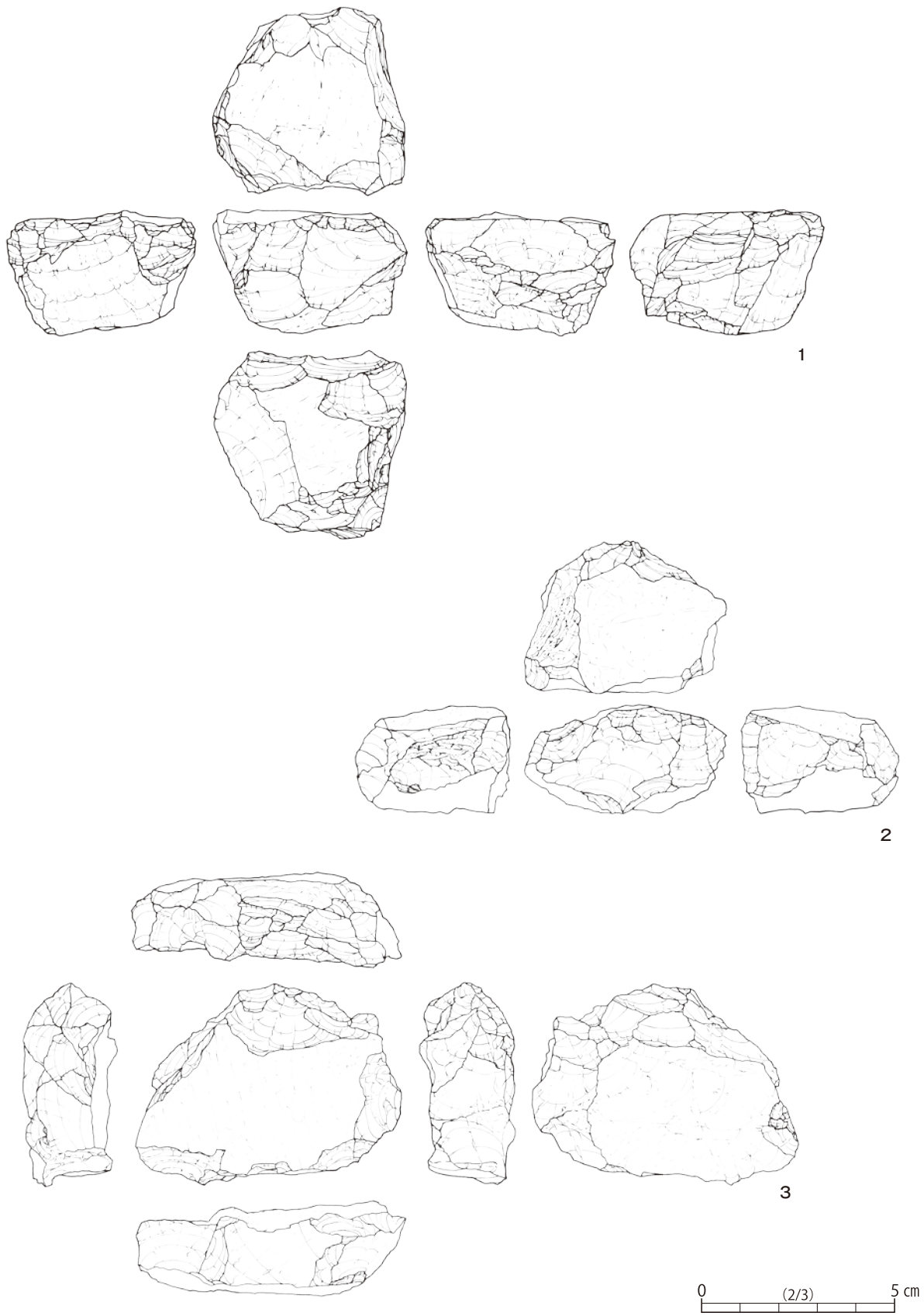
石器群の石材、器種の分布状況を第51図に示した。石材はチャートについて色調をもとに2つの系統に分類した。チャート1は白色・灰白色半透明～灰色・オリーブ灰色半透明の色調のものである。チャート2は緑灰色半透明の色調のものである。玉髓(メノウ)については、淡い黄色～黄色半透明と赤褐色半透明に灰白色半透明の斑が入る色調の2種類のものであったが、2点のみであるため分類しなかった。分布の状況を見るとSI-003・SI-004・SM-001を主体に調査区北西側～北側に集中するが、SI-008・011・SD-003の調査区南東端にもまとまった出土が認められる。

器種は、玉髓製石錐が1点ある以外は石核と剥片類のみで構成され、チャート1・2、石英の石材からは製品(ツール)は検出されていない。

1～5は石核である。1は石材がチャート1で上面、下面に平坦な自然面を持つ分厚い板状の素材を用いている。剥片剥離は上下面の自然面を巡るよう進行し、正面で上面からのやや縦長の剥片剥離、右側面で下面からの幅広な剥片剥離が行われ、素材を裁断するような剥片剥離が認められる。2は緑灰色半透



第51図 その他の石器分布



第52図 その他の石器 (1)

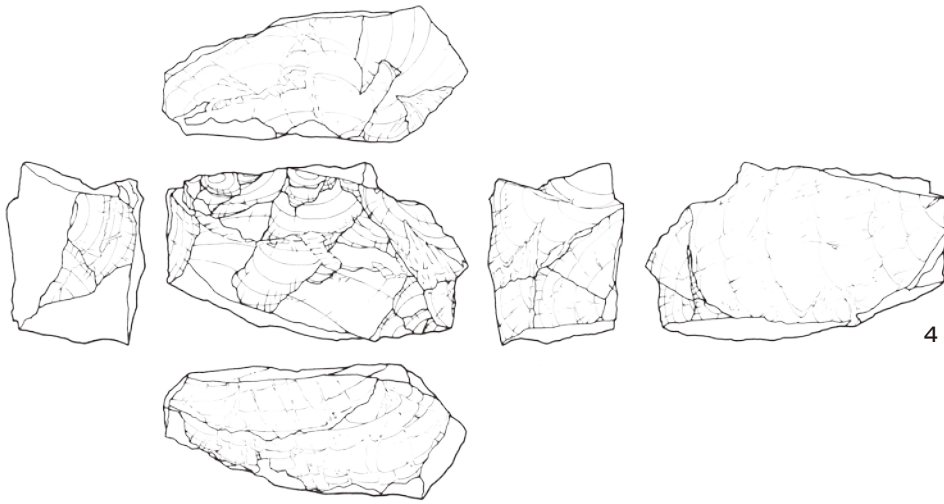
明のチャート2を石核の素材としている。垂角礫を分割し上面が礫面となる剥片を石核素材とする。正面を中心に上下から剥片剥離が見られる。下面からの幅広い剥片剥離は比較的大きな剥片を作出しているが、上面からの剥片剥離は階段状の長さが短い剥離痕が認められることから、十分な剥片素材が得られていない。3は石英を石材とする石核である。淡い灰白色半透明～無色透明の色調で、節理に沿って濃緑色の介在物が入る素材である。厚さ約2cmの板状の石核素材の正面で、斜めに切り取るように上面からの剥片剥離を行い、幅広い剥片を剥いている。左側面では、正面を打面とした切り取るような剥離、裏面でも上端からの剥離が見られるが、大きさ1cm～2cmの剥片の剥離にとどまる。4はチャート1の石核で灰白色半透明～灰色半透明の色調で、先行する剥離により上面及び下面を断ち割るような加撃により角柱状の石核素材に仕上げている。平坦な正面で上面からのやや縦長の剥片剥離が認められる。5は3と同種の石英を素材としている。正面で上面からの小さな縦長の剥片剥離が連続するほか、上面、左側面、右面、裏面で1回～2回の剥片剥離が認められる。多方向からの剥片剥離の進行により残核は下端部が細い多面体となる。

7は石錐とした。石材は赤褐色半透明に灰白色半透明の斑が入る色調の玉髓である。素材は、器体を突き抜けるような上下端からの細長い剥離痕が看取されることから両極剥離によって剥がされたと思われ、下端部が尖る楔状の形状に器体を仕上げている。先端部は剥離痕の稜線がなくなるほど摩耗が顕著で、摩耗部分が光沢を帯びている。

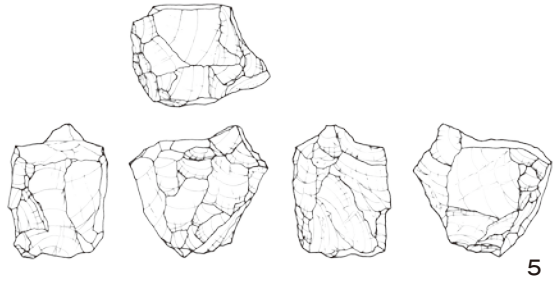
6・8～11は剥片類である。6・8・9は調整痕のある剥片である。6は灰白半透明とオリーブ灰半透明の色調が混成するチャート1の石材である。大形で厚みのある縦長剥片の右側縁下半部で主要剥離面からの幅広い平坦剥離と細部調整が連続する。6はそれ自体が石核の機能を持っているが、この剥片剥離は石核の打面作出・打面調整と想定され、石核を企図した板状の石核素材と考えられる。8は緑灰色半透明の地に灰白色半透明の縞が入るチャート2の石材である。長さが約3.4cmで先端幅が細くなる長方体で、左側面下部に裏面からの細部加工が集中している。左側面上端、右側縁、下面にも疎らに細部調整が認められる。9は緑灰色半透明の色調のチャート2の石材である。やや厚い横長剥片の打面部を切断した後、剥片を縦位に用いている。左側縁上部を抉るような細部調整と上端からの平坦な細部調整が認められる。

10・11は使用痕のある剥片である。10は灰白色半透明に灰色半透明がマーブル状に入る色調のチャート1の石材で、平面形は逆三角形である。背腹面下端部に刃こぼれ状の微細剥離痕が見られる。左側縁下半部はエッジが摩耗し光沢を帯びるような使用痕が看取される。11は灰白色半透明～無色透明の色調の石英である。背面の下端部～両側縁下半部にかけて刃こぼれ状の微細剥離痕が連続する。

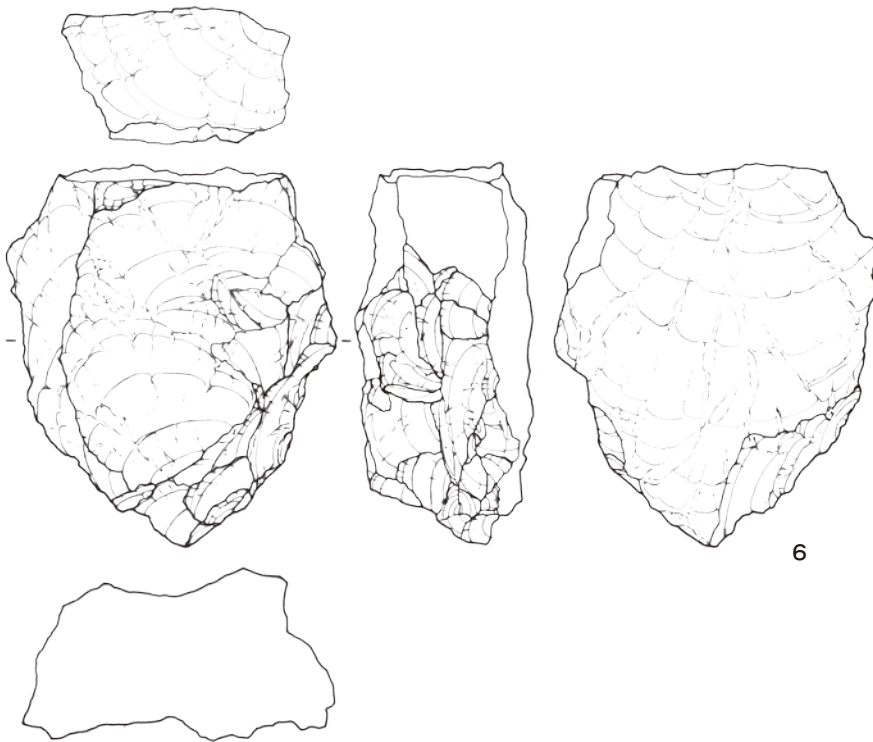
この石器群の剥片剥離技術についてまとめると、チャート・石英では角礫と厚みのある剥片や節理方向を利用した直方体・板状の石核素材を石核としている。直方体の石核から器体を抉るように剥片剥離され、厚みのある最大長が3cm～4cmほどの縦長剥片・横長剥片を作出しているものと、板状の石核から斜めに切り取るように剥片剥離され、厚みのある最大長が3cm～4cmほどの横長剥片を作出しているものが認められる。4の資料からは、板状石核素材から石核整形段階で裁断するように石核を分割して、角柱状の剥片が作出されていることも看取される。石核の剥片剥離からは長さ幅3cm～4cmほどの厚みのある縦長剥片・横長剥片や同程度の大きさの角柱状の素材を企図していたと把握される。石核から想定される素材剥片として8・9の調整痕のある剥片を提示したが、検出された剥片のほとんどは背面に礫皮面や節理面を残す剥片剥離の初期段階の大形の剥片、剥片剥離の際の欠損した剥片や打面調整の際に削出された不定形な小形剥片である。残核・剥片の数量から見て企図された剥片素材と把握される資料が僅かであり、素材



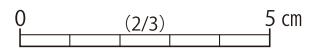
4



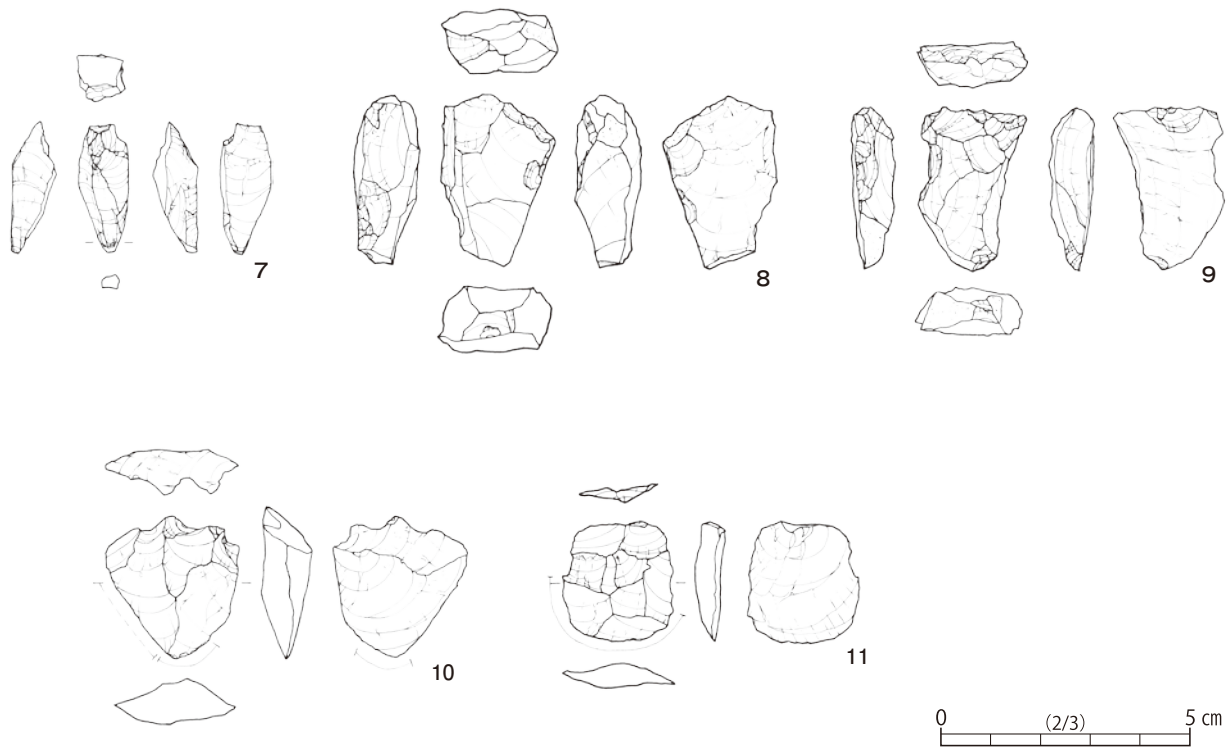
5



6



第53図 その他の石器 (2)



第54図 その他の石器 (3)

剥片以降の製作工程が欠落している石器製作技術構成である。8の緑灰色半透明で長方体の剥片は玉類を生産する工程の「形割品」と把握され、管玉・勾玉の素材剥片であることが想定される。9のチャート2を見ると左側縁上部に挟りこむような細部調整からは、勾玉の製作を企図した剥片素材であると考えられる。本遺跡からは、玉類の製作工程上の研磨工程を示す資料や玉類の未成品・完成品は検出されていない。しかし、隣接する関戸遺跡からは表面採集資料であるが「青緑色の勾玉」が検出されており、これらのチャート・石英の石材を多用した石核・剥片類の石器群は、玉作りに関連した剥片素材を生産していたと考えられる。

第9表 その他の石器属性表

挿図番号	遺物番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第52図-1	SM-001-1	石核	チャート1	31.3	49.2	48.4	88.67	半透明灰白色
第52図-2	SI-016-3	石核	チャート2	26.6	51.7	39.2	64.37	半透明緑灰色
第52図-3	SM-001-14	石核	石英	51.3	34.8	24.5	95.93	
第53図-4	SI-003-19	石核	チャート1	35.7	59.9	27.1	631.90	半透明灰白色
第53図-5	SI-008-1	石核	石英	26.0	28.0	20.5	16.58	
第53図-6	SI-003-20	調整痕のある剥片	チャート1	75.5	65.4	35.4	183.54	半透明灰白色、石核素材
第54図-7	SD-001-1	石錐	玉髓	25.8	10.1	8.8	2.26	
第54図-8	SM-001-1	調整痕のある剥片	チャート2	33.6	22.7	13.3	10.89	
第54図-9	SI-012-1	調整痕のある剥片	チャート2	32.4	20.9	9.1	6.31	半透明緑灰色
第54図-10	SI-003-1	使用痕のある剥片	チャート1	27.7	26.8	10.3	5.44	半透明灰白色
第54図-11	SI-018-1	使用痕のある剥片	石英	23.7	22.0	16.2	2.83	

第3章 まとめ

今回の発掘調査で検出された遺構は、旧石器時代がブロック1か所と単独出土地点1か所、弥生時代が竪穴住居跡13軒・土坑2基、古墳時代が前期竪穴住居跡6軒、中期竪穴住居跡1軒・古墳1基・溝1条、平安時代が竪穴住居跡1軒・溝1条、中・近世が竪穴状遺構1基、溝1条である。時期不明とした竪穴住居跡2軒(SI-007A・B)は、炉があることから弥生時代中期末葉～古墳時代中期と考えられる。

旧石器時代については、Ⅸc層上部のブロック1か所2点とⅦ層の単独出土石器を含めて3点で、調整痕ある剥片と剥片である。出土地点は、台地全体で見るとほぼ中央部と中央部東側の縁辺部で、前回調査では遺物の出土はなく、本遺跡のある台地上での活動は希薄であったと思われる。

弥生時代～古墳時代における下総地域あるいは常総地域の土器の様相については、幾つかの研究結果が発表されており、ここではそれらの成果を基に本遺跡を概観していきたい^(註)。

弥生時代についてはSI-003とSI-015を除くと、遺構出土の土器数量は少なく、大部分が破片資料で全体の器形を知り得るものがほとんどない。SI-015出土土器(1)は口縁部～頸部を欠失するが、細口長頸壺と思われ、肩部から上に4本櫛描き横走文と変則的な山形文が施される。この文様は前回調査の058号跡出土の細口長頸壺(05802)に類例し、この土器は佐野原式の甕などと共伴することから弥生時代中期末葉の土器と位置付けられており、本遺構の時期も同時期と推定することができる。

SI-003は出土遺物数と図示した遺物数が今回調査した遺構の中で最も多いが、大部分が破片で一括資料である。特徴的な文様を施す土器としては、頸部～胴部上半に2本櫛描き渦巻き文や連弧文を施す足洗式土器(28～36)、口縁部直下に2本櫛描き連弧文を施す佐野原式土器(8)、胴部に櫛描き縦走文や横走羽状文を施す宮ノ台式土器(25・60～70)、頸部～胴部上半に櫛描き縦区画文、縦区画によるスリット、波状文などを施す大崎台式土器(1・3～7・9～15・37～55)、S字状結節文を多用する土器(71～76)などをあげることができる。これらの土器は、足洗式・佐野原式・宮ノ台式が弥生時代中期末葉、大崎台式・S字状結節文を多用する土器が後期前半に位置付けられる。本遺構の時期は、これらの土器の出土状況などから後期前半頃と推定することができる。また、それ以外の遺構の時期も、これらの土器の有無などにより判断し、SI-015を除く12軒を後期前半としたが、SI-003・005・020とSI-013・016・019・021・022のように重複又は極めて近接しているものがあり、更に細分されると思われる。

古墳時代については、図示できた遺物を見ると中期のSI-017の8点と図示できる遺物がなかったSI-009を除くと、いずれも土師器は2点～3点で弥生時代の遺物が多く混入している。前期の主な土器としては、SI-004の埴(1)と小型丸底壺(2)、SI-012の壺(1)、SI-018の器台(48・49)があげられ、破片ではあるがSI-008の弥生時代から続く赤彩された壺(1・43)や擬似S字状口縁甕(2)、SI-012の台付甕台部(9)が見られる。SI-012の内外面ともにヘラナデ調整を施す甕(5)は、高花宏行氏が「甕A'類(在地系有文甕から縄文が消失したもの)」(大村直氏の「下総形」と同じ)としているものと思われる。SI-002は弥生土器しか出土していないが、前回調査において同一遺構の048号跡から前期の壺や広口壺、鉢が出土していることから、当該時期の竪穴住居跡と判断した。前回調査では009号跡から東海系のパレススタイルの壺や球形の胴部を持つ甕・高杯、007号跡から器台や炉器台などが出土しており、器種も豊富で注目すべき土器が見られる。

中期の竪穴住居跡はSI-017の1軒であるが、出土土器は壺(1)・鉢(2)・高杯(3~5)・甕(6・7)など器種としては揃っている。前回調査でも竪穴住居跡は2軒しか検出されていないが、001号跡で埴や有稜の高杯・外面ヘラナデの甕、018号跡で壺や甕・甌・鉢・高杯などが出土しており、SI-012出土のものと同様のものである。SM-001は前回調査の202号跡の未調査部分に当たるもので、出土した遺物は弥生土器などであり、前回調査と同様に古墳に伴うと思われるものはなかった。

歴史時代以降については、平安時代の竪穴住居跡1軒(SI-010)と溝1条(SD-001)が検出され、いずれも出土遺物から9世紀第2四半世紀の時期と思われる。中・近世については出土遺物がほとんどなく、竪穴状遺構1基(SX-001)と溝1条(SD-002)が該当すると想定されるが、明確な証左はない。

最後に、台地上における弥生時代以降の様相について、前回調査の成果も含めて概観したい(第7図)。なお、前回調査の各時代の遺構数については、報告書を参考に概数とした。本台地上に竪穴住居跡が見られるのは弥生時代中期後半からで、古墳時代中期まで継続する。弥生時代中期後半の竪穴住居跡は約17軒、後期が約32軒であるが、両者ともに重複又は近接するものがあることから、更に数時期に細分される。古墳時代になると竪穴住居跡の数は減少する傾向にある。前期は11軒で、土器の様相から2時期に細分される。中期は竪穴住居跡が3軒と古墳が9基あり、古墳は竪穴住居跡の廃棄直後に作られ、出土土器の特徴も後出である。古墳は9基のうち1基は盛土が約1.2m残っていたが、そのほかは全て盛土が削平されている。竪穴住居跡は古墳の築造によって古墳時代中期で一旦途切れ、再び竪穴住居跡が見られるのは古墳時代後期中葉となる。この時期の竪穴住居跡はわずか2軒だけで、古墳の存在を意識してそれを避けるような位置にあることから、古墳はこの時期までの間に作られたと考えられる。竪穴住居跡はこの時期以降再び途切れ、250年ほどの時を経て平安時代(9世紀第2四半世紀頃)に見られるようになる。平安時代の竪穴住居跡は5軒で、前回調査の4軒と溝(SD-001)は古墳の周溝を掘り込んで作られている。このことは、少なくともこの時期には古墳の周溝は埋没し、墳丘の盛土もある程度まで削平が進んでいたことを意味するものと思われる。竪穴住居跡は重複していることから時期差があると思われるが、小規模な集落として存続していたものと思われる。これ以降、中・近世の遺構は明確なものが見られず、わずかに前回調査の土坑と竪穴状遺構(SX-001)だけであり、城としての機能をうかがわせるようなものは見られない。

このように、本台地に集落が形成されるのは弥生時代中期後半からで、その後、古墳時代中期まで継続し、古墳時代中期に古墳が築造されることにより中断する。古墳築造の終焉とともに古墳時代後期中葉に見られるが、それも短期間で終わり、長い空白期間を経て平安時代に小規模な集落が形成される。しかし、それ以降、台地上には集落は形成されなくなるといった変遷を見ることができる。

(注) 以下の文献を参考にした。

- 1994 大村直「戸張一番割遺跡の甕形」『史館』第25号 史館同人
- 1994 小玉秀成「東関東地方における後期弥生土器の成立過程」『史館』第25号 史館同人
- 1995 小高春雄「千葉県における弥生時代後期土器の地域性について」『千葉県文化財センター研究紀要16』
- 1998 小玉秀成「常総地域における弥生土器編年の大枠」『霞ヶ浦沿岸の弥生文化』霞ヶ浦町郷土資料館
- 2001 高花宏行「下総地域における弥生時代後期から古墳時代前期の様相～印旛地域を中心に～」『弥生から古墳へ 時代の終わりと始まり』上高津貝塚ふるさと歴史の広場
- 2001 高花宏行「印旛地域における古墳時代開始期の土器様相」『印旛郡市文化財センター紀要2』
- 2003 高花宏行「下総地域における弥生後期土器の成立を巡る現状と課題」『印旛郡市文化財センター紀要3』
- 2007 高花宏行「『白井南式』と周辺土器様相の検討」『印旛郡市文化財センター紀要5』

写 真 图 版



航空写真 (S = 約 1/10,000)



調査前 (南東から)



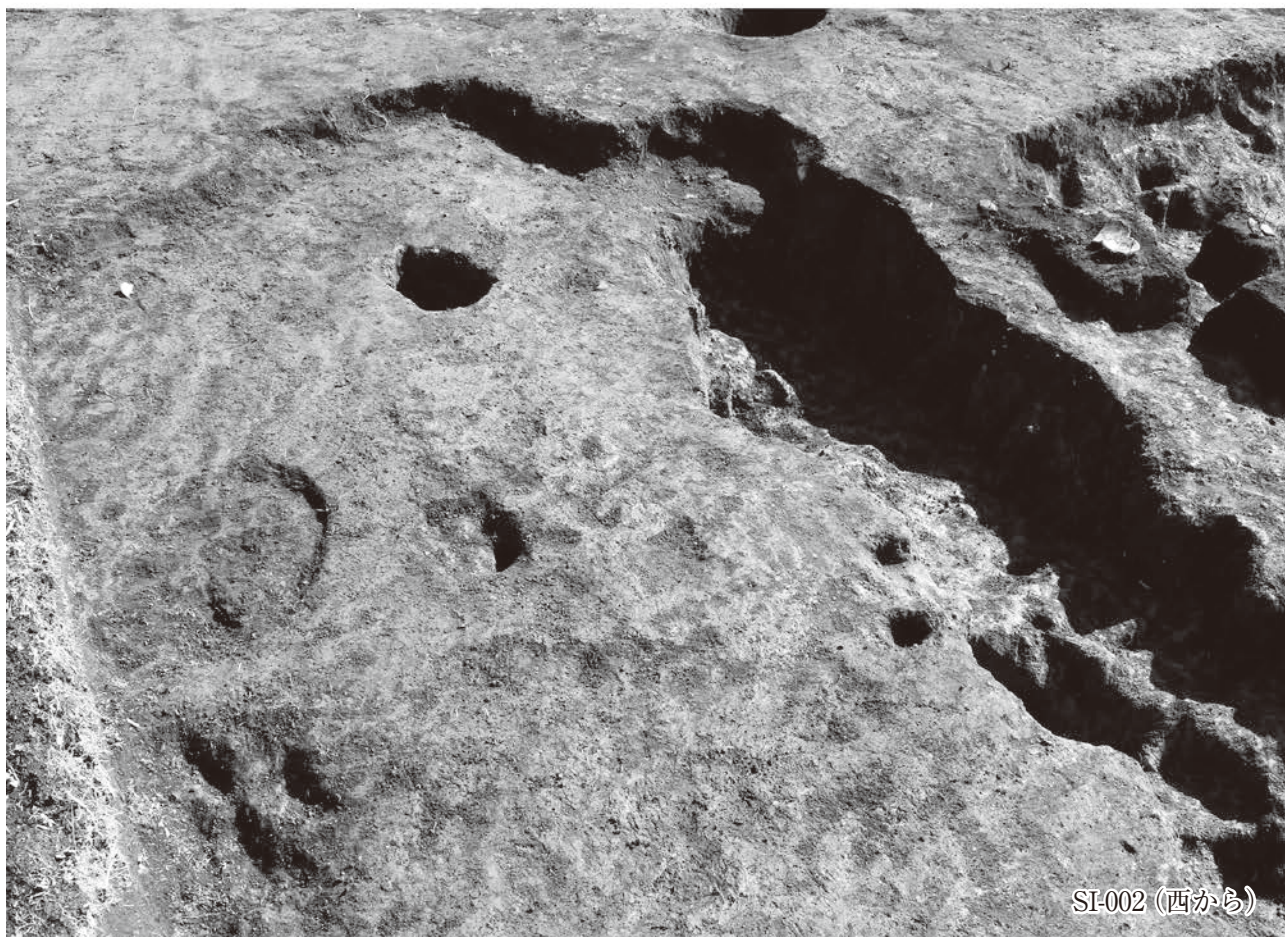
調査区南西斜面 (北西から)



第1ブロック (東から)



単独出土1B-80 グリッド (南から)





SI-003 (南東から)

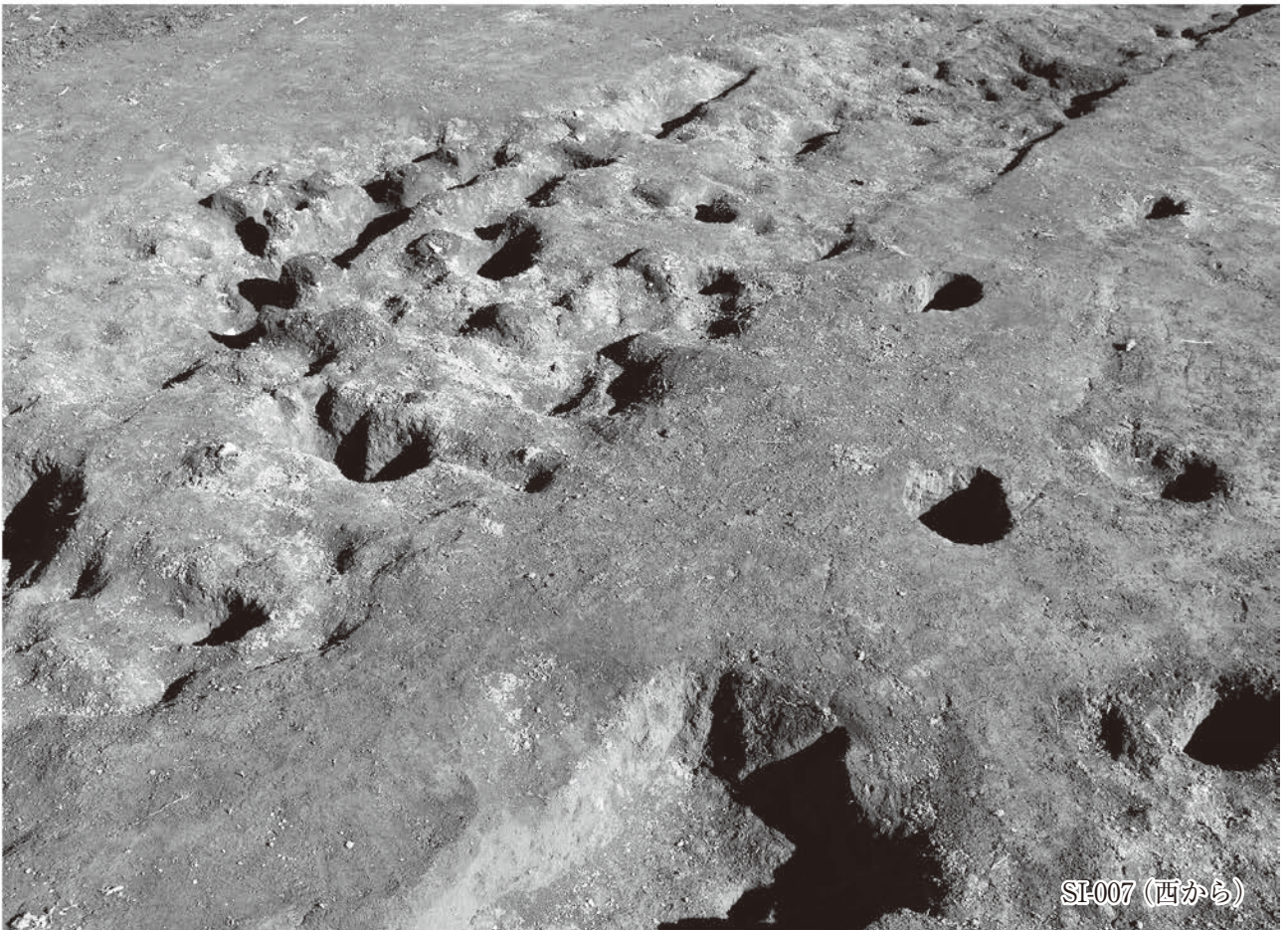


SI-004・005 セクション (南西から)



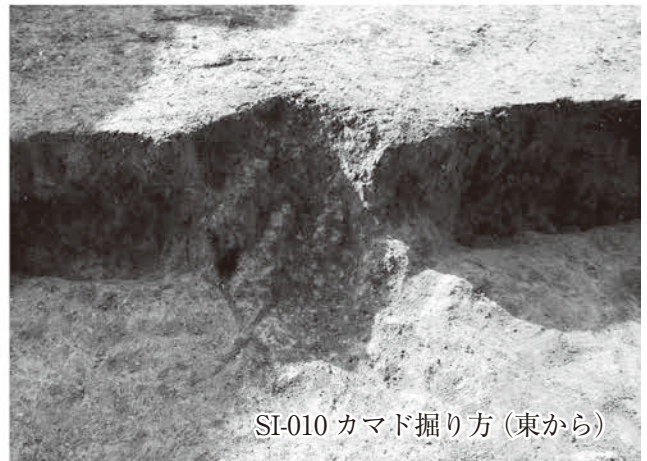
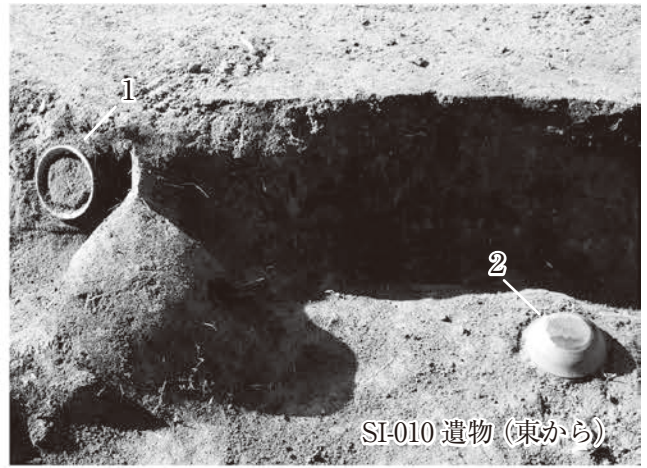
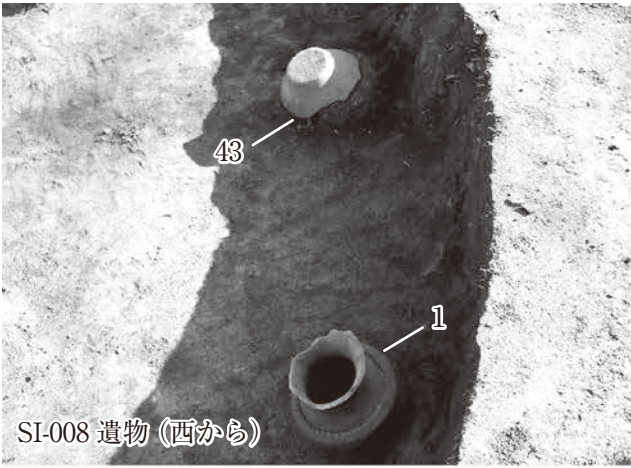


SI-006 (南東から)

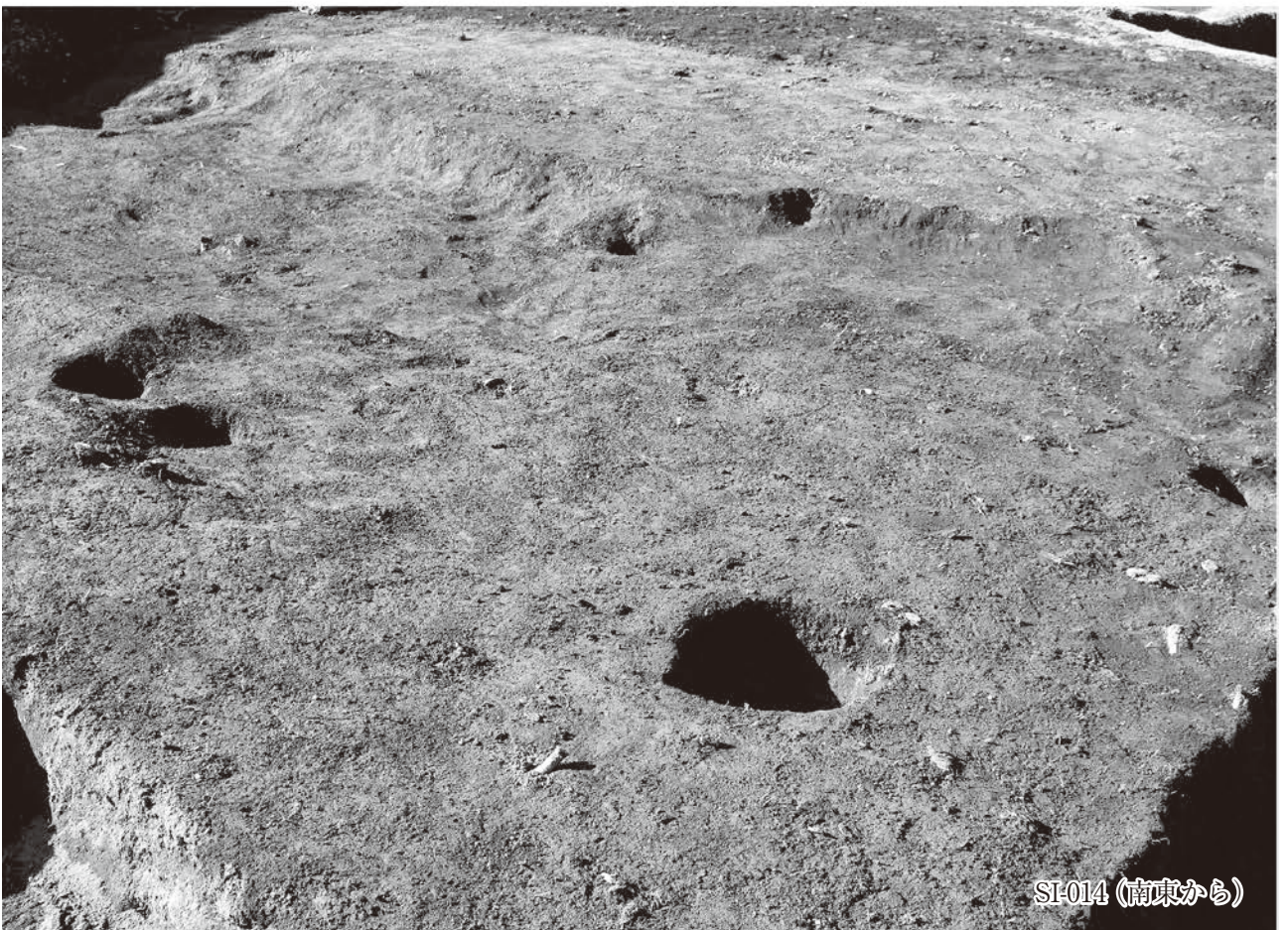


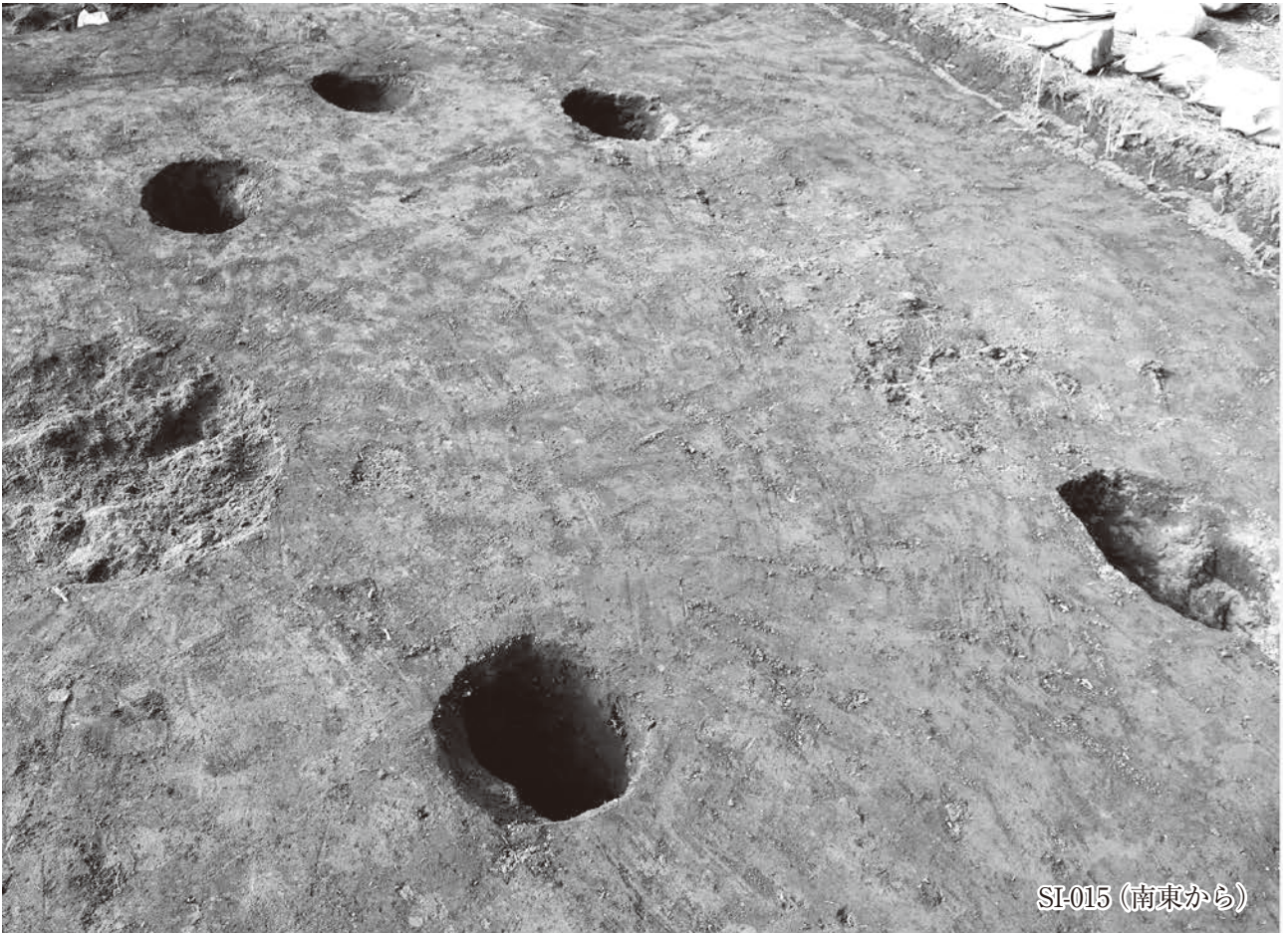
SI-007 (西から)







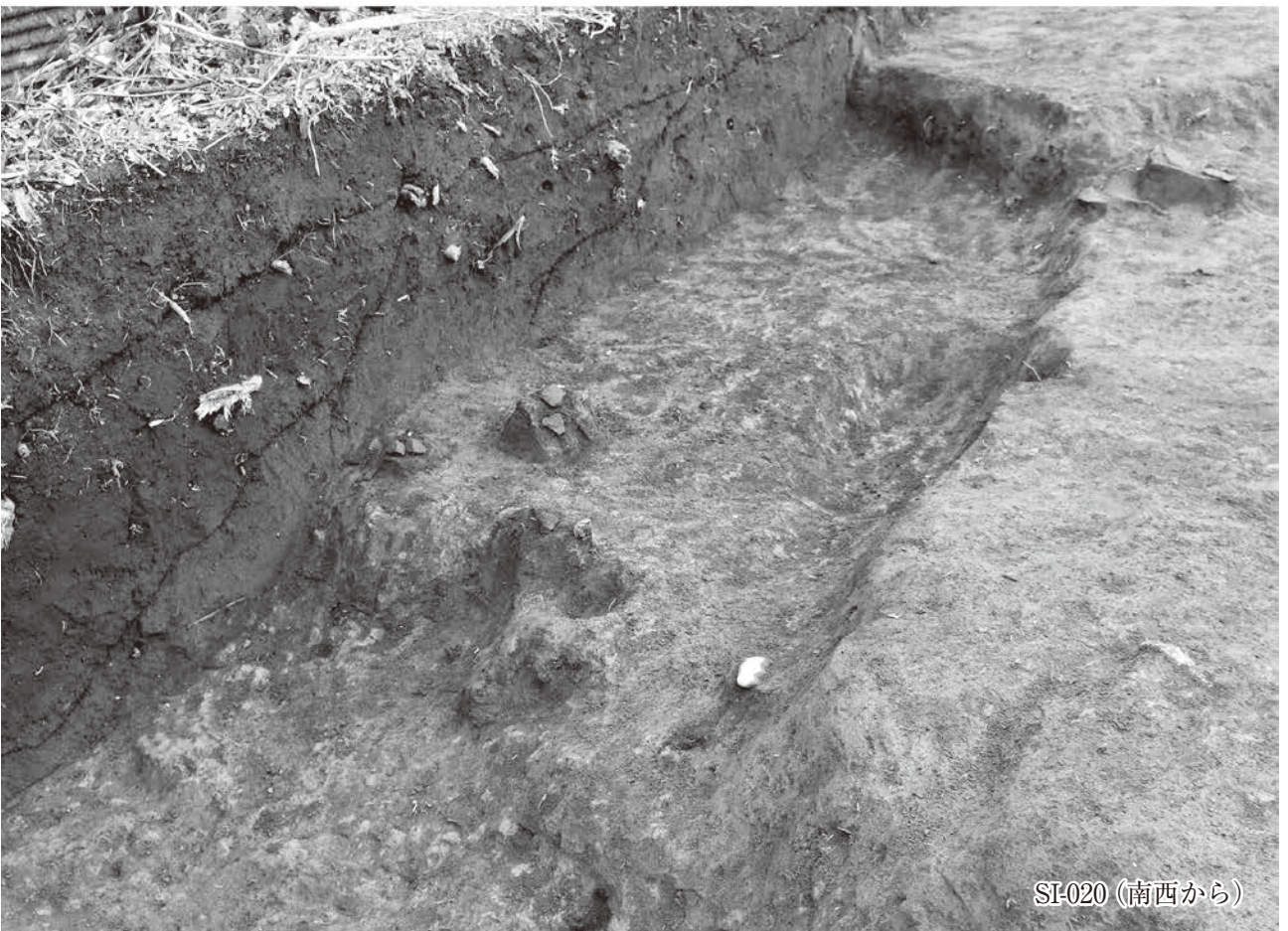


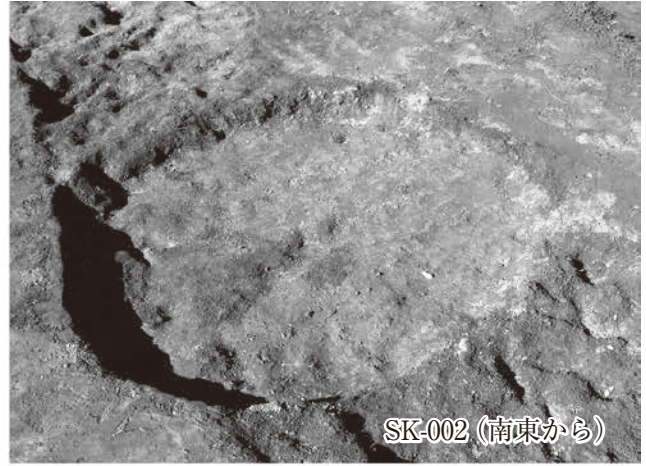
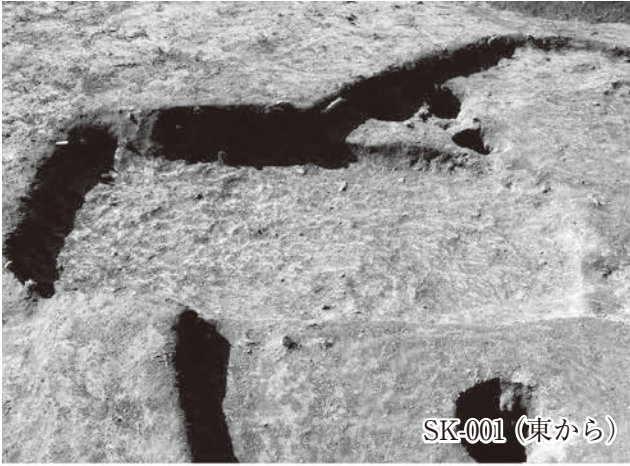


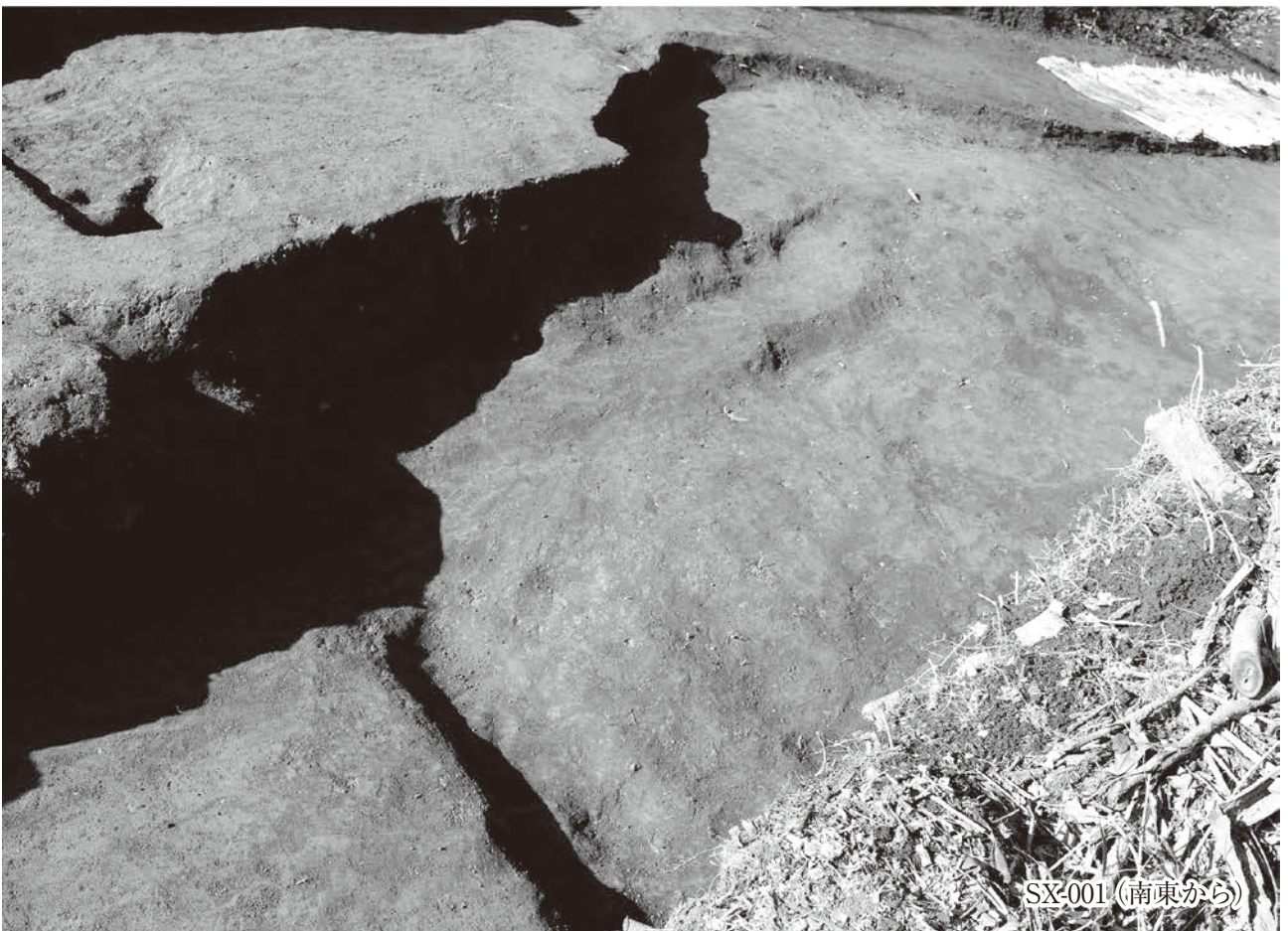
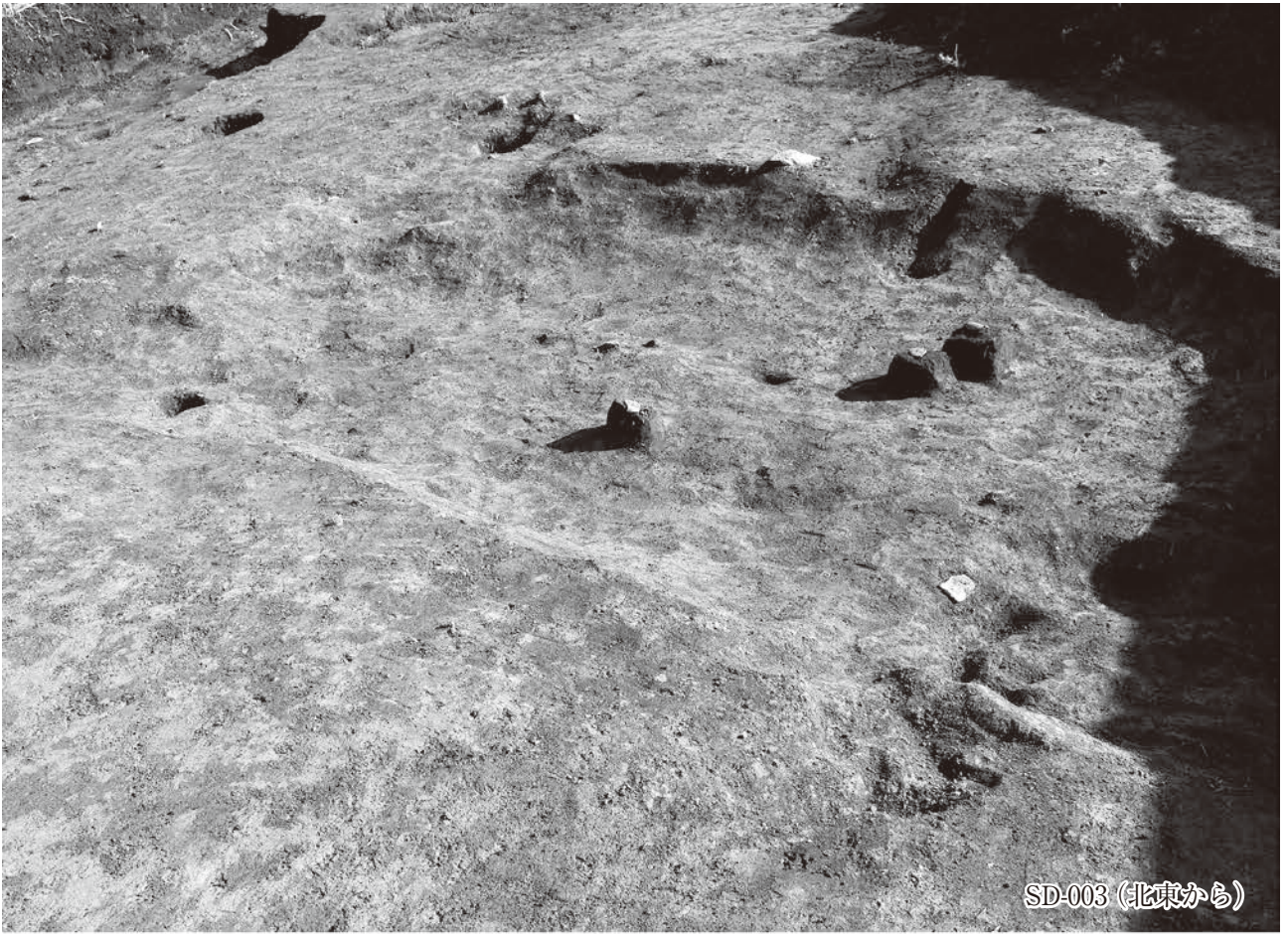
SI-015 (南東から)



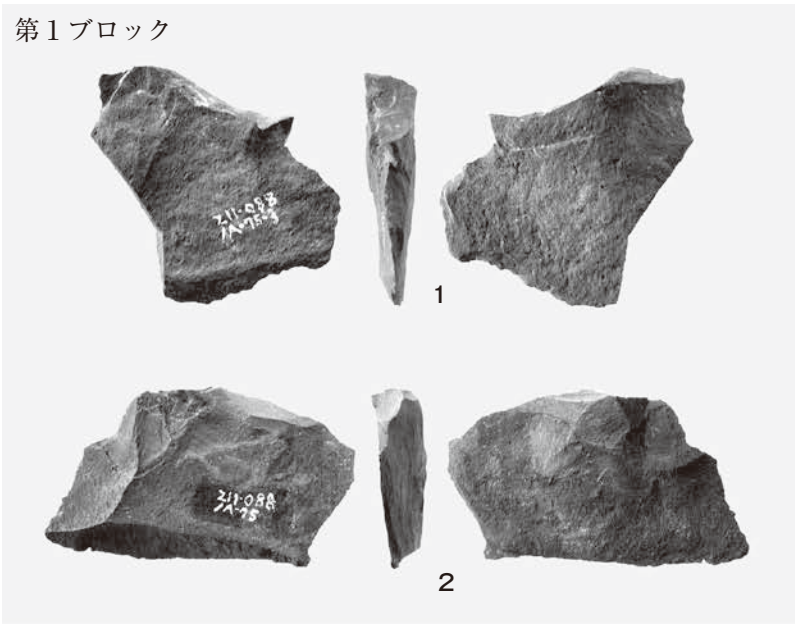
SI-016・017 (南から)



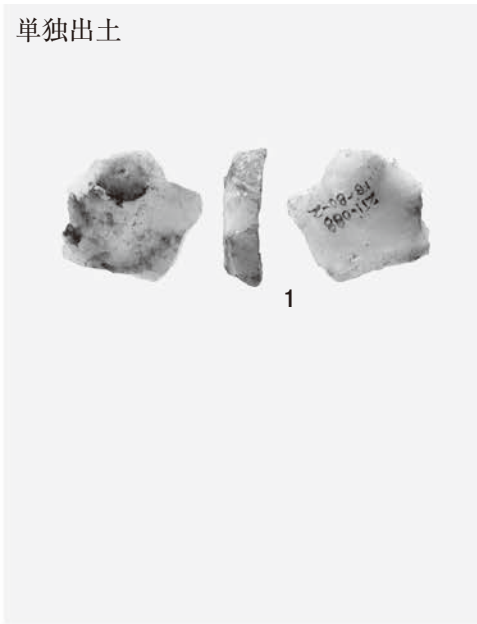




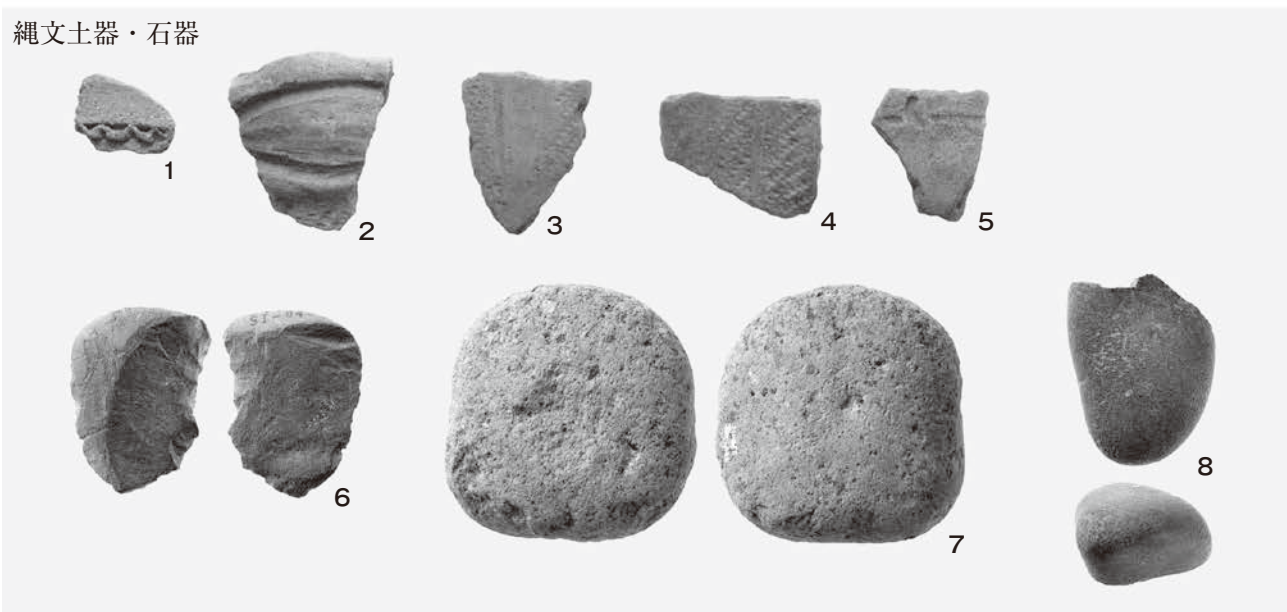
第1ブロック



単独出土



縄文土器・石器



SI-001



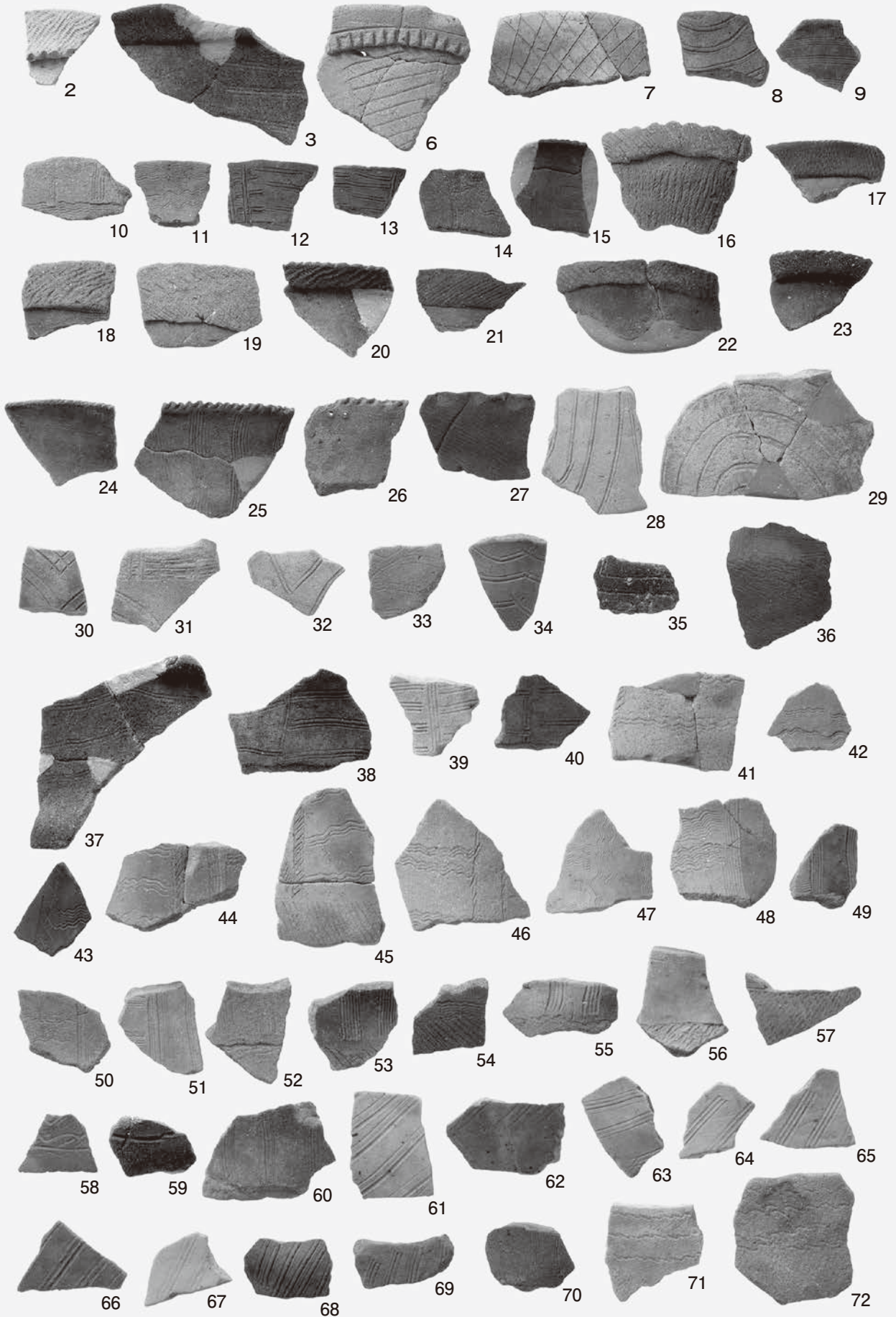
SI-002



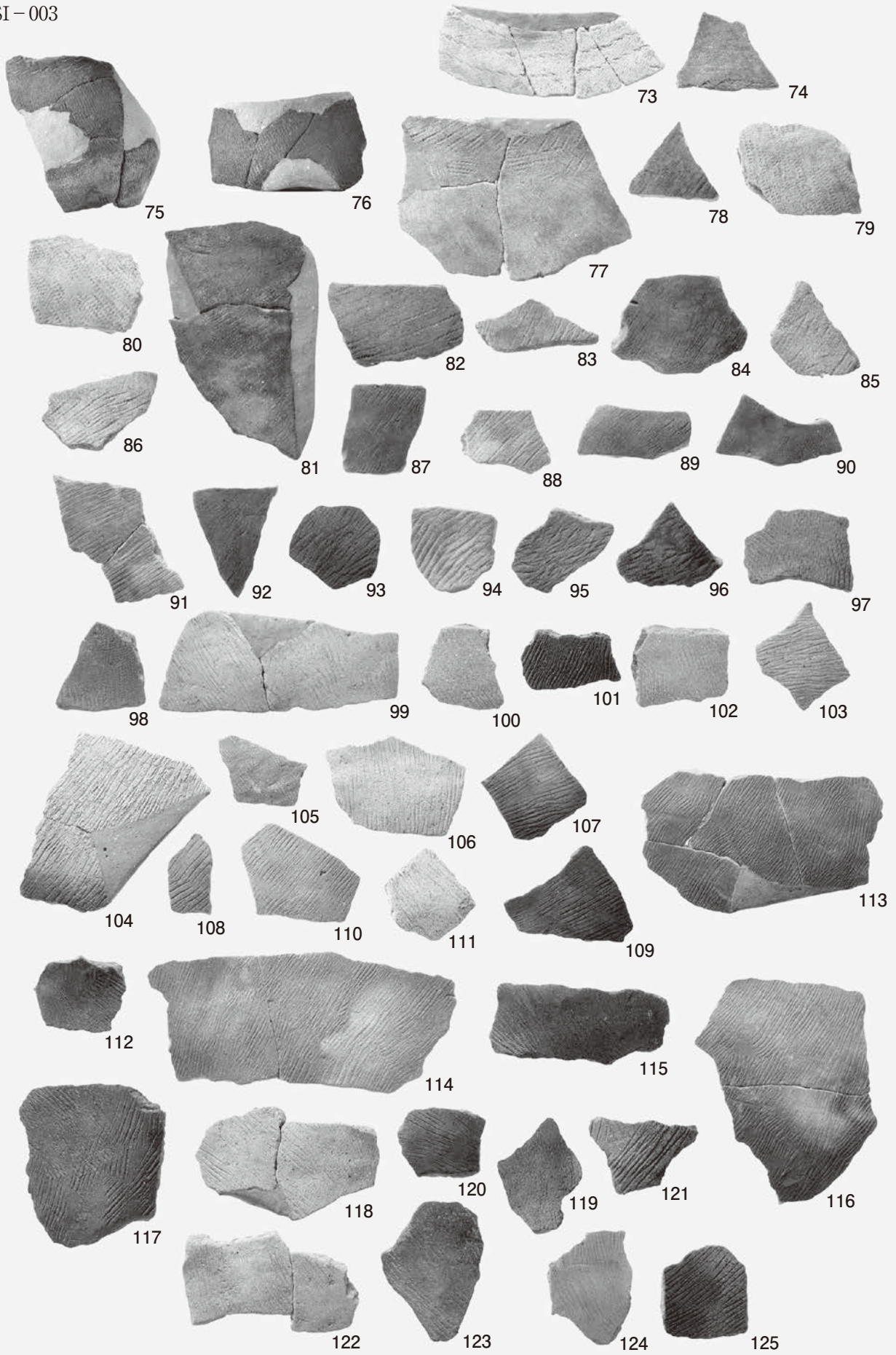
SI-003



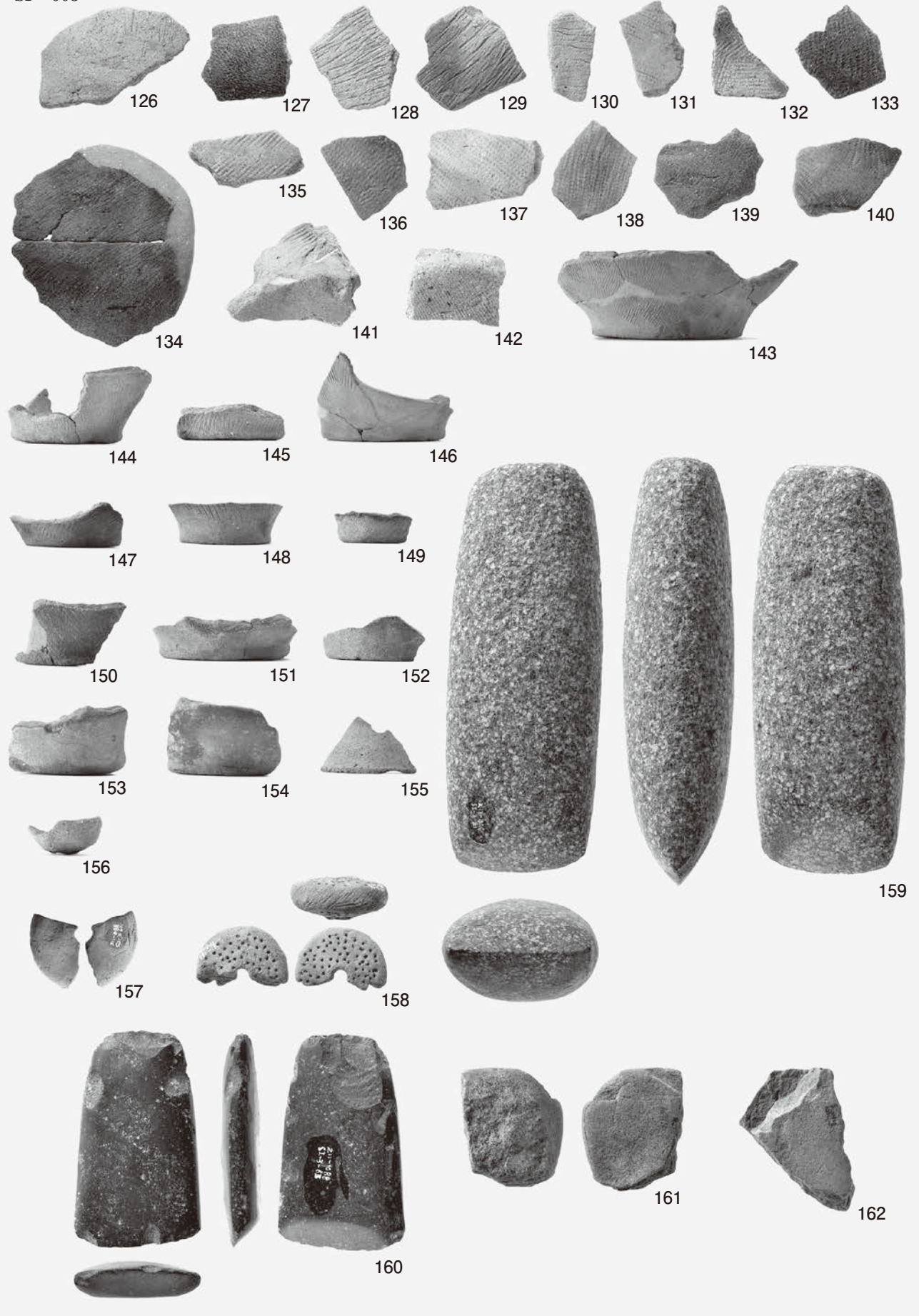
SI-003



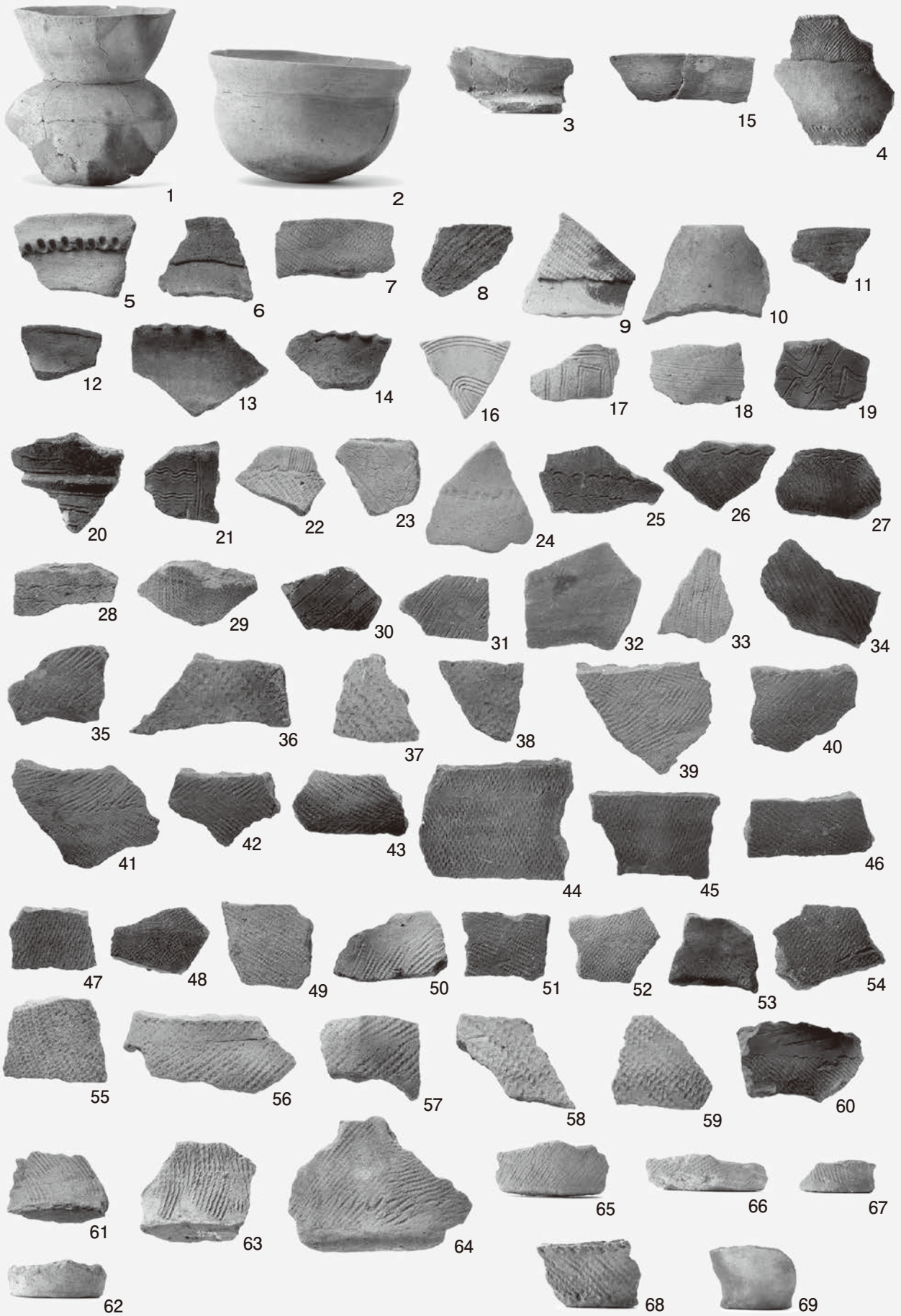
SI-003



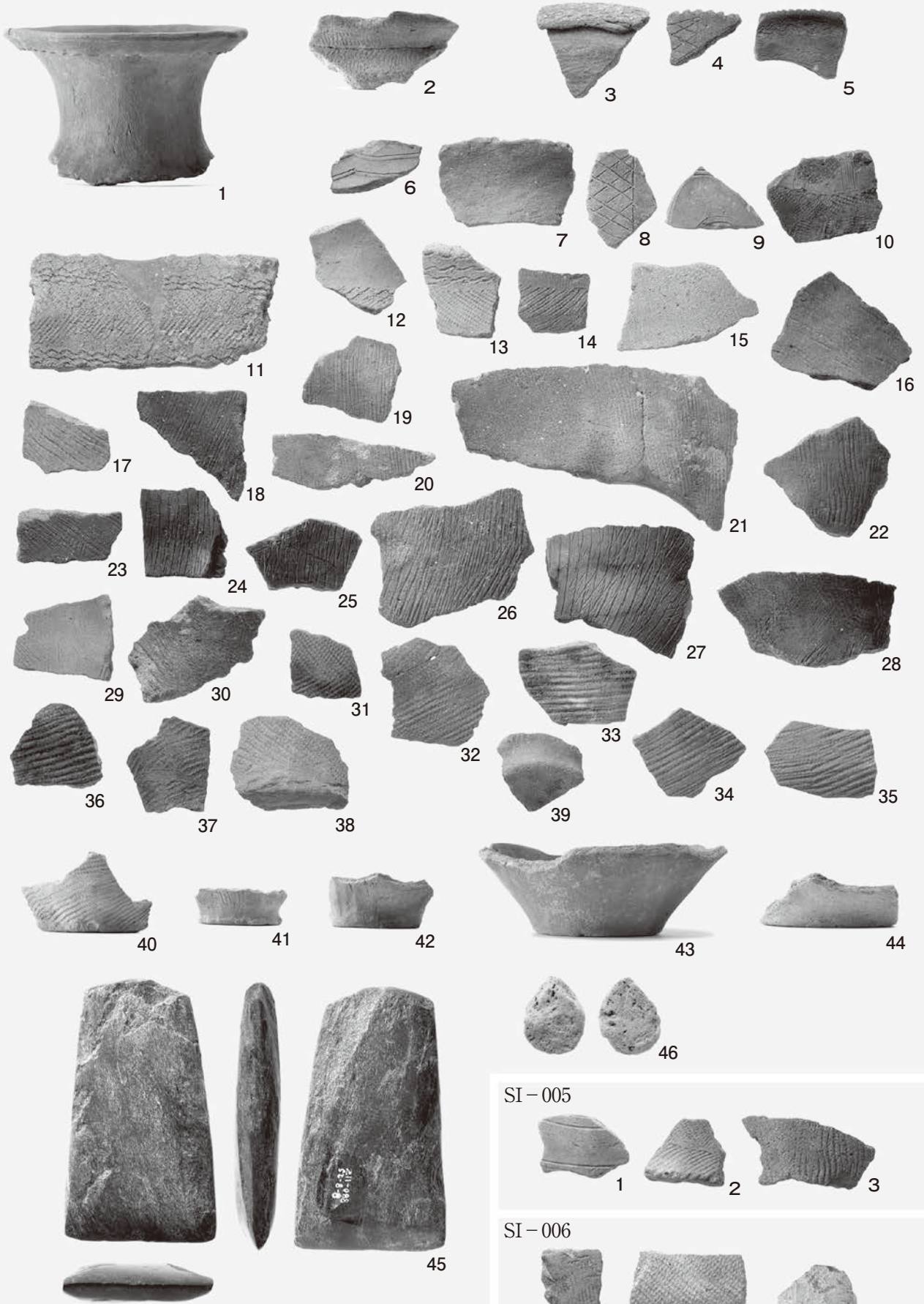
SI-003



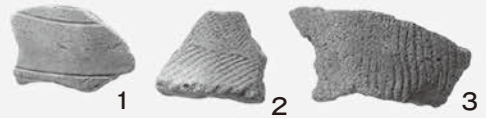
SI-004



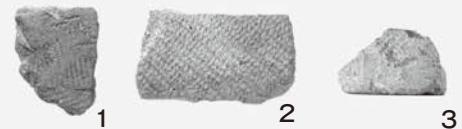
SI-008



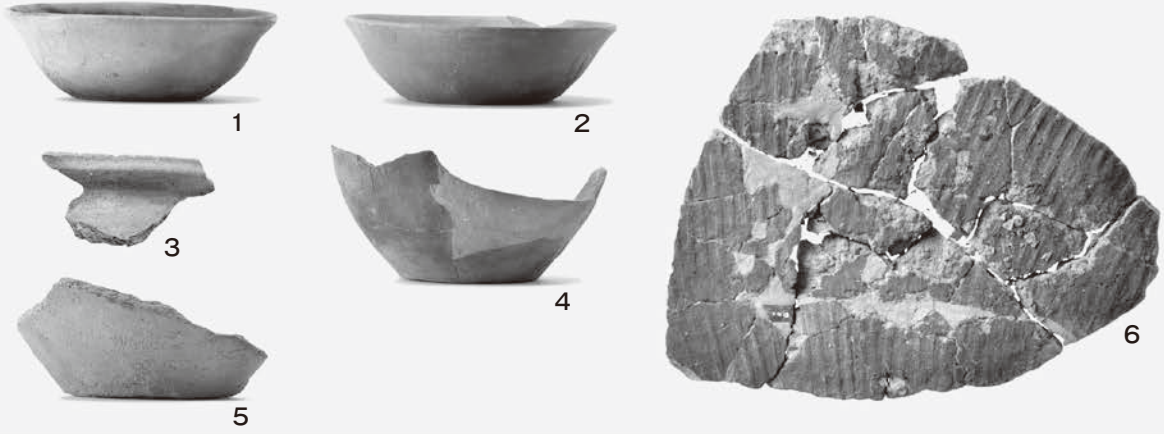
SI-005



SI-006



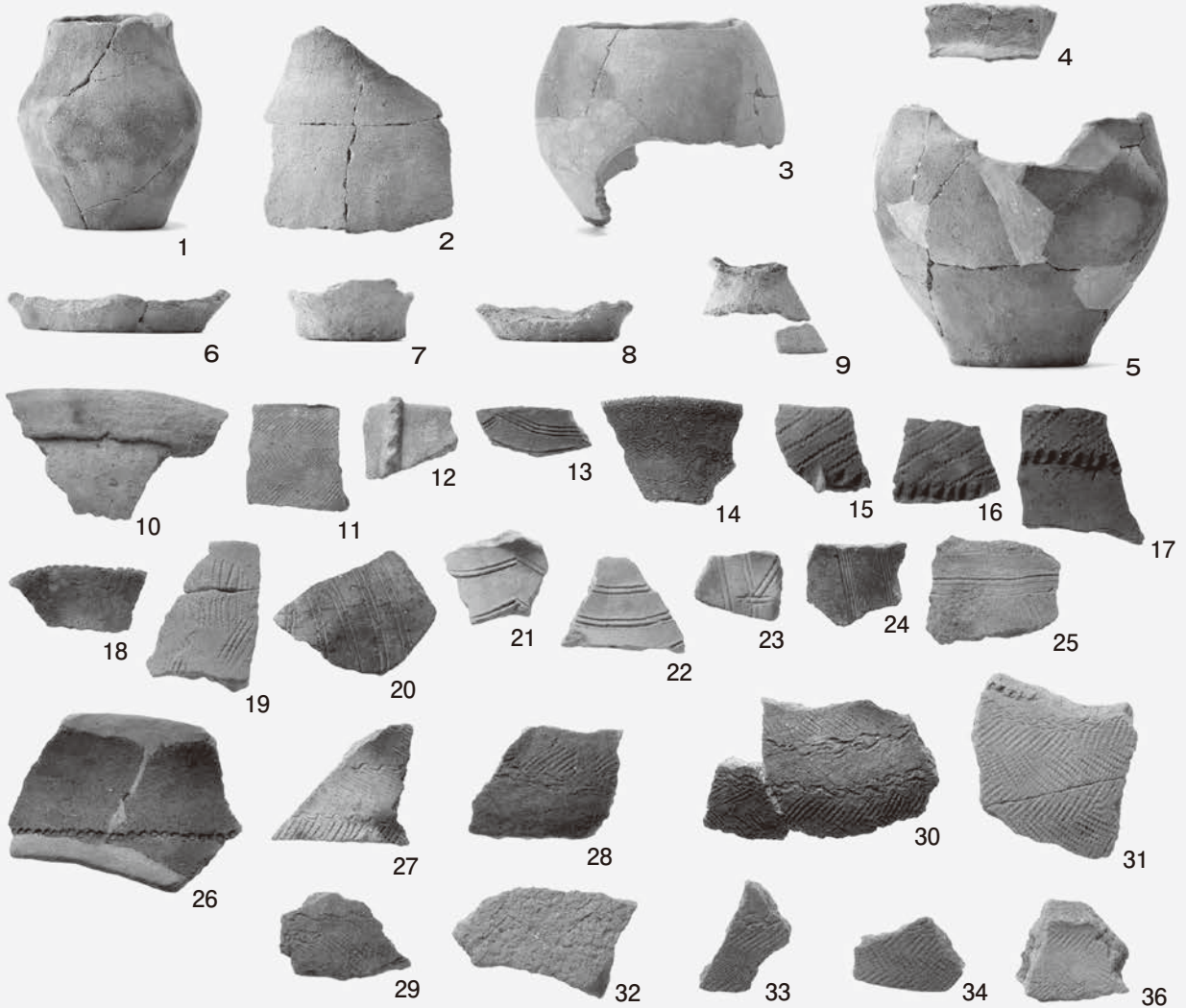
SI-010



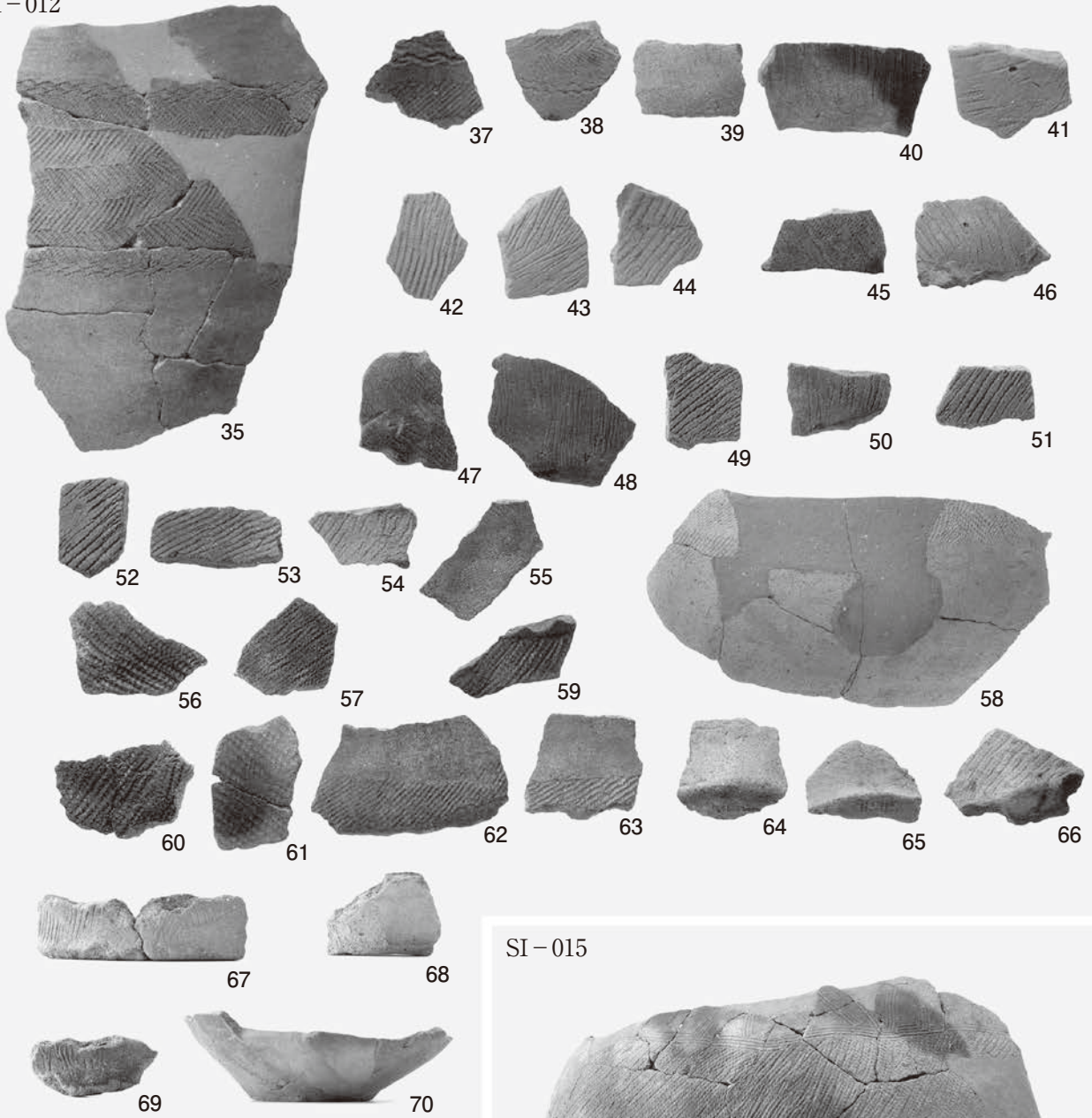
SI-011



SI-012



SI-012



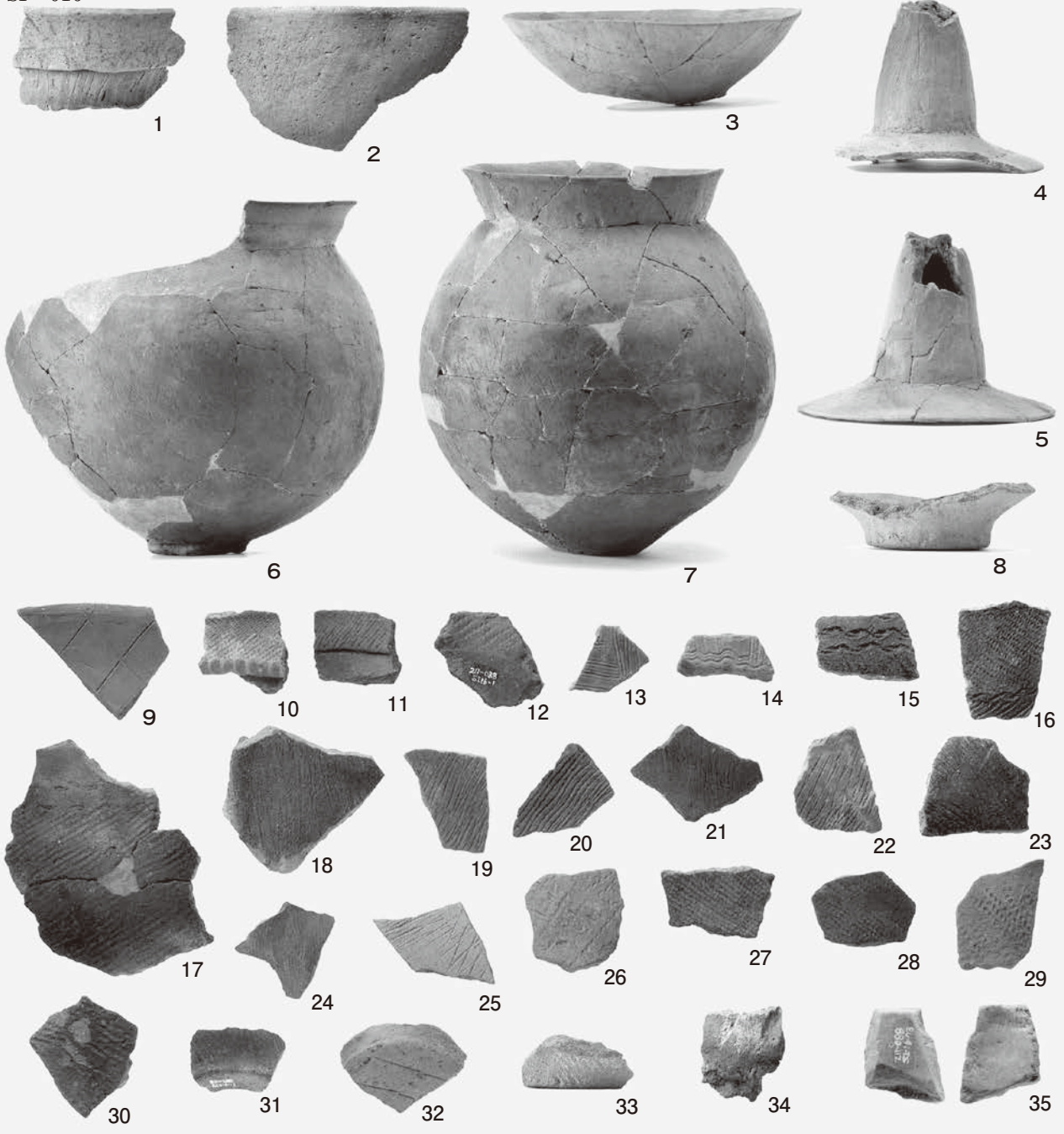
SI-013



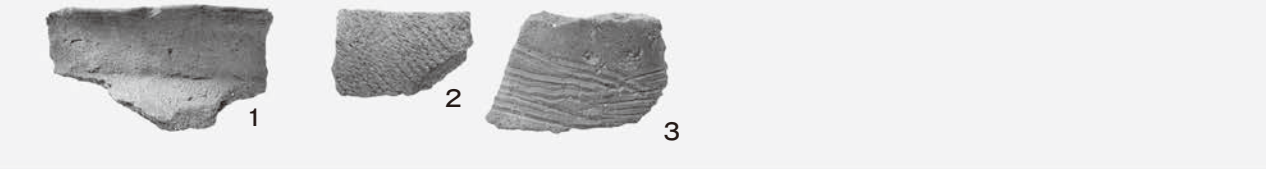
SI-015



SI-016



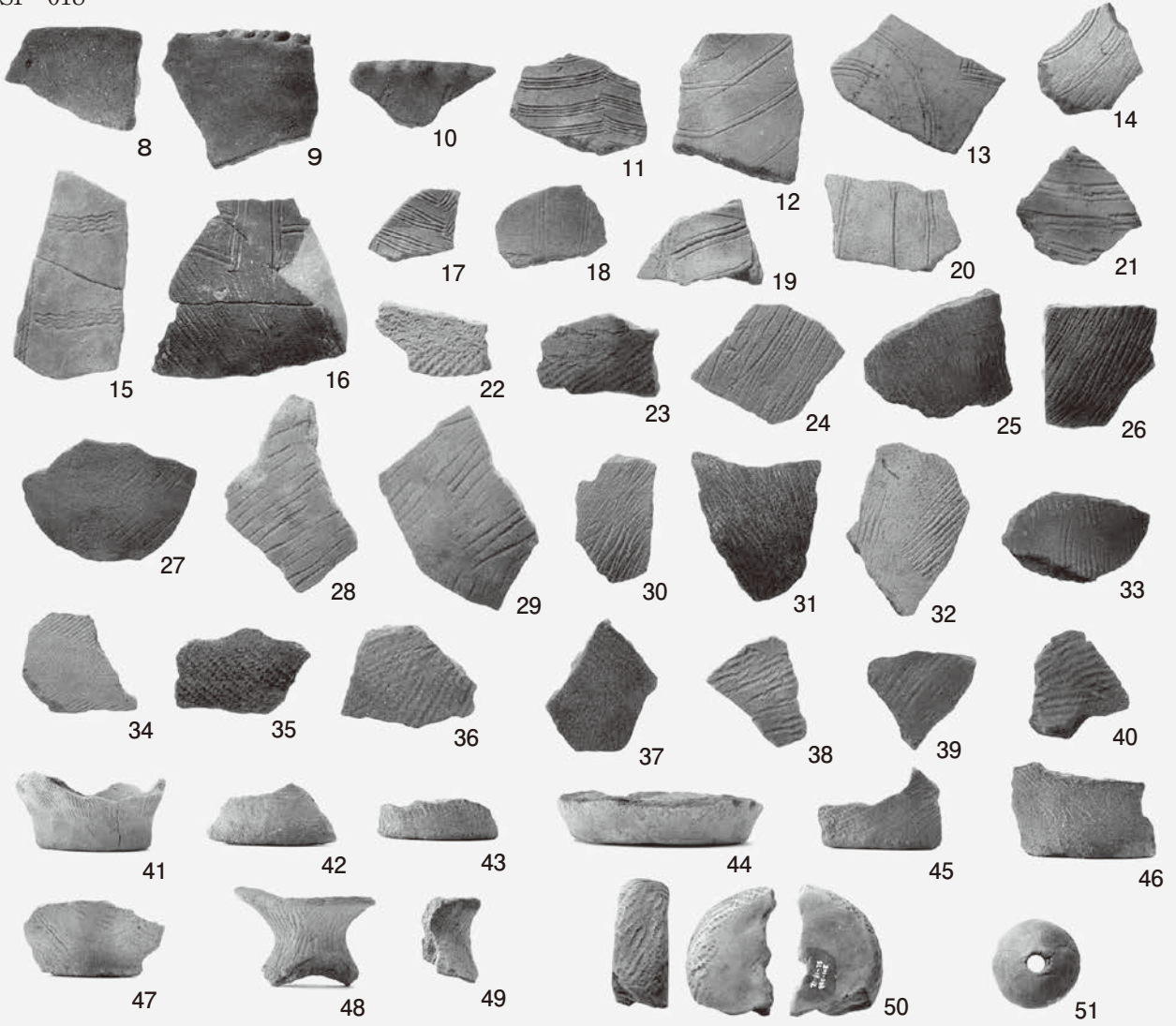
SI-017



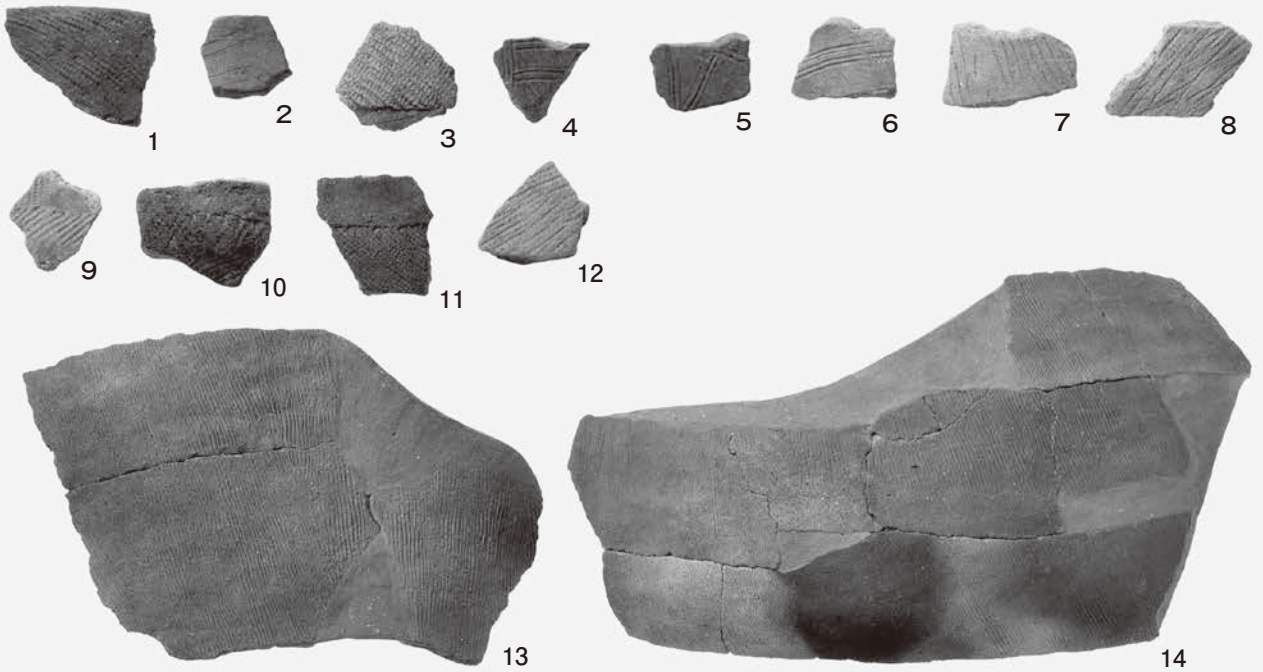
SI-018



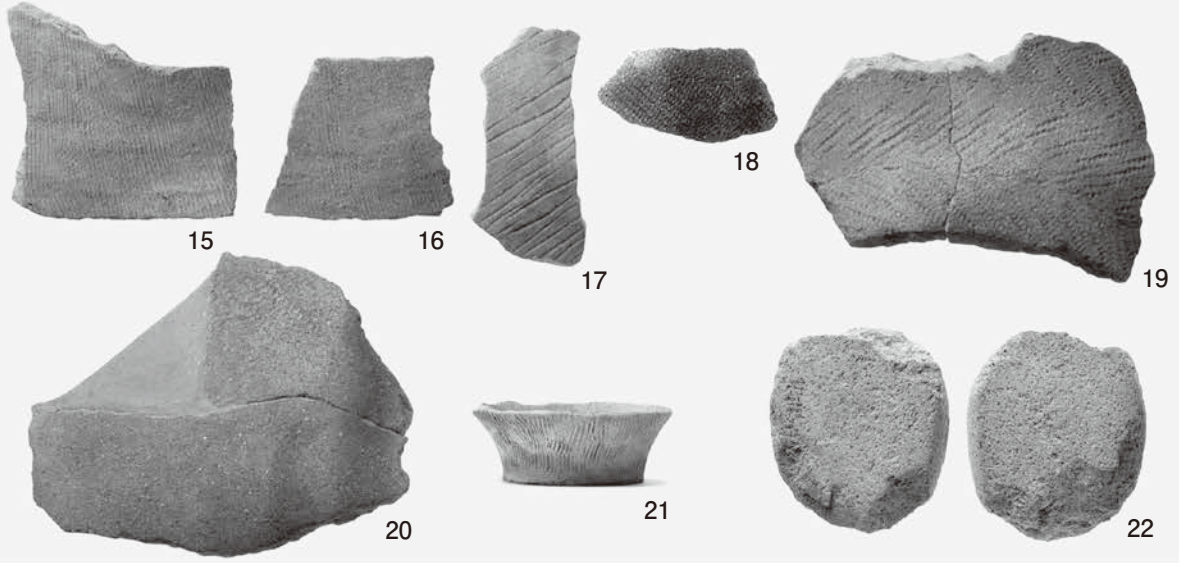
SI-018



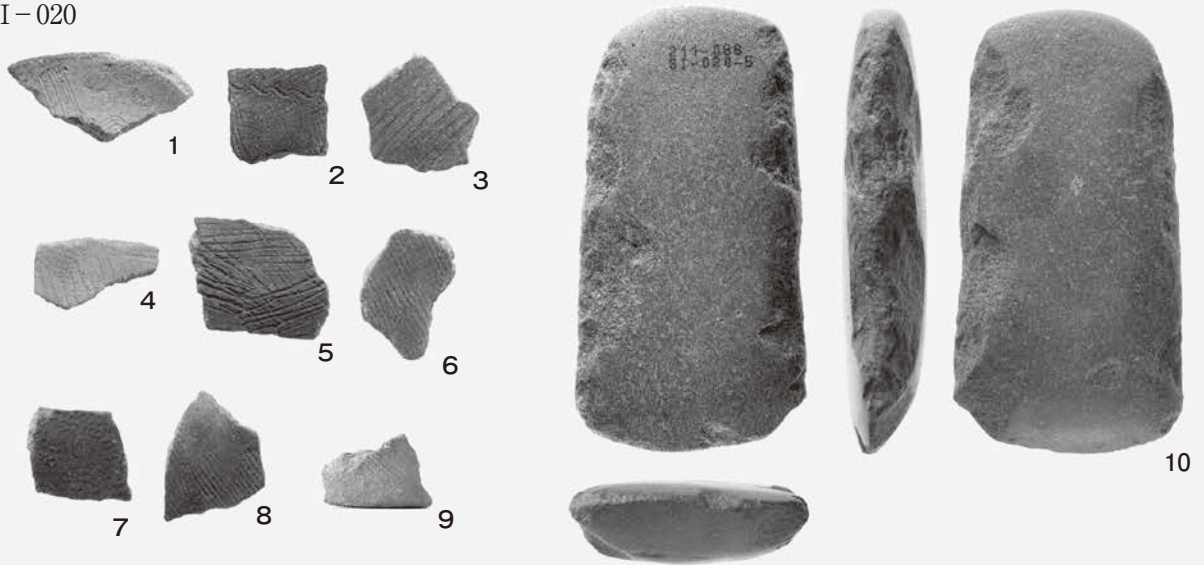
SI-019



SI-019



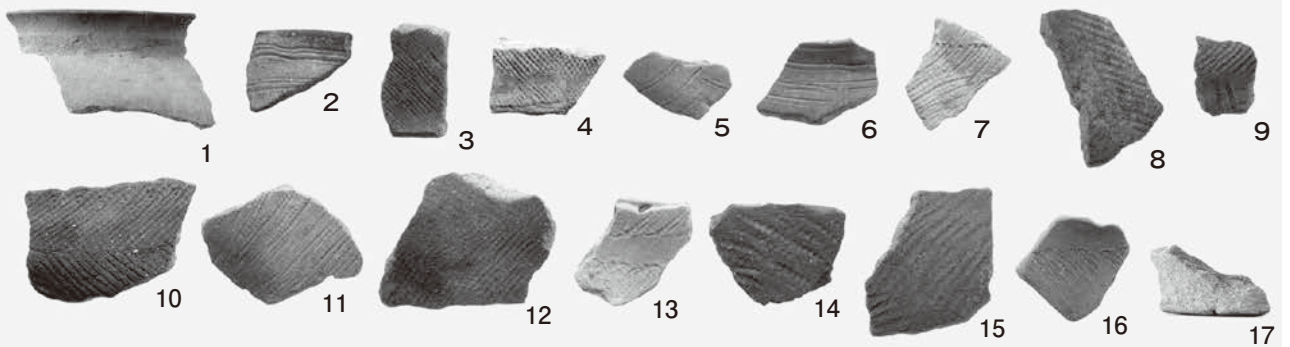
SI-020



SI-021



SI-022



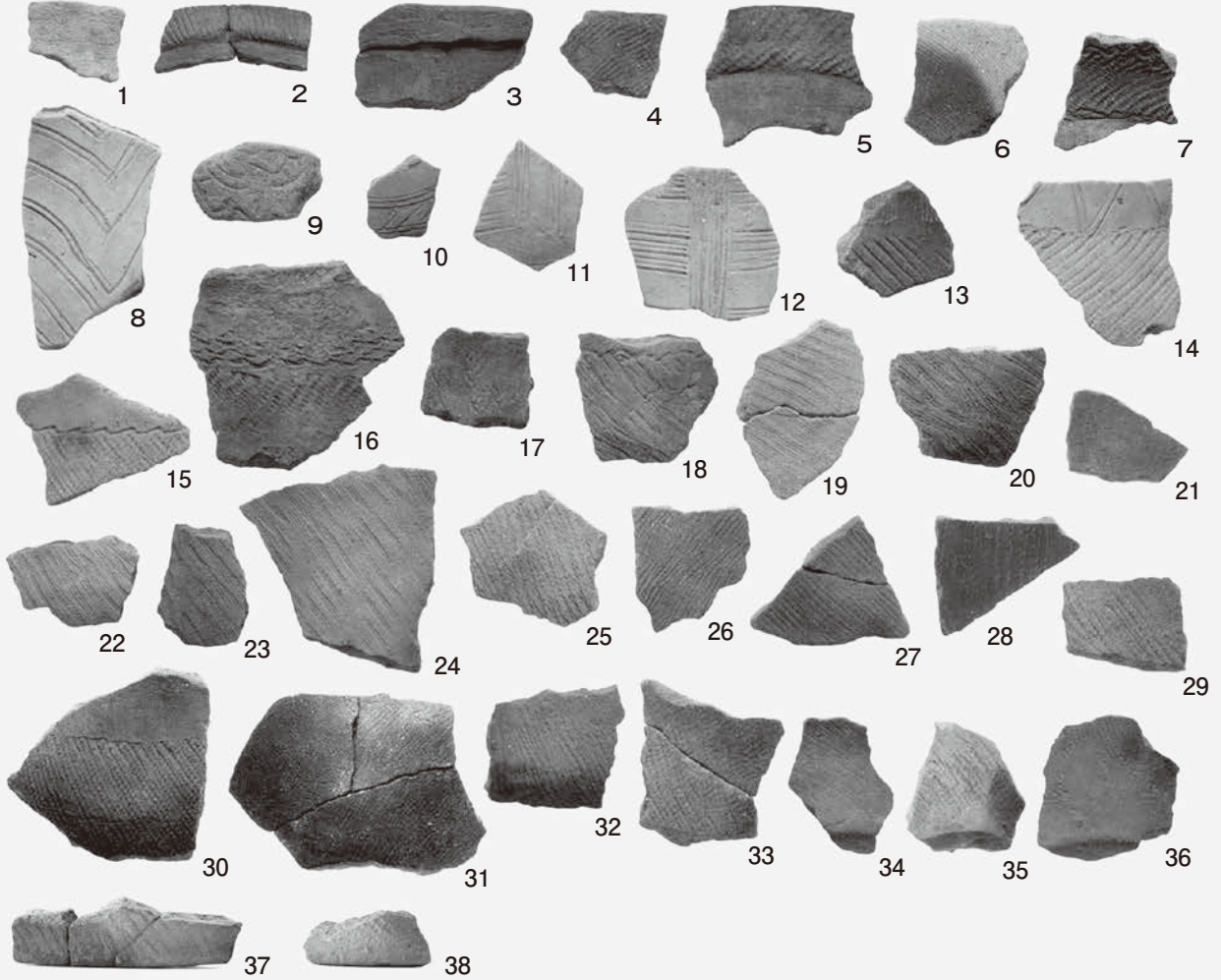
SK-001



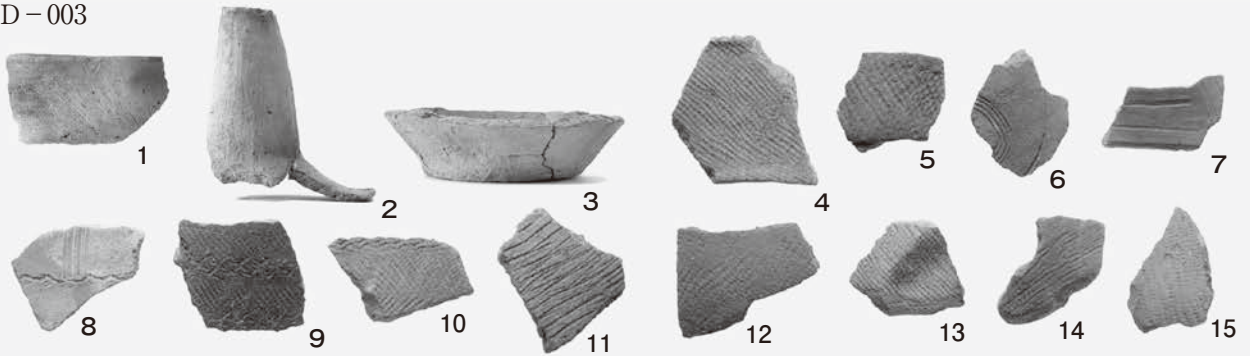
SK-002



SM-001



SD-003



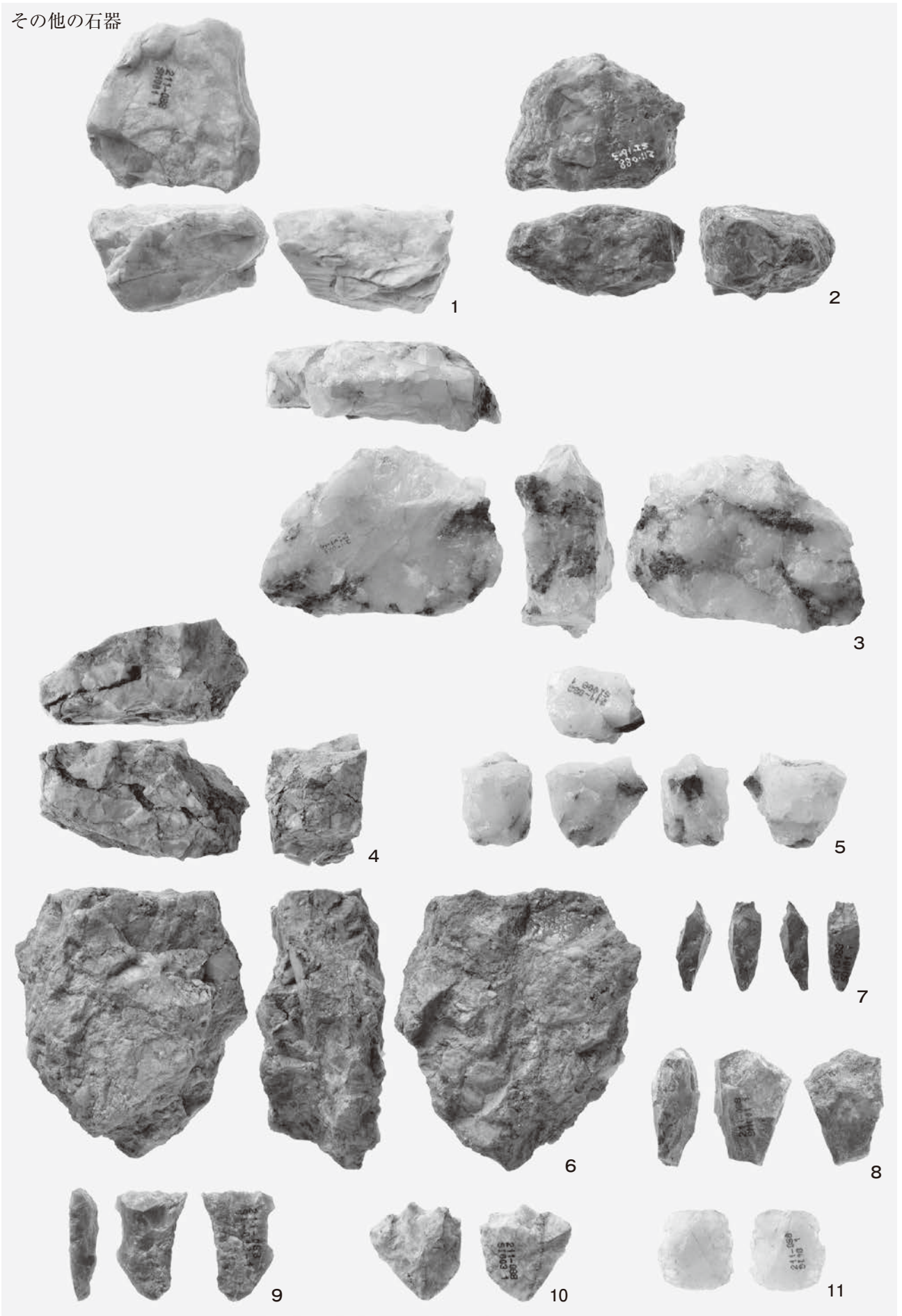
SD-001



グリッド出土弥生土器



その他の石器



報告書抄録

ふりがな	なりたしせきどやつのだいいせき							
書名	成田市関戸谷津之台遺跡							
巻次								
副書名	一般国道464号北千葉道路事業埋蔵文化財発掘調査報告書2							
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第31集							
編著者名	金丸誠・矢本節朗・小澤政彦							
編集機関	千葉県教育委員会							
所在地	〒260 - 8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL043 - 223 - 4129							
発行年月日	西暦2019年3月28日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せきどやつのだいいせき 関戸谷津之台遺跡	なりたしわだあざ 成田市和田字 やつのだいいせき 谷津之臺 425-1ほか	12211	088	35度 47分 45秒	140度 19分 41秒	20141104～ 20150226	1,659.9㎡	一般国道464号 北千葉道路事業
				世界測地系 WGS84				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
関戸谷津之台 遺跡	集落跡 城館跡 古墳	旧石器時代 弥生時代 古墳時代 弥生～古墳時代 平安時代 中・近世	石器出土地点 竪穴住居跡・土坑 竪穴住居跡・古墳・溝 竪穴住居跡 竪穴住居跡・溝 竪穴状遺構・溝		石器 弥生土器・石器・土製品 土師器 土師器		今回の調査成果は 前回調査を補完する もので、取香川 流域における弥生 時代中期後半～平 安時代の集落の変 遷を知る上での貴 重な資料である。	
要約	<p>本遺跡は根本名川とその支流である取香川の合流地点の北側で、樹枝状に延びる痩せ尾根先端の標高約32mの南北にやや長い台地上にある。旧石器時代ではⅨc層とⅦ層から石器が本台地で初めて出土した。弥生時代では中期竪穴住居跡1軒、後期竪穴住居跡12軒・土坑2基、古墳時代では前期竪穴住居跡6軒、中期竪穴住居跡1軒・古墳1基・溝1条、弥生時代中期～古墳時代中期の竪穴住居跡2軒、平安時代では竪穴住居跡1軒・溝1条、中・近世では竪穴状遺構1基・溝1条を検出した。</p>							

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第31集

成田市関戸谷津之台遺跡

—一般国道464号北千葉道路事業埋蔵文化財発掘調査報告書 2—

平成 31 年 3 月 28 日発行

編集・発行	千葉県教育委員会
	千葉県中央区市場町 1 - 1
印刷	株式会社正文社
	千葉県中央区都町 1 - 10 - 6
